

平成 28 年度 医療科学部
学生生活・学修実態調査結果報告書



藤田保健衛生大学 I R 推進センター
医療科学部 I R 分室

平成 28 年 10 月 25 日

「平成 28 年度 藤田保健衛生大学 学生生活・学修実態調査」の実施について

この調査は、医療職を目指している本学の学生の皆さんの日常生活の状況や学修状況に関して、学部又は学科ごとに選定した学年の方々に実施するものです。調査の目的は、皆さんが将来、医療職の professional になるための基礎づくりとして、学生生活や学修状況等について全 36 項目により実態を把握し、本学のカリキュラム等教育に関する問題を検討する資料とするものです。また、36 項目のアンケートに続いて、以下の設問により、学生の皆さんから本学に対する率直なご意見等も併せて頂きたいと思っております。

本調査への参加は強制ではありません。また、参加・不参加は成績等の評価に影響することはありません。いずれも無記名で、回答用紙及び本書の提出をもって参加の同意とさせていただきます。提出いただいた回答並びにご意見等は、本調査の目的以外に使用することはありませんので、皆さんのご協力をお願いいたします。

平成 28 年 7 月 1 日

藤田保健衛生大学
学 長 星 長 清 隆

「平成 28 年度 藤田保健衛生大学 学生生活・学修実態調査」の分析について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田保健衛生大学 I R (Institutional Research) 推進センターが設置されました。今回、下部組織の医療科学部 I R 分室では、I R 推進センターが実施した H28 年度の学生アンケート（学生生活・学修実態調査）結果について報告いたします。

平成 28 年 10 月 25 日

藤田保健衛生大学学長	星長清隆
藤田保健衛生大学副学長・医療科学部長	金田嘉清
I R 推進センター長	松井俊和
I R 推進センター副センター長	濱子二治
I R 推進センター	山田晃司、西村里佳、大田真由美

平成 28 年度 藤田保健衛生大学 I R 推進センター・医療科学部 I R 分室メンバー
濱子二治、山田晃司、鈴木康司、野中浩幸、寺本篤司、
田辺茂雄、日比谷 信、武藤晃一、西村里佳

【経済面について】

- (10) あなたの1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか（1つ選んでください）
1. 10,000 円未満
 2. 10,000～20,000 円未満
 3. 20,000～30,000 円未満
 4. 30,000～40,000 円未満
 5. 40,000～50,000 円未満
 6. 50,000～100,000 円未満
 7. 100,000 円以上
- (11) 奨学金を受けていますか（複数回答可）
1. 受けていない
 2. 日本学生支援機構の奨学金を受けている
 3. 地方公共団体の奨学金を受けている
 4. 民間育英団体等の奨学金を受けている
 5. その他（具体的に記述してください）

【アルバイトについて】

- (12) 現在の学生生活におけるアルバイト経験の有無と目的について
（「ある」と回答した場合は最も多い理由を2～8から1つ選んでください）
- ない→1. していない（したことがない）
- ある→2. 学費を得るため
3. 生活費・教養費を得るため
 4. クラブ活動費を得るため
 5. 旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため
 6. 耐久消費財（電化用品、家具など）を購入するため
 7. 貯金をするため
 8. その他（具体的に記述して下さい）

※注：(12) で「ある」を回答した人への設問（2～8を選択した人のみ回答）

- (13) アルバイトは1週間に何日しますか（していましたか）1つ選んでください
1. 7日（毎日）
 2. 5～6日
 3. 3～4日
 4. 1～2日
 5. ごくたまに

※注：(12) で「ある」を回答した人への設問（2～8を選択した人のみ回答）

- (14) アルバイトをしている（したことがある）と答えた人で主に一日あたり何時間していますか（していましたか）1つ選んでください
1. 2時間未満
 2. 2～3時間未満
 3. 3～4時間未満
 4. 4～5時間未満
 5. 5～6時間未満
 6. 6時間以上
- (15) アルバイトの主な職種を1つ選んでください
1. フード・飲食
 2. 各種販売
 3. アミューズメント
 4. 事務・デスクワーク
 5. 警備・清掃・土木・建築
 6. 製造系作業員
 7. 医療・介護・福祉
 8. 教育（家庭教師・塾講師等）
 9. その他（具体的に記述してください）

【クラブ活動/ボランティア活動等について】

- (16) あなたはクラブ活動に参加していますか（1つ選んでください）
1. 一つのクラブ活動に参加している
 2. 複数のクラブ活動に参加している
 3. 参加していない

※注：(16) で「1又は2」と回答した人のみ記入してください

- (17) あなたがクラブ活動に参加した理由やきっかけは何ですか（複数回答可）
1. 活動が楽しそう
 2. 他学の学生と交流をもちたい
 3. 友人に誘われて
 4. 友人との交流をもちたい
 6. 学内で誘われて何となく
 7. 活動が自由
 8. その他（具体的に記述してください）

※注：(16) で「3」と回答した人のみ記入してください

(18) クラブ活動に参加しない主な理由を1つ選んでください

1. 勉学に打ち込むため
2. 集団や他人に拘束されるのがいやだから
3. 自分の関心にあうものがないから
4. 通学に時間をとられるため
5. 上下の人間関係がいやだから
6. 費用がかかり過ぎるから
7. アルバイトのため時間がない
8. 自分のやりたいことを自由にしたいから
9. その他（具体的に記述してください）

(19) ボランティア活動（学内美化、社会奉仕、親切運動、福祉活動等の無償の奉仕）をしたことがありますか（1つ選んでください）

1. 定期的に活動している
2. 不定期に（ときどき）活動している
3. 活動したいがチャンス、時間的余裕がない
4. ボランティアには関心がない

【学習及び学校生活について】

(20) 1日の平均予習時間はどれくらいですか（1つ選んでください）

1. ほとんどなし
2. 1時間未満
3. 約1時間
4. 約2時間
5. 約3時間
6. 約4時間
7. 4時間以上

(21) 1日の平均復習時間（課題・レポート等の作成時間を含む）はどれくらいですか（1つ選んでください）

1. ほとんどなし
2. 1時間未満
3. 約1時間
4. 約2時間
5. 約3時間
6. 約4時間
7. 4時間以上

(22) 自主学習をする場所について学習することが最も多い場所はどこですか（1つ選んでください）

1. 自宅
2. 学内
3. 友達の家
4. ファストフード店
5. ファミリーレストラン
6. その他（具体的に記述してください）

(23) 自主学習の方法について最もよく行う学習方法は何ですか（1つ選んでください）

1. 自分のノートを中心に学習
2. 講義用教材を中心に学習
3. 教科書・参考書を中心に学習
4. 同級生、先輩が作った資料を中心に学習
5. 視聴覚教材を利用
6. インターネットを利用

(24) 誰と一緒に学習していますか（1つ選んでください）

1. 1人の時が多い
2. 友人達との時が多い
3. 教員と一緒に時が多い

(25) 講義・実習には満足していますか（1つ選んでください）

1. 全般的に満足している
2. 満足しているものが多い
3. 不満であるものが多い
4. 全般的に不満

(26) 教育面や制度面で不十分であると感じることはどのようなことですか。あてはまる番号を3つ選んでください。

1. カリキュラム
2. 時間割
3. 資格取得講座（対策授業）
4. 就職等サポート
5. 奨学金等経済的支援
6. 国際交流
7. 課外活動支援
8. 学友会組織
9. ボランティア活動支援
10. その他（具体的に記述してください）

(27) キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいのはどれですか。あてはまる番号を3つ選んでください。

1. 教室
2. 図書館
3. 情報系教室
4. 体育館
5. 食堂
6. 駐輪場（自転車置場）
7. 駐車場
8. 学生ホール・ラウンジ
9. その他（具体的に記述してください）

(28) 大学（又は看護専門学校）に対して要望したいことや期待することは何ですか（優先順位の高い順に3つ選択してください）

1. 優秀な教師がそろっていること
2. 教室の設備など現在の施設・設備の改善
3. 図書館の充実と整備
4. 運動施設の充実と整備
5. 課外活動の設備の充実と整備
6. 食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実

7. 資格取得講座（対策授業）の充実
8. 奨学金の新設や増額
9. 学内において「いこいの場」を増すこと
10. 学生自治活動（学友会組織）の尊重
11. 期待することは何もない
12. その他（具体的に記述してください）

【健康について】

(29) 平均睡眠時間はどれくらいですか（1つ選んでください）

1. 10時間以上
2. 約8時間
3. 約7時間
4. 約6時間
5. 約5時間
6. 約4時間
7. 4時間未満

(30) 食事は主にどのようにして摂っていますか（朝食・昼食・夕食それぞれについて1つ選んでください）

朝食（ ） 昼食（ ） 夕食（ ）

1. 自宅・下宿での自炊
2. 持参した弁当やおにぎり
3. 学内の食堂
4. 学外の飲食店等
5. 店舗（コンビニやファーストフード等）で弁当等購入
6. 殆ど食べない
7. その他（具体的に記述してください）

【その他】

(31) 現在何か悩みごとを持っていますか（複数回答可）

1. 金銭面
2. 学習面
3. クラブ関係
4. 健康上の問題
5. 性格や能力について
6. 就職・将来の進路
7. 友人関係
8. 異性問題
9. 性の問題
10. 家庭の問題
11. 特に悩んでいない
12. その他（具体的に記述してください）

(32) 学生生活上の悩みや不安、困ったときに相談し易いのはどなたですか（複数回答可）

1. 親
2. 兄弟
3. 同級生
4. 先輩・後輩
5. 学外の友人
6. 恋人
7. 教員
8. 職員
9. 保健室（カウンセラー含む）
10. 特に相談相手がいない
11. その他（具体的に記述してください）

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

I 学生生活・学修実態調査結果報告の分析

1. 学生生活・学修実態調査報告の総括及び考察

臨床検査学科は「臨床検査」、看護学科は「看護」、放射線学科は「放射」、リハビリテーション学科理学療法専攻は「リハ・理学」、リハビリテーション学科作業療法専攻は「リハ・作業」、臨床工学科は「臨床工学」、医療経営情報学科は「医療経営」と略しています。

臨床検査	<p>希望の大学に入ったと回答した学生は半数にも満たない。また総合的にみて大学生生活に満足している学生の割合は6割に満たないものの、6学科の中で満足していないと答えた学生の割合は最も低かった。今年度から生涯教育研修センター2号館で臨床検査学科の講義等が行われるようになり、講義・実習の満足度は昨年度と比べ上昇し、また教室等に関する要望を持つ学生の割合も昨年度と比べ減少したことが満足度が改善した要因の1つと考えられる。</p> <p>大学生生活に満足していない理由について、今回の設問に対する回答の結果から分析すると、大きく2つの要因があった。ひとつは、設備等に関する不満である。学生ホール等のアメニティ関連および図書館や食堂等に関する要望については、大学全体として引き続き改善策を考えていく必要がある。もうひとつは、時間割やカリキュラムに対する不満あるいは教員に対する不満などが考えられる。今年度1年生から抜本的な見直しを行った新カリキュラムとなり、時間割のスリム化も行った。しかし臨床検査技師養成のための時間割は広範な医療の知識・技術を習得しなければならず、必然的に講義・実習は多くなる。カリキュラムについては目標やポリシー等を学生に対して説明し、理解を得ることが重要と考える。</p> <p>本学科の学生は学習意欲が高く、学修に影響を与えない程度のアルバイトを行い、クラブ活動にも積極的に参加している。しかし就職・将来の進路に不安を持つ学生が他学科より多いことから、関係部署との連携を強化するとともに、教員の学生相談体制の強化も必要である。</p> <p>学生生活がより良いものとなるよう、具体的な改善案を検討し、計画的に改善を行っていく必要がある。</p>
看護	<p>生涯教育研修センター2号館への移転に伴い、学生生活充実度において、満足している割合は他学科に比べて高く、満足していない割合は昨年よりも減少していた。学習面でのハード面が良い環境になったが、クラブ活動より充実度が低かった。また、講義実習満足度において、昨年よりも「全体的に満足している」が若干高くなったが、「不満であるものが多い」「全般的に不満足」が全体の平均よりも高かった。悩み事においても、「学習面」が最も多かったことから、教員の講義・実習における教授方法を再度見直ししていく必要がある。予習「ほとんどなし」が半数以上、復習も3割余と自己学習時間が少ないこと、アルバイトや通学時間により、学習時間を十分確保できていないことが推測され、これも学習面への悩みにつながっていると考えられる。</p> <p>教育制度不十分では、「教室」が最も高かったが、昨年よりも低く、全体の平均よりも低かった。生涯教育研修センター2号館への移転により環境は整ってきているが、いまだ「教室」への要望が多いことから、6階の演習室やグループワーク室の活用方法の改善も含めて、学習面への充実に向けて取り組む必要がある。駐輪場・駐車場は全体の平均よりも高かったことから、改善を希望していることがわかった。</p>
放射	<p>下宿をしている学生が他学科に比べ多いのが本学科の特色である。この特徴を活かして今後も全国から広く学生を募集する努力を続ける必要がある。</p> <p>入学した学生の約8割は高倍率な一般入試を合格しており、入学後は全体的に欠席も少なく勤勉である。しかし、本学を第一志望として受験し入学した学生は4割にも満たず、満足度も他学科に比べ低い傾向にある。学生のモチベーションを向上させ、本来持っている高い学力をさらに伸ばすための改善を行う必要がある。</p> <p>満足度が低い原因として、放射線学科棟の立地が悪いことや、教室や実験設備の充実度で他大学に見劣りしていることなどが挙げられる。1・2年生は生涯教育研修センター2号棟にて講義を受けており、教室設備に関する不満は部分的に解消されると思われる。しかし、高学年は現在の放射線学科棟を引き続き利用するため、学園内の動線の改善、Wifiサービスなどの提供、教室の改修、実験・研究設備の更新が、本学科の取り組むべき喫緊の課題である。</p> <p>さらに、カリキュラムや時間割に対する不満が多く、資格取得に関するサポートも手薄であると感じている学生が多いことが明らかとなった。授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善や、資格取得サポート強化などに取り組む必要があるといえる。</p>
リハ・理学	<p>「総合的にみて大学生生活に満足していますか」の設問において、作業療法専攻よりは「はい」が高値を示した。しかしその人数は51名(46.8%)と半数とどまっており、更なる対策が必要と考えられる。理学療法専攻については、クラブ活動や学外活動の充実、食堂、図書館、および体育館の改善、学習面、就職・将来の進路、金銭面、性格や能力について学生が持つ要望または悩みごとに対して、きめ細かく対応することが有効であると考えられる。特に図書館の改善については5割以上の学生から要望が挙がっており、早急な具体的改善策が必要と考える。悩みごとについては、今後の学科会議および担任会議において本結果を共有し、学生面談等に生かしていきたい。</p>

リハ・作業	<p>「総合的にみて大学生生活に満足していますか」の設問において、「はい」が43名(43.9%)と低値にとどまっており、同様に更なる対策が必要と考えられる。作業療法専攻については、クラブ活動や学外活動の充実、図書館、学生ホール・ラウンジ、および情報系教室の改善、学習面、就職・将来の進路、金銭面、性格や能力について学生が持つ要望または悩みごとに対して、きめ細かく対応することが有効であると考えられる。特に図書館の改善については5割以上の学生から要望が挙がっており、早急な具体的改善策が必要と考える。悩みごとについては、今後の学科会議および担任会議において本結果を共有し、学生面談等に生かしていきたい。</p>
臨床工学	<p>回答した学生の約5割が本学を希望して入学している一方で、他大学を希望していた学生は1/4を占め、特に希望はなく入学したものが1/4となった。医学系であるため授業コマ数の3/4以上、実習は全コマ数を出席する必要から出席状況は良好で、全員出席率は8割を超えていた。講義・実習には満足しているが予習が少なく、シラバスを活用していないのではと疑問がある。今年度からシラバスが電子化されたことによる影響が多少出ているのかもしれない。学習は学友とともに進む傾向があり、複数人で振り返ることでお互いに学習メリットが大きいと感じていると思われる。このような状況で、カリキュラム・時間割・教室・食堂などに対する改善要求が高く、計画的にソフト面・ハード面ともに改修が望まれる。クラブ参加は積極的であるが、ボランティア活動はマッチングが必要な状況で、マッチングの仕組みができれば活動率は上がると見込まれる。</p> <p>アルバイトは、ほぼ全員が行っており、平日も行っている様子が窺われる。通学時間は90分以内の学生がほとんどで、講義終了後にクラブ活動をし帰宅、あるいは、帰宅途中にアルバイトをするなどのため、就寝する時刻が遅くなり、結果的に睡眠時間を圧迫しているように思われる。深夜に軽く摂食することも考えられ、朝食を取らない割合を増加させる要因になっているようにも感ずる。</p> <p>趣味や娯楽に支出する金額は月に2万円程度と常識的な範囲内であると考えられる。</p> <p>4年生への調査が含まれるため、就職や進路に関する不安を訴えた様子が窺える。悩みの多くは、学友や学外の友人といった交友関係にあるものへの相談が多く、家族と同じように信頼関係が築かれているようである。</p>
医療経営	<p>本学科学生は、入学生はセンター利用の割合が多いなど他学科と異なる状況にあるものの、希望通りの入学であるとか、大学生生活の充実度についてはほぼ平均的な数値が得られている。入学生の人物像は、若干他学科と異なっている。自宅から遠距離通学をするものが多く時間が取られているものの、家庭の経済状況は普通で小遣いをもらいつつバイトも平均的にやっている。時間と金銭は自分の自由にしたことをする(趣味やレジャー)のに費やし、相対的にクラブ活動やボランティア活動への参加は少ない。ただ、興味自体はあり、他者との交流も求める傾向がある。結果として自己学習の時間が大きく、睡眠時間が若干削られる傾向にある。本学に入学する目的が明確で学習のモチベーションが高く、目標に向かって勉学に勤しむ、というような人物が少ないと言えよう。不安が無いとする割合が高く、危機感の無さが現れている可能性もある。いずれにせよ、入学後早期に本学科の教育目標や将来像について理解させることが重要となろう。また、端的に自己学習時間を増やすような対策(eラーニングは有力な手段と考える)が急務である。</p> <p>大学生生活に対する要望としては、教室や学生ホール等の改善が求められている。しかし、これには物理的に対応が困難な面があり、別の要望への対応を優先せざるを得ない。その中でも衛生面での指摘は優先度高く対応していくべきと考える。時間割についての要望は、どのような観点からの要望であるかを今後精査していく必要がある。医療系大学として、本学科の教育目標として、あるていどの授業の過密さは避けられないため、将来、就職時に求められる人材像、就職後に求められるスキルや態度について、説明していく努力を継続していく必要がある。</p> <p>担任制度において、今後も定期的な学生面談等により、学生からの情報収集とともに、不安解消などの相談事に教員が対応していくことを周知していく。</p>

＜大学全体についての考察＞

臨床検査	<p>希望する大学に入学できた学生の割合は学部平均を下回ったが、総合的にみて大学生生活に満足している学生の割合は54.8%であり、満足していない学生の割合は学部内で最も低かった。学生の多くは高校時代、国公立を第一希望として目指していた等、本大学が第1希望ではなかったが、入学後は気持ちを切り替えて大学生生活を送っていると推察する。また平成28年度からは新しい建物で講義等を行っていることが、学習面での充実度の上昇につながっているものと推察する。しかし大学生生活、特にクラブ活動や学外活動などの面においては、満足度が高くなく、さらに改善できる余地があると思われる。今後も原因を探索し、改善できる点、または改善すべき点について計画的かつ積極的に改善していくことが望まれる。</p>
看護	<p>総合的に学生生活充実度の割合は他学科に比べて高く、充実していない割合は昨年よりも少なくなっている。生涯教育研修センター2号館への移転に伴い、学習面でのハード面は良い環境になったと思われるが、学習面よりもクラブ活動が充実していた。生涯教育研修センター2号館6階の演習室やグループワーク室の活用方法の改善を含めて、今後も学習面が充実してもらえるよう取り組む必要がある。</p>

放射	放射線学科は高倍率の一般入試で入学する学生が最も多く、講義をまじめに出席し勉学に励む学生が多いといえる。一方、大学受験時に目指していた国公立大学等には入学できず、藤田に来ている学生が学部内で最も多い。その結果、成績は優秀だがあまり現状に満足していない学生が一定数存在していることとなり、それは調査結果にも表れている。学生のモチベーションを向上させ、本来持っている高い学力をさらに伸ばすための改善を継続的に行う必要がある。
リハ・理学	「希望の大学へ入学しましたか」の設問において、「はい」が62名(56.9%)と高値を示しており、このことが「授業の出席状況」の設問における「出席率98%以上」が106名(97.2%)、「同90%以上」が3名(2.8%)という高値につながったと考えられる。一方で、「学生生活の充実度について(クラブ活動や学外活動などの面)」の設問において「大変充実している」が21名(22.5%)、「あまり充実していない」が25名(22.5%)と学生の捉え方が様々であり、「総合的にみて大学生活に満足していますか」の設問において「はい」が51名(46.9%)と低値にとどまったことに影響したものと考えられる。
リハ・作業	理学療法専攻と同様に、「希望の大学へ入学しましたか」の設問において、「はい」が57名(57.6%)と高値を示しており、このことが「授業の出席状況」の設問における「出席率98%以上」が86名(86.9%)、「同90%以上」が7名(7.1%)という高値につながったと考えられる。一方で、「学生生活の充実度について(クラブ活動や学外活動などの面)」の設問において「あまり充実していない」が18名(18.2%)、「全く充実していない」が11名(11.1%)と高値を示しており、「総合的にみて大学生活に満足していますか」の設問において「はい」が43名(43.9%)と低値にとどまったことに影響したものと考えられる。
臨床工学	教育制度として、カリキュラムや時間割が不十分と回答した割合がそれぞれ6割近くに達した。この傾向はすべての学科と同じであった。学内で整備・充実すべき設備として、教室が最も高く約7割に達した。食堂・学生ホールがそれに続いて高く、食堂は5割を超えていた。要望点では、設備改善が最も多く約8割に達した。また、講師陣の充実、食堂・学生ホールの充実は約5割であった。
医療経営	本学科は、入学生の試験区分の分布が他学科と大きく異なっている。一般入試の比率が38.3%他学科に比して低い割合であり、センター利用が37.0%と突出している。推薦入試は24.7%と比較的多くなっている。希望通りの入学であった学生は54.3%となったが、一般入試と推薦入試の受験者の合計とほぼ合致している。本学科は競合する他大学が少ないため、経済・経営系や情報系の大学への進学を希望していたセンター利用者が本学科へ流れてきている状況が推察される。ただ、授業出席率は他学科と同様に高く、大学生活充実度もほぼ平均的であり、総合的に満足している割合も平均的な結果となっている。センター利用受験者を中心に第一希望以外で本学科に入学してきた学生も、入学後には切り替えて学修に臨んでくれていると考えられる。クラブや学外活動面では「全く充実していない」の回答率が高い点に気がなるが、これは自宅からの通学者の比率が高く、通学時間が長い学生が多いため、時間の確保の問題から活動に打ち込めない状況があることが原因と推察される。

<通学についての考察>

臨床検査	自宅から通学する学生の割合は約70%であり、地元の学生が多い。通学の所要時間については2時間以上の学生の割合が学部内で最も多く、地元でも遠方の学生の割合が多いことが推察できる。公共交通機関や自転車等での通学が多いことから、通学時のマナー等の指導は重要であり、今後も継続して行っていく必要がある。
看護	自宅からの通学者が最も多く、下宿の学生は少ない傾向にある。しかし、通学時間は昨年よりも多くなっており、遠方から通学している学生が増えていることがわかった。通学方法としては、公共交通機関が約6割で最も多いが、自転車4割、自動車も全体の値よりも高い状況である。自転車事故や自動車事故も報告されていることから安全に通学ができるよう交通安全講習会等の出席を促す必要がある。
放射	下宿している学生が学部内で最も多く、全国から学生が集まってきている。そのため、自転車・徒歩で通学する学生が多く、駐輪や交通マナーに関する指導をしっかりと行う必要がある。また、下宿生が不登校になった際の本人や保護者への連絡は迅速に進める必要がある。
リハ・理学	他学科の傾向と同様に、自宅から自転車もしくは公共交通機関(バス・電車等)で通学する学生が多い傾向であった。「通学の所要時間(片道)」の設問について、「2時間以上」が5名(4.6%)と比較的低値であり、理学療法専攻の学生が近隣から集まっている、もしくは実習等で帰宅が遅くなるため下宿を選択している可能性が考えられる。
リハ・作業	他学科の傾向と同様に、自宅から自転車もしくは公共交通機関(バス・電車等)で通学する学生が多い傾向であった。「通学の所要時間(片道)」の設問について、「2時間以上」が7名(7.1%)であり、理学療法専攻の学生とかい離した結果となった。その理由としてはより広範囲から学生が集まっているなどが考えられる。

臨床工学	自宅から通学する学生の割合は、他の学科に比べやや低く、全体の平均値より5ポイント低かった。通学時間が1時間以上かかっていた学生の割合は約35%で、学部内で最も低かった。また、1時間半以内の学生が学科内の95%以上を占めた。通学手段は、公共交通機関と自転車を利用する割合がそれぞれ半数を占め、他の学科と変わらなかったが、単車の利用率が全体の比率の2倍を超え、学部中最大であった。自動車の利用は通学手段の選択肢中(その他を除く)最低であった。通学時間圏は他の学科とほぼ変わらない結果であり、通学時間による修学への影響は他学科と変わらないと考える。
医療経営	自宅から通学する学生が約80%と他学科と比べて突出して多く、また通学も公共交通機関を使って1.5～2時間以上かけている学生が50%と、遠距離通学の学生が多くなっている。通学時間が「20分以内」である下宿(一人暮らし)の割合も低く、地方出身の入学者が少なく、かつ豊橋以東、岐阜、三重からも自宅から通学している状況が推察される。通学時間にクラブや学外活動の時間が奪われていることが推察され、これが学生生活面で「全く充実していない」の回答につながっていると考えられる。

<経済面についての考察>

臨床検査	何らかの奨学金を受けている学生の割合及び趣味や娯楽等に掛ける費用の分布は、学部平均とほぼ同じであった。アルバイトをしている学生としていない学生、下宿の学生と地元の学生などによって異なるものと思われる。
看護	お小遣いは他学科よりも多い傾向にあった。奨学金は3割程度もらっており、学部平均と同様であった。
放射	奨学金を受けている学生の割合が学部内で最も高く、趣味や娯楽に割ける金額は学部の平均よりも低い傾向にあった。下宿生が多く、質素な生活をしていることが明らかとなった。
リハ・理学	約3割の学生が「日本学生支援機構」からの奨学金を受けており、他学科のよりも多い傾向であった。一方で「あなたの1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか」の設問については比較的 low 帯に多くの学生が分布しており、家庭の経済状況によるものか、学費の違いによるものか、など追加の調査が必要と考えられる。
リハ・作業	約1.5割の学生が「日本学生支援機構」からの奨学金を受けており、他学科のよりも少ない傾向であった。「あなたの1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか」の設問については比較的 low 帯に多くの学生が分布しており、家庭の経済状況によるものか、学費の違いによるものか、など奨学金以外に追加の調査が必要と考えられる。
臨床工学	趣味・娯楽に掛ける費用は1月あたり2万円以内が7割ほどで、学部全体の割合より若干上回った。1週間あたり5千円以下で余暇を楽しんでいる様子が窺える。奨学金等の公的補助制度を利用しない学生の割合は75%を超えていた。修学に必要な資金には恵まれている学生が多いことが窺える。
医療経営	奨学金の受給率は全学科平均と同等であり、他学科と比して経済的な状況が異なる傾向はみられないう。小遣いをもらっていない～小遣いな小遣いをもらう(1万円未満)学生の割合が他学科と比して少なくなっており、自宅から遠距離通学をしている学生が多い状況を合わせると、アルバイトにあてる時間が少なくなるため保護者より援助を受けている状況が推察される。しかし、アルバイトの調査結果からは、ほぼ全学科平均並にアルバイトは行われており、他学科学生と比べて経済的に余裕があり、学生も遊興にお金をかける傾向が強いことが示唆される。

<アルバイトについての考察>

臨床検査	89.1%の学生がアルバイト行っており、そのうち55.6%が週1～2日アルバイトを行っていた。また6時間以上や5～6時間未満が高率であった。授業・実習がある平日のアルバイトは避け、土曜日や日曜日などに集中して行っていることが推察される。多くの学生は学業に影響を与えない程度のアルバイトを行うよう心掛けていると推察される。
看護	看護学科はアルバイトを行っている割合が最も多かった。「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が71.0%と昨年より高くなっており、他学科に比べ最も高かった。「学費を得るため」は1.9%(全体3.4%)で昨年よりも低くなっており、自分のお小遣いにしていく傾向にあった。また、アルバイト日数、時間も昨年より多くなっている傾向にあった。職種は「フード・飲食」56.9%で最も多く、次いで「各種販売」18.5%、「教育(家庭教師・塾講師等)」であり、全体の値と同様であった。アルバイトでの時間がクラブ活動やボランティア活動において、時間に余裕がないことを裏付けていた。
放射	81.5%の学生がアルバイトを行っており、アルバイトの頻度は週に3～4回が最も多かった。2年生のほうアルバイト時間数も多く、卒論や実習などがあり忙しい4年生に比べ時間的余裕があるものと推測される。また、主たるアルバイト内容は飲食店だが、教育関係のアルバイトを行う学生も他学科に比べ多いことが特徴的である。

リハ・理学	「アルバイトは1週間に何日しますか」の設問については少ない日数を、「一日あたり何時間していますか」の設問については長い時間を回答する学生が多く、学業またはクラブ活動に影響しない日程でまとめてアルバイトを行っていると考えられる。「アルバイトの主な職種」の設問において「その他」の学生が多く、この傾向が続く場合には現在用いている選択肢の再考が必要と考えられる。
リハ・作業	「アルバイトは1週間に何日しますか」の設問については少ない日数を、「一日あたり何時間していますか」の設問については長い時間を回答する学生が多く、学業またはクラブ活動に影響しない日程でまとめてアルバイトを行っていると考えられる。
臨床工学	1週間当りのアルバイト日数が4日以内の割合は95%を超えたが、毎日アルバイトする学生はいなかった。1回あたりの時間が4時間以上に達する割合は75%を超え、6時間以上は25%を超えていた。土曜・日曜といった講義等のない日だけでなく、平日も労働している状況が窺われる。職種では、「フード・飲食」関係が5割を超え、次いで各種販売業が2割をやや下回っていた。平日は夕刻まで講義等があることから、夜間に労働力が必要な業種へ就いている様子が窺える。
医療経営	アルバイトをしている学生は93.7%と看護と並び高い割合となっている。アルバイト時間は若干短めであるが、「4～5時間」を「週3～4」の頻度で行っている率が高いことが推測される。医経学生は小遣いをもらっている率も高く、アルバイト目的も「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が約60%となっており、遊興のために保護者の援助もバイトも活用していることが伺える。さらに、通学時間が長い学生の比率が高いことから、大学で授業を受けている時間以外に、通学・バイトの時間が大きくとられ、その他の時間も遊興に当てられている可能性が高いことが推察される。自宅学習の時間確保を指導する必要があると考えられる。

<クラブ活動/ボランティア活動等についての考察>

臨床検査	クラブ活動に参加している学生の割合は69.0%であり、理学療法専攻(72.5%)に次いで高かった。比較的多くの学生がクラブ活動に参加し、また複数のクラブに参加する学生も多い。ボランティア活動を行っている学生の割合は学部平均より低かった。ボランティア活動をしたいがチャンス、時間がないと答えた学生が多いことから、将来医療職を目指す学生として学内での取り組みの必要性を感じている。
看護	クラブ活動への参加は、全体の平均と同様な傾向にあった。クラブ活動参加のきっかけは、「他学の学生と交流を持ちたい」「友人との交流をもちたい」が他学科に比べて高かった。アルバイトや通学時間が長くなる中で、交流をもちたいという気持ちが表れていた。ボランティア活動においては、「活動したいが時間的に余裕がない」が48.1%と最も高かった。アルバイト時間、通学時間に時間がかかることが、ボランティア活動を積極的にできないことにつながっていると推測された。
放射	クラブ活動に参加している学生は全体の62.8%であり、学部の平均よりも若干低い値であった。アルバイトと両立させるため、2つ以上の部活に所属する学生は少なかった。約19%の学生がボランティア活動に参加経験があるが、残りは時間が取れないことや関心がないことを理由に活動をしたことがなく、積極性を身につけさせるためのきっかけ作りが必要である。
リハ・理学	他学科の傾向を上回る、72.5%の学生がクラブ活動をしており、その理由は「活動が楽しそう」が48名(60.8%)、次いで「他学の学生と交流をもちたい」が15名(19.0%)であった。また、「ボランティア活動をしたことがありますか」の設問について「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」と回答する学生が多い点は他学科の傾向と同様であった。
リハ・作業	他学科の傾向と同様に、約6割の学生がクラブ活動をしており、その理由は「活動が楽しそう」が26名(48.1%)、次いで「他学の学生と交流をもちたい」が17名(31.5%)であった。また、「ボランティア活動をしたことがありますか」の設問について「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」と回答する学生が多い点も同様であった。
臨床工学	クラブ参加率は約7割で、学部全体の割合とほぼ同じだった。参加きっかけが能動的であった割合が回答数の70%以上で、受動的であった割合は16%ほどと、積極的な学生が多いことが窺える。一方、参加していない学生の約4割が「自分の関心に合うものがない」と回答していること、自己の時間を大切にしたいと思われる回答が散見され、社会適応力を養う機会を逃していると考えられる。ボランティア活動参加率は15%程度と他学科に比べ低く、関心がない割合は3割近くあった。活動したいと回答した割合は50%を超えていることから、ニーズに対するマッチングができれば参加率が上がる見込みがあると考えられる。

医療経営	<p>クラブ活動に参加している学生は55.0%であり、リハ作業と並んでもっとも割合が低い学科となっている。参加理由は「他学科の学生と交流したい」という欲求が大きくなっており、他学科には無い特徴である。医療事務職は他の医療専門職のコミュニケーションを活性化させることが重要な仕事となるため、交流を希望する学生が多いことは良い傾向であると考えられる。クラブ活動に参加しない理由にはバイトや通学を挙げず、お金が掛かること、時間の使い方を制限されることを嫌っていることが推察され、他学科の学生よりも遊興・趣味等に金銭も時間も費やしたい欲求が高い傾向にあると考えられる。また、ボランティアに興味があるが、チャンスや時間が無いとしている学生が多く、通学、バイトに時間がとられている、遊興・趣味等の方に残った時間を費やしたいという欲求が強いことが伺われる。</p>
------	---

＜学習及び学校生活についての考察＞

臨床検査	<p>予習より復習を行っている学生が多く、学習時間も復習に多く費やしていた。その学習内容は、先輩や友達とのノートや資料等を当てにすることなく、自らの講義中のノートや講義資料を中心に学習している割合が高かった。学習に対し意欲が高い学生が多いと考えられる。</p> <p>「講義・実習に満足しているか」の設問では、「全体的に満足している」と「満足しているものが多い」を合計した割合は92.7%で、学部平均より高かった。一方で、教育面や制度面では「時間割」や「カリキュラム」に対して不満等を持つ学生が多かった。医療系の学科であることから、時間割がタイトでゆとりが少ないことは否めない。しかし今年度新入生より新しいカリキュラムとなったため、現在のカリキュラムの問題点等の一部は改善される予定である。</p> <p>昨年度は「教室の設備など現在の施設・整備の改善」を求める学生が多かったが、今年度から生涯教育研修センター2号館へ新しい建物に移ったことから教室等の設備に関する不満等に関しては減少したと考えられる。「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」に対する要望や期待を持つ学生が多かったが、本調査時には整っていなかったアメニティについて、現在は学生ホールに机・椅子が増設され、また電子レンジも各階に設置されている。</p> <p>「優秀な教師がそろっていること」への要望や改善については、49.0%と昨年度(57.5%)より減少していた。今後も満足度の低い講義・実習を行っている教員に対しては、授業評価アンケートを参考に授業改善を求めていく。</p>
看護	<p>予習よりも復習の時間が多かった。学習は自宅が多く、次いで学内であった。学習方法は「講義用教材を中心に学習」が半数を占めていたが、「自分のノートを中心に学習」は他学科に比べ、最も低かった。講義資料等の活用はできているようだが、自分のノートの整理や活用ができていないことが推測される。講義実習満足度は、昨年よりも「全体的に満足している」が若干高くなったが、「不満であるものが多い」「全般的に不満足」が全体の平均よりも高かった。教員の講義実習における教授方法の見直しも検討していく必要がある。教育制度不十分では、「教室」が最も多いものの、昨年よりも低くなっており、全体の平均よりも低くなっている。生涯教育研修センター2号館への移転により環境は整ってきているが、いまだ「教室」が不十分であるため、その原因を確認し、改善していく必要がある。駐輪場・駐車場は全体の平均よりも高いことから、改善を希望していることがわかった。</p>
放射	<p>予習よりも復習を行っている学生のほうが多く、教科書などを利用して一人で学習している学生の割合が高かった。「講義・実習に満足しているか」の設問では、満足している学生の割合が他学科に比べ10%程度低かった。その理由としてカリキュラムや時間割が不十分と考えている学生が多く、大学への要望に優秀な教師を挙げていることから、カリキュラムの改良とともに教員の教育力向上が必要と思われる。今年度から運用が始まった新カリキュラムにてどのように意識が変化していくか注視したい。</p>
リハ・理学	<p>「1日の平均予習時間はどれくらいですか」の設問について「ほとんどなし」が約7割と高値を示す一方、「1日の平均復習時間はどれくらいですか」の設問について他学科と同程度に実施していた。平日は5時間目まで実施されることが多いため、短くなる自主学習時間を復習に充てている可能性が考えられる。</p> <p>「講義・実習には満足していますか」の設問について、7割の学生が「満足しているものが多い」と回答しているものの、「不満であるものが多い」も1割強あり講義評価アンケートなどをを用いた追加の検討が必要と考えられる。「キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいもの」の設問について、「食堂」、「図書館」、「体育館」が高値を示しており、学生にとって改善が感じられる対策が必要である。「大学に対して要望したいことや期待すること」の設問について、「運動施設の充実と整備」が高値を示したが、専攻内にスポーツ経験者の学生が多いことが要因と考えられる。</p>

リハ・作業	「1日の平均予習時間はどれくらいですか」の設問について「ほとんどなし」が約7割と高値を示す一方、「1日の平均復習時間はどれくらいですか」の設問について他学科と同程度に実施していた。平日は5時間目まで実施されることが多いため、短くなる自主学習時間を復習に充てている可能性が考えられる。「講義・実習には満足していますか」の設問について、7割の学生が「満足しているものが多い」と回答しているものの、「不満であるものが多い」も1割強あり講義評価アンケートなどを用いた追加の検討が必要と考えられる。「キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいもの」の設問について、「図書館」、「学生ホール・ラウンジ」、「情報系教室」が高値を示しており、学生にとって改善が感じられる対策が必要である。
臨床工学	予習をしない割合は5割を超え、1時間未満の割合を加えると8割近くを占めた。復習をしない割合は約3割で、1時間以内の割合を加えると8割近くを占めた。自主学習をする場所は自宅か学内がほとんどで、学内がやや多い傾向を示した。また、友人とともに学習する事が多いとした回答割合が約5割あり、他の学科に比べ2倍以上の割合を示した。自主学習方法はノート主体が約3割、教材主体が約4割で講義内容を振り替える状況が窺える。講義・実習に満足している割合は約9割と高かった。自主的な学習は予習よりも復習に重心が置かれ、定着の効率を上げるため複数名で学習する傾向にあると考える。
医療経営	予習はほとんど行われておらず、1時間以上の復習をしている学生も約4割の状況である。復習は一人で自宅で自作のノートで行うことが多くなっている。学生への指導として、自宅学習を促す仕組みを検討していく必要があると考える。eラーニングを用いると通学途中でも学習が可能となることから、自己学習時間を増加させる手段として積極的な取組が必要ではないか。講義実習についての満足度は全学科平均と同等であり、急務の改善が必要な状況ではないと考える。教育面、制度面で不十分とされたのは「時間割」であり、「カリキュラム」については他学科より不十分とされる割合が低かった。授業科目の過密さは、医経学生が学ぶべきものを示したカリキュラムにあるのであり、時間割の不十分さが何を指摘したものであるかを明らかにするには追加の調査が必要であろう。おそらくは情報系科目が1、2学年に集中したり、3学年で医学系、診療情報系科目が集中するなどのバランスの問題などが考えられる。しかし、取得させたい資格試験のための学習を考慮すると集中せざるを得ない面があり、改善は難しい。資格取得講座の充実の要望が多いが、チャレンジする認定資格の多さから授業科目で少なからず対応している状況であるものの、対応資格の多さから要望が多くなっていると考えられる。科目間の連携の見直し等で、より資格に関連する内容の学習効率を高める工夫を教員間でしていく必要がある。教室設備の改善要望が高く、食堂・学生ホール充実の要望も高いが、物理的に対応が難しい。他の事項の改善から着手していく。優秀な教員を求める声は他学科より低くなっているが、今後も教員として教育の改善活動を継続していく必要がある。他学科学生と比較して「期待することは何もない」と冷めた回答する者が約19%と多く居ることが問題と考える。本学科で学ぶモチベーションの低い学生が一因と考えられるため、本学・本学科で学ぶ意義を熱意をもって説いていく必要がある。

<健康についての考察>

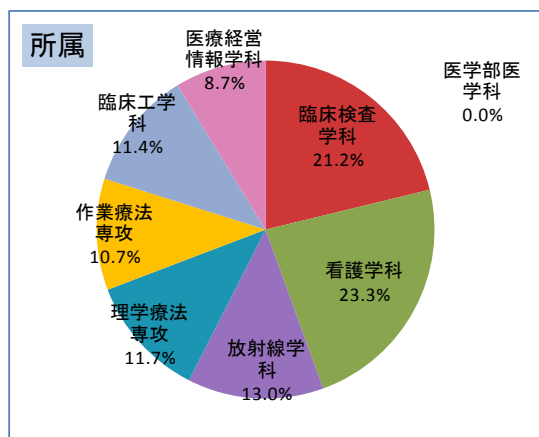
臨床検査	睡眠時間は5～6時間の学生が最も多かった。睡眠時間が4時間以下や朝食を摂らない学生がおり、生活リズムを整え、体調を崩さないためにも、適切な睡眠時間と1日3食の規則的な食事をとることが望ましい。
看護	自宅生が多いこともあり、食事や睡眠時間から、特に問題点は見当たらない。持病をかかえている学生が少数いるが、入学時の面談で教員が把握しており、本人・保護者・教員と連携し、問題なく対応できている。
放射	睡眠時間は5～6時間の学生が最も多かった。食事については、朝食を摂る学生の割合は高く、自宅で食事していることから、比較的バランスよく栄養を摂っていると思われる。
リハ・理学	睡眠時間および食事の項目については他学科と同程度の結果であり、大きな問題点はないと考えられる。
リハ・作業	睡眠時間および食事の項目については他学科と同程度の結果であり、大きな問題点はないと考えられる。
臨床工学	睡眠時間は約6時間が最も多く約45%で、次いで約5時間が約25%と学部全体の傾向と同じであった。朝食を取らない学生割合は18%程度と、学部内で最も高くなった。昼食は持参する弁当が最も多く約半数であった。次いで、コンビニ・ファストフードが1/4を占めた。夕食は、自宅あるいは下宿で食事を摂る割合が約85%と学部全体の割合とほぼ同じであった。睡眠時間はある程度取れている様子が窺われる。食事では朝食を取らない割合が高いものの、昼食と夕食の摂食率は上がることから、生活リズムの安定していない学生が若干いることが考えられる。
医療経営	睡眠は6時間以上取っている学生が53.8%と過半数を占めている。5時間未満の学生には体調不良や修学上の効率低下などが考えられ、また朝食を食べない学生も合わせて、規則正しい生活についての指導も検討が必要と考える。

<その他悩み事の考察>

臨床検査	就職率は毎年ほぼ100%であるが、就職や進路について悩んでいる学生が多かった。4年生担任を中心としてキャリア支援課との連携を強化しつつ対応を続けていく。就職や進路の悩みが多いにもかかわらず、教員に相談する学生が非常に少ない。就職や進路に関して気軽に相談できるような教員側の体制作りも必要であると考えられる。女子学生数に対する女性教員の数が少なく、女性教員の増員についても、今後の体制作りの1つであると考ええる。
看護	「就職・将来の進路」は他学科に比べて最も低かった。就職率100%であり、就職に関する悩みよりも学習面に関心が高かった。予習、復習が十分できていないことから裏付けられる。日頃の学習態度等についての助言、学習の仕方などの指導を積極的に行っていく必要がある。
放射	学習や進路について悩みを持っている学生が多い。留年や国試不合格を心配する学生も多く、安心して学習できる環境作りをする必要がある。4年生では就職に関する悩みが増えるが、キャリア支援課と協力しながら履歴書添削や面接練習などを行い、学生の就職活動を支える必要がある。また、教職員に悩み事を相談する学生が極めて少なく、気軽に相談できる信頼関係の構築や雰囲気作りが望まれる。
リハ・理学	「現在何か悩みごとを持っていますか」の設問について、「学習面」と「就職・将来の進路」が40名(37.4%)、次いで「金銭面」が39名(36.4%)、「性格や能力について」が29名(27.1%)で、「学習面」を除く3項目が高値を示しており、学生面談などの際にこれらの項目を意識した対応が必要と考えられる。
リハ・作業	「現在何か悩みごとを持っていますか」の設問について、「学習面」が42名(43.3%)、次いで「就職・将来の進路」が37名(38.1%)、「金銭面」が32名(33.0%)、「性格や能力について」が26名(26.8%)で、4項目とも高値を示しており、学生面談などの際にこれらの項目を意識した対応が必要と考えられる。
臨床工学	悩みを持っている学生割合は約6割おり、その半数は就職や進路についてであった。また、学習・金銭に関する悩みも2割以上であった。一方で、家庭・健康・性といったプライバシーに関わる悩みが散見された。相談相手は同級生が最も多く5割を超え、次いで親・学外の友人であった。相談先がない割合は1割を超え全体平均よりも高かった。学内には学生相談室や担任制度などケアの窓口があるものの、他者に相談できず抱え込んでいる学生が少なからずいる状況が浮かび上がった。就職・進路は4年生では喫緊の課題で、本人の希望とマッチしない状況が窺える。
医療経営	学習や進路で悩む率が高い結果であった。本学科は医療事務系の人材を養成する全国的に珍しい学科であるため、そのイメージがつかみにくいことが不安の原因となり悩んでいる、また、ほぼ半数の学生は希望大学でないとして入学してきているため、余計にイメージが掴めず、悩んでいることが推察される。今後も、1年次の早期に、職業イメージや資格についての説明機会を持つようにしていく必要がある。また、悩みがないという学生も危機感のなさの現れの可能性もあり、担任制において、今後も面談などを定期的に行うようにしていく必要があろう。

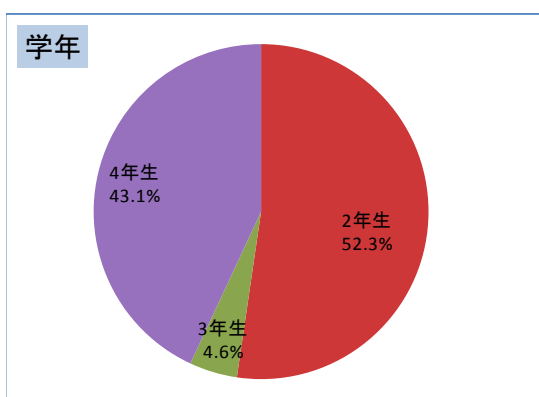
2. 学生生活・学修実態調査報告の全データ分析

F1～4. 【基本属性】



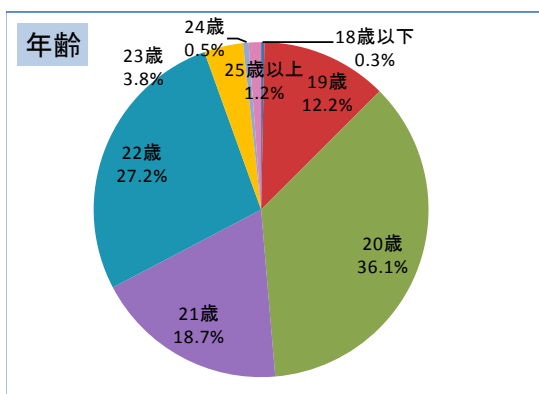
F1：所属

所属	件数	割合
医学部医学科	0	0.0%
臨床検査学科	197	21.2%
看護学科	216	23.3%
放射線学科	121	13.0%
理学療法専攻	109	11.7%
作業療法専攻	99	10.7%
臨床工学科	106	11.4%
医療経営情報学科	81	8.7%
合計	929	100.0%



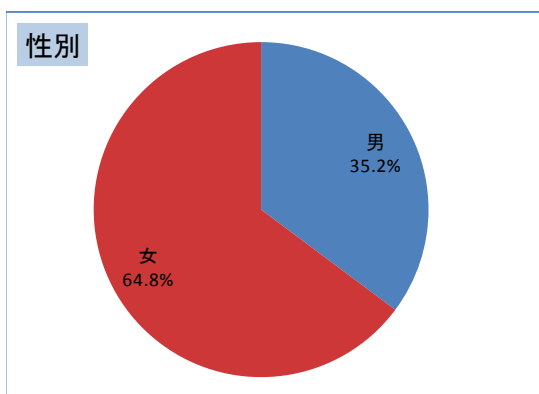
F2：学年

学年	件数	割合
1年生	0	0.0%
2年生	486	52.3%
3年生	43	4.6%
4年生	400	43.1%
5年生	0	0.0%
6年生	0	0.0%
合計	929	100.0%



F3：年齢

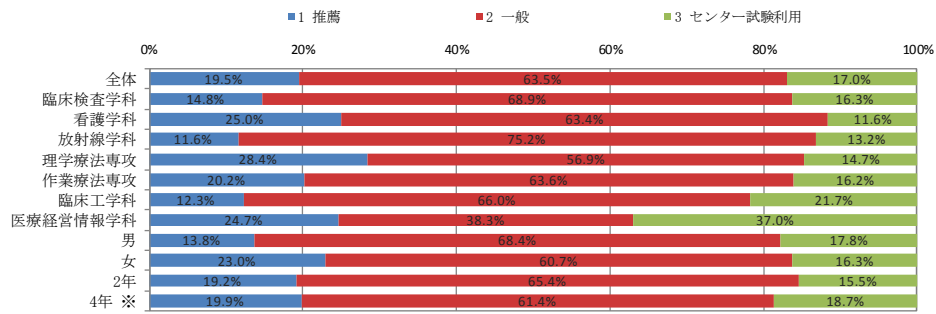
年齢	件数	割合
18歳以下	3	0.3%
19歳	113	12.2%
20歳	335	36.1%
21歳	173	18.7%
22歳	252	27.2%
23歳	35	3.8%
24歳	5	0.5%
25歳以上	11	1.2%
合計	927	100.0%



F4：性別

性別	件数	割合
男	320	35.2%
女	589	64.8%
合計	909	100.0%

1. 入試区分



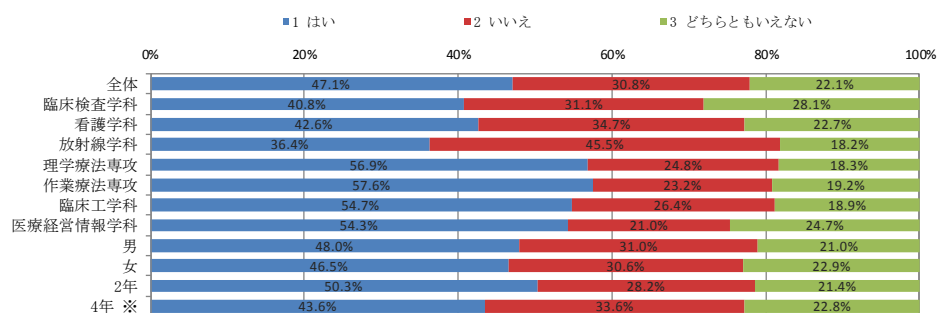
	有効回答者数	大学の入学方法は		
		推薦	一般	センター試験利用
全体	928	181	589	158
学科別	臨床検査学科	29	135	32
	看護学科	54	137	25
	放射線学科	14	91	16
	理学療法専攻	31	62	16
	作業療法専攻	20	63	16
	臨床工学科	13	70	23
	医療経営情報学科	20	31	30
	性別			
男	320	44	219	57
女	588	135	357	96
学年別	2年	93	317	75
	4年 ※	88	272	83

※以後の表も全て医療経営情報学科は3年生

(1) 大学の入学方法：1. 入試区分

臨床検査	「一般入試」による入学者の割合が68.9%あり、学部内で最も高かった。次いで、「推薦」14.8%、「センター試験利用」16.3%であった。
看護	「一般入試」による入学者は63.4%、「推薦」25.0%、「センター試験利用」11.6%であった。昨年よりも「一般入試」「センター試験利用」の割合が高かった。
放射	「一般入試」による入学者の割合は75.2%と学部内で最も高かった。次いで「センター試験利用」13.2%、「推薦」11.6%であった。
リハ・理学	一般入試が62名(56.9%)、次いで推薦入試が31名(28.4%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	一般入試が63名(63.6%)、次いで推薦入試が20名(20.2%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「一般入試」が66%、ついで「センター試験利用入試」が22%、「推薦入試」が12%であった。学部内では、「センター試験利用入試」による割合が高く、「推薦入試」による割合が低い傾向を示した。
医療経営	「一般入試」による入学者が38.3%と学部内では最も高い比率となっているが、他学科と比較して約1/2ほどの割合となっており、「センター試験利用」が37.0%と他学科とくらべ10～15ポイント高い値となっている。「推薦入試」は24.7%で割合の高い看護・リハ理学と同程度となった。

2. 入学時希望順位

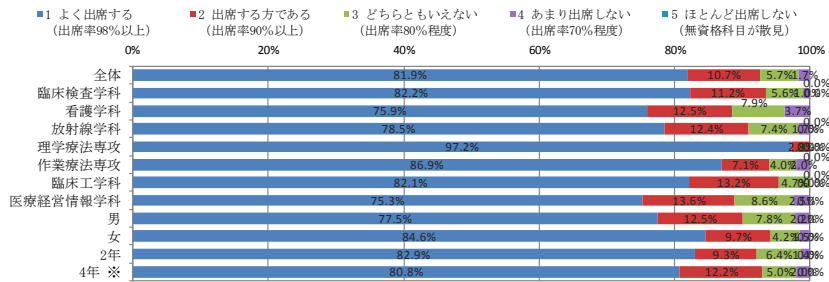


	有効回答者数	希望の大学へ入学できましたか			
		はい	いいえ	どちらともいえない	
全体	928	437	286	205	
学科別	臨床検査学科	196	80	61	55
	看護学科	216	92	75	49
	放射線学科	121	44	55	22
	理学療法専攻	109	62	27	20
	作業療法専攻	99	57	23	19
	臨床工学科	106	58	28	20
	医療経営情報学科	81	44	17	20
	性別				
男	319	153	99	67	
女	589	274	180	135	
学年別	2年	485	244	137	104
	4年 ※	443	193	149	101

(2) 希望の大学へ入学しましたか：2. 入学時希望順位

臨床検査	希望大学であると回答した学生の割合が40.8%であり、学部平均を下回っていたが、昨年度(44.7%)とほぼ同様の結果であった。
看護	「はい」42.6%、「いいえ」が34.7%であった。「はい」は全体(47.1%)よりも低かったが、「いいえ」を上回っていた。
放射	希望大学であると回答した学生の割合は36.4%であり、学部で最も低かった。
リハ・理学	「はい」が62名(56.9%)、「どちらとも言えない」が20名(18.3%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
リハ・作業	「はい」が57名(57.6%)、「どちらとも言えない」が19名(19.2%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
臨床工学	「はい」が55%、「いいえ」が26%、そして、「どちらとも言えない」が19%であった。学部内では「はい」の割合が高く、残る2つの回答の割合が低かった。
医療経営	本学科へ希望通り入学したと回答した学生は54.3%と過半数を超えている。全体平均47.1%以下の検査・看護・放射群と平均値以上のリハ・臨工・医経群に分かれている。

3. 授業出席率

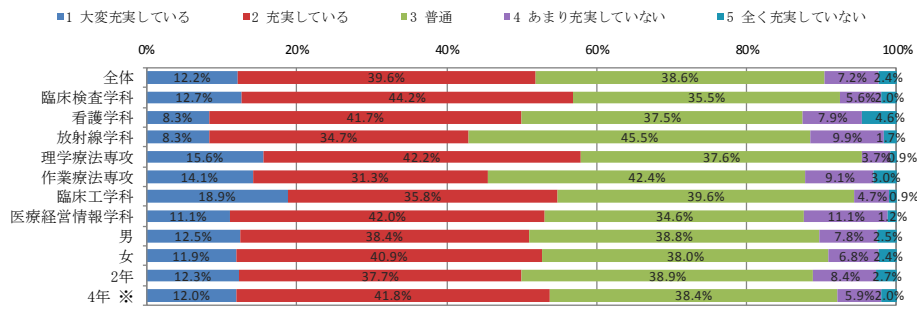


	有効回答者数	授業の出席状況について				
		(よく出席する(出席率98%以上))	(出席する方である(出席率90%以上))	(どちらともいえない(出席率80%程度))	(あまり出席しない(出席率70%程度))	(ほとんど出席しない(無資格科目が散見))
全体	929	761	99	53	16	0
		81.9%	10.7%	5.7%	1.7%	0.0%
学科別	臨床検査学科	162	22	11	2	0
		82.2%	11.2%	5.6%	1.0%	0.0%
	看護学科	164	27	17	8	0
		75.9%	12.5%	7.9%	3.7%	0.0%
	放射線学科	95	15	9	2	0
		78.5%	12.4%	7.4%	1.7%	0.0%
	理学療法専攻	106	3	0	0	0
		97.2%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
性別	作業療法専攻	86	7	4	2	0
		86.9%	7.1%	4.0%	2.0%	0.0%
	臨床工学科	87	14	5	0	0
		82.1%	13.2%	4.7%	0.0%	0.0%
	医療経営情報学科	61	11	7	2	0
		75.3%	13.6%	8.6%	2.5%	0.0%
	男	248	40	25	7	0
		77.5%	12.5%	7.8%	2.2%	0.0%
学年別	女	498	57	25	9	0
		84.6%	9.7%	4.2%	1.5%	0.0%
	2年	403	45	31	7	0
		82.9%	9.3%	6.4%	1.4%	0.0%
4年 ※	358	54	22	9	0	
	443	80.8%	12.2%	5.0%	2.0%	0.0%

(3) 授業の出席状況について：3. 授業出席率

臨床検査	「よく出席する(出席率98%以上)」と回答した学生の割合が82.2%であり、学部平均とほぼ同じであった。次いで、「出席するほうである(出席率90%以上)」が11.2%であり、出席率90%以上の学生の割合は93.4%であった。他学科と比較しても特に問題のない数値であるが、より高い出席率が望まれる。
看護	「よく出席する(出席率98%以上)」は、75.9%であり、全体(81.9%)を下回っていた。「あまり出席しない(出席率70%程度)」3.7%であり、他学科に比べて最も多かった。
放射	「よく出席する(出席率98%以上)」と回答した学生の割合が78.5%であり、学部平均よりも低い割合であった。次いで、「出席するほうである(出席率90%以上)」が12.5%であり、出席率90%以上と回答した学生の割合は90%であった。「ほとんど出席しない(無資格科目が散見)」はゼロだが、出席率70~80%の学生が全体の10%程度であった。この中には無資格にならないように計算しながら欠席している学生もふくまれているようである。
リハ・理学	「出席率98%以上」が106名(97.2%)、「同90%以上」が3名(2.8%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
リハ・作業	「出席率98%以上」が86名(86.9%)、「同90%以上」が7名(7.1%)であり、併せた割合は学部内平均値と比較し高値であった。
臨床工学	全員が出席率80%程度以上で、98%以上出席は82%であった。出席率70%程度以下がおらず、出席状況は良好であった。
医療経営	「よく出席する(出席率98%以上)」と回答した学生の割合は74.3%で全学科中の最下位であった。「どちらともいえない(出席率80%程度)」まで含めると97.5%の回答であり、本学全体の傾向として出席率は高い状況にある。回答の傾向は看護と同様であった。

4. 学生生活充実度…学習面

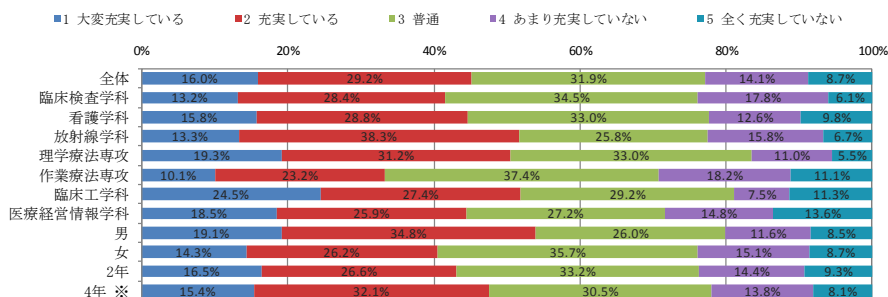


	有効回答者数	学生生活の充実度について…学習面では					
		大変充実している	充実している	普通	あまり充実していない	全く充実していない	
全体	929	113	368	359	67	22	
		12.2%	39.6%	38.6%	7.2%	2.4%	
学科別	臨床検査学科	197	25	87	70	11	4
			12.7%	44.2%	35.5%	5.6%	2.0%
	看護学科	216	18	90	81	17	10
			8.3%	41.7%	37.5%	7.9%	4.6%
	放射線学科	121	10	42	55	12	2
			8.3%	34.7%	45.5%	9.9%	1.7%
	理学療法専攻	109	17	46	41	4	1
			15.6%	42.2%	37.6%	3.7%	0.9%
作業療法専攻	99	14	31	42	9	3	
		14.1%	31.3%	42.4%	9.1%	3.0%	
臨床工学科	106	20	38	42	5	1	
		18.9%	35.8%	39.6%	4.7%	0.9%	
医療経営情報学科	81	9	34	28	9	1	
		11.1%	42.0%	34.6%	11.1%	1.2%	
性別	男	320	40	123	124	25	8
			12.5%	38.4%	38.8%	7.8%	2.5%
女	589	70	241	224	40	14	
		11.9%	40.9%	38.0%	6.8%	2.4%	
学年別	2年	486	60	183	189	41	13
			12.3%	37.7%	38.9%	8.4%	2.7%
4年 ※	443	53	185	170	26	9	
		12.0%	41.8%	38.4%	5.9%	2.0%	

(4) 学生生活の充実度について(学習面) : 4. 学生生活充実度

臨床検査	「大変充実している」が12.7%、「充実している」が44.2%で合計56.9%であり、学部平均より高く、昨年度(50.8%)と比較しても上昇していた。「あまり充実していない」と「全く充実していない」の合計が7.6%であった。
看護	「大変充実している」8.3%(全体12.2%)、「充実している」41.7%(全体39.6%)であり、5割に満たなかった。また、「あまり充実していない」「まったく充実していない」の割合が全体よりも多かった。
放射	「大変充実している」が8.3%、「充実している」が34.7%で合計43%であり、学部平均より10%程度低かった。「普通」と回答した学生は45.5%と学部で最も多く、学習面の充実度という観点では特に良くはないが特に問題はないような状況であるといえる。
リハ・理学	「充実している」が46名(42.2%)、次いで「普通」が41名(37.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「普通」が42名(42.4%)、次いで「充実している」が31名(31.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「大変充実している」が19%、「充実している」が36%と全体の55%であり、学部平均を上回っていた。また、「あまり充実していない」以下が6%と学部平均より低いことから、学生生活が充実していると考えられる。
医療経営	「大変充実している」は11.1%と他学科と比べ低い方の値となっているが、「充実している」を含めると53.1%と過半数を超えており、全体の平均値とほぼ同等の分布をしている状況である。

5. 学生生活充実度…クラブ等

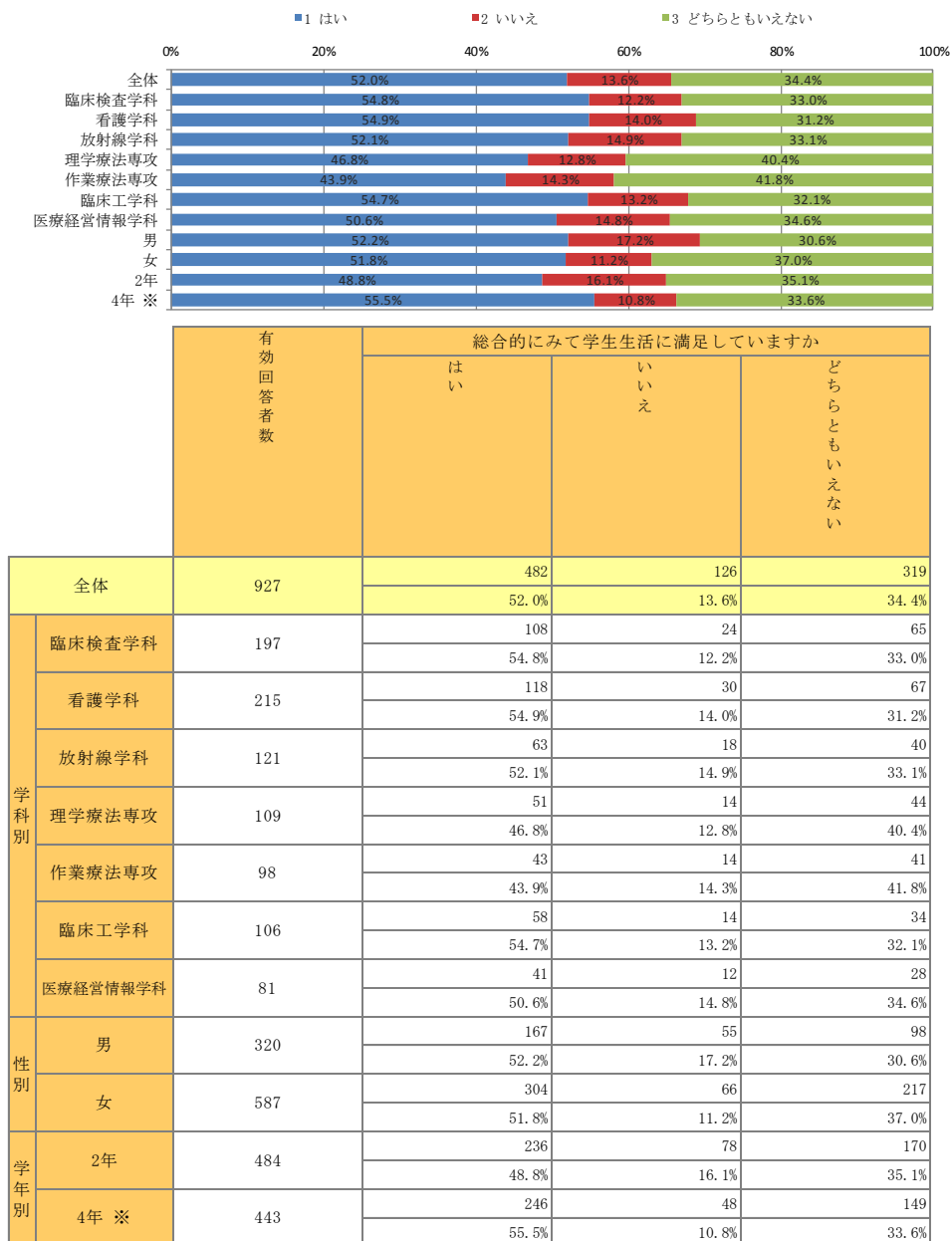


	有効回答者数	学生生活の充実度について…クラブ・学外活動など					
		大変充実している	充実している	普通	あまり充実していない	全く充実していない	
全体	927	148	271	296	131	81	
		16.0%	29.2%	31.9%	14.1%	8.7%	
学科別	臨床検査学科	197	26	56	68	35	12
			13.2%	28.4%	34.5%	17.8%	6.1%
	看護学科	215	34	62	71	27	21
			15.8%	28.8%	33.0%	12.6%	9.8%
	放射線学科	120	16	46	31	19	8
			13.3%	38.3%	25.8%	15.8%	6.7%
	理学療法専攻	109	21	34	36	12	6
			19.3%	31.2%	33.0%	11.0%	5.5%
性別	作業療法専攻	99	10	23	37	18	11
			10.1%	23.2%	37.4%	18.2%	11.1%
	臨床工学科	106	26	29	31	8	12
		24.5%	27.4%	29.2%	7.5%	11.3%	
学年別	医療経営情報学科	81	15	21	22	12	11
			18.5%	25.9%	27.2%	14.8%	13.6%
性別	男	319	61	111	83	37	27
			19.1%	34.8%	26.0%	11.6%	8.5%
学年別	女	588	84	154	210	89	51
			14.3%	26.2%	35.7%	15.1%	8.7%
	2年	485	80	129	161	70	45
		16.5%	26.6%	33.2%	14.4%	9.3%	
	442	68	142	135	61	36	
		15.4%	32.1%	30.5%	13.8%	8.1%	

(5) 学生生活の充実度について(クラブ活動や学外活動などの面) : 5. 学生生活充実度

臨床検査	「大変充実している」が13.2%、「充実している」が28.4%で合計41.6%であり、学部平均(45.2%)より低かった。また学習面での充実度に比べ、低い結果であった。改善の余地があると考えられる。
看護	「大変充実している」15.8%(全体16.0%)、「充実している」28.8%(全体29.2%)で合計44.6%であり、全体と同様の結果であった。学習面よりも割合が高かった。
放射	「大変充実している」が13.3%、「充実している」が38.3%で合計51.6%であり、学部平均よりも若干高い値であった。「あまり充実していない」と「全く充実していない」の合計が22.5%と学部平均よりも若干低かった。
リハ・理学	「普通」が36名(33.0%)、次いで「充実している」が34名(31.2%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「普通」が37名(37.4%)、次いで「充実している」が23名(23.2%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「大変充実している」・「充実している」の割合は52%と、学部平均とほぼ同じ割合であった。一方、「全く充実していない」が11%と学部平均より若干高かった。
医療経営	「大変充実している」、「充実している」と回答している学生の割合は44.4%で全体平均とほぼ同等の割合であるが、「普通」の割合が若干少なく、「全く充実していない」と回答している学生が13.6%と全学科の中で最も高い値を示している。

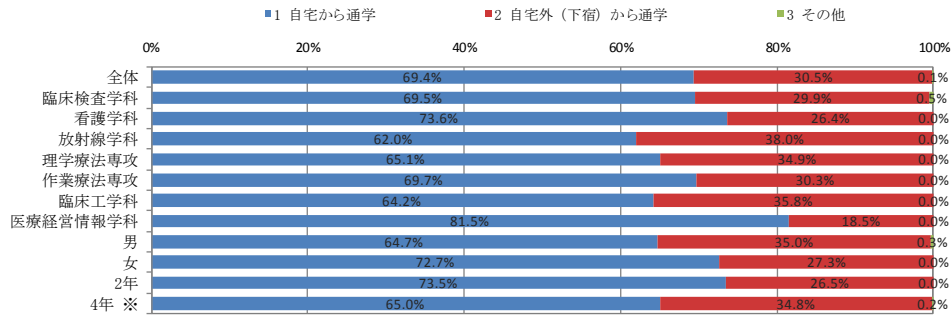
6. 学生生活充実度…総合



(6) 総合的にみて大学生生活に満足していますか：6. 学生生活充実度

臨床検査	「はい」が54.8%で、学部平均(52.0%)により高かった。「いいえ」は12.2%、「どちらともいえない」が33.0%であった。
看護	「はい」54.9%(全体52.0%)であり、他学科と比べて最も高かった。「いいえ」14.0%であり、昨年よりも少なくなっていた。
放射	「はい」が52.1%で、学部平均と同率であった。一方「いいえ」は14.9%となり、学生生活度の満足度について改善の余地がある結果となった。
リハ・理学	「はい」が51名(46.8%)、次いで「どちらともいえない」が44名(40.4%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「はい」が43名(43.9%)、次いで「どちらともいえない」が41名(41.8%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「はい」が55%、「いいえ」が13%、そして、「どちらとも言えない」が32%で学部平均と同じ傾向を示した。
医療経営	「はい」が50.6%、「いいえ」が14.8%となり、学部平均とほぼ同等の比率の回答となった(±1ポイント程度の差あり)。

7. 通学形態

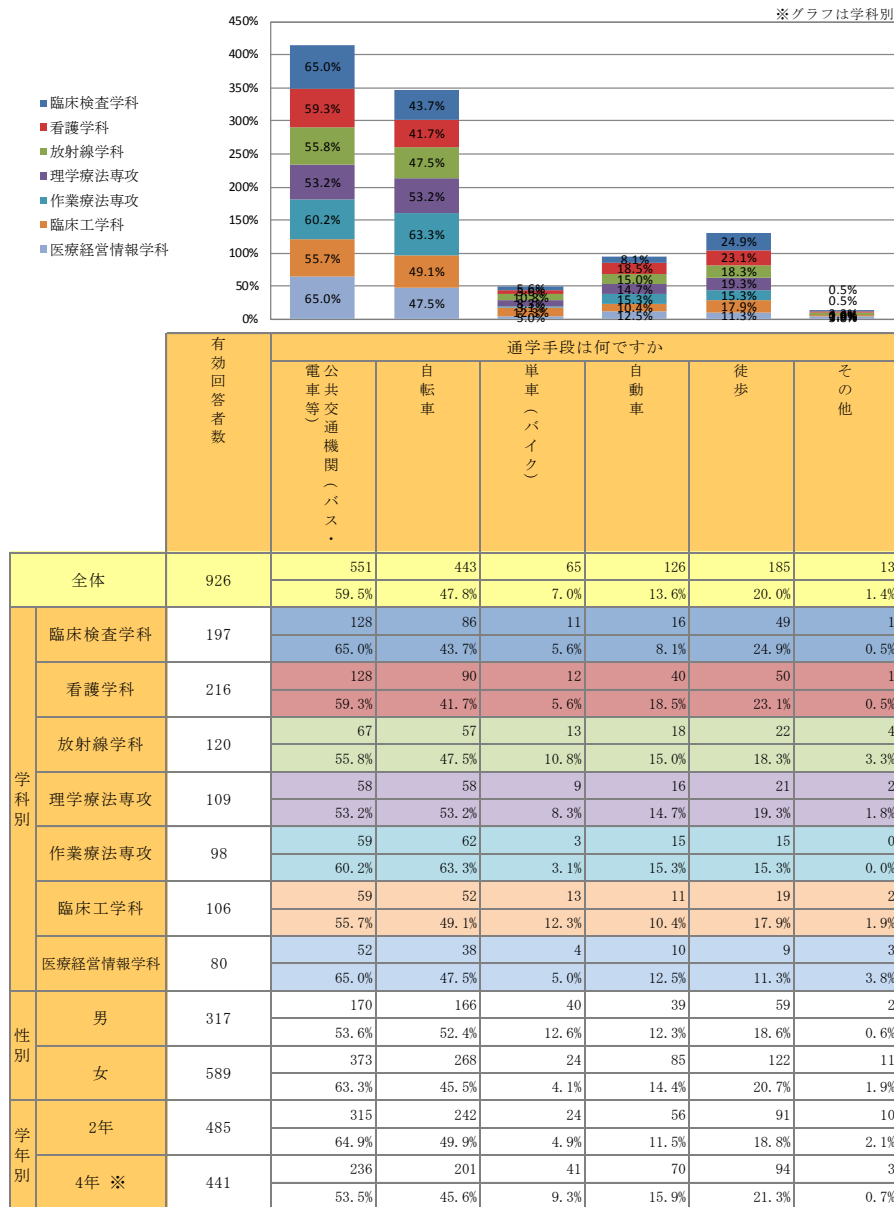


	有効回答者数	通学の住居について			
		自宅から通学	学 自宅外 (下宿) から通学	その他	
全体	929	645	283	1	
		69.4%	30.5%	0.1%	
学科別	臨床検査学科	197	137	59	1
			69.5%	29.9%	0.5%
	看護学科	216	159	57	0
			73.6%	26.4%	0.0%
	放射線学科	121	75	46	0
			62.0%	38.0%	0.0%
	理学療法専攻	109	71	38	0
			65.1%	34.9%	0.0%
作業療法専攻	99	69	30	0	
			69.7%	30.3%	0.0%
臨床工学科	106	68	38	0	
			64.2%	35.8%	0.0%
医療経営情報学科	81	66	15	0	
			81.5%	18.5%	0.0%
性別	男	320	207	112	1
			64.7%	35.0%	0.3%
女	589	428	161	0	
			72.7%	27.3%	0.0%
学年別	2年	486	357	129	0
			73.5%	26.5%	0.0%
4年 ※	443	288	154	1	
			65.0%	34.8%	0.2%

(7) 通学の住居について：7. 通学形態

臨床検査	「自宅から通学」が69.5%で、「自宅外(下宿)から通学」が29.9%であり、学部平均とほぼ同じであった。
看護	「自宅から通学」は73.6%で、医療経営情報学科の81.5%に次いで高く、下宿率は26.4%と医療経営情報学科の18.5%に次いで低かった。
放射	「自宅から通学」が62%で、「自宅外(下宿)から通学」が38%であった。自宅外から通学する学生の割合が学部内で最も多かった。放射線学科を擁する大学はまだ少なく、他学科より広範囲の地域から(全国から)学生が集まっていることを意味している。
リハ・理学	「自宅」が71名(65.1%)、次いで「自宅外(下宿)」が38名(34.9%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「自宅」が69名(69.7%)、次いで「自宅外(下宿)」が30名(30.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「自宅から通学」が64%で、学部平均より若干少なかった。また、「自宅外(下宿)から通学」は36%で学部平均より多かった。
医療経営	「自宅から通学」が81.5%と他学科に比べ10~20ポイント高く突出した割合となっている。

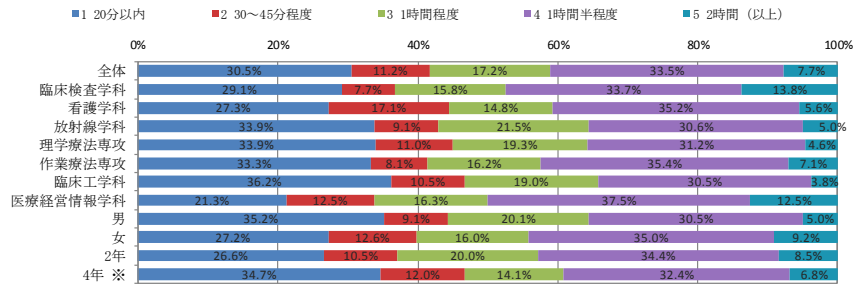
8. 通学手段（複数回答） - 学科別 -



(8) 通学手段は何ですか：8. 通学手段

臨床検査	「公共交通機関(バス・電車等)」が65.0%と最も高く、学部内で医療経営情報学科とともに最も高かった。次いで自転車(43.7%)であった。「自動車」通学の割合は8.1%と学部内で最も低かった。
看護	「公共交通機関(バス・電車等)」利用が59.3%と最も多く、「自転車」も41.7%が使用している(複数回答)。「自動車」は18.5%(全体13.6%)でやや高い。
放射	公共交通機関が55.8%と最も高く、次いで自転車(47.5%)であった。徒歩と自転車通学を合わせた割合は65.8%と高く、大学周辺に下宿している学生が多いことが推測される。
リハ・理学	「自転車」と「公共交通機関(バス・電車等)」が同数で58名(53.2%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「自転車」が62名(63.3%)、次いで「公共交通機関(バス・電車等)」が59名(60.2%)であり、学部内平均値と比較し高値であった。
臨床工学	「公共交通機関(バス・電車)」が56%で最も多く、次いで「自転車」が49%で他学科と同様であった。一方「単車」が12%と学部平均を大きく上回った。
医療経営	「自宅からの通学」学生が多いため、「公共交通機関(バス・電車等)」が65.0%と最も多くなっている。「単車(バイク)」5.0%、自動車「12.5%」と公共交通機関以外での通学者は全学科平均並であった。また、「徒歩」は11.3%で全学科中も最も低い割合となっている。「自宅」が比較的遠距離にあり、バイクや自動車通学、徒歩のみでの通学が少ない状況となっていると推察される。

9. 通学時間

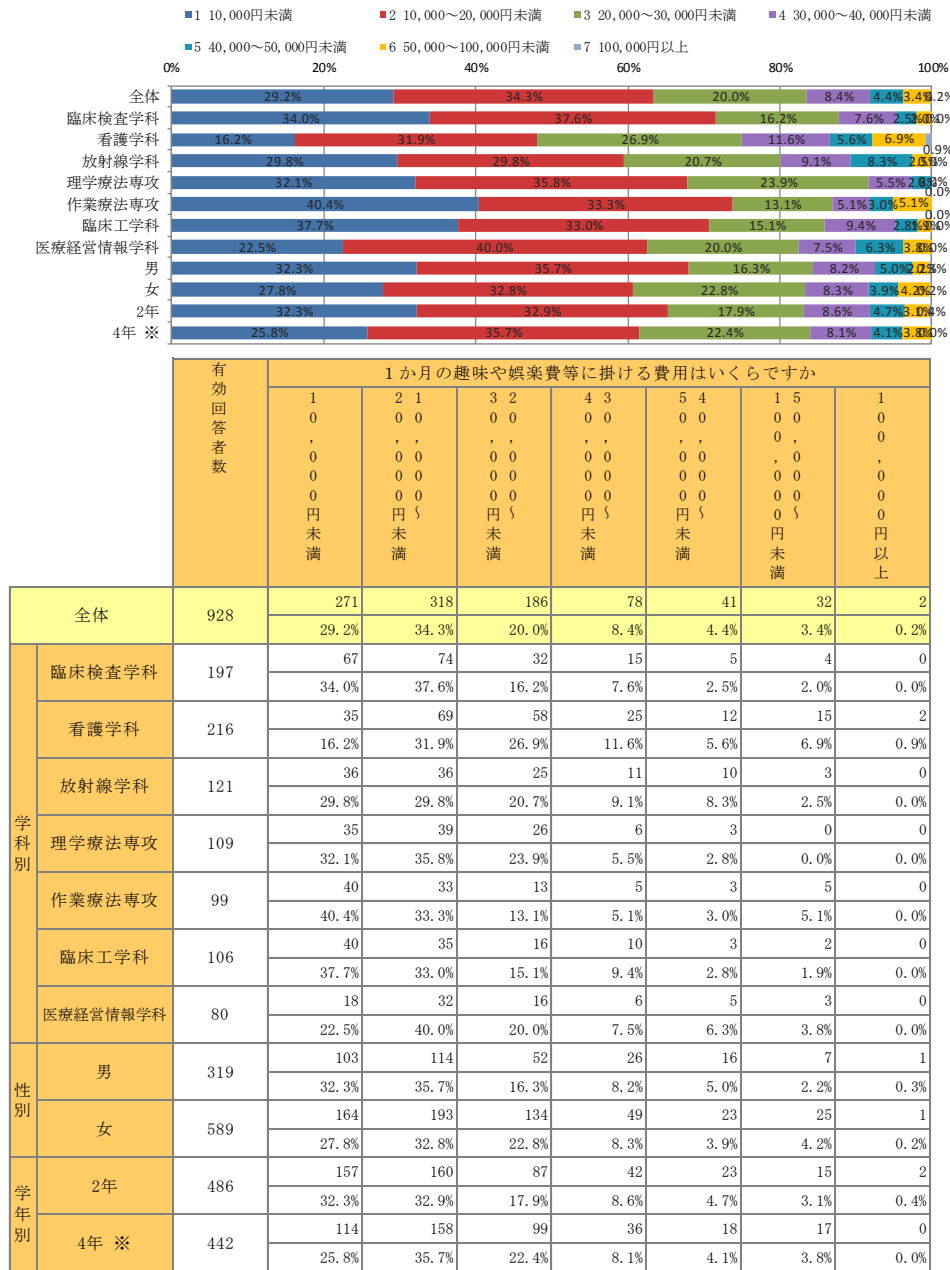


	有効回答者数	通学の所要時間(片道)について					
		20分以内	30~45分程度	1時間程度	1時間半程度	2時間(以上)	
全体	926	282	104	159	310	71	
		30.5%	11.2%	17.2%	33.5%	7.7%	
学科別	臨床検査学科	196	57	15	31	66	27
			29.1%	7.7%	15.8%	33.7%	13.8%
	看護学科	216	59	37	32	76	12
			27.3%	17.1%	14.8%	35.2%	5.6%
	放射線学科	121	41	11	26	37	6
			33.9%	9.1%	21.5%	30.6%	5.0%
	理学療法専攻	109	37	12	21	34	5
		33.9%	11.0%	19.3%	31.2%	4.6%	
作業療法専攻	99	33	8	16	35	7	
			33.3%	8.1%	16.2%	35.4%	7.1%
臨床工学科	105	38	11	20	32	4	
			36.2%	10.5%	19.0%	30.5%	3.8%
医療経営情報学科	80	17	10	13	30	10	
		21.3%	12.5%	16.3%	37.5%	12.5%	
性別	男	318	112	29	64	97	16
			35.2%	9.1%	20.1%	30.5%	5.0%
女	588	160	74	94	206	54	
		27.2%	12.6%	16.0%	35.0%	9.2%	
学年別	2年	485	129	51	97	167	41
			26.6%	10.5%	20.0%	34.4%	8.5%
4年 ※	441	153	53	62	143	30	
		34.7%	12.0%	14.1%	32.4%	6.8%	

(9) 通学の所要時間(片道)について：9. 通学時間

臨床検査	「1時間半程度」が33.7%と最も多く、次いで「20分以内」29.1%であった。一方で「2時間以上」の学生の割合が13.8%と学部内で最も高かった。
看護	「1時間半程度」35.2%で、昨年よりも多く、次いで「20分以内」が27.3%(全体30.5%)であり、昨年よりも低くなっていたことから、下宿をせずに遠方から通学している学生が増えていることがわかった。
放射	20分以内が33.9%と最も多く、次いで1時間半程度が30.6%と高かった。これは下宿している学生と名古屋近郊から通学している学生が多いことを示している。
リハ・理学	「20分以内」が37名(33.9%)、次いで「1.5時間程度」が34名(31.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「1.5時間程度」が35名(35.4%)、次いで「20分以内」が33名(33.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	通学時間が1時間以上かかっていた学生の割合は約35%で、学部内で最も低かった。また、1時間半以内の学生が学科内の95%以上を占めた。
医療経営	「20分以内」が21.3%と全学科中最も少ない割合となっている。「1時間半程度」と「2時間(以上)」で50.0%を占めており、大学より遠距離の自宅からの通学生が多い状況となっている。この割合は検査とほぼ同等であるが、「20分以内」の割合は約8ポイントほど医経は少なくなっており、医経は他学科と比べ、いわゆる下宿(一人暮らし)の学生の割合が少ないことが推察される。

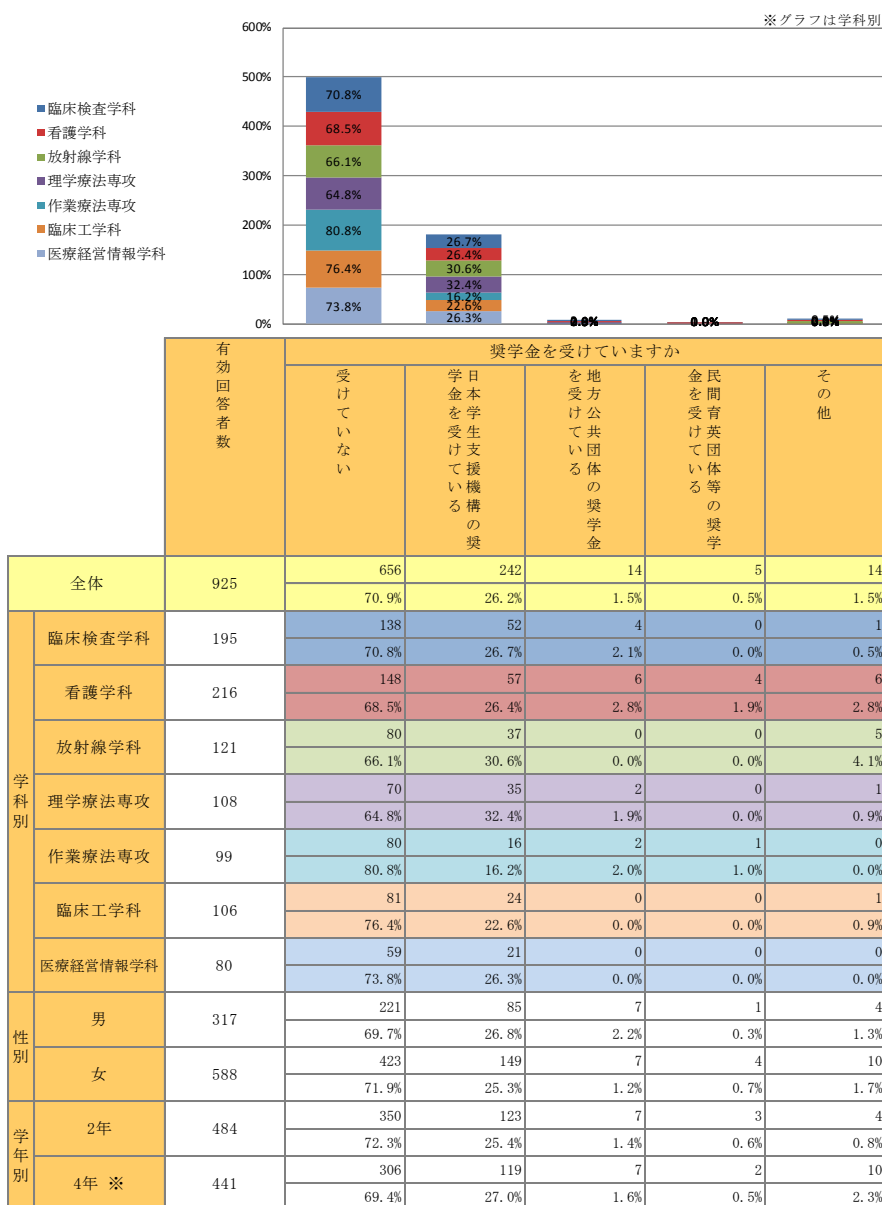
10. お小遣い



(10) あなたの1か月の趣味や娯楽費等に掛ける費用はいくらですか：10. お小遣い

臨床検査	「1～2万円」が37.6%と最も高く、次いで「1万円未満」34.0%であった。費用の分布は学部平均とほぼ同じであった。
看護	「10,000円未満」は他学科より最も少なく、「10,000～20,000円」が最も多かった。「20,000～30,000円」、「30,000～40,000円」は他学科よりも高かった。
放射	1万円未満および1万円～2万円が59.6%を占め、全体的に学部平均に近い傾向を示している。下宿生も多く生活費が高むことから、趣味や娯楽に割ける費用は少ないと推測される。
リハ・理学	「1万円～2万円未満」が39名(35.8%)、次いで「1万円未満」が35名(32.1%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が低額帯に分布していた。
リハ・作業	「1万円未満」が40名(40.4%)、次いで「1万円～2万円未満」が33名(33.3%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が低額帯に分布していた。
臨床工学	趣味・娯楽に掛ける費用は1月あたり2万円以内が7割ほどで、学部全体の割合より若干上回った。
医療経営	「1～2万円」が40.0%と高い割合を示し、「1万円未満」22.5%と合わせて62.5%と過半数を占めている。より高額な小遣いをもらっている学生は全体平均とほぼ同等の割合となっている。傾向としては看護・放射に次いで小遣いをもらう率、高額な小遣いをもらう率が高くなっている。

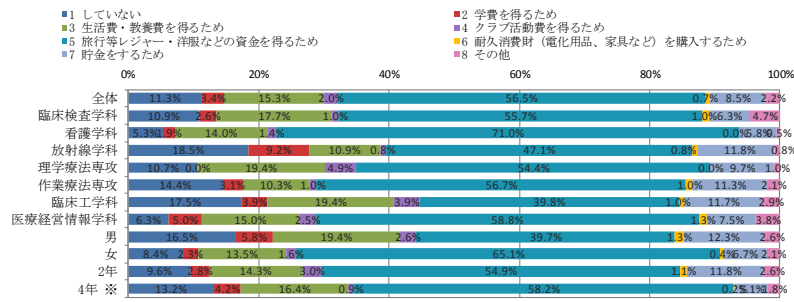
11. 奨学金（複数回答） - 学科別 -



(11) 奨学金を受けていますか：11. 奨学金

臨床検査	何らかの奨学金を「受けている」と答えた学生は29.2%であり、学部平均とほぼ同じであった。そのうち約91%が日本学生支援機構の奨学金を受けている学生であった。
看護	奨学金を「受けていない」ものは68.5%であった。「受けている」ものの中で、「地方公共団体の奨学金」が2.8%であり、他学科と比べ最も高かった。
放射	奨学金を受けていない学生は全体の66.1%、日本学生支援機構の奨学金を受けている学生は30.6%であり、奨学金を受けている学生は学部平均よりも高い。
リハ・理学	「1万円-2万円未満」が39名(35.8%)、次いで「1万円未満」が35名(32.1%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が低額帯に分布していた。
リハ・作業	「1万円未満」が40名(40.4%)、次いで「1万円-2万円未満」が33名(33.3%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が低額帯に分布していた。
臨床工学	奨学金等の公的補助制度を利用しない学生の割合は75%を超えていた。奨学金を受けている学生のほとんどは日本学生支援機構からの受給であった。
医療経営	奨学金を受けている学生は26.3%あり、全て学生支援機構より受給している。受給率は全学部平均と同等である。

12. アルバイト有無と目的

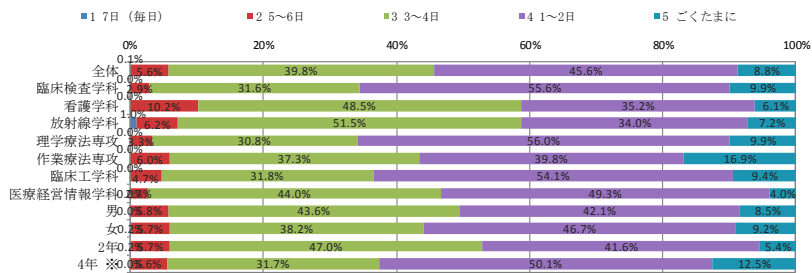


	有効回答者数	現在の学生生活におけるアルバイト経験の有無と目的について							
		していない	学費を得るため	生活費・教養費を得るため	クラブ活動費を得るため	旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため	耐久消費財（電化用品、家具など）を購入するため	貯金をするため	その他
全体	901	102	31	138	18	509	6	77	20
		11.3%	3.4%	15.3%	2.0%	56.5%	0.7%	8.5%	2.2%
臨床検査学科	192	21	5	34	2	107	2	12	9
		10.9%	2.6%	17.7%	1.0%	55.7%	1.0%	6.3%	4.7%
看護学科	207	11	4	29	3	147	0	12	1
		5.3%	1.9%	14.0%	1.4%	71.0%	0.0%	5.8%	0.5%
放射線学科	119	22	11	13	1	56	1	14	1
		18.5%	9.2%	10.9%	0.8%	47.1%	0.8%	11.8%	0.8%
理学療法専攻	103	11	0	20	5	56	0	10	1
		10.7%	0.0%	19.4%	4.9%	54.4%	0.0%	9.7%	1.0%
作業療法専攻	97	14	3	10	1	55	1	11	2
		14.4%	3.1%	10.3%	1.0%	56.7%	1.0%	11.3%	2.1%
臨床工学科	103	18	4	20	4	41	1	12	3
		17.5%	3.9%	19.4%	3.9%	39.8%	1.0%	11.7%	2.9%
医療経営情報学科	80	5	4	12	2	47	1	6	3
		6.3%	5.0%	15.0%	2.5%	58.8%	1.3%	7.5%	3.8%
男	310	51	18	60	8	123	4	38	8
		16.5%	5.8%	19.4%	2.6%	39.7%	1.3%	12.3%	2.6%
女	571	48	13	77	9	372	2	38	12
		8.4%	2.3%	13.5%	1.6%	65.1%	0.4%	6.7%	2.1%
2年	468	45	13	67	14	257	5	55	12
		9.6%	2.8%	14.3%	3.0%	54.9%	1.1%	11.8%	2.6%
4年 ※	433	57	18	71	4	252	1	22	8
		13.2%	4.2%	16.4%	0.9%	58.2%	0.2%	5.1%	1.8%

(12) 現在の学生生活におけるアルバイト経験の有無と目的について：12. アルバイトの目的

臨床検査	アルバイトを「していない」と回答した学生は10.9%であり、学部平均とほぼ同じであった。ほとんどの学生は何らかのアルバイトをしており、アルバイトの目的としては「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が55.7%、次いで「生活費・教養費を得るため」17.7%であり、学部平均とほぼ同じ分布であった。昨年度と比較してもほぼ同じであった。
看護	アルバイト「していない」は5.3%（全体11.3%）で多くの学生がアルバイトしていた。「学費を得るため」は1.9%（全体3.4%）で昨年よりも低くなっており、「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が71.0%と昨年より高く、他学科に比べ最も高かった。
放射	アルバイトを「していない」と回答した学生の割合は18.5%であり、学部内で最も高かった。アルバイトの目的としては「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が最も多く47.1%であった。「貯金をするため」が11.8%であり、これは学部内で最も高かった。
リハ・理学	89.3%の学生がアルバイトをしており、「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が56名（54.4%）、次いで「生活費・教養費を得るため」が20名（19.4%）であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	85.6%の学生がアルバイトをしており、「旅行等レジャー・洋服などの資金を得るため」が55名（56.7%）、次いで「生活費・教養費を得るため」が10名（10.3%）であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が「貯金をするため」、「していない」に分布していた。
臨床工学	82%の学生がアルバイトをしていた。目的の40%は「旅行レジャー・洋服等の資金」で、ついで「生活費・教養費」が19%であった。また、「貯金」が12%あった。
医療経営	アルバイトを「していない」学生は6.3%と看護と並んで低い比率となっている。アルバイトの目的はほぼ全学科平均と同様であり、分布は看護と似通っている。

13. アルバイト日数



	有効回答者数	アルバイトは1週間に何日しますか (していましたか)				
		7日 (毎日)	5~6日	3~4日	1~2日	ごくたまに
全体	798	1	45	318	364	70
学科別	臨床検査学科	0	5	54	95	17
	看護学科	0	20	95	69	12
	放射線学科	1	6	50	33	7
	理学療法専攻	0	3	28	51	9
	作業療法専攻	0	5	31	33	14
	臨床工学科	0	4	27	46	8
	医療経営情報学科	0	2	33	37	3
	性別					
男	259	0	15	113	109	22
女	523	1	30	200	244	48
学年別	2年	1	24	199	176	23
	4年 ※	0	21	119	188	47

※アルバイトをしている人のみ回答

(13) アルバイトは1週間に何日しますか：13. アルバイト日数

臨床検査	週に「1~2日」と答えた学生の割合が55.6%と最も高く、次いで「3~4日」の31.6%であった。学部平均と比べると、「1~2日」と答えた学生の割合が高く、3日以上と答えた学生の割合は低かった。学習面への影響がないように、アルバイト日数を減らしていることが推察された。
看護	週「3~4日」が48.5%と最も高く、次いで「1~2日」35.2%であった。「5~6日」が10.2%であり、昨年(2.7%)よりも多くなっていた。
放射	週に「3~4日」と答えた学生の割合が51.5%が最も高く、次いで「1~2日」が34%であった。学部内で比較すると、「3~4日」と答えた学生の割合が学部内で最も高く、「1~2日」と答えた学生の割合は学部内で最も低かった。
リハ・理学	「1~2日」が51名(56.0%)、次いで「3~4日」が28名(30.8%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が低値帯に分布していた。
リハ・作業	「1~2日」が33名(39.8%)、次いで「3~4日」が31名(37.3%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が低値帯に分布していた。
臨床工学	「1~2日」が54%と半数を超えていた。次いで「3~4日」が32%で、「ごくたまに」が9%であった。ほぼ毎日5%であった。
医療経営	「毎日」、「5~6日」と高頻度でアルバイトをしている学生は2.7%で他学科と比して少ない傾向だが、「3~4日」と「1~2日」の比率では、「3~4日」が多い看護・放射、中程度のリハ作業・医経、少ない検査・リハ理学・臨工に分類できる。医経学生は、全学科平均並からやや多い回数 of アルバイトを行っている状況である。

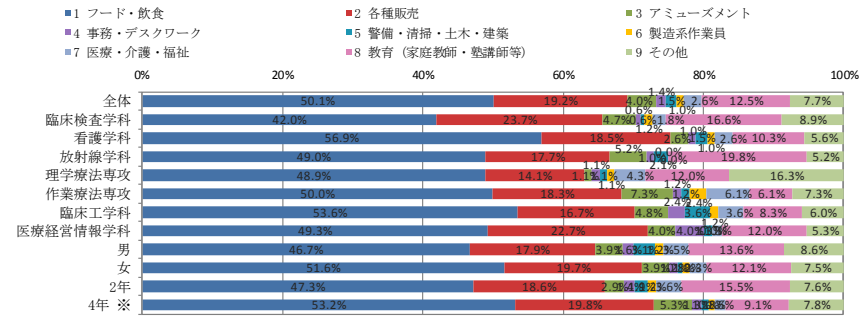
14. アルバイト時間



(14) 一日あたり何時間していますか：14. アルバイト時間

臨床検査	1日あたり「6時間以上」と答えた学生の割合が28.1%と最も高く、次いで「4~5時間」27.5%、「5~6時間」23.4%であった。アルバイト日数と時間の回答から、休日にアルバイトを行う学生が多いと推察する。
看護	最も多かったのは、「4~5時間未満」27.8%で、次いで「6時間以上」24.7%、「3~4時間未満」23.7%の順であった。昨年に比べて、1日あたりのアルバイト時間は多くなっている傾向にあった。
放射	1日あたり「4~5時間」と「6時間以上」と答えた学生の割合が27.1%と最も高かった。1回で半日以上アルバイトしている学生が多いことがわかる。
リハ・理学	「6時間以上」が27名(29.7%)、次いで「4~5時間未満」が21名(23.1%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が長時間帯に分布していた。
リハ・作業	「6時間以上」が29名(34.9%)、次いで「5~6時間未満」が20名(24.1%)であり、学部内平均値と比較しより多くの学生が長時間帯に分布していた。
臨床工学	1日当たり「4~5時間」が31%で、次いで「6時間以上」が26%、「5~6時間」が21%、4時間未満は22%であった。半日以下とそれ以上がそれぞれ半々であった。
医療経営	他学科と比して、1日あたり「6時間以上」24.0%の割合は少なく、「4~5時間未満」30.7%の割合は多くなった。休日に長時間のアルバイトをするより、平日に数回、4.5時間のアルバイトをする率が高くなっている。

15. アルバイト職種



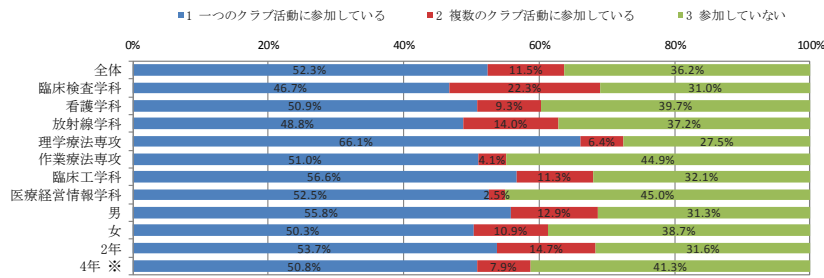
	有効回答者数	アルバイトの主な職種									
		フード・飲食	各種販売	アミューズメント	事務・デスクワーク	警備・清掃・土木・建築	製造系作業員	医療・介護・福祉	教育（家庭教師・塾講師等）	その他	
全体	793	397	152	32	11	12	8	21	99	61	
学科別	臨床検査学科	169	71	40	8	1	1	2	3	28	15
	看護学科	195	111	36	5	2	3	2	5	20	11
	放射線学科	96	47	17	5	1	2	0	0	19	5
	理学療法専攻	92	45	13	1	1	1	1	4	11	15
	作業療法専攻	82	41	15	6	1	1	2	5	5	6
	臨床工学科	84	45	14	4	2	3	1	3	7	5
	医療経営情報学科	75	37	17	3	3	1	0	1	9	4
	性別	男	257	120	46	10	4	8	3	9	35
女		519	268	102	20	6	4	5	12	63	39
学年別	2年	419	198	78	12	6	8	5	15	65	32
	4年 ※	374	199	74	20	5	4	3	6	34	29

※アルバイトをしている人のみ回答

(15) アルバイトの主な職種：15. アルバイトの種別

臨床検査	「フード・飲食」が42.0%と最も高く、次いで「各種販売」23.7%、「教育（家庭教師・塾講師等）」16.6%であり、学部全体の分布と比較すると「フード・飲食」の割合が低く、「各種販売」、「教育（家庭教師・塾講師等）」の割合が高かった。
看護	「フード・飲食」56.9%で最も高く、次いで「各種販売」18.5%、「教育（家庭教師・塾講師等）」であり、全体の平均と同様であった。
放射	「フード・飲食」が49.0%と最も高かった。次いで、「教育（家庭教師・塾講師等）」が19.8%であり、学部内で最も高い割合であった。
リハ・理学	「フード・飲食」が45名（48.9%）、次いで「その他」が15名（16.3%）であり、学部内平均値と比較し「その他」が高値であった。
リハ・作業	「フード・飲食」が41名（50.0%）、次いで「各種販売」が15名（18.3%）であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	職種では、「フード・飲食」関係が54%、次いで「各種販売業」が17%であった。学科平均とほぼ同じ傾向であった。
医療経営	「フード・飲食」が49.3%と最も高く、次いで「各種販売」22.7%であり、アルバイト職種の割合は全学科平均と同等の分布となっている。割合は少ないが「事務・デスクワーク」が4.0%となっており、全学科平均1.4%と比して高くなっている。

16. クラブ活動参加有無



	有効回答者数	あなたはクラブ活動に参加していますか			
		加一つのクラブ活動に参加している	加複数のクラブ活動に参加している	参加していない	
全体	925	484	106	335	
		52.3%	11.5%	36.2%	
学科別	臨床検査学科	197	92	44	61
			46.7%	22.3%	31.0%
	看護学科	214	109	20	85
			50.9%	9.3%	39.7%
	放射線学科	121	59	17	45
			48.8%	14.0%	37.2%
	理学療法専攻	109	72	7	30
			66.1%	6.4%	27.5%
リハ・作業	作業療法専攻	98	50	4	44
			51.0%	4.1%	44.9%
臨床工学	臨床工学科	106	60	12	34
			56.6%	11.3%	32.1%
	医療経営情報学科	80	42	2	36
		52.5%	2.5%	45.0%	
性別	男	319	178	41	100
			55.8%	12.9%	31.3%
	女	586	295	64	227
			50.3%	10.9%	38.7%
学年別	2年	484	260	71	153
			53.7%	14.7%	31.6%
	4年 ※	441	224	35	182
			50.8%	7.9%	41.3%

(16) あなたはクラブ活動に参加していますか：16. クラブ活動参加

臨床検査	何らかのクラブ活動に参加している学生は69.0%であり、学部平均より高かった。クラブ活動に参加している学生のうち、「一つのクラブ活動に参加している」学生が67.6%、「複数のクラブに参加している」学生は32.4%であり、複数のクラブ活動に参加している学生の割合が学部内で最も高かった。本学科の学生が積極的にクラブ活動に参加していることが明らかとなった。
看護	「一つのクラブ活動に参加している」50.9%、「複数のクラブ活動に参加している」9.3%で合わせると60.2%が参加していた。
放射	クラブ活動に参加している学生は62.8%であり、学部平均よりも若干低い割合であった。殆どの学生は「一つのクラブ活動に参加している」と回答しており、部活動の掛け持ちは勉強やアルバイトとの両立が難しく、活動を絞り込んでいることが明らかとなった。
リハ・理学	72.5%の学生がクラブ活動をしており、「一つ」が72名(66.1%)、「複数」が7名(6.4%)であり、学部内平均値と比較し「参加していない」学生が低値であった。
リハ・作業	55.1%の学生がクラブ活動をしており、「一つ」が50名(51.0%)、「複数」が4名(4.1%)であり、学部内平均値と比較し「参加していない」学生が高値であった。
臨床工学	クラブ参加率は68%で、その約8割は「一つのクラブ所属」であった。活動に参加していない割合は学部平均とほぼ同じであった。
医療経営	「一つのクラブ活動に参加している」が52.5%で多くなったが、「複数のクラブ活動に参加している」のは2.5%で学科中最低となっている。「参加していない」は45.0%で、全学科中もっとも高い値である。

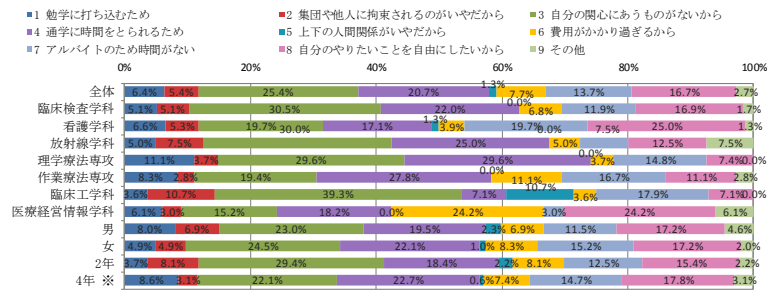
17. クラブ活動参加きっかけ（複数回答） - 学科別 -



(17) あなたがクラブ活動に参加した理由やきっかけは：17. 参加のきっかけ

臨床検査	「活動が楽しそう」が50.0%と最も高く、次いで「友人に誘われて」28.7%、「他学の学生と交流をもちたい」が22.8%であった。学部平均と比較すると、友人に誘われてクラブ活動を始めた学生の割合が高かった。
看護	「活動が楽しそう」60.5%「他学の学生と交流をもちたい」27.1%であった。「友人との交流をもちたい」は14.7%であったが、他学科と比べ最も高かった。
放射	「活動が楽しそう」が52%と最も高く、次いで「他学の学生と交流をもちたい」が24%と高かった。傾向は学部平均の分布とほぼ同じであった。
リハ・理学	「活動が楽しそう」が48名(60.8%)、次いで「他学の学生と交流をもちたい」が15名(19.0%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「活動が楽しそう」が26名(48.1%)、次いで「他学の学生と交流をもちたい」が17名(31.5%)であり、学部内平均値と比較し「他学の学生と交流をもちたい」、「活動が自由」が高値であった。
臨床工学	参加きっかけが能動的であった割合が回答数の70%以上で、受動的であった割合は16%ほどと、積極的な学生が多いことが窺える。
医療経営	「他学科の学生と交流をもちたい」が40.9%で他学科と比して最も高い割合となった。「活動が楽しそう」は36.4%となり、こちらは最も低い割合となった。医経学生は他学科学生との交流を重視している。

18. クラブ活動参加しない理由



有効回答者数	クラブ活動に参加しない主な理由								
	勉学に打ち込むため	集団や他人に拘束されるのいやだから	自分の関心にあうものがないから	通学に時間をとられるため	上下の人間関係がいやだから	費用がかかり過ぎるから	アルバイトのため時間がない	自分のやりたいことを自由にしたいから	その他
全体	19	16	76	62	4	23	41	50	8
臨床検査学科	3	3	18	13	0	4	7	10	1
看護学科	5	4	15	13	1	3	15	19	1
放射線学科	2	3	12	10	0	2	3	5	3
理学療法専攻	3	1	8	8	0	1	4	2	0
作業療法専攻	3	1	7	10	0	4	6	4	1
臨床工学科	1	3	11	2	3	1	5	2	0
医療経営情報学科	2	1	5	6	0	8	1	8	2
性別									
男	7	6	20	17	2	6	10	15	4
女	10	10	50	45	2	17	31	35	4
学年別									
2年	5	11	40	25	3	11	17	21	3
4年 ※	14	5	36	37	1	12	24	29	5

※クラブ不参加者のみ回答

(18) クラブ活動に参加しない主な理由：18. 不参加の理由

臨床検査	31.0%の学生がクラブ活動に参加していないが、その理由として最も多いのが「自分の関心にあうものがないから」30.5%、次いで「通学に時間をとられるため」22.0%、「自分のやりたいことを自由にしたいから」16.9%であった。参加しない理由の分布は学部平均とほぼ同じであった。
看護	「自分のやりたいことを自由にしたいから」25.0%で最も高く、次いで「アルバイトのため時間がない」「自分の関心にあうものがないから」19.7%、「通学に時間をとられるため」17.1%の順であった。
放射	36.8%の学生がクラブ活動に参加していないが、その理由として最も多いのが「自分の関心にあうものがないから」30%と最も高く、次いで25%が「通学に時間をとられるため」と回答した。学生生活をより充実させるためには、クラブのバリエーションを増やすなどの対策が必要である。
リハ・理学	「自分の関心にあうものがないから」と「通学に時間をとられるため」が8名(29.3%)が同数となり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「通学に時間をとられるため」が10名(27.8%)、「自分の関心にあうものがないから」が7名(19.4%)、「アルバイトのため時間がない」が6名(16.7%)と上位となり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	参加していない学生の約4割が「自分の関心に合うものがない」と回答していた。また、自己の時間を大切にしたいと思われる回答が散見された。
医療経営	医経学生は他学科と比べ異なった理由でクラブ活動に参加しないと意思決定している。他のアンケート項目より、他学科と比較して、通学時間は長め、バイト時間もほぼ同等以上であるにも関わらず、「通学に時間をとられるため」は18.2%と全学科平均と同等であり、「アルバイトのため時間がない」は3.0%と少ない割合を示している。さらに「自分の関心にあうものがないから」は15.2%と他学科に比して最も低い。理由として多いのが「費用がかかり過ぎるから」24.2%、「自分のやりたいことを自由にしたいから」24.2%となっており、バイトや小遣いを自分のやりたい遊興・趣味等に費やすことの優先順位が高い学生の比率が多いことが推察される。

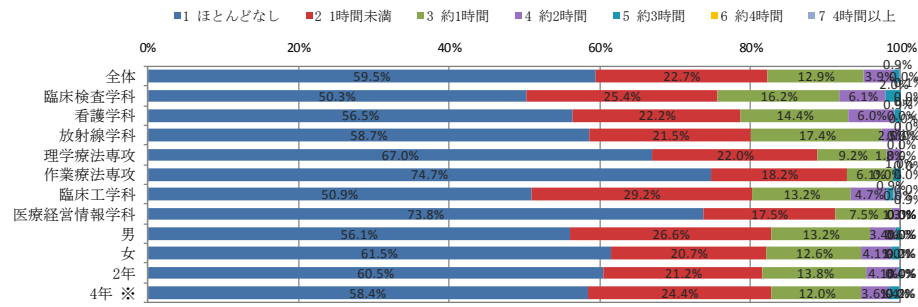
19. ボランティア活動参加有無



(19) ボランティア活動をしたことがありますか：19. ボランティア活動への参加の有無

臨床検査	「定期的に活動している」と「不定期に活動している」を合わせた割合は15.1%であった。活動していない学生については、「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」58.5%、「ボランティアには関心がない」26.4%であった。
看護	「定期的に活動している」2.9%、「不定期に(ときどき)活動している」18.0%で、約2割程度である。「活動したいが時間的に余裕がない」48.1%と最も高かった。
放射	19%が何らかのボランティア活動の経験がある。「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」が44.1%で最も高かった。次いで「ボランティアには関心がない」が36.4%であり学部内で最も高かった。自発的にボランティア活動をする学生が少ないことがわかった。
リハ・理学	「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」が54名(50.5%)、次いで「ボランティアには関心がない」が37名(34.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」が48名(50.0%)、次いで「ボランティアには関心がない」が26名(27.1%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	ボランティア活動には15%参加していた。「チャンス・時間的余裕がない」が56%を占めた。また、「関心がない」は29%だった。
医療経営	「不定期に活動している」は18.2%と他学科に比して多くなっているが、「定期的に活動している」者は0%の状況である。しかし、「ボランティアには関心がない」のは14.3%と他学科に比して最も低い。67.5%が「活動したいがチャンス、時間的余裕がない」としている。

20. 予習時間

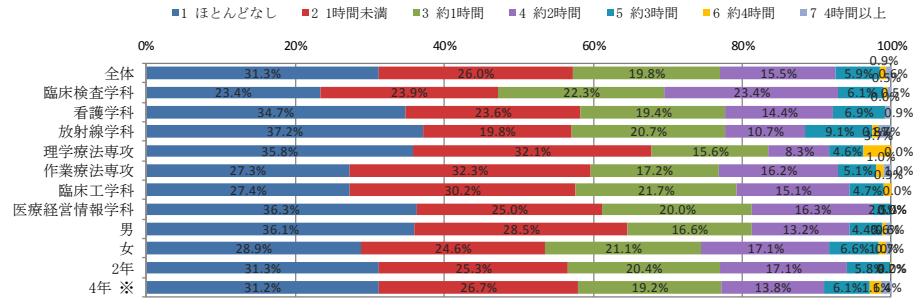


	有効回答者数	1日の平均予習時間はどれくらいですか							
		ほとんどなし	1時間未満	約1時間	約2時間	約3時間	約4時間	4時間以上	
全体	928	552	211	120	36	8	0	1	
		59.5%	22.7%	12.9%	3.9%	0.9%	0.0%	0.1%	
学科別	臨床検査学科	197	99	50	32	12	4	0	0
			50.3%	25.4%	16.2%	6.1%	2.0%	0.0%	0.0%
	看護学科	216	122	48	31	13	2	0	0
			56.5%	22.2%	14.4%	6.0%	0.9%	0.0%	0.0%
	放射線学科	121	71	26	21	3	0	0	0
			58.7%	21.5%	17.4%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	理学療法専攻	109	73	24	10	2	0	0	0
			67.0%	22.0%	9.2%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
作業療法専攻	99	74	18	6	0	1	0	0	
		74.7%	18.2%	6.1%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	
臨床工学科	106	54	31	14	5	1	0	1	
		50.9%	29.2%	13.2%	4.7%	0.9%	0.0%	0.9%	
医療経営情報学科	80	59	14	6	1	0	0	0	
		73.8%	17.5%	7.5%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
性別	男	319	179	85	42	11	2	0	0
			56.1%	26.6%	13.2%	3.4%	0.6%	0.0%	0.0%
女	589	362	122	74	24	6	0	1	
		61.5%	20.7%	12.6%	4.1%	1.0%	0.0%	0.2%	
学年別	2年	486	294	103	67	20	2	0	0
			60.5%	21.2%	13.8%	4.1%	0.4%	0.0%	0.0%
4年 ※	442	258	108	53	16	6	0	1	
		58.4%	24.4%	12.0%	3.6%	1.4%	0.0%	0.2%	

(20) 1日の平均予習時間はどれくらいですか：20. 予習時間

臨床検査	予習時間に関して、「ほとんどなし」と回答した学生の割合は50.3%であり、学部平均(59.5%)より低かった。予習を行っている学生の平均予習時間は「1時間未満」25.4%が最も高く、次いで「約1時間」16.2%、「約2時間」6.1%、「約3時間」2.0%であった。
看護	「ほとんどなし」56.5%と最も多く、「1時間未満」22.2%で時間が多くなるほど、低くなっていた。
放射	「ほとんどなし」と回答した学生の割合は58.7%であり、「1時間未満」と合わせると約80%の学生が予習にほとんど時間を割いていないことが明らかとなった。
リハ・理学	「ほとんどなし」が73名(67.0%)、次いで「1時間未満」が24名(22.0%)であり、学部内平均値と比較し「ほとんどなし」が高値であった。
リハ・作業	「ほとんどなし」が74名(74.7%)、次いで「1時間未満」が18名(18.2%)であり、学部内平均値と比較し「ほとんどなし」が高値であった。
臨床工学	「ほとんどなし」が51%で、「1時間未満」が29%、「約1時間」が13%と全体平均と同じ傾向を示した。
医療経営	「ほとんどなし」が73.8%とリハ作業とならび高い割合を示している。1時間以上の予習をしている学生は8.7%にすぎない。

21. 復習時間

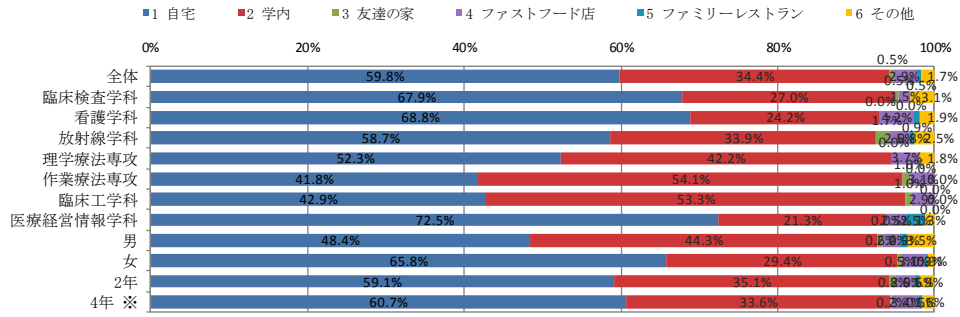


	有効回答者数	1日の平均復習時間はどれくらいですか							
		ほとんどなし	1時間未満	約1時間	約2時間	約3時間	約4時間	4時間以上	
全体	928	290	241	184	144	55	8	6	
		31.3%	26.0%	19.8%	15.5%	5.9%	0.9%	0.6%	
学科別	臨床検査学科	197	46	47	44	46	12	1	1
			23.4%	23.9%	22.3%	23.4%	6.1%	0.5%	0.5%
	看護学科	216	75	51	42	31	15	0	2
			34.7%	23.6%	19.4%	14.4%	6.9%	0.0%	0.9%
	放射線学科	121	45	24	25	13	11	1	2
			37.2%	19.8%	20.7%	10.7%	9.1%	0.8%	1.7%
	理学療法専攻	109	39	35	17	9	5	4	0
			35.8%	32.1%	15.6%	8.3%	4.6%	3.7%	0.0%
作業療法専攻	99	27	32	17	16	5	1	1	
		27.3%	32.3%	17.2%	16.2%	5.1%	1.0%	1.0%	
臨床工学科	106	29	32	23	16	5	1	0	
		27.4%	30.2%	21.7%	15.1%	4.7%	0.9%	0.0%	
医療経営情報学科	80	29	20	16	13	2	0	0	
		36.3%	25.0%	20.0%	16.3%	2.5%	0.0%	0.0%	
性別	男	319	115	91	53	42	14	2	2
			36.1%	28.5%	16.6%	13.2%	4.4%	0.6%	0.6%
女	589	170	145	124	101	39	6	4	
		28.9%	24.6%	21.1%	17.1%	6.6%	1.0%	0.7%	
学年別	2年	486	152	123	99	83	28	1	0
			31.3%	25.3%	20.4%	17.1%	5.8%	0.2%	0.0%
4年 ※	442	138	118	85	61	27	7	6	
		31.2%	26.7%	19.2%	13.8%	6.1%	1.6%	1.4%	

(21) 1日の平均復習時間はどれくらいですか：21. 復習時間

臨床検査	復習時間に関して、「ほとんどなし」と回答した学生の割合は23.4%であり、学部平均(31.3%)より低かった。復習を行っている学生の平均復習時間は「1時間未満」23.9%が最も高く、次いで「約2時間」23.4%、「約1時間」22.3%、「約3時間」6.1%であった。
看護	「ほとんどなし」34.7%で最も高く、次いで「1時間未満」23.6%、「約1時間」19.4%の順であった。
放射	「ほとんどなし」と回答した学生の割合は37.2%であり、学部内で最も高かった。「1時間未満」は19.8%、「約1時間」が20.7%、「約2時間」が10.7%、「約3時間」は9.1%であった。
リハ・理学	「ほとんどなし」が39名(35.8%)、次いで「1時間未満」が35名(32.1%)、「約1時間」が17名(15.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「1時間未満」が32名(32.3%)、次いで「ほとんどなし」が27名(27.3%)、「約1時間」が17名(17.2%)であり、学部内平均値と比較し「1時間未満」が多い傾向であった。
臨床工学	「1時間未満」が30%と最も多く、次いで「ほとんどなし」が27%、「約1時間」が22%であった。
医療経営	「ほとんどなし」が36.3%と高く、割合の分布はリハ作業と似通っており、全学科平均的な分布とも同様である。1時間以上の復習をしている学生は38.7%である。

22. 自主学習場所

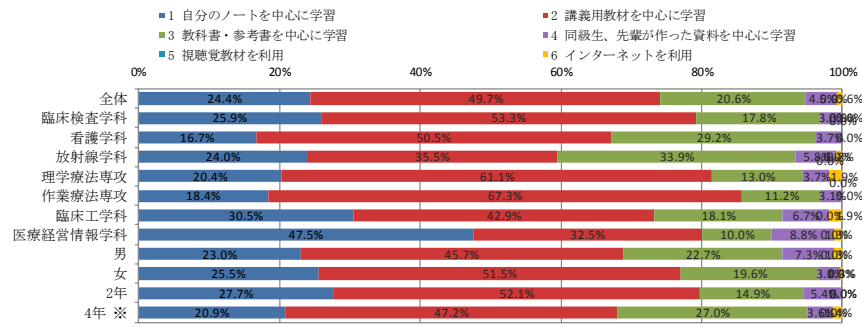


	有効回答者数	自主学習をする場所について学習することが最も多い場所はどこですか						
		自宅	学内	友達の家	ファストフード店	ファミリーレストラン	その他	
全体	924	553	318	5	27	5	16	
学科別	臨床検査学科	196	133	53	1	3	0	6
	看護学科	215	148	52	0	9	2	4
	放射線学科	121	71	41	2	3	1	3
	理学療法専攻	109	57	46	0	4	0	2
	作業療法専攻	98	41	53	1	3	0	0
	臨床工学科	105	45	56	1	3	0	0
	医療経営情報学科	80	58	17	0	2	2	1
	性別							
男	316	153	140	2	7	3	11	
女	588	387	173	3	18	2	5	
学年別	2年	484	286	170	4	12	3	9
	4年 ※	440	267	148	1	15	2	7

(22) 自主学習の主な場所はどこですか：22. 自主学習場所

臨床検査	「自宅」と回答した学生の割合は67.9%、「学内」と回答した学生が27.0%であり、学部平均と比較すると、学内で学習する学生の割合は少なく、自宅で学習する学生の割合が高かった。
看護	「自宅」68.8%で最も多く、次いで「学内」24.2%であった。全体の値から、「自宅」で学習する割合は医療経営情報学科に次いで多く、「学内」は、2番目に低かった。
放射	最も割合が高かったのは「自宅」の58.7%であった。次いで「学内」と回答した学生が33.9%であった。
リハ・理学	「自宅」が57名(52.3%)、次いで「学内」が46名(42.2%)であり、学部内平均値と比較し「学内」が多い傾向であった。
リハ・作業	「学内」が53名(54.1%)、次いで「自宅」が41名(41.8%)であり、学部内平均値と比較し「学内」が多い傾向であった。
臨床工学	「学内」が53%と最も高く、次いで「自宅」が43%であった。学部内平均の順序と逆になっていた。
医療経営	自宅通学者が多いことを反映してか、自主学習は72.5%が「自宅」で行うとしている。学内で学習してから帰宅する割合は21.3%である。自宅学習が多い傾向を示す学科は検査・看護・医経である。

23. 自主学習方法

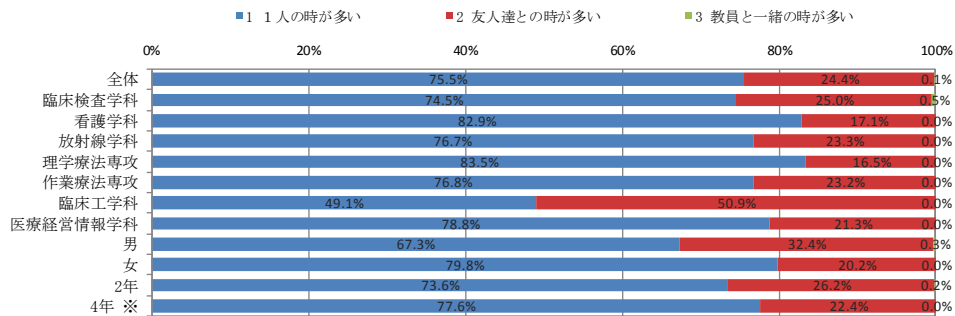


	有効回答者数	自主学習の方法について最もよく行う学習方法は何ですか						
		学 習 自 分 の ノ ー ト を 中 心 に	講 義 用 教 材 を 中 心 に	教 科 書 ・ 参 考 書 を 中 心 に	同 級 生 ・ 先 輩 が 作 っ た 資 料 を 中 心 に	視 聴 覚 教 材 を 利 用	イ ン タ ー ネ ッ ト を 利 用	
全体	925	226	460	191	42	0	6	
学科別	臨床検査学科	197	51	105	35	6	0	0
	看護学科	216	36	109	63	8	0	0
	放射線学科	121	29	43	41	7	0	1
	理学療法専攻	108	22	66	14	4	0	2
	作業療法専攻	98	18	66	11	3	0	0
	臨床工学科	105	32	45	19	7	0	2
	医療経営情報学科	80	38	26	8	7	0	1
	性別 男	317	73	145	72	23	0	4
性別 女	588	150	303	115	18	0	2	
学年別	2年	484	134	252	72	26	0	0
	4年 ※	441	92	208	119	16	0	6

(23) 自主学習の方法は何ですか：23. 自主学習方法

臨床検査	「講義用教材を中心に学習」と回答した学生の割合は53.3%で最も高く、次いで「自分のノートを中心に学習」25.9%、「教科書・参考書を中心に学習」17.8%、「同級生、先輩が作った資料を中心に学習」3.0%であった。
看護	自主学習方法は「講義用教材を中心に学習」が50.5%で最も多かった。「自分のノートを中心に学習」は16.7%で、他学科に比べ最も低かった。
放射	「講義用教材を中心に学習」が35.5%で最も高く、次いで33.9%の学生が「教科書・参考書を中心に学習」と回答した。
リハ・理学	「講義用教材を中心に学習」が66名(61.1%)、次いで「自分のノートを中心に学習」が22名(20.4%)であり、学部内平均値と比較し「講義用教材を中心に学習」が多い傾向であった。
リハ・作業	「講義用教材を中心に学習」が66名(67.3%)、次いで「自分のノートを中心に学習」が18名(18.4%)であり、学部内平均値と比較し「講義用教材を中心に学習」が多い傾向であった。
臨床工学	「講義用教材」が43%で最も高く、次いで「自分のノートを中心に」が31%、「教科書・参考書を中心に」が18%であった。
医療経営	自習は「自分のノートを中心に学習」が47.5%と他学科と比べ突出して高い値となった。「講義用教材を中心に学習」32.5%、「教科書・参考書を中心に学習」10.0%は他学科に比べ低い値である。また、「同級生、先輩が作った資料を中心に学習」が8.8%と他学科より高値を示した。

24. 誰と自主学习

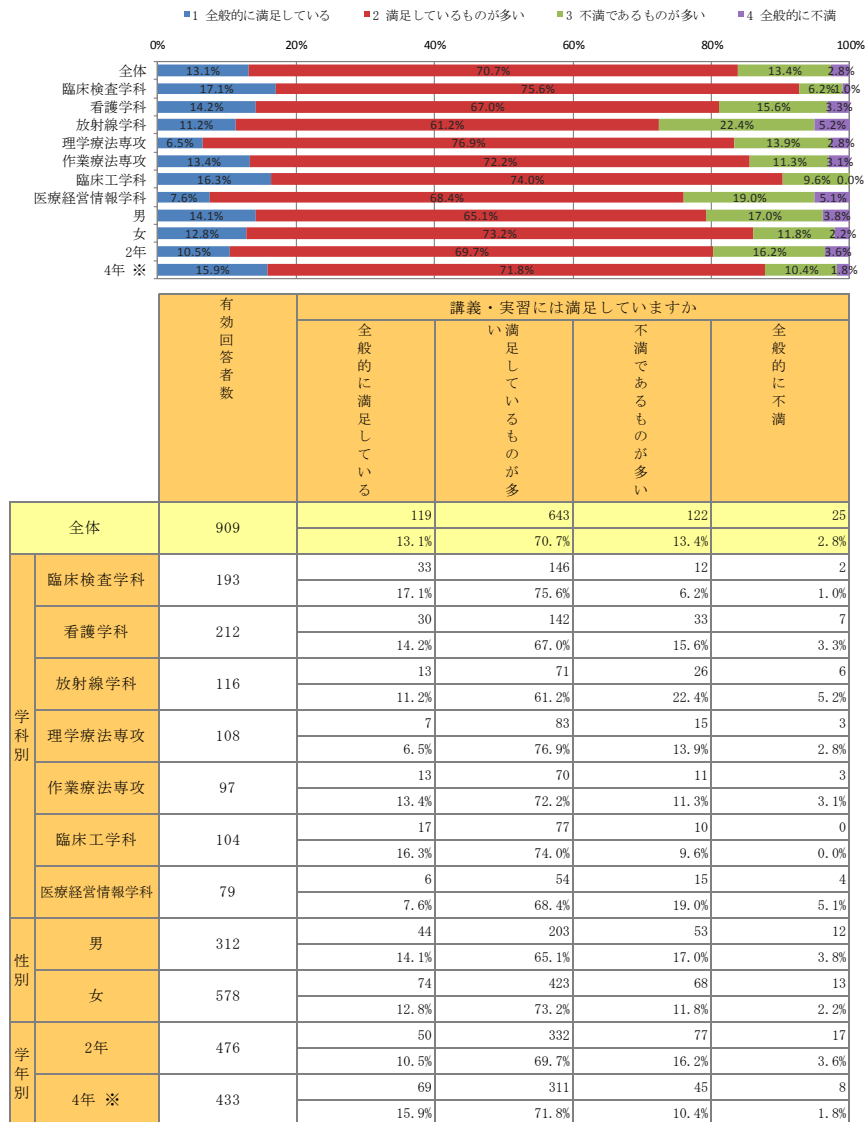


	有効回答者数	誰と一緒に学習していますか			
		1人の時が多い	友人達との時が多い	教員と一緒に時が多い	
全体	926	699	226	1	
		75.5%	24.4%	0.1%	
学科別	臨床検査学科	196	146	49	1
			74.5%	25.0%	0.5%
	看護学科	216	179	37	0
			82.9%	17.1%	0.0%
	放射線学科	120	92	28	0
			76.7%	23.3%	0.0%
	理学療法専攻	109	91	18	0
			83.5%	16.5%	0.0%
作業療法専攻	99	76	23	0	
			76.8%	23.2%	0.0%
臨床工学科	106	52	54	0	
			49.1%	50.9%	0.0%
医療経営情報学科	80	63	17	0	
			78.8%	21.3%	0.0%
性別	男	318	214	103	1
			67.3%	32.4%	0.3%
女	589	470	119	0	
			79.8%	20.2%	0.0%
学年別	2年	484	356	127	1
			73.6%	26.2%	0.2%
4年 ※	442	343	99	0	
			77.6%	22.4%	0.0%

(24) 誰と一緒に学習していますか：24. 誰と自主学习

臨床検査	「一人の時が多い」と回答した学生の割合は74.5%と最も高く、次いで「友人達との時が多い」25.0%であった。学部平均とほぼ同じであった。
看護	「一人の時が多い」82.9%と最も高く、「友人達との時が多い」17.1%で全体よりも高い傾向にあった。
放射	76.7%の学生が「一人の時が多い」と回答し学部平均と同程度であった。次いで「友人達との時が多い」の割合が23.3%であった。
リハ・理学	「1人の時が多い」が91名(83.5%)、次いで「友人達との時が多い」が18名(16.5%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「1人の時が多い」が76名(76.8%)、次いで「友人達との時が多い」が23名(23.2%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「友人達との時が多い」が51%で、残りは「1人の時が多い」で、それぞれ半々であった。
医療経営	「一人の時が多い」が78.8%と、全学科平均的な割合となった。

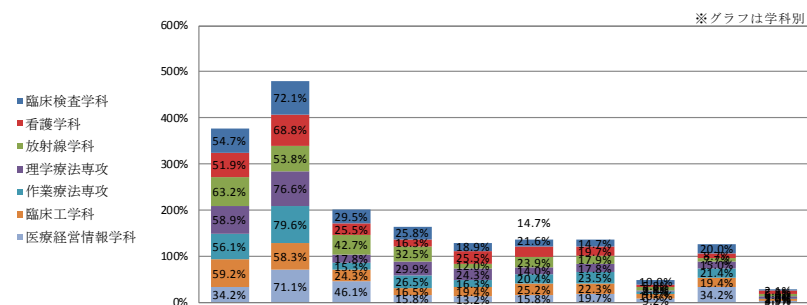
25. 講義実習満足度



(25) 講義・実習には満足していますか：25. 講義実習満足度

臨床検査	「全体的に満足している」と「満足しているものが多い」を合計した割合は92.7%であり、学部平均(83.8%)より高かった。昨年度(88.3%)と比較しても上昇しており、新しい講義室で講義を行っていることが結果に反映していると推察される。
看護	「全般的に満足している」14.2%(全体13.1%)、「満足しているものが多い」67.0%(全体70.7%)、「不満であるものが多い」15.6%(全体13.4%)、「全体的に不満」3.3%(2.8%)であった。昨年よりも「全般的に満足している」が若干高くなったが、「不満であるものが多い」「全般的に不満」が全体の値より高くなっている。
放射	「全体的に満足している」と「満足しているものが多い」を合計した割合は72.4%であり、学部平均(83.8%)より約10%低かった。
リハ・理学	「満足しているものが多い」が83名(76.9%)、次いで「不満であるものが多い」が15名(13.9%)、「全般的に満足している」が7名(6.5%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「満足しているものが多い」が70名(72.2%)、次いで「全般的に満足している」が13名(13.4%)、「不満であるものが多い」が11名(11.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「全般的に満足している」が16%、「満足しているものが多い」が74%で、全体の9割を超えていた。「不満であるものが多い」は10%で、「全体的に不満」はなかった。
医療経営	講義実習の満足度は「全般的に満足している」、「満足しているものが多い」で76.0%と、若干低い割合となっているが、ほぼ全学科平均並となっている。

26. 教育制度不十分点（複数回答3つ） - 学科別 -



	有効回答者数	教育面や制度面で不十分であると感じることほどのようなことですか										
		カリキュラム	時間割	資格取得講座(対策授業)	就職等サポート	奨学金等経済的支援	国際交流	課外活動支援	学生会組織	ボランティア活動支援	その他	
全体	899	491	617	253	208	175	174	170	64	148	36	
		54.6%	68.6%	28.1%	23.1%	19.5%	19.4%	18.9%	7.1%	16.5%	4.0%	
学科別	臨床検査学科	190	104	137	56	49	36	28	28	19	38	4
			54.7%	72.1%	29.5%	25.8%	18.9%	14.7%	14.7%	10.0%	20.0%	2.1%
	看護学科	208	108	143	53	34	53	45	41	12	18	12
			51.9%	68.8%	25.5%	16.3%	25.5%	21.6%	19.7%	5.8%	8.7%	5.8%
	放射線学科	117	74	63	50	38	14	28	21	8	9	7
			63.2%	53.8%	42.7%	32.5%	12.0%	23.9%	17.9%	6.8%	7.7%	6.0%
	理学療法専攻	107	63	82	19	32	26	15	19	3	16	4
			58.9%	76.6%	17.8%	29.9%	24.3%	14.0%	17.8%	2.8%	15.0%	3.7%
作業療法専攻	98	55	78	15	26	16	20	23	4	21	2	
		56.1%	79.6%	15.3%	26.5%	16.3%	20.4%	23.5%	4.1%	21.4%	2.0%	
臨床工学科	103	61	60	25	17	20	26	23	11	20	4	
		59.2%	58.3%	24.3%	16.5%	19.4%	25.2%	22.3%	10.7%	19.4%	3.9%	
医療経営情報学科	76	26	54	35	12	10	12	15	7	26	3	
		34.2%	71.1%	46.1%	15.8%	13.2%	15.8%	19.7%	9.2%	34.2%	3.9%	
性別	男	310	196	213	82	81	53	53	62	32	32	12
			63.2%	68.7%	26.5%	26.1%	17.1%	17.1%	20.0%	10.3%	10.3%	3.9%
	女	570	285	391	166	123	118	119	107	31	114	24
			50.0%	68.6%	29.1%	21.6%	20.7%	20.9%	18.8%	5.4%	20.0%	4.2%
学年別	2年	470	260	332	132	56	102	100	92	31	69	19
			55.3%	70.6%	28.1%	11.9%	21.7%	21.3%	19.6%	6.6%	14.7%	4.0%
	4年 ※	429	231	285	121	152	73	74	78	33	79	17
			53.8%	66.4%	28.2%	35.4%	17.0%	17.2%	18.2%	7.7%	18.4%	4.0%

(26) 教育面や制度面で不十分であると感じること：26. 教育制度不十分点

臨床検査	「時間割」が72.1%と最も高く、次いで「カリキュラム」54.7%、「資格取得講座(対策授業)」29.5%、「就職等サポート」25.8%、「ボランティア活動支援」20.0%、「奨学金等経済的支援」18.9%であった。学部平均とほぼ同じであった。時間割やカリキュラムに対する割合が高いことは、医療系であるため時間割やカリキュラムがタイトであることに対する意見であると推察する。
看護	「時間割」68.8%で最も高く、次いで「カリキュラム」51.9%、「資格取得講座(対策授業)」25.5%の順であった。
放射	「カリキュラム」が63.2%と最も高く、次いで「時間割」53.8%、「資格取得講座(対策授業)」42.7%、「就職等サポート」32.5%であった。履修科目の中に過剰あるいは不足している科目が存在することが推察された。
リハ・理学	「時間割」が82名(76.6%)、次いで「カリキュラム」が63名(58.9%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「時間割」が78名(79.6%)、次いで「カリキュラム」が55名(56.1%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「カリキュラム」が59%、「時間割」が58%と他の選択肢の回答率の2倍以上であった。この2つの選択肢の回答率の高さは学部平均とほぼ同じ傾向であった。
医療経営	「時間割」が71.1%と最も高く、「カリキュラム」は34.2%で他学科と比べて低い値となった。他学科と傾向が異なる点は、「資格取得講座(対策授業)」46.1%、「ボランティア活動支援」34.2%がある。資格取得講座は、医経ではチャレンジする民間の認定資格が多数あるため相対的に時間が少なくなっていることが原因と考えられる。ボランティアについてはほぼ対応が実施できておらず、他のアンケート項目より、ボランティアに興味を持つ学生の比率は高いと考えられることから、このような結果となったと考えられる。

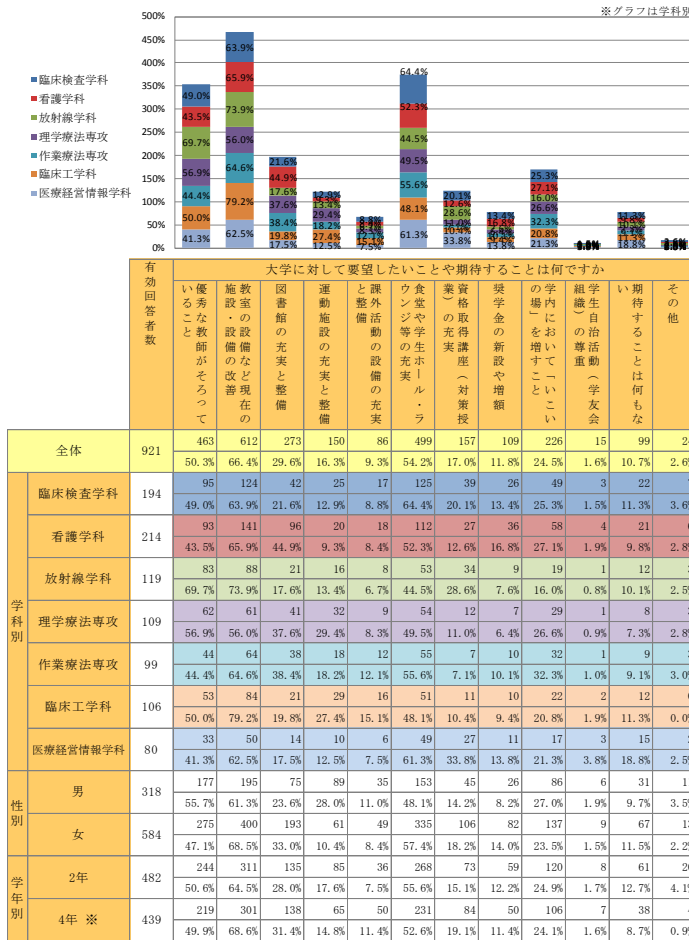
27. キャンパス設備改善要望点（複数回答3つ） - 学科別 -



(27) キャンパス内の施設等で、特に整備・充実して欲しいもの：27. キャンパス設備改善要望

臨床検査	「学生ホール・ラウンジ」が80.4%と最も高く、次いで「食堂」47.4%、「教室」41.8%、「図書館」30.4%であった。「学生ホール・ラウンジ」と答えた学生の割合が学部平均(45.3%)と比べ、きわめて高い。しかし「教室」と答えた学生の割合は昨年度(71.5%)と比較すると、減少していた。
看護	「教室」が49.8%と最も高かったが、昨年(80.8%)よりも低くなっており、全体(53.7%)よりも低かった。次いで、「図書館」49.3%、「食堂」44.1%、「駐輪場(自転車置き場)」31.8%、「駐車場」31.8%の順であった。駐輪場、駐車場は全体の平均も高かった。
放射	「教室」が72%と最も高く、建物の古さに起因すると思われる。次いで「食堂」53.4%、「駐輪場」44.9%、「図書館」26.3%が高かった。
リハ・理学	「食堂」が58名(53.2%)、次いで「図書館」が56名(51.4%)、「教室」が50名(45.9%)、「学生ホール・ラウンジ」が45名(41.3%)、「体育館」が22名(20.2%)であった。学部内平均値と比較し、「食堂」、「図書館」、「体育館」が高値であった。
リハ・作業	「図書館」が50名(50.5%)、次いで「教室」と「学生ホール・ラウンジ」が47名(47.5%)、「食堂」が46名(46.5%)、「駐輪場」が25名(25.3%)であった。学部内平均値と比較し、「図書館」、「学生ホール・ラウンジ」、「情報系教室」が高値であった。
臨床工学	「教室」が69%で、次いで「食堂」が55%、「学生ホール・ラウンジ」が40%であった。この他、「駐輪場」・「図書館」では25%程度が要望していた。
医療経営	「教室」が68.9%と多く、教室の狭さが原因となっていると考えられる。次いで「食堂」60.8%、「学生ホール・ラウンジ」46.8%となっている。本学科ではPC教室を2室確保しているが「情報系教室」に対する要望は26.6%と他学科より高い値を示している。

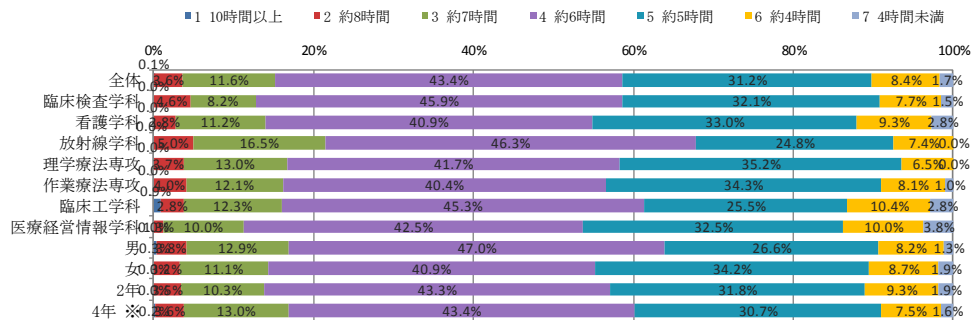
28. 大学全体要望点（複数回答3つ） - 学科別 -



(28) 大学に対して要望したいことや期待すること：28. 大学全体要望

臨床検査	「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」と答えた学生の割合が64.4%と最も高く、次いで「教室の設備など現在の施設・設備の改善」63.9%、「優秀な教師が揃っていること」49.0%、「学内においていいい」を増やすこと25.3%、「図書館の充実と整備」21.6%と高かった。アメニティエリアに関する要望が多かった。
看護	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」65.9%、「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」52.3%で5割を超えている。「優秀な教師が揃っていること」43.5%であり、2番目に低い割合で会った。
放射	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」と答えた学生の割合が73.9%と最も高く、次いで「優秀な教師が揃っていること」69.7%が高かった。「優秀な教師が揃っていること」を挙げた割合が学部内でも最も高く、教員の教育力向上が必要である。
リハ・理学	「優秀な教師が揃っていること」が62名(56.9%)、次いで「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が61名(56.0%)、「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」が54名(49.5%)であった。学部内平均値と比較し、「優秀な教師が揃っていること」、「図書館の充実と整備」、「運動施設の充実と整備」、「学内においていいい」を増やすこと」が高値であった。
リハ・作業	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が64名(64.6%)、次いで「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」が55名(55.6%)、「優秀な教師が揃っていること」が44名(44.4%)であった。学部内平均値と比較し、「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」、「図書館の充実と整備」、「学内においていいい」を増やすこと、「運動施設の充実と整備」、「課外活動の設備の充実と整備」が高値であった。
臨床工学	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が79%と最も高かった。次いで「優秀な教師が揃っていること」が50%であった。運動施設・憩いの場・図書館の充実が多数要望されていた。
医療経営	「教室の設備など現在の施設・設備の改善」が62.5%と最も多く、次に「食堂や学生ホール・ラウンジ等の充実」61.3%となり、施設面での改善要望が多くなった。「優秀な教師が揃っていること」は41.3%と全学科平均より10ポイントほど低い値となっているが、「資格取得講座(対策授業)の充実」は33.8%となり平均17.0%より17ポイントほど高い値となっている。「図書館の充実と整備」は17.5%と他学科より関心が薄い結果となった。「期待することは何もない」が18.8%と他学科より高値であり、冷めた学生が多く居る可能性がある。

29. 睡眠時間

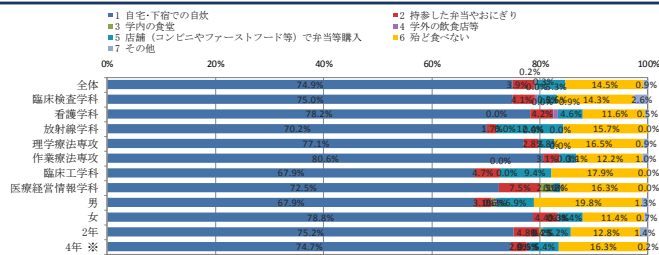


	有効回答者数	平均睡眠時間はどれくらいですか							
		10時間以上	約8時間	約7時間	約6時間	約5時間	約4時間	4時間未満	
全体	925	1 0.1%	33 3.6%	107 11.6%	401 43.4%	289 31.2%	78 8.4%	16 1.7%	
学科別	臨床検査学科	0 0.0%	9 4.6%	16 8.2%	90 45.9%	63 32.1%	15 7.7%	3 1.5%	
	看護学科	0 0.0%	6 2.8%	24 11.2%	88 40.9%	71 33.0%	20 9.3%	6 2.8%	
	放射線学科	0 0.0%	6 5.0%	20 16.5%	56 46.3%	30 24.8%	9 7.4%	0 0.0%	
	理学療法専攻	0 0.0%	4 3.7%	14 13.0%	45 41.7%	38 35.2%	7 6.5%	0 0.0%	
	作業療法専攻	0 0.0%	4 4.0%	12 12.1%	40 40.4%	34 34.3%	8 8.1%	1 1.0%	
	臨床工学科	1 0.9%	3 2.8%	13 12.3%	48 45.3%	27 25.5%	11 10.4%	3 2.8%	
	医療経営情報学科	0 0.0%	1 1.3%	8 10.0%	34 42.5%	26 32.5%	8 10.0%	3 3.8%	
	性別								
男	319	1 0.3%	12 3.8%	41 12.9%	150 47.0%	85 26.6%	26 8.2%	4 1.3%	
女	587	0 0.0%	19 3.2%	65 11.1%	240 40.9%	201 34.2%	51 8.7%	11 1.9%	
学年別	2年	485	0 0.0%	17 3.5%	50 10.3%	210 43.3%	154 31.8%	45 9.3%	9 1.9%
	4年 ※	440	1 0.2%	16 3.6%	57 13.0%	191 43.4%	135 30.7%	33 7.5%	7 1.6%

(29) 平均睡眠時間はどれくらいですか：29. 睡眠時間

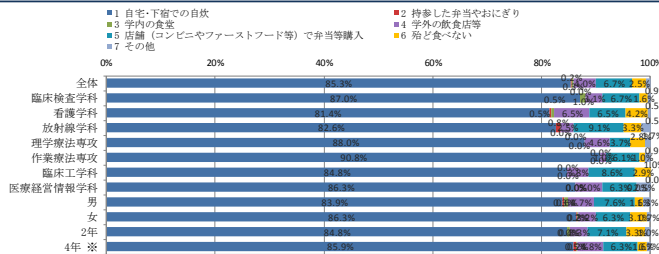
臨床検査	「約6時間」が45.9%と最も高く、次いで「約5時間」32.1%であり、学部平均とほぼ同じであった。約4時間以下の学生が9.2%であり、寝不足による体調不良が懸念される。
看護	「約6時間」40.9%で最も多く、「約5時間」33.0%で、全体の平均とほぼ同様であった。
放射	「約6時間」が46.3%と最も高く、次いで「約5時間」24.8%であり、他学科とほぼ同様の傾向であった。
リハ・理学	「約6時間」が45名(41.7%)、次いで「約5時間」が38名(35.2%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「約6時間」が40名(40.4%)、次いで「約5時間」が34名(34.3%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	最多が「6時間」で45%、次いで「5時間」が26%であった。学部平均と大きな違いはなかった。
医療経営	「約6時間」が42.5%と最も多くの割合を占めた。次いで「約5時間」が32.5%となっている。分布は全学科平均とほぼ同等であるが、7時間以上の睡眠と回答している学生は11.3%で差は小さいものの全学科中最も少ない割合となっている。本学科学生はバイトは平均的に行っているものの、通学時間は長い傾向にあり、これが睡眠時間を若干短くしている要因となっていると推察される。

30. 食事について…朝食



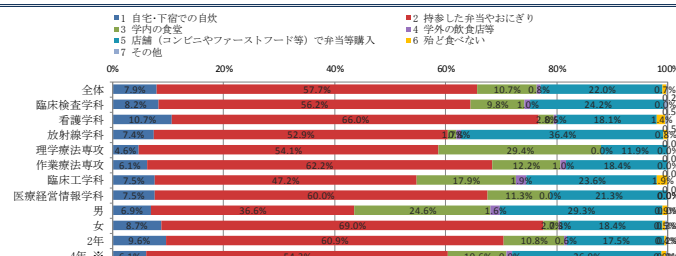
学部	有効回答者数	食事は主にどのようにして摂っていますか…朝食						
		自宅・下宿での自炊	持参した弁当やおにぎり	学内の食堂	学外の飲食店等	でファーストフード等購入	店舗 (コンビニやファーストフード等)	殆ど食べない
全体	926	694	36	2	3	49	134	8
臨床検査学科	196	147	8	0	1	7	28	5
看護学科	216	169	9	0	2	10	25	1
放射線学科	121	85	2	0	0	15	19	0
理学療法専攻	109	84	3	0	0	3	18	1
作業療法専攻	98	79	3	0	0	3	12	1
臨床工学科	106	72	5	0	0	10	19	0
医療経営情報学科	80	58	6	2	0	1	13	0
性別								
男	318	216	10	2	1	22	63	4
女	589	464	26	0	2	26	67	4
学年別								
2年	484	364	23	2	1	25	62	7
4年 ※	442	330	13	0	2	24	72	1

30. 食事について…夕食



学部	有効回答者数	食事は主にどのようにして摂っていますか…夕食						
		自宅・下宿での自炊	持参した弁当やおにぎり	学内の食堂	学外の飲食店等	でファーストフード等購入	店舗 (コンビニやファーストフード等)	殆ど食べない
全体	920	785	2	3	37	62	23	8
臨床検査学科	193	168	0	2	6	13	3	1
看護学科	215	175	1	1	14	14	9	1
放射線学科	121	100	1	0	3	11	4	2
理学療法専攻	108	95	0	0	5	4	3	1
作業療法専攻	98	89	0	0	1	6	1	1
臨床工学科	105	89	0	0	4	9	3	0
医療経営情報学科	80	69	0	0	4	5	0	2
性別								
男	316	265	1	2	15	24	5	4
女	585	505	1	1	19	37	18	4
学年別								
2年	479	406	0	2	16	34	16	5
4年 ※	441	379	2	1	21	28	7	3

30. 食事について…昼食



学部	有効回答者数	食事は主にどのようにして摂っていますか…昼食						
		自宅・下宿での自炊	持参した弁当やおにぎり	学内の食堂	学外の飲食店等	でファーストフード等購入	店舗 (コンビニやファーストフード等)	殆ど食べない
全体	923	73	533	99	7	203	6	2
臨床検査学科	194	16	109	19	2	47	0	1
看護学科	215	23	142	6	1	39	3	1
放射線学科	121	9	64	2	1	44	1	0
理学療法専攻	109	5	59	32	0	13	0	0
作業療法専攻	98	6	61	12	1	18	0	0
臨床工学科	106	8	50	19	2	25	2	0
医療経営情報学科	80	6	48	9	0	17	0	0
性別								
男	317	22	116	78	5	93	3	0
女	587	51	405	16	2	108	3	2
学年別								
2年	481	46	293	52	3	84	2	1
4年 ※	442	27	240	47	4	119	4	1

(30) 食事は主にどのようにして摂っていますか：30. 食事について

臨床検査	朝食は「自宅・下宿での自炊」が75.0%と最も多かった。朝食を摂っていない学生の割合は14.3%であり、学部平均とほぼ同じではあるが、1日の生活リズムや体調を整えるためにも朝食は摂るべきである。昼食は「持参した弁当やおにぎり」が56.2%と最も高く、夕食については「自宅・下宿での自炊」が87.0%と最も高かった。学部平均とほぼ同様の傾向であった。
看護	朝食、昼食、夕食とも「自宅・下宿での自炊」が最も高かった。「殆ど食べない」については、朝食は他学科よりも低かったが、夕食は他学科よりも高い割合だった。
放射	朝食は「自宅・下宿での自炊」が70.2%と最も高かった。朝食を摂っていない学生の割合は15.7%であった。昼食は「持参した弁当やおにぎり」が52.9%と最も高かった。夕食については「自宅・下宿での自炊」が82.6%で最も高かったが、「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」の割合は学部内で最も高く、9.1%であった。
リハ・理学	朝食については、「自宅・下宿での自炊」が84名(77.1%)、次いで「殆ど食べない」が18名(16.5%)であり、概ね他学科と同様であった。昼食については、「持参した弁当やおにぎり」が59名(54.1%)、次いで「学内の食堂」が32名(29.4%)であり、学部内平均値と比較し、「学内の食堂」が高値であった。夕食については、「自宅・下宿での自炊」が95名(88.0%)、次いで「学外の飲食店等」が5名(4.6%)であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	朝食については、「自宅・下宿での自炊」が79名(80.6%)、次いで「殆ど食べない」が12名(12.2%)であり、概ね他学科と同様であった。昼食については、「持参した弁当やおにぎり」が61名(62.2%)、次いで「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」が18名(18.4%)であり、概ね他学科と同様であった。夕食については、「自宅・下宿での自炊」が89名(90.8%)、次いで「店舗(コンビニやファーストフード等)で弁当等購入」が6名(6.1%)であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	朝食を取らない学生割合は18%程度と、学部内で最も高くなった。昼食は持参する弁当が最も多く約半数であった。次いで、コンビニ・ファーストフードが1/4を占めた。夕食は、自宅あるいは下宿で食事を摂る割合が約85%と学部全体の割合とほぼ同じであった。
医療経営	自宅からの通学者が多いため「自宅・下宿での自炊」が72.5%と多くなっているが、「持参した弁当やおにぎり」が7.5%と全学科の中で一番高い割合を示している。通学時間が長い傾向にあることから、自宅から弁当等を持参している割合が高くなっている可能性がある。その他の項目の割合は全学科平均とほぼ同等であるが「ほとんど食べない」との回答が16.3%あり、学習態度や効率に影響を与えていないか心配である。

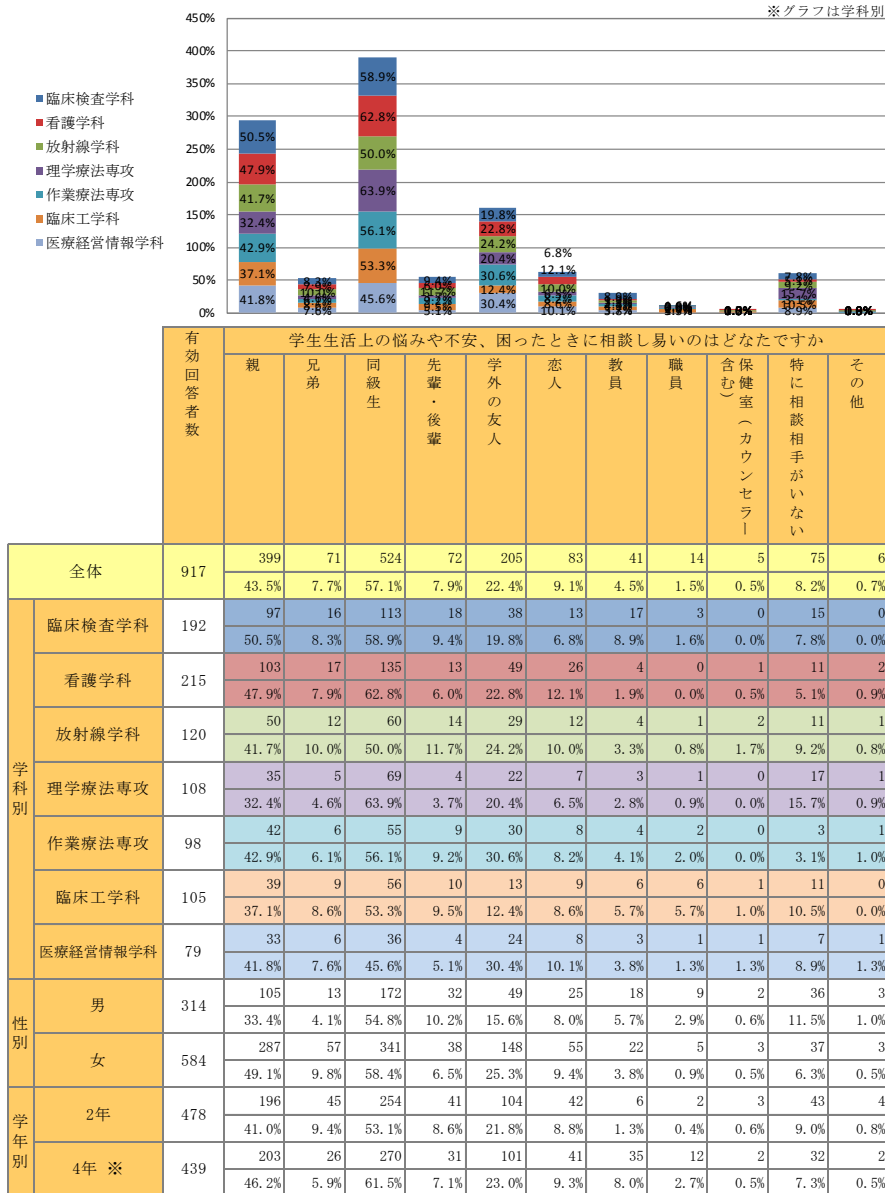
31. 悩み事（複数回答） - 学科別 -



(31) 現在何か悩みごとを持っていますか：31. 悩み

臨床検査	「就職・将来の進路」が48.2%と最も高く、学部平均(34.1%)より高かった。次いで「学習面」35.1%、「金銭面」24.6%であった。就職・将来の進路で悩んでいる学生の割合は、学部内でも最も高かった。
看護	「学習面」44.9%で最も多く、次いで「金銭面」34.7%で全体の数値よりも高くなっていた。「就職・将来の進路」は17.1%で、他学科と比べて最も低かった。
放射	「就職・将来の進路」が40.8%と最も高く、学部平均より若干高かった。次いで「学習面」が38.3%と高かった。全体的な傾向は他学科と大きな相違は無かった。
リハ・理学	「学習面」と「就職・将来の進路」が40名(37.4%)、次いで「金銭面」が39名(36.4%)、「性格や能力について」が29名(27.1%)であった。学部内平均値と比較し、「学習面」を除く3項目が高値であった。
リハ・作業	「学習面」が42名(43.3%)、次いで「就職・将来の進路」が37名(38.1%)、「金銭面」が32名(33.0%)、「性格や能力について」が26名(26.8%)であった。学部内平均値と比較し、前述4項目とも高値であった。
臨床工学	「特に悩んでいない」が最も多く39%であった。ついで、「就職・将来の進路」が30%、「学習面」が27%、「金銭面」が22%だった。
医療経営	「学習面」33.8%、「就職・将来の進路」32.5%と多くなった。知名度が低く、情報が乏しい医療事務系の学習や将来の進路について不安に思う結果と考えられる。全学科平均と大きく異なる項目としては「友人関係」10.0%があり少数定員学科であることが影響していると考えられる。また「特に悩んでいない」との回答が32.5%と、臨工に次いで大きな割合となった。信頼できる仲間が得られ、学習面で不安がなく、将来のイメージが固まっているような充実した学生生活を送る学生が一定数存在している結果なのか、危機感がなくのほほんと過ごしている学生が多いのか、判断が難しいところである。

32. 相談相手（複数回答） - 学科別 -



(32) 学生生活上の悩みや不安、困ったときに相談しやすいのはどなたですか：32. 相談相手

臨床検査	「同級生」が58.9%と最も高く、次いで「親」50.5%であった。「教員」と回答した学生の割合は8.9%であった。悩みや不安の種類によって、誰に相談するかは異なってくるので解釈が難しい部分もある。
看護	「同級生」62.8%で最も多く、次いで「親」47.9%であり、全体と同様の傾向にあった。
放射	「同級生」が50%と最も高く、次いで「親」41.7%、「学外の友人」24.2%であった。
リハ・理学	「同級生」が69名（63.9%）、次いで「親」が35名（32.4%）、「学外の友人」が22名（20.4%）であり、概ね他学科と同様であった。
リハ・作業	「同級生」が55名（56.1%）、次いで「親」が42名（42.9%）、「学外の友人」が30名（30.6%）であり、概ね他学科と同様であった。
臨床工学	「同級生」が53%と最も高く、次いで「親」が37%、「学外の友人」が12%であった。一方、「相談相手がいない」は11%あった。
医療経営	「同級生」45.6%、「親」41.8%と高い割合となっており、全体的には全学科平均と同様な状況である。他学科と比較して若干ではあるが「先輩・後輩」の比率が5.1%と低くなっており、学年間で交流する機会をもう少し増やすよう検討が必要と考える。また、「学外の友人」が30.4%と若干高くなっている。他のアンケート項目より、自分の好きなように時間を使うことを優先する傾向にあることがわかっているが、学外の友人との交流もその中に含まれるのではないか。

Ⅱ 自由記載の分析

1. 臨床検査学科

臨床検査学科における平成 27 年度調査と平成 28 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

(単位：人)

	H27				H28			
	2 年		4 年		2 年		4 年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
学生数	21	81	32	74	33	73	16	76
計	102		106		106		92	

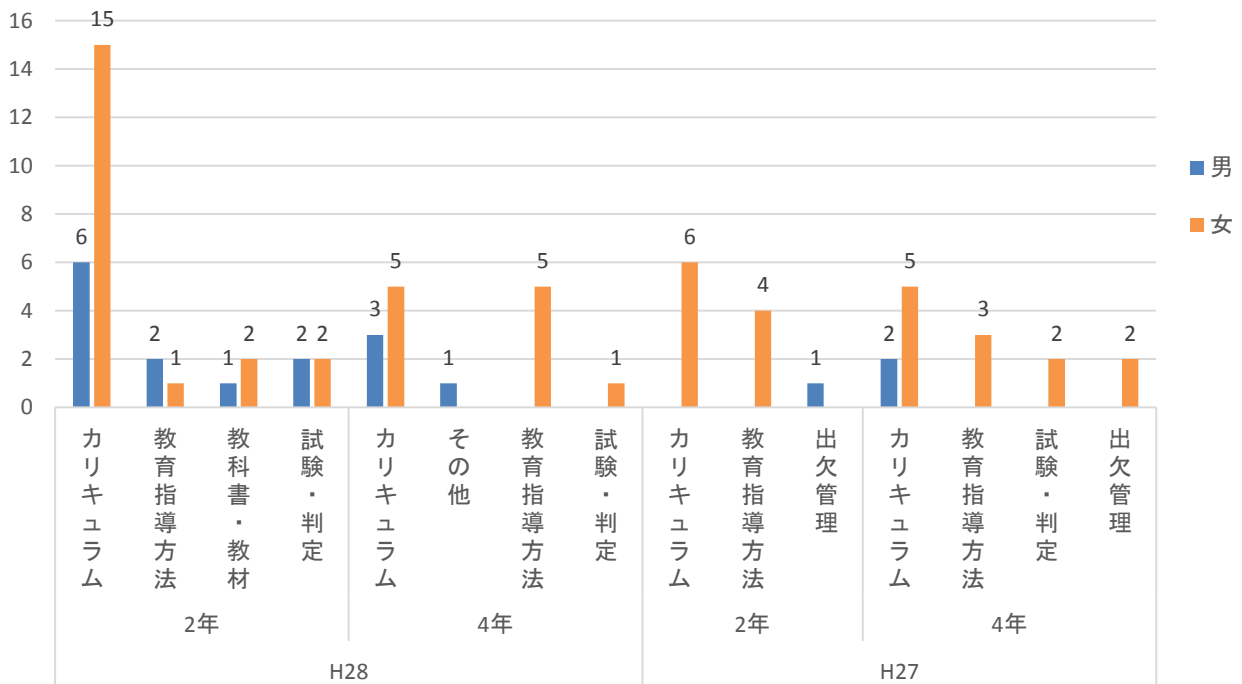
2) 教育内容

2-1) 回答率

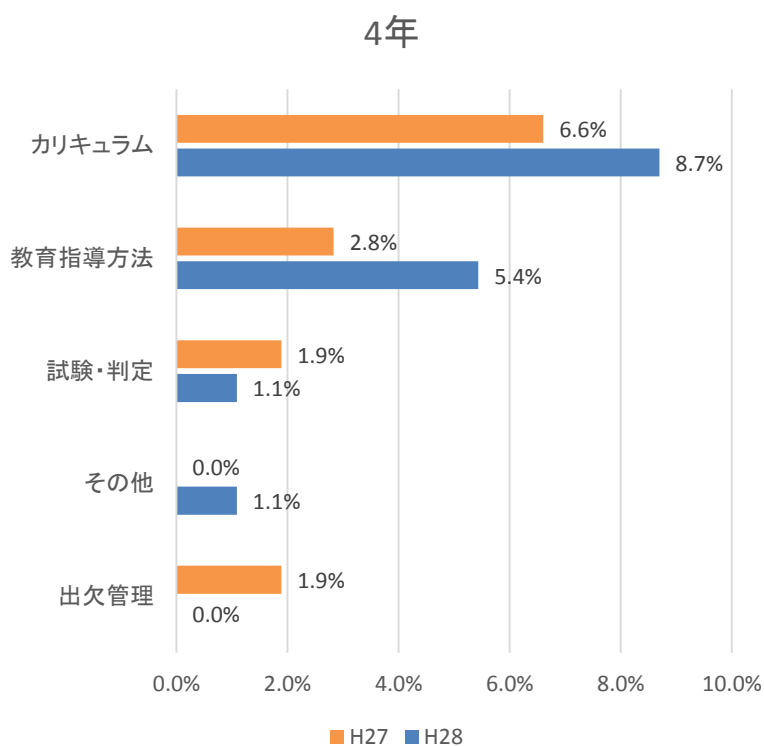
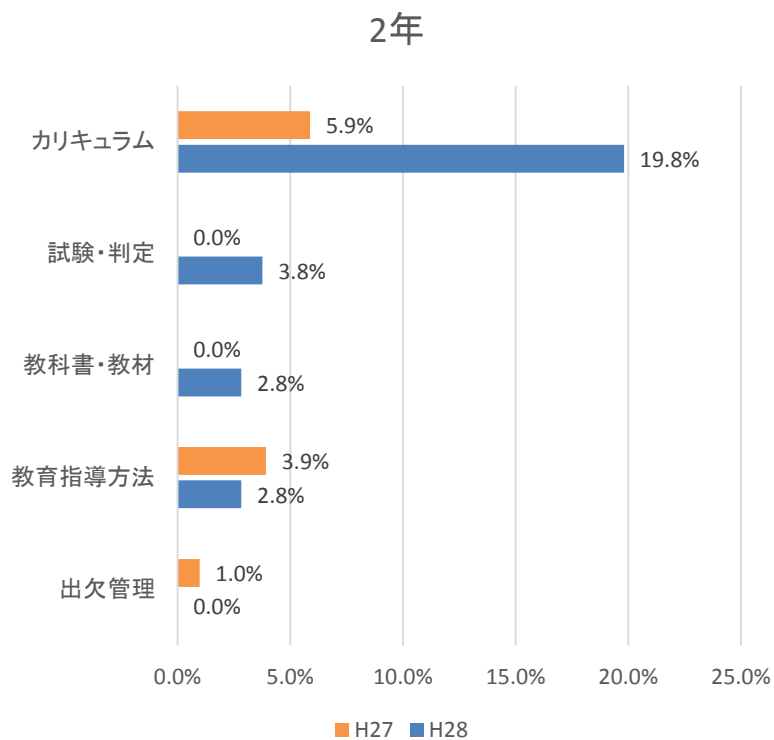
	H27				H28			
	2 年		4 年		2 年		4 年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数(人)	1	10	2	12	11	20	4	11
回答率	4.8%	12.3%	6.3%	16.2%	33.3%	27.4%	25.0%	14.5%
学年回答率	10.8%		13.2%		29.2%		16.3%	

2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

(単位：人)

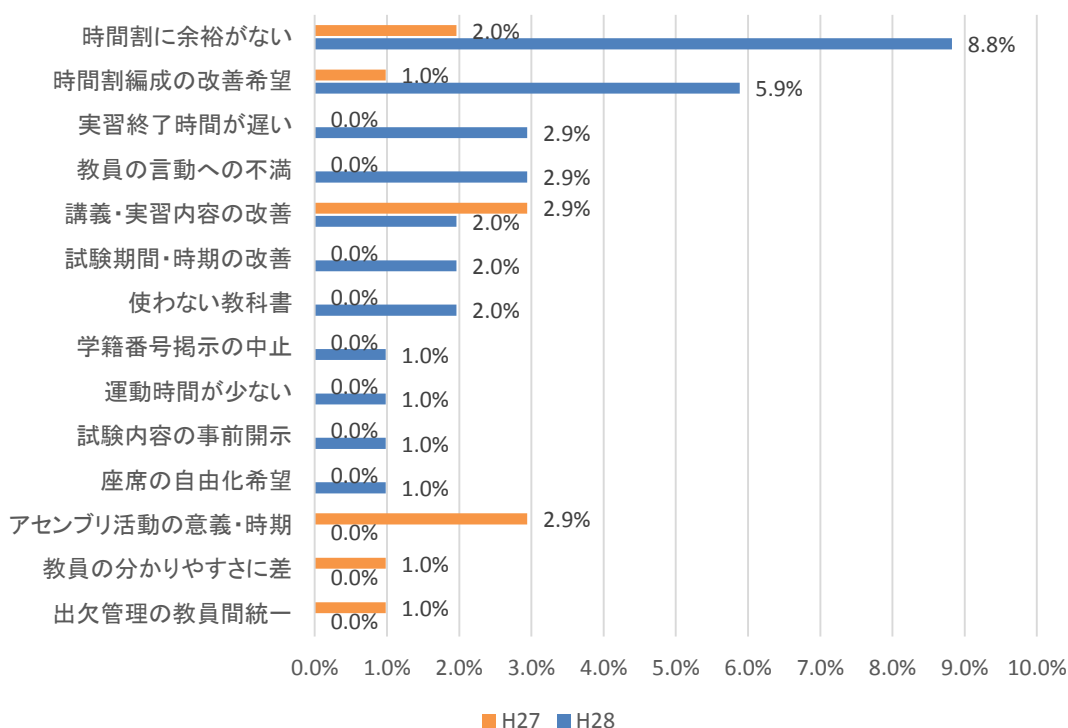


2-3) 教育内容に関する回答内容の平成27年度と平成28年度の比較

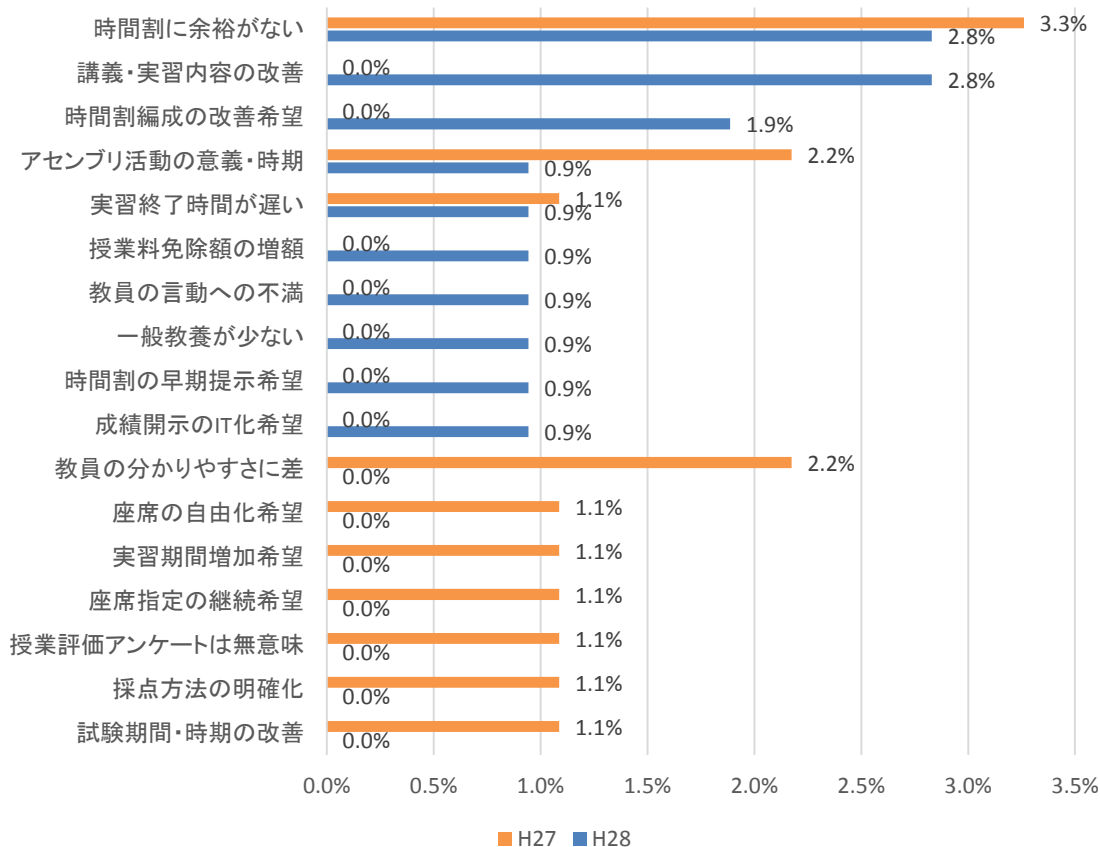


2-4) 教育内容に関する回答内容の詳細について平成27年度と平成28年度の比較

2年



4年



2-5) 小括

平成 28 年度の回答率は、平成 27 年度と比較すると、2 年生、4 年生ともに上昇し、特に 2 年生の意見の増加が目立った。平成 28 年度で回答が多かったのは、2 年生、4 年生ともにカリキュラムに関する内容であり、平成 27 年度と同じであった。回答率が上昇した理由は不明であるが、改善に期待を込めて記載した学生が多かったのではないかと推察する。

平成 28 年度の教育内容に関する回答内容についてみると、2 年生では「時間割に余裕がない」が最も多く、4 年生では「時間割に余裕がない」、「講義・実習内容の改善」が最も多かった。また「時間割編成の改善希望」に関する意見も 2 年生、4 年生それぞれで多かった。医療系の学科であるため、講義や実習が多く、空き時間が少ないことを反映しているものである。今年度の 1 年生から始まった新カリキュラムは、社会的要請に応じた講義・演習等を新たに加えるなど、講義や実習について抜本的な見直しを行った。時間割はこれまでのものよりスリム化しており、今後の学生の教育に関する意見の変化に注目していきたい。

「アセンブリ活動の意義・時期」の意見については、平成 27 年度と比べて平成 28 年度では減少した。アセンブリ活動の意義等が学生に対して周知され、アセンブリⅢの時期の変更が行われ改善されたことが、アセンブリ活動に対する意見の減少につながったと考える。また平成 27 年度に意見のあった「教員の分かりやすさに差がある」は、平成 28 年度には無くなった。この点についても改善が行われたものと推察する。しかし平成 27 年度には無かった「教員の言動に不満」について平成 28 年度には意見が上がった。意見としては少数であるが、改善すべき点であると考えられる。

平成 28 年度のその他の意見としては、2 年生では「実習時間が遅い」、「試験期間・時期の改善」、「使わない教科書」等の意見、4 年生では「授業料免除額の増額」、「一般教養が少ない」、「時間割の早期提示希望」等の意見がそれぞれあった。このうち、「授業料免除額の増額」については、1 年間無遅刻無欠席で学業・人物ともに優秀な学生への授業料免除額の規定を変更する予定であり、特に優秀な学生に対しては減免の増額を行う。試験期間や時期に関しては学部で試験期間が設けられており、これに準じた試験日程で実施している。使わない教科書の購入をやめてほしいとの意見があるが、授業ではパワーポイント等で内容をまとめた講義であっても、その予習や復習を行う上で必要なものであると考える。

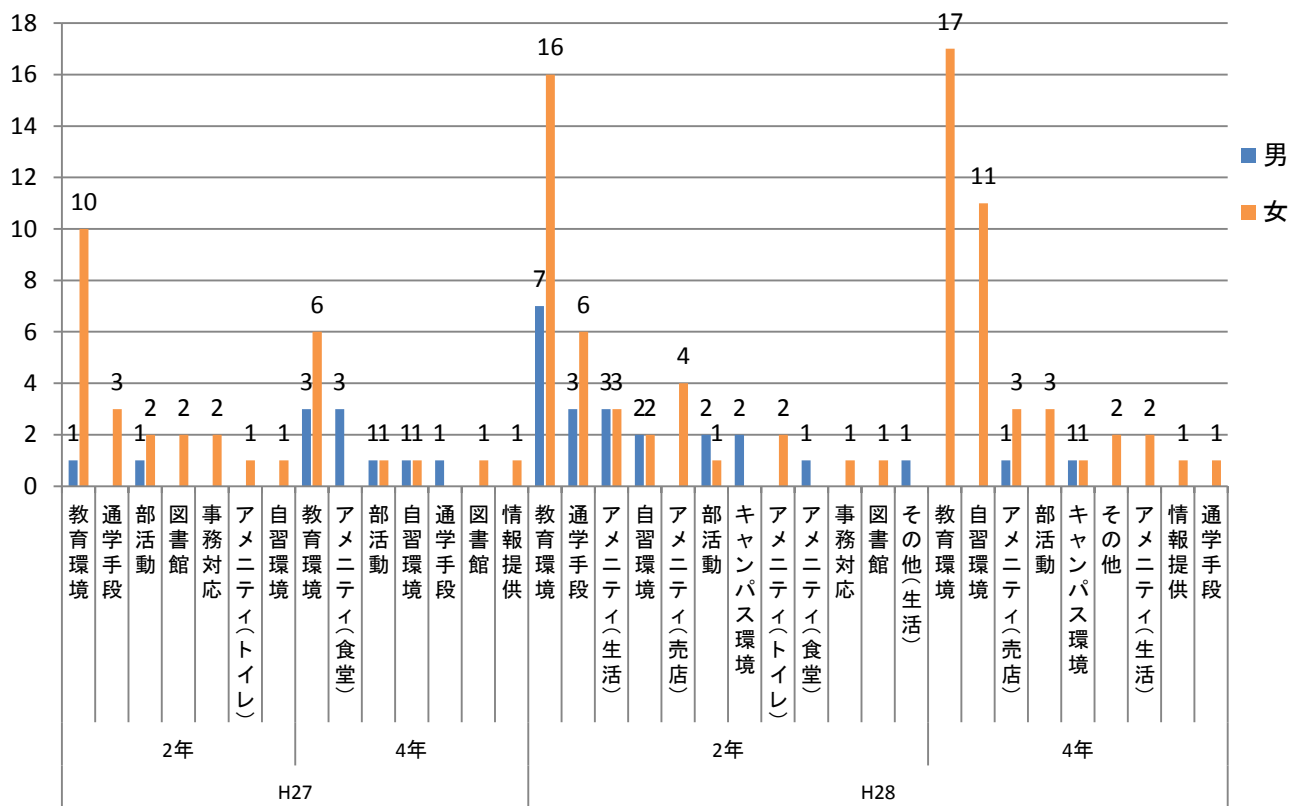
3) 生活環境

3-1) 回答率

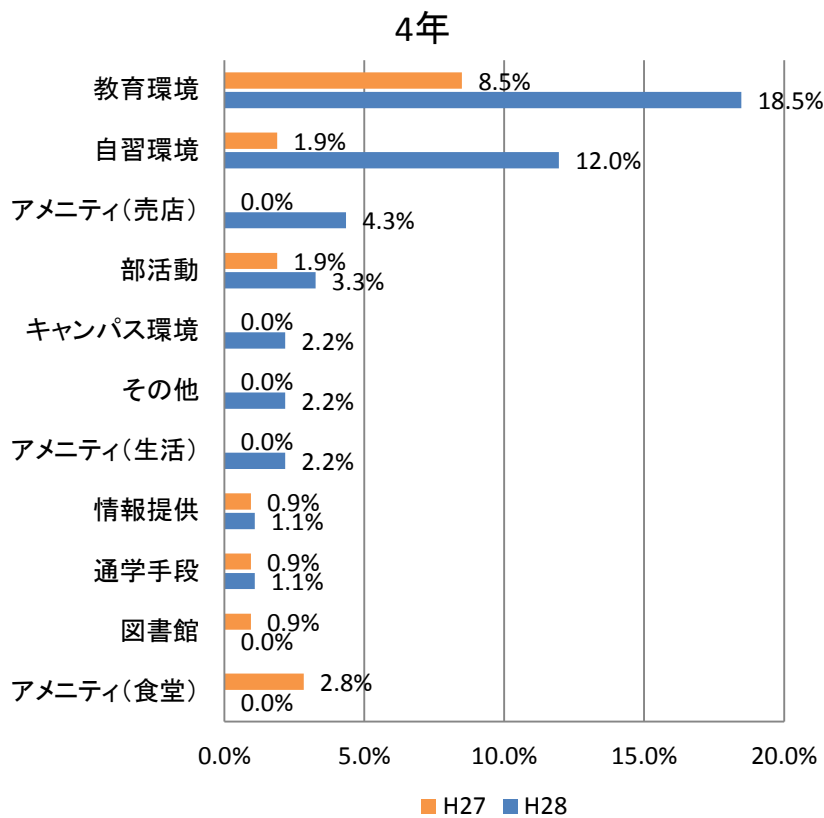
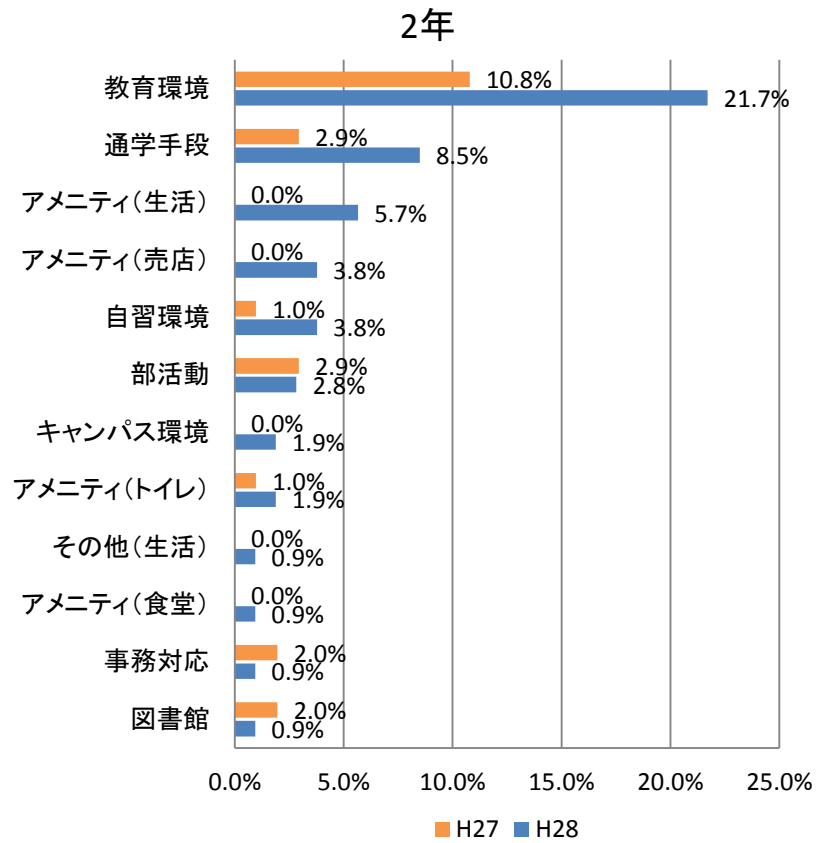
	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数	2	20	9	9	21	36	2	41
回答率	9.5%	24.7%	28.1%	12.2%	63.6%	49.3%	12.5%	53.9%
学年回答率	21.6%		17.0%		53.8%		46.7%	

3-2) 生活環境に関する回答内容の内訳

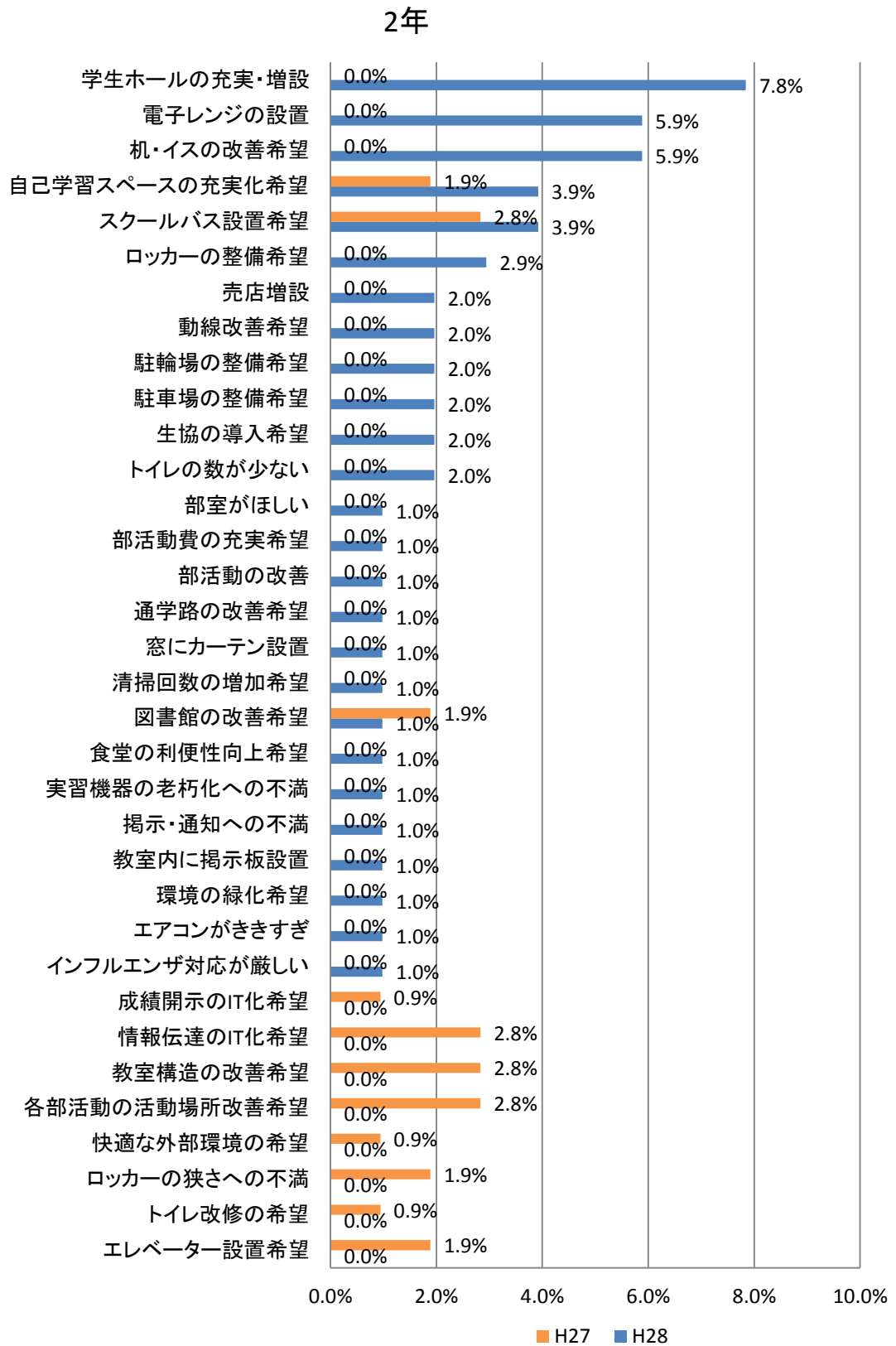
(単位：人)



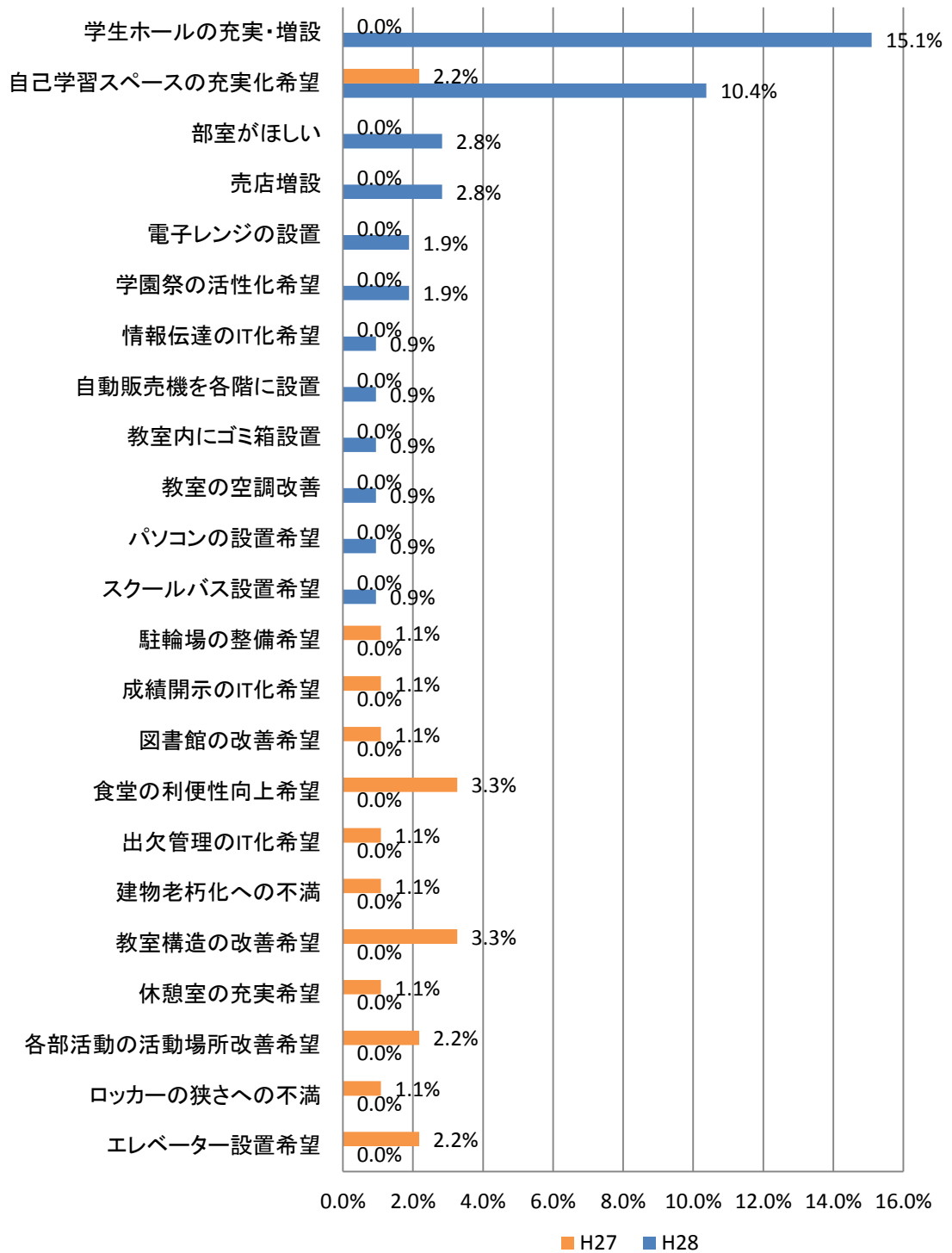
3-3) 生活環境に関する回答内容の平成27年度と平成28年度の比較



3-4) 生活環境に関する回答内容の詳細について平成27年度と平成28年度の比較



4年



3-5) 小括

平成 28 年度の回答率は、平成 27 年度と比較すると、2 年生、4 年生ともに上昇していた。平成 28 年度で回答が最も多かったのは、平成 27 年度と同じく 2 年生、4 年生ともに「教育環境」に関する内容であった。平成 27 年度と比較し、平成 28 年度では「教育環境」や「自習環境」に関する意見の増加が著しかった。

内容の詳細についてみると、平成 27 年度と比べ、平成 28 年度の意見の内容はかなり異なっている。この変化は、今年度から臨床検査学科が生涯教育研究センター2 号館に移動したことが大きな要因と考える。平成 28 年度で最も多かった意見は、2 年生、4 年生ともに「学生ホールの充実・増設」であり、次いで 2 年生は「電子レンジの設置」、(「教室の」机・イスの改善)、4 年生は「自己学習スペースの充実化希望」であった。今回の学生生活・学習実態調査が実施された時期は、まだ生涯教育研究センター2 号館のアメニティが完全に設置されていない時期であったことが大きく影響している。調査後に、各階の学生ホールの机・イス、電子レンジの設置を行っており、これらの環境についてはすでに改善されている。教室の机・イスについては、間隔が狭いという意見が多かった。これまで医療科学部 1 号館の教室で使用していた可動式の机・イスと比べると固定式の机・イスは狭さを感じてしまうのではないかと推察する。

「スクールバスの設置希望」は平成 27 年度にあった意見であるが、平成 28 年度も同様の意見があった。バス停での学生のマナーについて度々問題にあがっていることもあり、今後、学園として検討してほしい内容である。

平成 27 年度の調査では「教室構造の改善希望」、「情報伝達の IT 化」、「成績開示の IT 化」、「各部活動の活動場所改善希望」、「ロッカーの狭さへの不満」、「エレベーター設置希望」等の意見があったが、これらの意見は平成 28 年度調査ではなかったことから、生涯教育研究センター2 号館に移ったことにより改善した結果と考える。一方で「売店増設」、「生協の導入希望」、「食堂の利便性向上」等の意見が平成 28 年度調査であったことは、生涯教育研究センター2 号館への引っ越しと学園内の工事により、コンビニエンスストアや学生食堂までの距離が少し遠くなったことが理由として考えられる。お弁当やパンを館内で販売するなど対策は行っている。

平成 28 年度のその他の意見としては、いずれも少数意見であるが「ロッカーの整備希望」、「動線の改善」、「駐輪場の整備」、「駐車場の整備希望」、「トイレの数が少ない」、「部室がほしい」、「部活動費の充実」、「通学路の改善」、「清掃回数の増加」、「図書館の改善希望」、「教室内に掲示板設置」、「実習器具の老朽化への不満」、「インフルエンザ対応が厳しい」、「エアコンがききすぎ」、「学園祭の活性化希望」、「教室内にゴミ箱設置」、「パソコンの設置希望」があった。「清掃回数の増加」については、黒板回りのチョーク等による汚れが目立つこと等から出た意見と推察する。清掃回数については今年度途中から使用頻度の高い 1 年生の講義室のみ黒板回りの清掃回数を増やした。

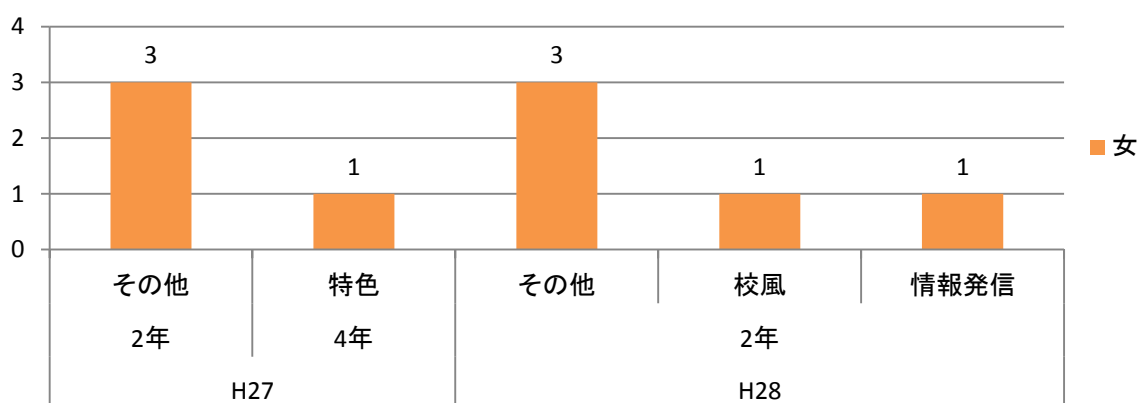
4) 特色

4-1) 回答率

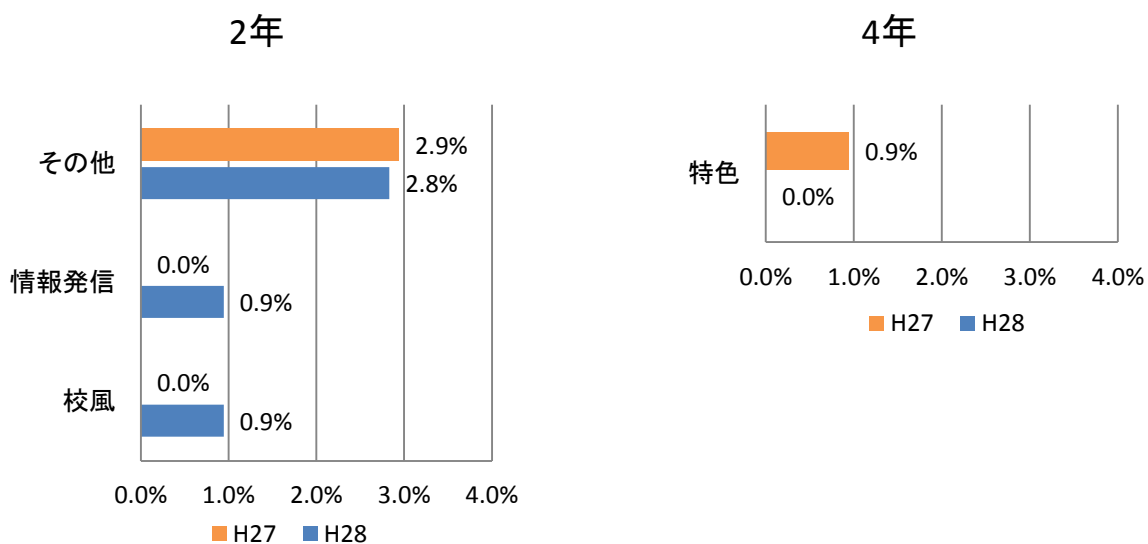
	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数	0	3	0	1	0	5	0	0
回答率	0.0%	3.7%	0.0%	1.4%	0.0%	6.8%	0.0%	0.0%
学年回答率	2.9%		0.9%		4.7%		0.0%	

4-2) 特色に関する回答内容の内訳

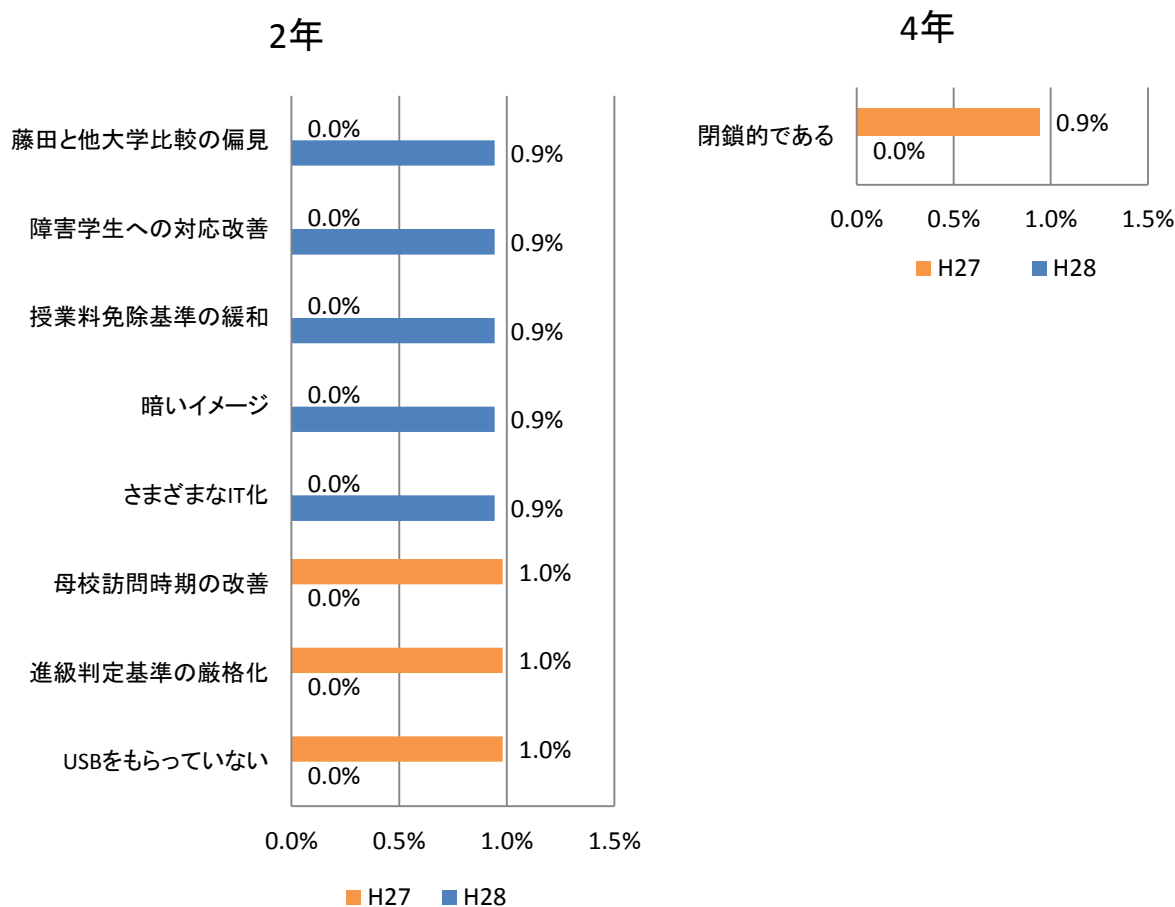
(単位：人)



4-3) 特色に関する回答内容の平成 27 年度と平成 28 年度の比較



4-4) 特色に関する回答内容の詳細について平成 27 年度と平成 28 年度の比較



4-5) 小括

平成 28 年度の特徴に関する回答は、平成 27 年度と同様に少なく、男子学生の意見はなかった。意見は「校風」、「情報発信」、「特色」等に関する内容であった。平成 28 年度は「障害学生への対応改善」、「藤田と他大学比較の偏見」、「授業料免除基準の緩和」、「暗いイメージ」、「さまざまな IT 化」について意見があった。いずれも 1 名からの意見であるが、「障害学生への対応改善」については、今回の調査内容からは具体的なことが分からない。支援が必要な学生に対する対応は現在もできる限り行っているが、教員の障害学生に対する不適切な言動が関係しているのであれば、改善は必須である。また「さまざまな IT 化」の意見は、IT 化して自宅からでも成績等をチェックできるようにしてほしいというものであり、成績結果提示や他の情報伝達の IT 化は今後大学全体として計画的な改善を行っていくことが望まれる。

5) 総括

平成 28 年度の回答率は、平成 27 年度と比較すると、教育内容、生活環境の分野では上昇し、特色に関してはほぼ同じであった。教育内容や生活環境の回答率が上昇したことについては、臨床検査学科が、医療科学部 1 号館から生涯教育研修センター 2 号館に移動したことが大きく関わっていると思われる。長年の希望であった新棟が完成したように、自分たちの意見が将来の藤田学園そして臨床検査学科に反映されることを期待した学生が多かった結果、回答率が上昇したと推察する。

教育内容については、カリキュラムに関する内容の意見が多く、空き時間が少ない時間割に関する内容が主なものであった。医療系の学科であるため、講義や実習は必然的に多くなる。講義や実習の必要性について初回の授業等で学生に対して説明をしっかり行い、理解を得ることが重要と思われる。今年度の 1 年生から抜本的な見直しを行った新カリキュラムが始動し、時間割のスリム化も行われた。今後の学生の教育に関する意見の変化については注目していきたい。

生活環境については、平成 28 年度の調査結果では、平成 27 年度に多かった教室構造や建物の老朽化等に関する教育環境の内容の意見が無くなったものの、教育環境や自習環境に関する意見が増えた。臨床検査学科が医療科学部 1 号館から生涯教育研修センター 2 号館への移動したことが、意見内容の変化の大きな要因と思われる。平成 28 年度に多かった意見としては、学生ホールの充実・増設、自己学習スペースの充実化希望、電子レンジの設置であった。本調査は年度初めに行われたこともあり、生涯教育研修センター 2 号館のアメニティがまだ十分整っていない状況であったため、旧建物内にはあったものが新棟では設置されていないことに対する意見が多かったと思われる。現在は各階の学生ホールに机、椅子が増設され、さらに各階に 2 台ずつ電子レンジも設置されている。来年度の調査結果に期待したい。ロッカーの狭さへの不満やエレベーター設置希望といった意見がなくなったことは、生涯教育研究センター 2 号館に移動したことで改善された点であろう。しかし学園内の工事の影響もあるが、コンビニエンスストアや学生食堂までの距離が少し遠くなったため、売店増設や食堂の利便性向上などの意見が平成 28 年度に新たに上がった。お弁当やパンを館内で販売するなど対策は行なわれている。

特色に関する意見は少なかったが、IT 化についての意見があり、成績開示や事務的な情報の伝達の IT 化は大学が今後検討していかなければならない事項の 1 つである。

臨床検査学科が生涯教育研修センター 2 号館に移動し、教育環境、生活環境等の面で改善されたが、調査時期に建物内のアメニティが十分揃っていなかった点についての意見が多くあった。来年度の調査では生活環境の分野で多かった意見は減少するものと推察するが、今回の調査で得られた教育内容、生活環境、特色に関する学生からの意見については検討を行い、計画的な改善を行うことが望まれる。

2. 看護学科

看護学科における平成 27 年度調査と平成 28 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

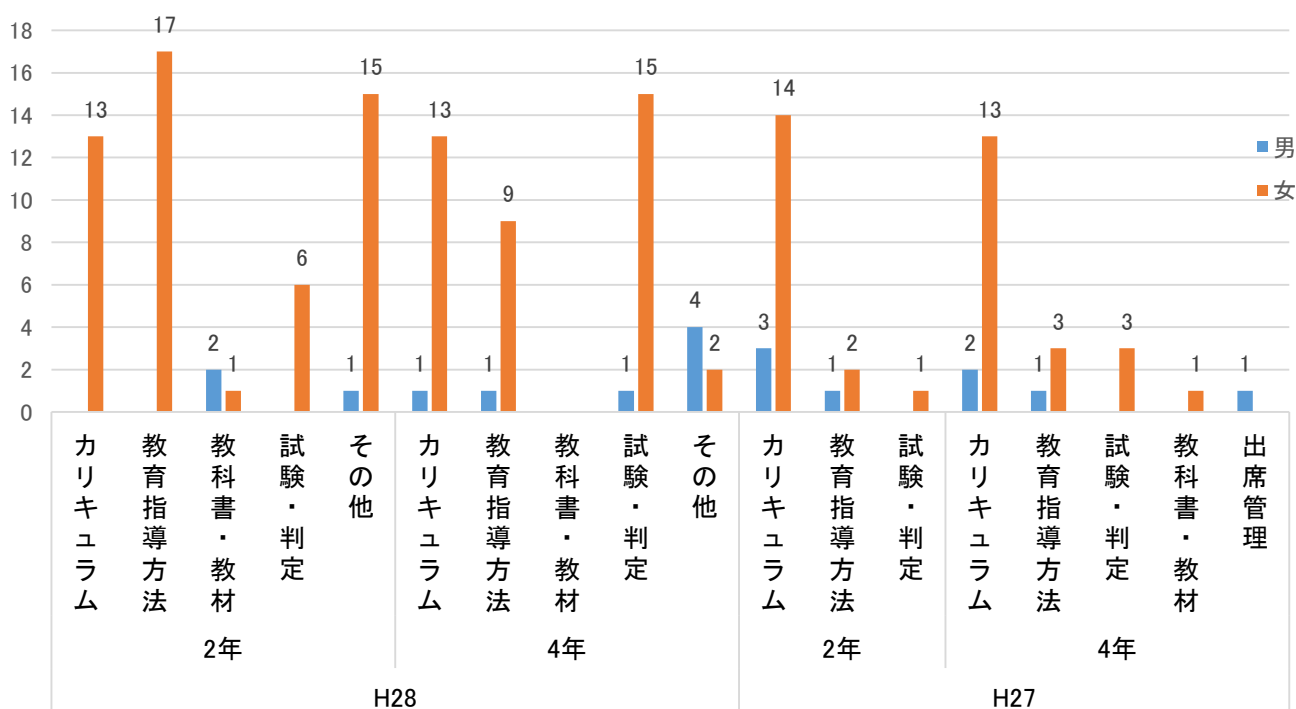
年度	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
学生数(人)	14	96	15	94	7	101	9	100
計	110		109		108		109	

2) 教育内容

2-1) 回答率

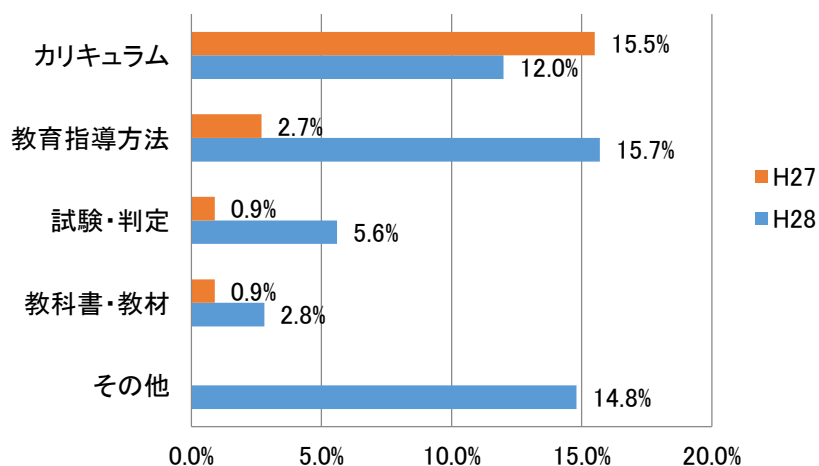
年度	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数(人)	3	18	4	20	3	52	5	41
回答率	21.0%	18.8%	26.7%	21.3%	42.9%	51.5%	55.6%	41.0%
学年回答率	19.1%		22.0%		51.0%		42.2%	

2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

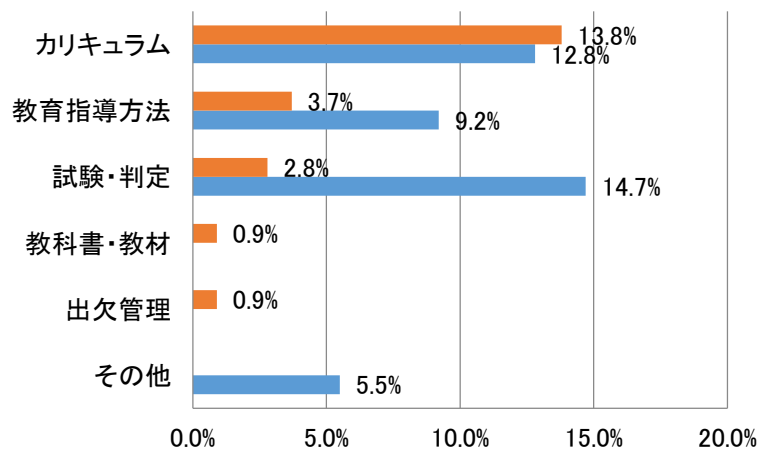


2-3) 教育内容に関する回答内容の平成27年度と平成28年度の比較

2年

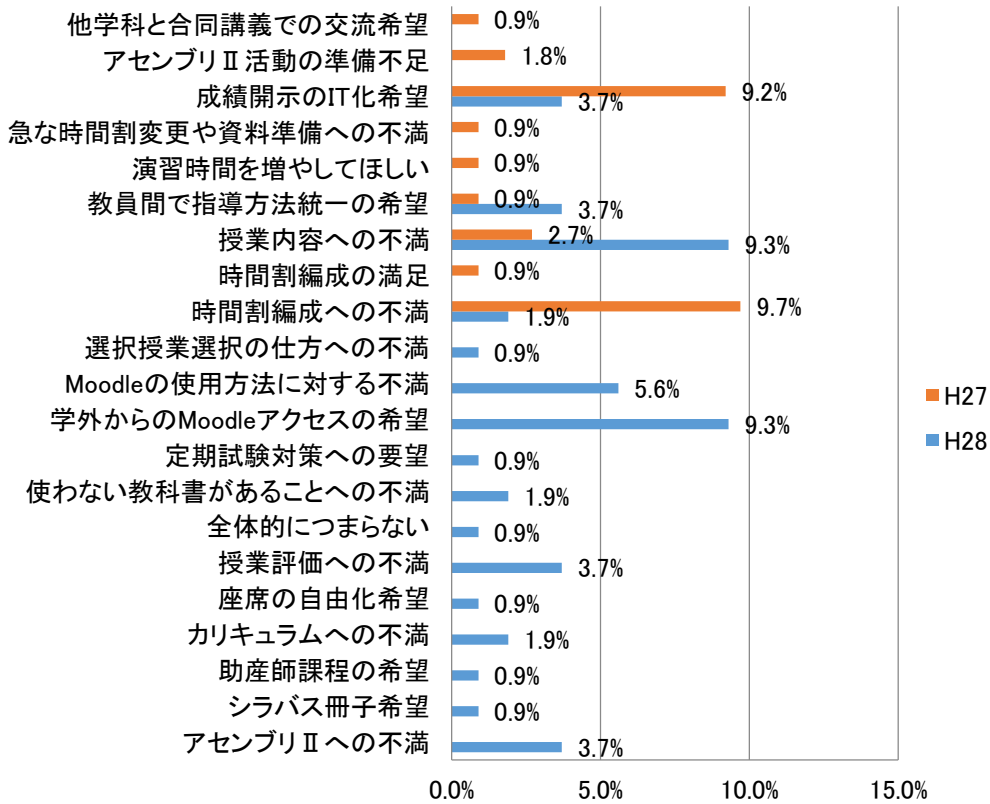


4年

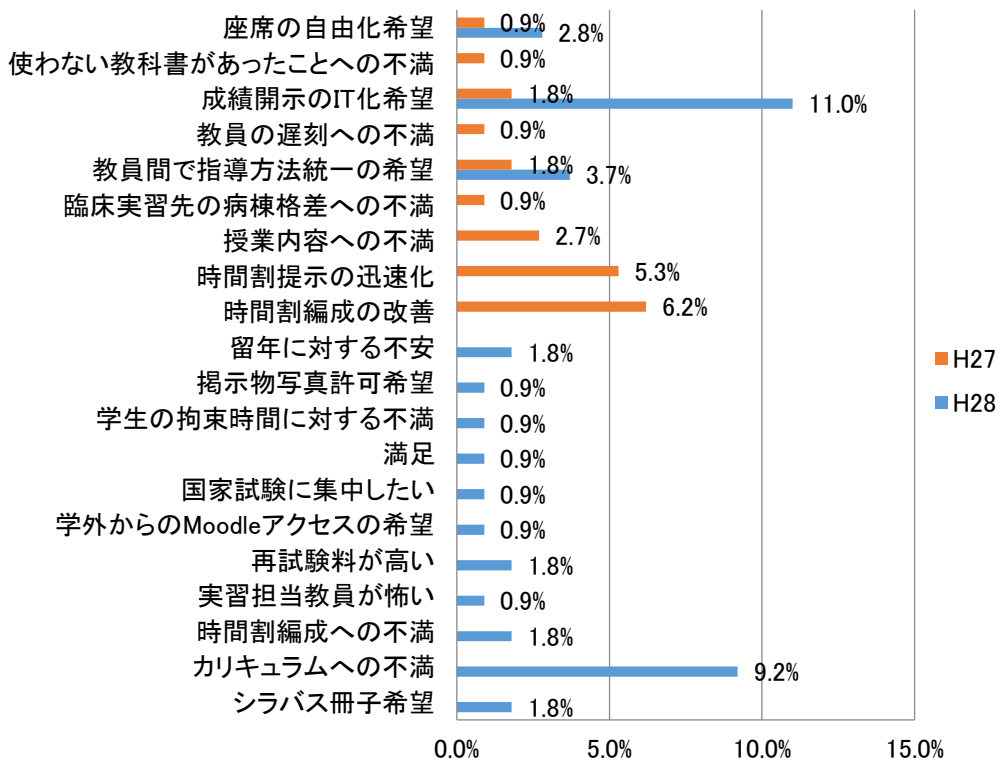


2-4) 教育内容に関する詳細項目における平成27年度と平成28年度の比較

2年



4年



2-5) 小括

平成 28 年度の回答率を平成 27 年度と比較すると、2 年生、4 年生ともに大幅に増加していた。2 年生は、「教育指導方法」、4 年生は「試験・判定」が増加した。

内容の詳細をみてみると、2 年生は、「Moodle の使用方法に対する不満」「学外からの Moodle アクセスの希望」が新たに出されていた。現在、Moodle は、学外からアクセスが可能になっていることから、今後は、アクセスについての不満は軽減されると考えられる。しかし、Moodle が分かりにくいといった不満があることから、Moodle を使用する機会を増やし、日常的に活用していけるような環境を作ることが必要になると考えられる。4 年生においては、「成績開示の IT 化希望」が最も多かった。生涯教育研修センター 2 号館（以下生涯 2 号館とする）は、無線 LAN の使用が可能であることから、IT 化への希望が増加していると考えられる。

2 年生においては、昨年に引き続き、「アセンブリⅡへの不満」がみられていることから、活動の意義などの周知徹底が必要と考えられる。また、少数であるが、2 年生、4 年生ともに、「座席の自由化希望」が根強く残っている。

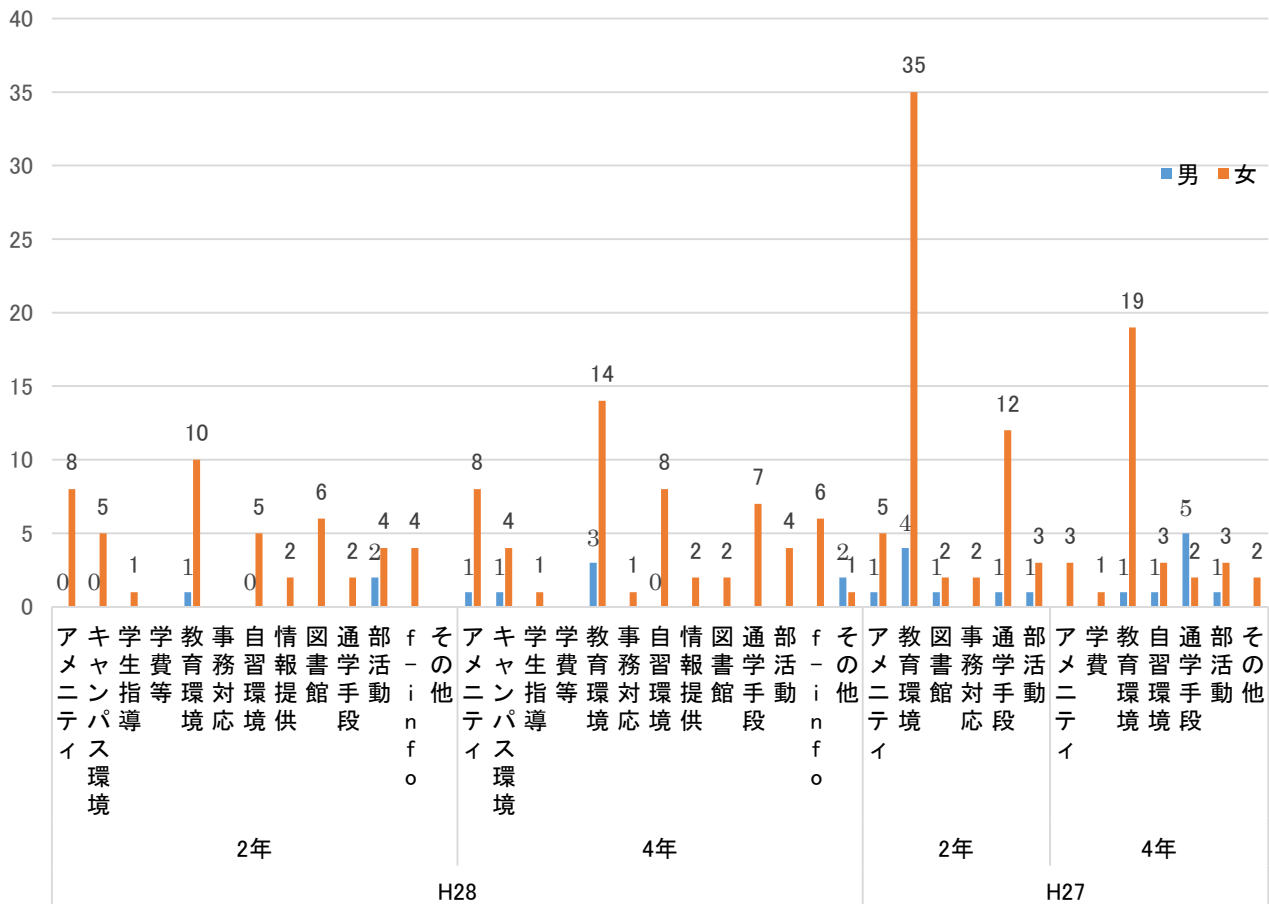
2 年生、4 年生ともに、「授業内容への不満」「教員間で指導方法統一の希望」があげられている。学生の授業評価アンケート等を参考にしつつ、授業の改善図っていく必要がある。

3) 生活環境

3-1) 回答率

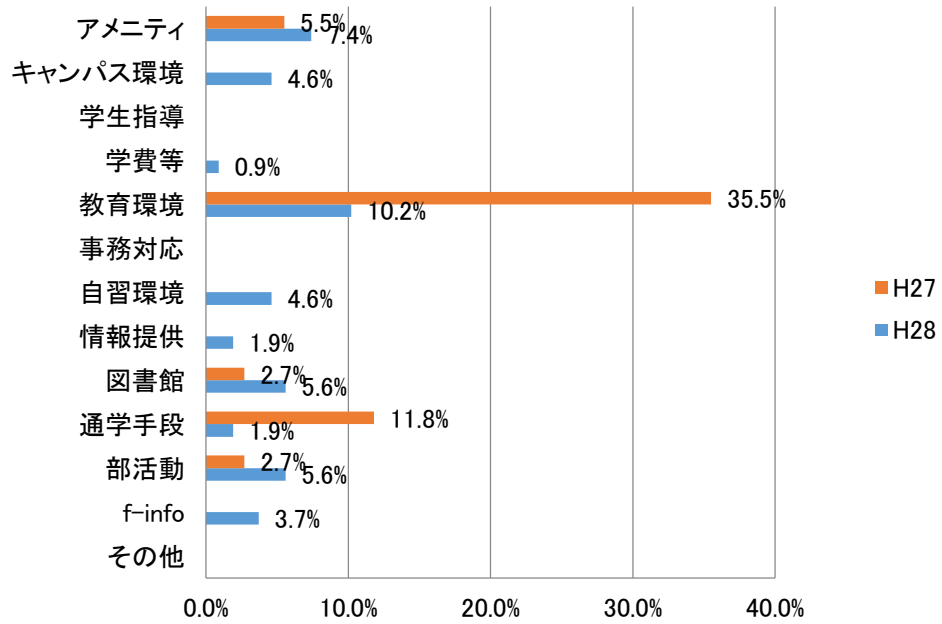
年度 学年回答率	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数(人)	7	59	5	38	4	46	6	61
回答率	50.0%	68.6%	7.7%	42.4%	57.1%	45.6%	66.7%	61.0%
学年回答率	65.5%		38.1%		46.3%		61.5%	

3-2) 生活環境に関する回答内容の内訳

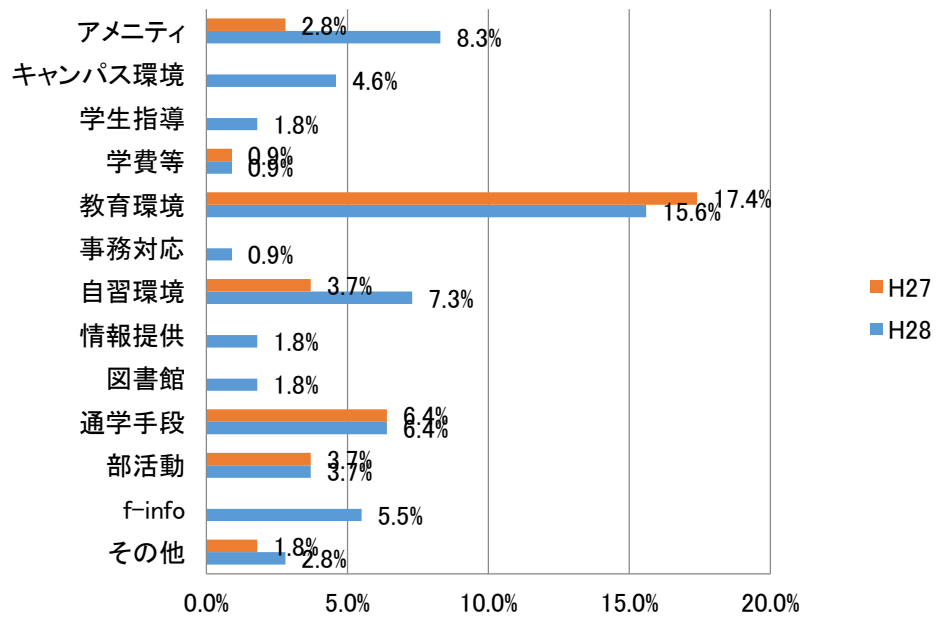


3-3) 生活環境に関する回答内容の平成27年度と平成28年度の比較

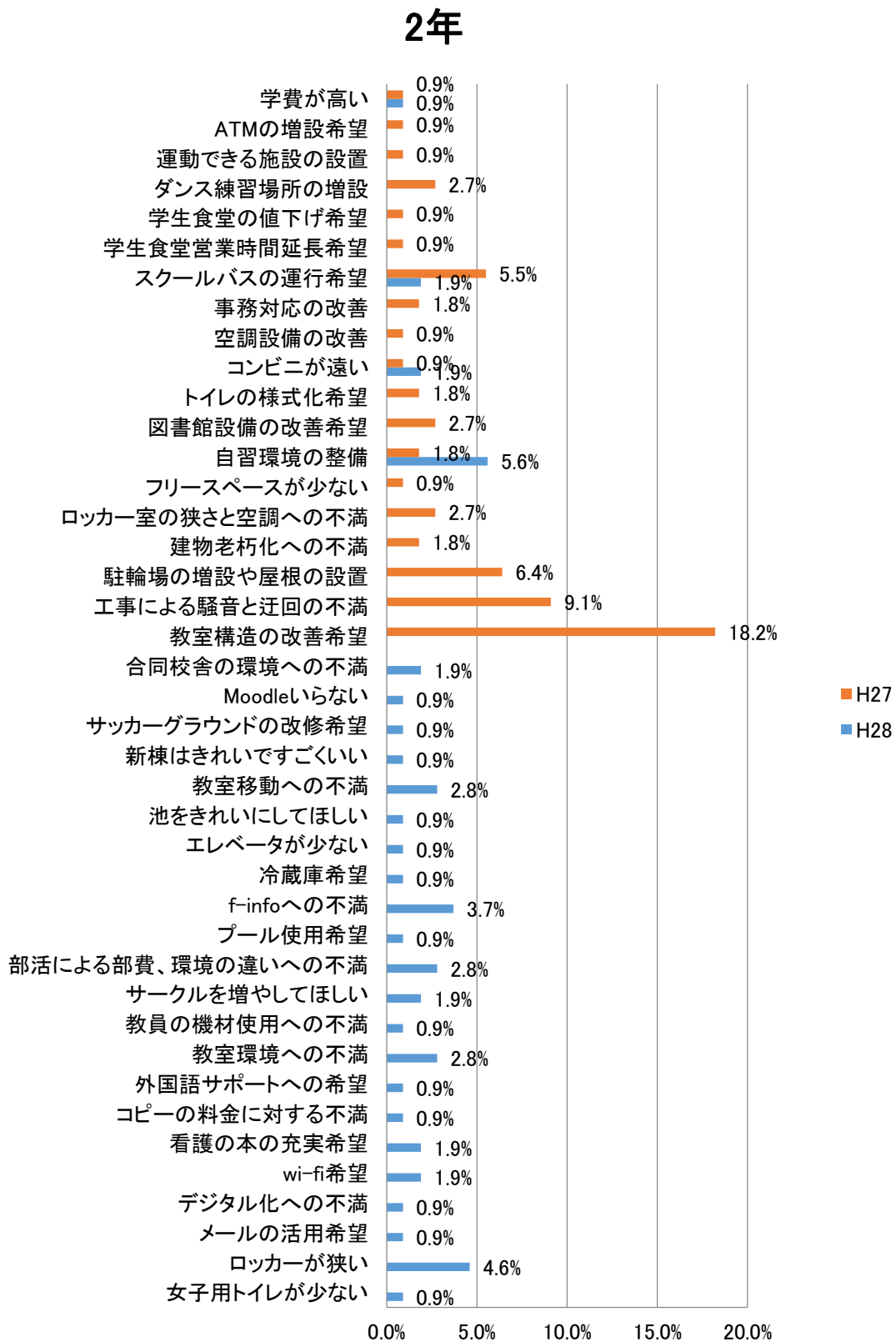
2年



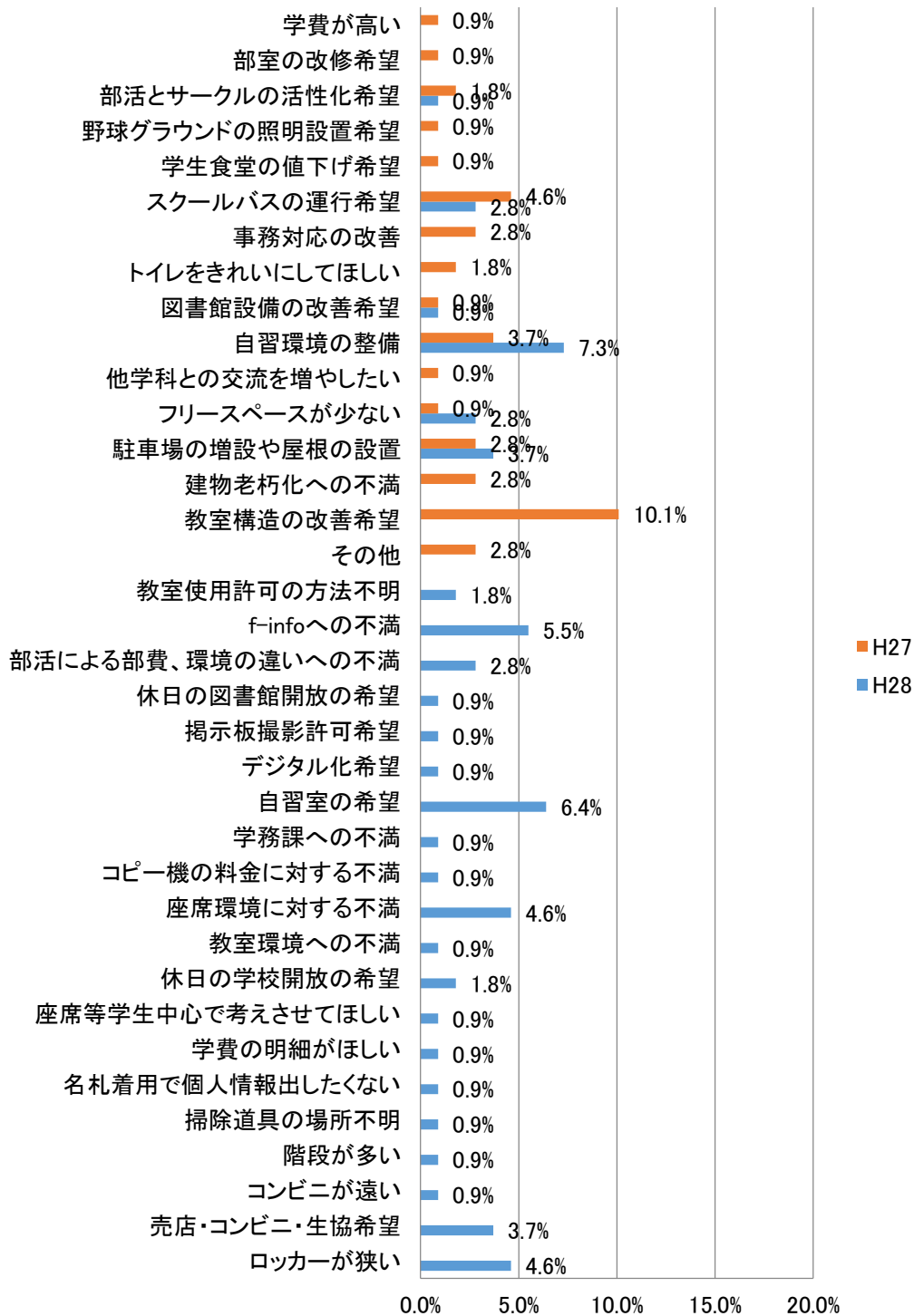
4年



3-4) 生活環境に関する詳細項目における平成27年度と平成28年度の比較



4年



3-5) 小括

生活環境の回収率は、2年生 46.3%、4年生 61.5%であり、他の項目より高く、生活環境に関する要望は多かった。平成 27 年度は、2 年生、4 年生ともに「建物老朽化への不満」「教室構造の改善希望」が多かったが、生涯 2 号館への移転に伴い、大幅に減少した。しかし、生涯教育研修センター 2 号館 5 階、6 階は小教室がないこと（医療科学部 6 号館は小教室が設置されていた）やこのアンケートが実施される時期においては、演習室、グループワーク室の使用についての取り決めが、充分でなかったことで、自習室への不満が目立った。

現在、ルールを守ることで、生涯教育研修センター 2 号館 6 階の演習室、グループワーク室の使用は可能になっているため、不満は減少していくことを期待したい。医療科学部 3 号館と移動距離が長かったため、生涯 2 号館に移転にともない、問題は消失するかと期待したが、講義室と実習室の建物が別々であることへの不満が新たに出された（生涯 2 号館には教室は 3 部屋であり、合同校舎と合わせて 4 部屋となっている）。

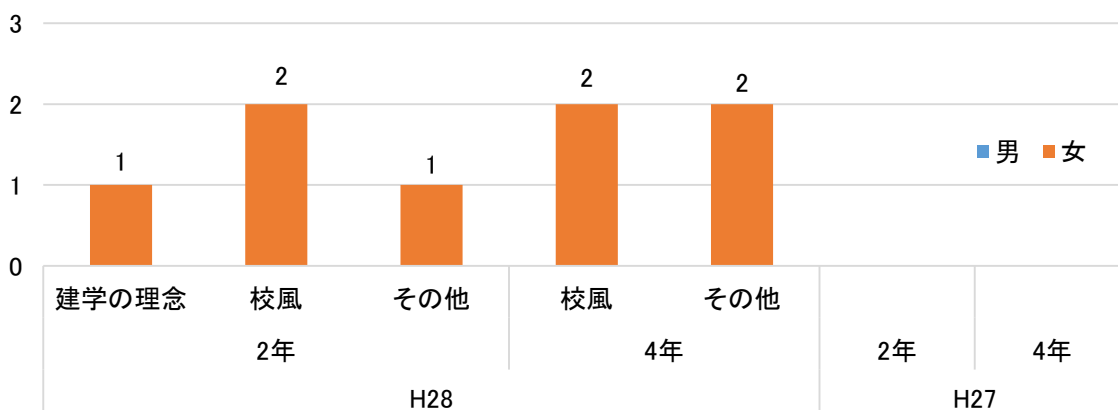
「スクールバスの運行希望」については、根強く希望が出されている。交通公共機関によるアクセスの悪さから、今後も要望が出されることが予測されるが、PSA 委員会においても要望として挙げられている内容であり、把握できている。

4) 特色

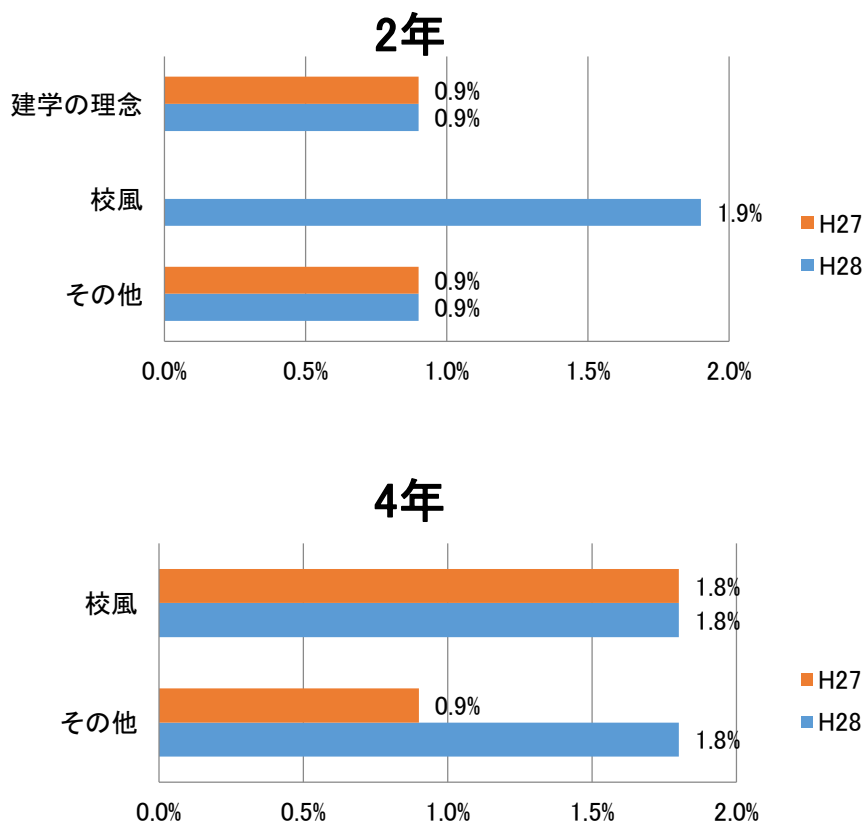
4-1) 回答率

年度	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数(人)	0	0	0	0	0	4	0	4
回答率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	4.3%
学年回答率	0.0%		0.0%		3.6%		3.7%	

4-2) 特色に関する回答内容の内訳

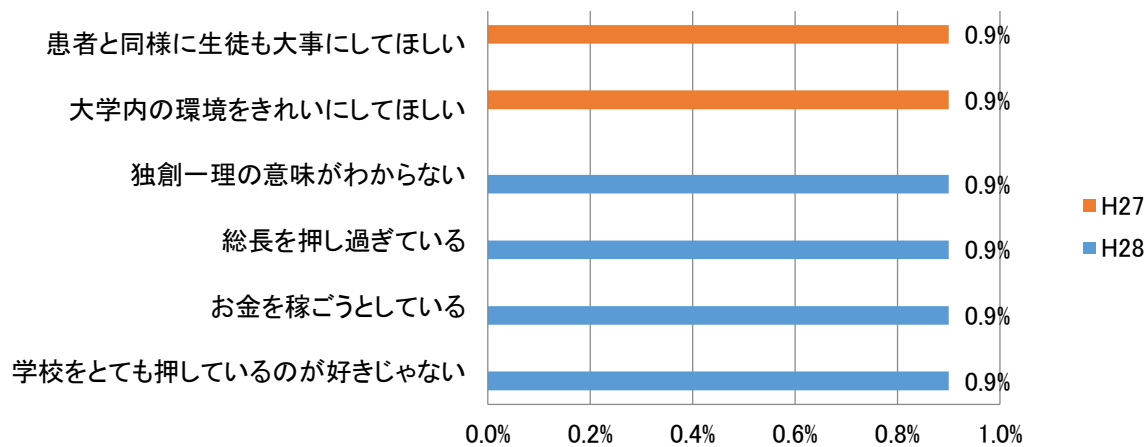


4-3) 特色に関する回答内容の平成 27 年度と平成 28 年度の比較

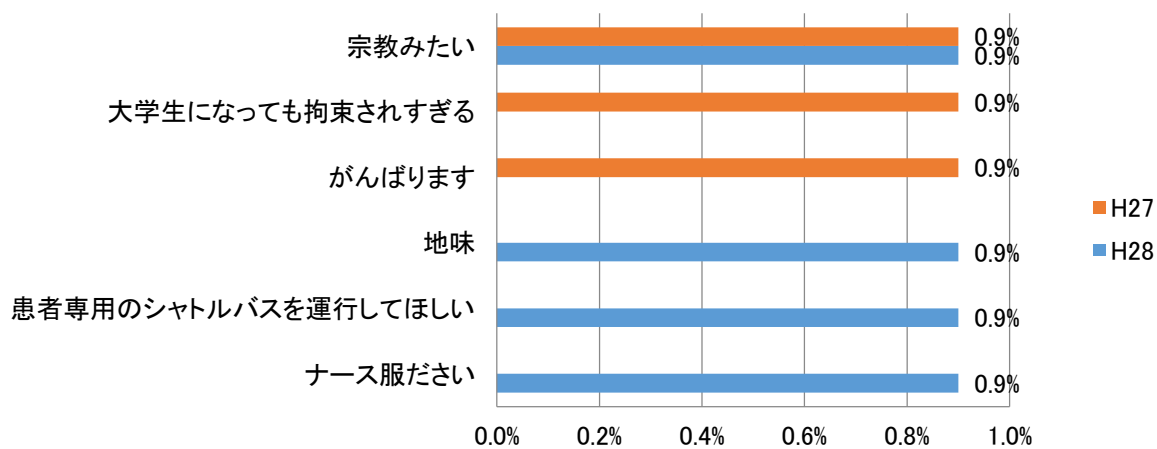


4-4) 特色に関する回答内容の詳細について平成27年度と平成28年度の比較

2年



4年



4-5) 小括

特色についての回答率は低く、平成 28 年度は 8 件であり、2 年生、4 年生各々 4 件であった。4 年生においては、昨年も出されていた「宗教みたい」という回答があった。また、2 年生、1 名であったが、建学の理念である「独創一理」を理解していない者がいた。藤田イズムを継承するにあたり、周知徹底していく必要がある。

5) 総括

平成 28 年度は、教育内容、生活環境、特色、いずれにおいても回答率が高くなっていた。

教育内容については、昨年から引き続き、成績開示の IT 化希望が多い。今後、医療科学部においては、LAN 環境が整備されていくため、学生の要望に応えられる環境が整っていくことを期待したい。また、平成 28 年度は、Moodle に関する内容が多く出されていた。現在、学外からのアクセスが可能になったが、Moodle がわかりにくいという意見もあることから、Moodle を使用する機会を増やし、日常的に使用できるよう、教員側の努力も必要になってくる。また、2 年生、4 年生ともに、「授業内容への不満」「教員間での指導方法統一の希望」が挙げられている。学生の授業評価アンケート等を参考にしつつ、授業の改善を図っていく必要がある。

生活環境については、生涯 2 号館移転に伴い、「建物老朽化への不満」「教室構造の改善希望」が大幅に減少した。しかし、アンケートが実施された時期において、演習室やグループワーク室の使用についての取り決めが明確になっていなかったこともあり、自習室やフリースペースが少ないという不満があった。現在は、ルールに則り、学生の使用可能であることから、この不満は軽減されていくことを期待したい。生涯 2 号館に移転前は、医療科学部 6 号館での授業、医療科学部 3 号館で演習を行っていたため、移動距離が長かった。現在、演習は、生涯 2 号館から合同校舎への移動となったことから、問題は消失するかと期待したが、講義室と実習室の建物が別々であることや合同校舎への不満が出されていた。

特色については、平成 27 年度は回答がなかったが、平成 28 年度は多くはないものの、回答があった。中でも、建学の理念である「独創一理」を理解していない者が 1 名いた。藤田イズムを継承するにあたり、周知徹底していく必要がある。

3. 放射線学科

放射線学科における平成 27 年度調査と平成 28 年度調査の概要および比較

1) 対象学生について

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	34	25	22	38	34	25	35	28
計	59		60		59		63	

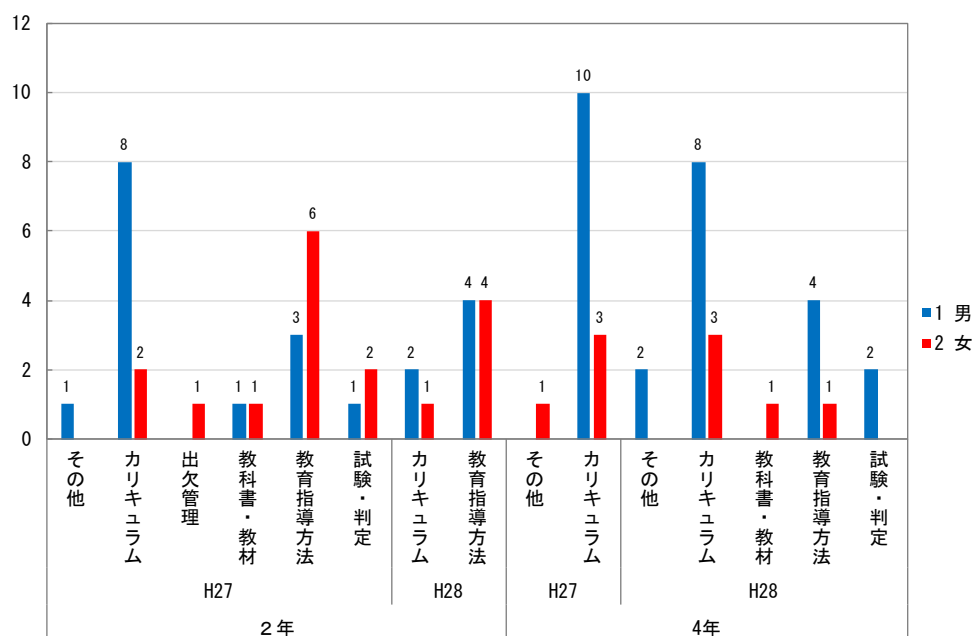
2) 教育内容

2-1) 回答率

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	34	25	22	38	34	25	35	28
回答数	14	12	8	3	6	5	16	5
回答率	41.2%	48.0%	36.4%	7.9%	17.6%	20.0%	45.7%	17.8%
学年回答率	44.1%		18.3%		18.6%		33.3%	

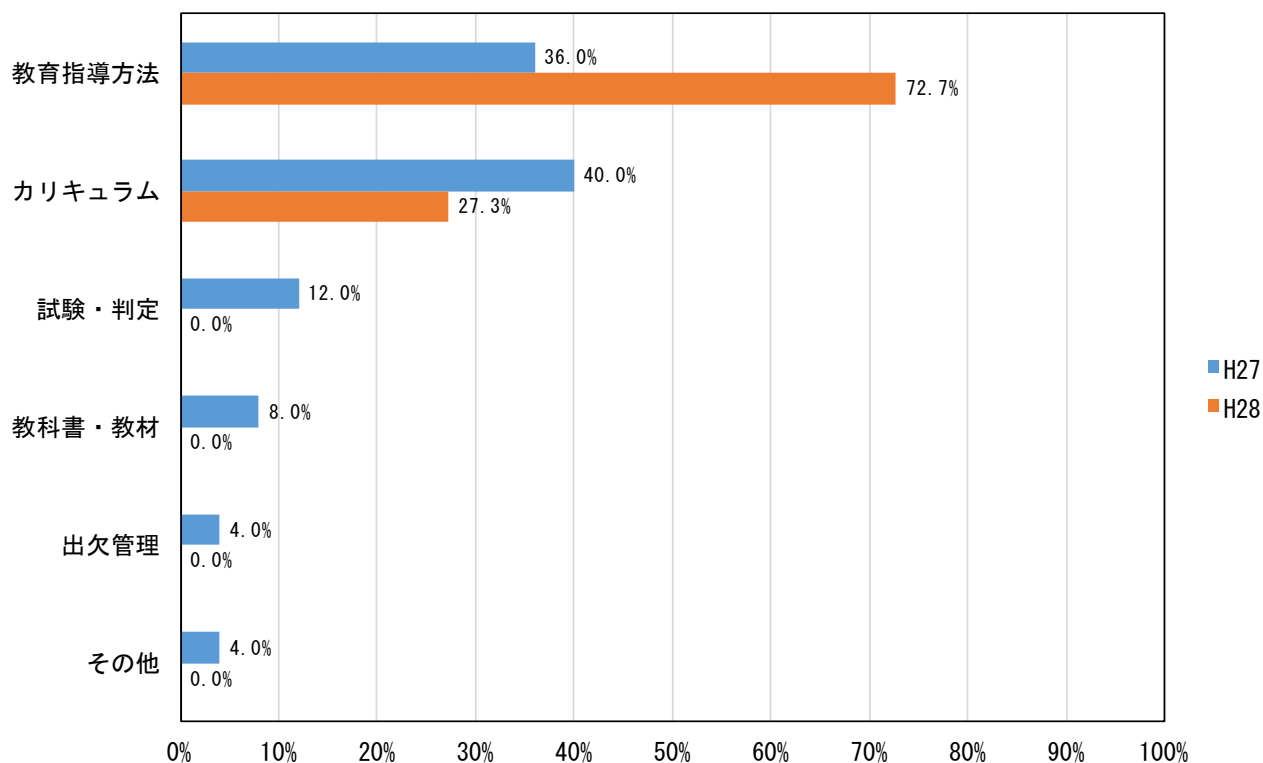
2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

(単位：人)

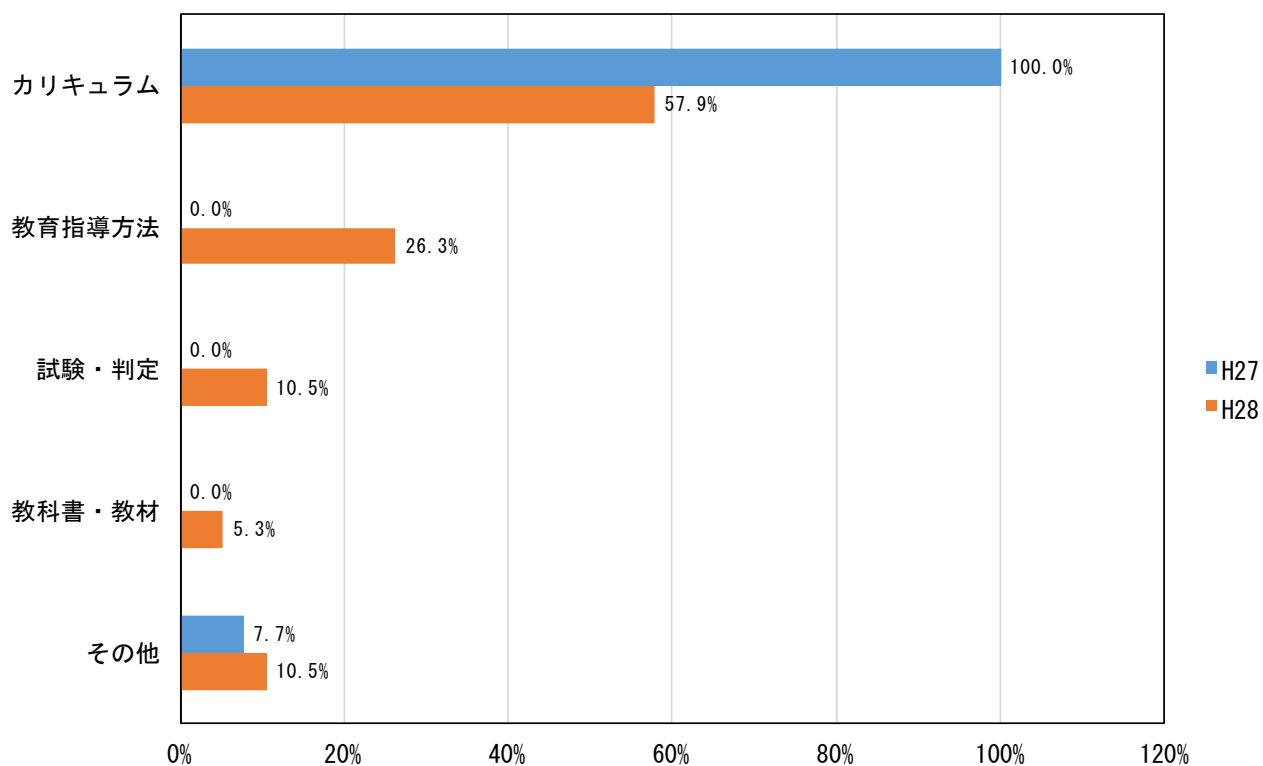


2-3) 教育内容に関する回答内容の平成27年度と平成28年度の比較

2年

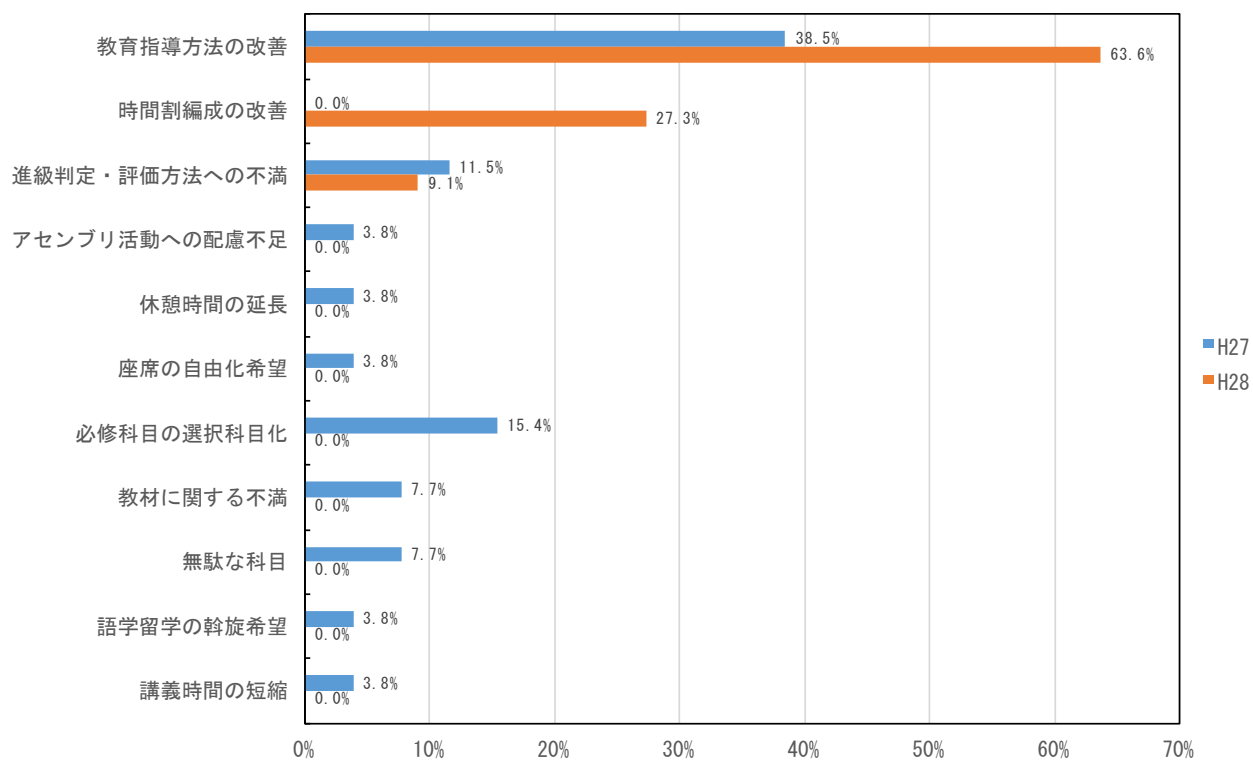


4年

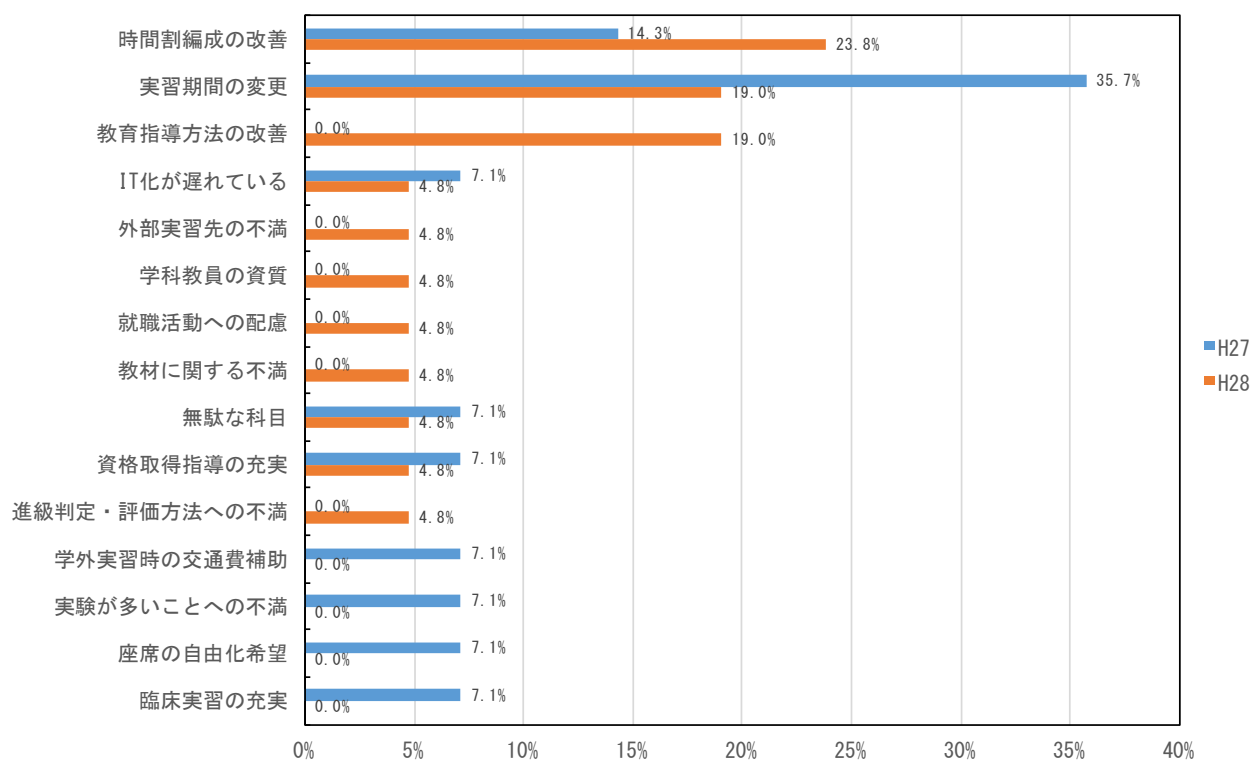


2-4) 教育内容に関する詳細項目における平成27年度と平成28年度の比較

2年



4年



2-5) 小括

平成 28 年度の回答率は平成 27 年度に比べ、2 年生は減少し、4 年生は増加した。男女差でみると 2 年生は男女で回答率に大きな差は無いが、4 年生になると男子のほうが女子よりも回答率が高く、男子は過去の学生生活を振り返って、満足度が低い可能性が高い。年度や学年に関係なく回答の多かったカテゴリーは、主にカリキュラムと学習指導方法に関する内容であった。

回答の詳細項目については、2 年生は教育指導方法に関する要望が最も多く、次いで時間割に関する不満（空きコマが多い）、進級判定・評価方法に対する不満が多かった。特に第 2 外国語に関する意見が多くみられた。今年度から適用する新カリキュラムによって語学学習のスタイルが変わったため、次年度以降のアンケート結果を注視する必要がある。

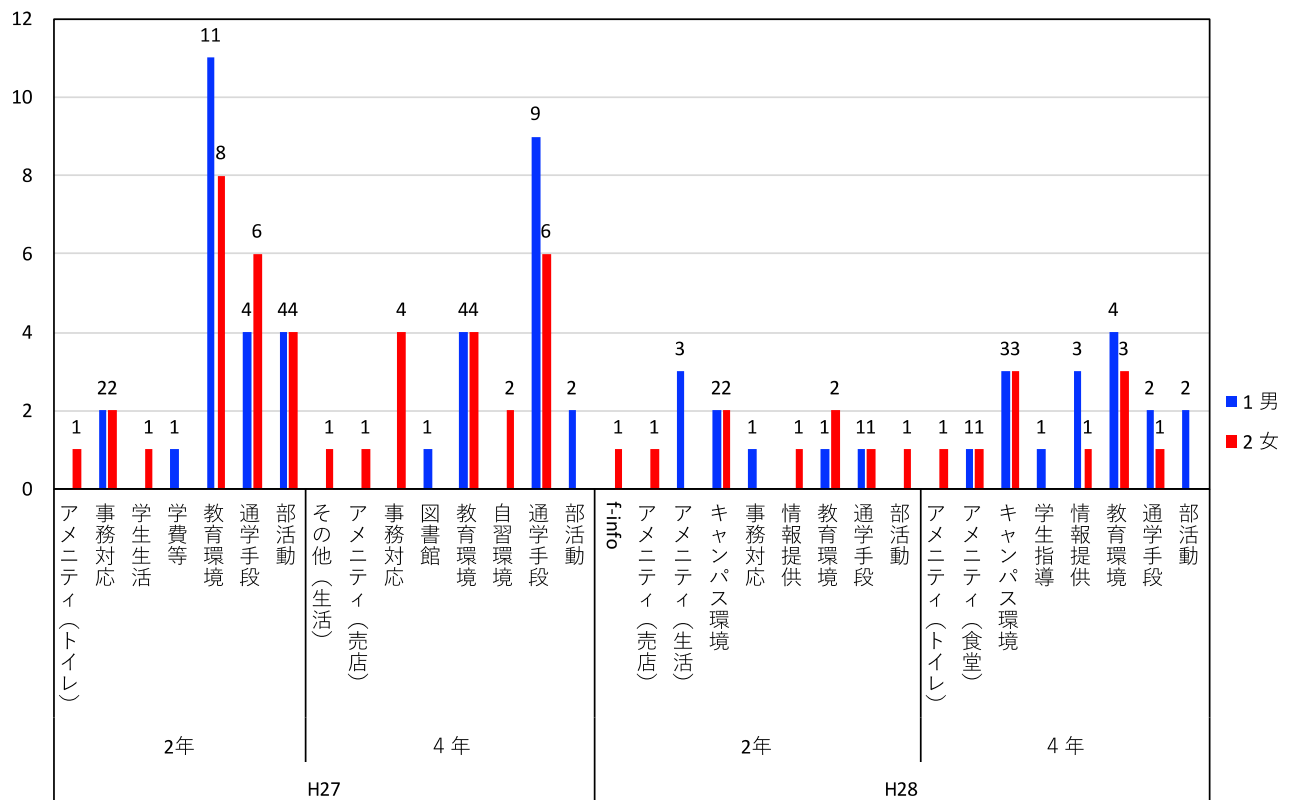
4 年生については、カリキュラムに関して低学年（1・2 年生）と高学年（3・4 年生）の忙しさに大きな格差があることを指摘しており、現行のカリキュラムが学生にとってアンバランスなものになっていることが窺い知れる。今年度から運用される新カリキュラムでは、臨床実習を 3 年後期に前倒しする予定であり、今後は改善の方向に向かうと予想される。次いで、臨床実習期間に関する意見が多く、就職活動と実習が重なることへの不満が強いようである。教育指導方法についても、実習や講義内容の意義や教育方法に関する不満が強い傾向にある。

3) 生活環境

3-1) 回答率

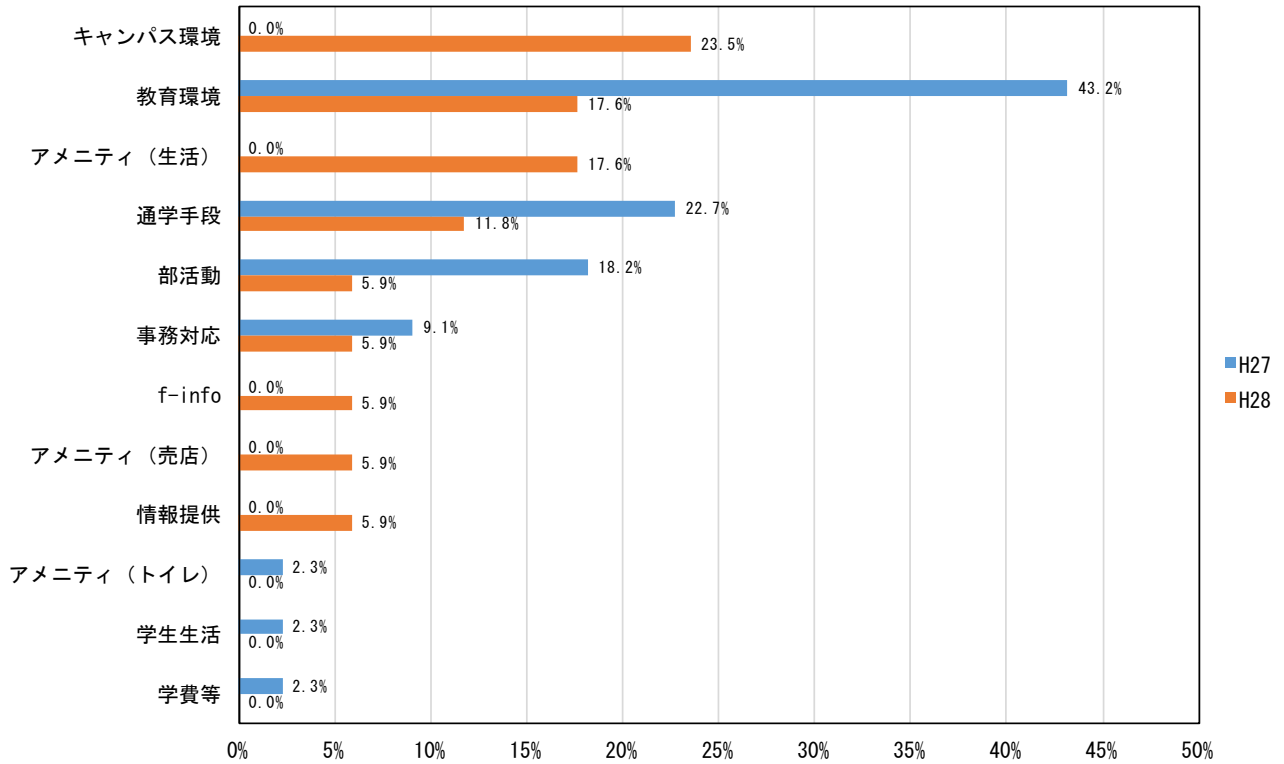
	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	34	25	22	38	34	25	35	28
回答数	20	17	14	17	8	9	16	10
回答率	58.8%	68.0%	63.6%	44.7%	23.5%	36.0%	45.7%	35.7%
学年回答率	62.7%		51.7%		28.8%		41.2%	

3-2) 生活環境に関する回答内容の内訳

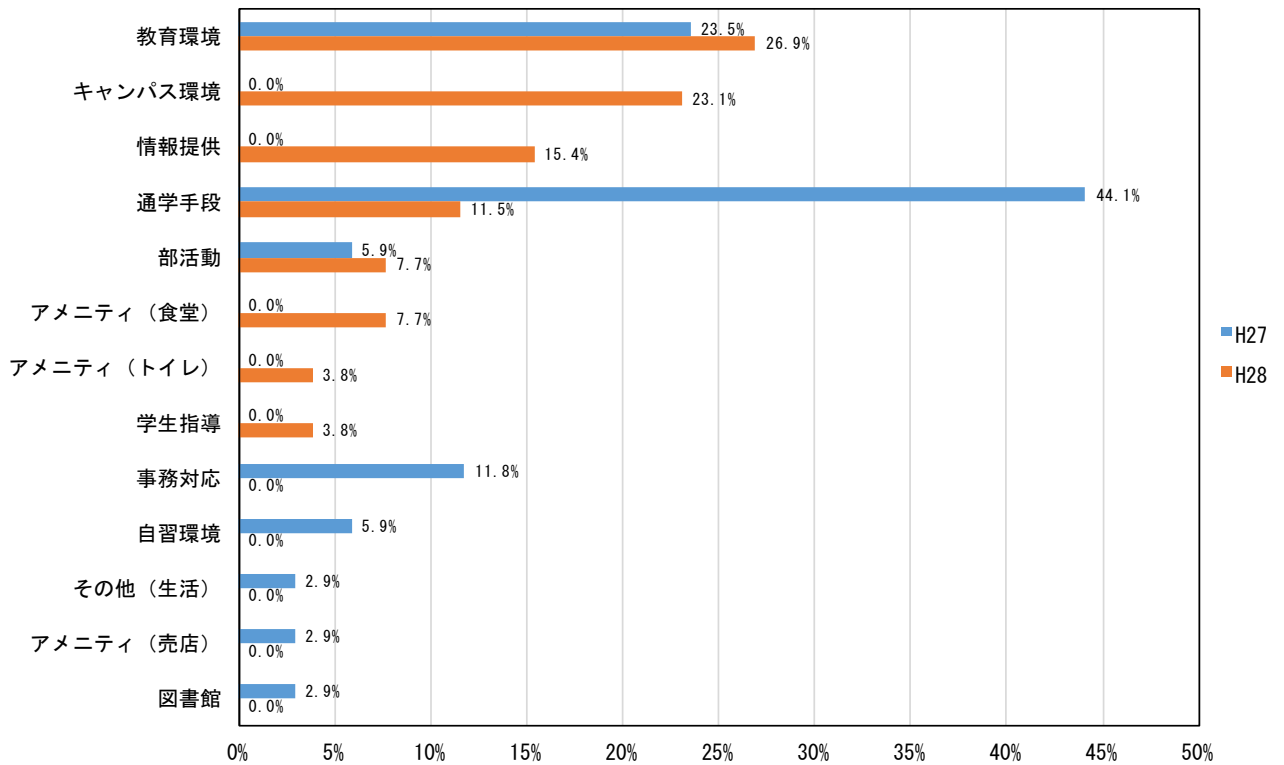


3-3) 生活環境に関する回答内容の平成 27 年度と平成 28 年度の比

2年

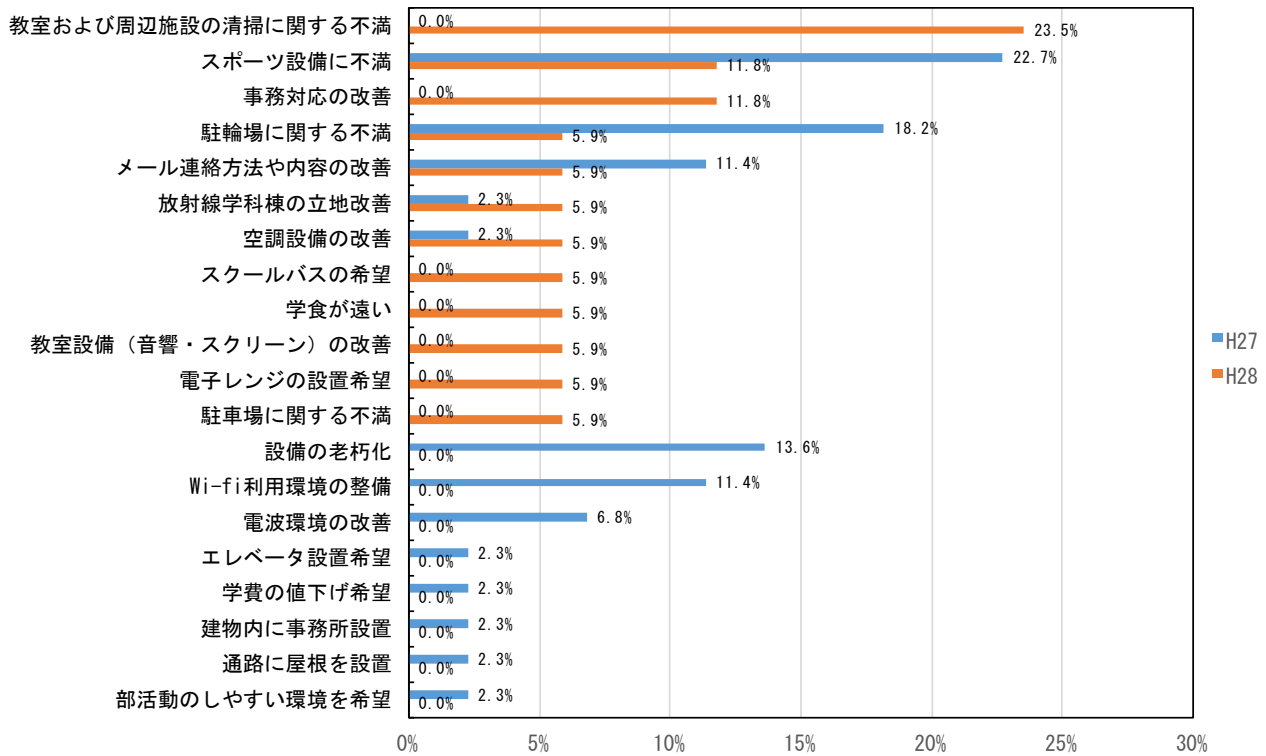


4年

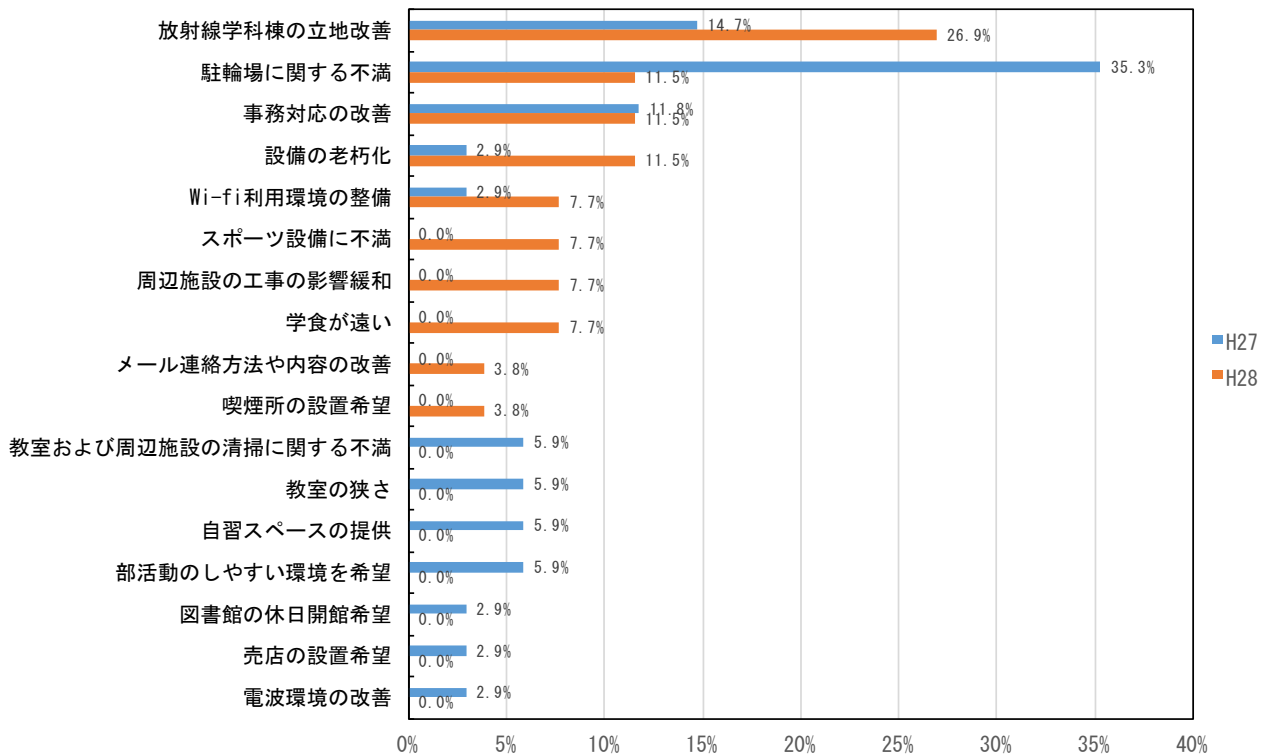


3-4) 生活環境に関する詳細項目における平成 27 年度と平成 28 年度の比較

2年



4年



3-5) 小括

平成 28 年度の回答率は、平成 27 年度に比べ全体的に減少している。特に 2 年生の意見が半減しており、これは新棟に移動し環境が改善したことを示唆している。一方で 4 年生の意見は前年よりやや減少した程度であり、根強い不満があることが窺い知れる。

回答内容の内訳は、2 年生ではキャンパス環境や教育環境、アメニティに関するものが多く、4 年生では教育環境、キャンパス環境、情報提供の順に多かった。

回答の詳細項目については、2 年生と 4 年生で大きく回答内容が異なる結果となった。2 年生については教室および周辺施設の掃除が行き届いていないという指摘が最も多く、次いで、クラブ活動で使用するスポーツ設備への不満、事務対応に関する不満が多かった。昨年まで指摘されていた、Wifi 環境の整備や電波状況の改善については回答がゼロとなり新棟の環境で解決したことがわかる。4 年生については、5 号館が学食や事務など大学のアメニティ施設から遠く不便であることを訴える意見が多かった。また、自転車通学する学生にとっては駐輪場が遠いという不満も多い。さらに、5 号館は無線 LAN サービスが提供されておらず、携帯電話の電波も弱いキャリアが存在する。就職活動で連絡を常に気にしている学生が多いので、早急に解決すべき課題である。また、教室の椅子および机の改善を求める声も多い。これについてはアンケート後に 5 号館で学生が使用する教室にて改装が行われたため、不満の多くは解消するものと思われる。

4) 特色

4-1) 回答率

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	34	25	22	38	34	25	35	28
回答数	0	0	0	1	0	1	2	0
回答率	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	4.0%	5.7%	0.0%
学年回答率	0.0%		1.7%		1.7%		3.2%	

4-2) 回答内容

回答者が少数であったため、回答内容の一覧を以下に示す。

年度	学年	性別	キーワード	回答内容(要約)
H27	4年	2女	校風	伝統はあるが行っていることが古い
H28	2年	2女	校風	雰囲気暗い
H28	4年	1男	その他	教員の資質に関する不満
H28	4年	1男	その他	学費に関する不満

4-3) 小括

特色については、回答率は低く、平成28年は3件、平成27年は1件のみであった。

雰囲気が暗い、古い、という意見は以前から見られたが、今年は大学の学費や教員に関する意見がその他の項目として得られている。

5) 総括

平成28年度の自由記載回答数は70件であり、平成27年度の106件と比較すると約7割弱に減少している。学年別に回答数をみると2年生の回答数が半減している。これは生涯教育2号棟に2年生が移動したことによって、場所や設備の面で利便性が向上し、不満が減少したことが理由のひとつとして考えられる。

教育面では、カリキュラムや教育指導方法に関する意見が多く、学年によって忙しさが違うことへの不満や、特定科目の教育指導方法や科目の取り扱いに関する要望が主であった。今年度より、これらの要望に基づいて作られた新カリキュラムの運用が始まっているため、次年度以降の回答内容が改善されるか注意して確認していく必要がある。

生活環境では、通学手段、教育環境に関する意見が多く、5号館に在籍する4年生については駐輪場が遠いことへの不満や、電波環境が悪くWi-Fiサービスを望む声が多く見られた。これらの意見を真摯に捉え、旧校舎でもインフラ整備を行っていくことが必要である。

特色に関する意見は少ないが、例年大学の校風を古い、暗いと表現する学生が多かった。

少子化で受験人口は減少し続ける中、放射線技師を育成する大学は毎年新設されている。良質な学生を確保するには、時代にマッチした魅力ある大学創りや学生教育が求められる。今回の調査で得られた教育内容、生活環境、特色に関する学生からの意見について、誠意を持って検討を行い、施設の改善や教育内容の充実を行っていく必要がある。

4. リハビリテーション学科

4. 1 理学療法専攻

リハビリテーション学科 理学療法専攻における平成 27 年度調査と平成 28 年度調査の概要及び比較

1) 学生について

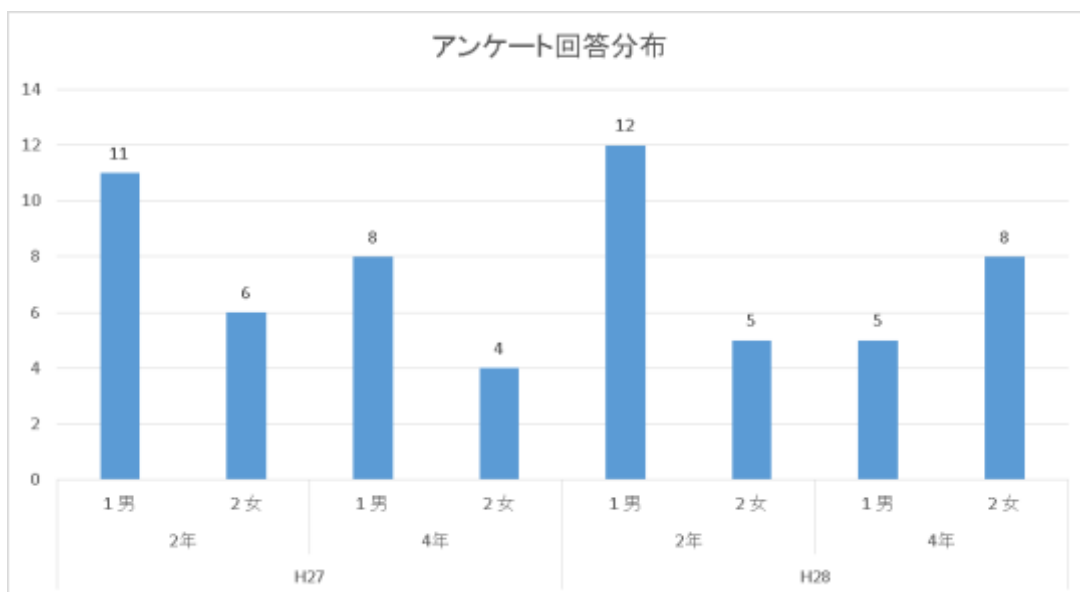
1. 学生数

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	35	26	27	25	36	26	20	35
計	61		52		62		55	

2) 教育内容

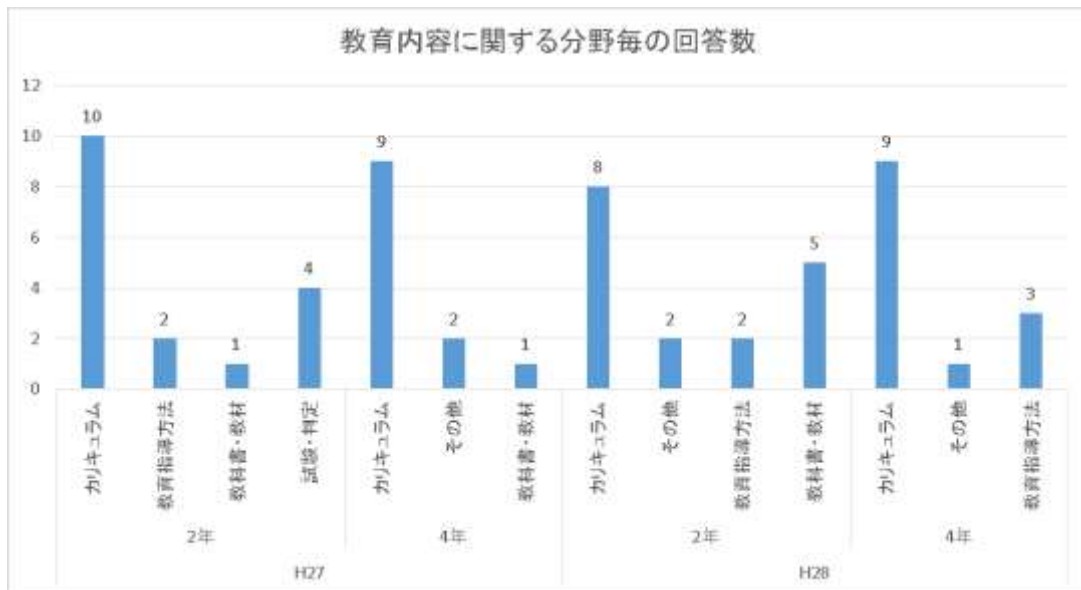
2-1) 回答率

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	35	26	27	25	36	26	20	35
回答数	11	6	8	4	12	5	5	8
回答率	31.4%	23.1%	29.6%	16.0%	33.3%	19.2%	25.0%	22.9%
学年回答率	27.9%		23.1%		27.4%		23.6%	

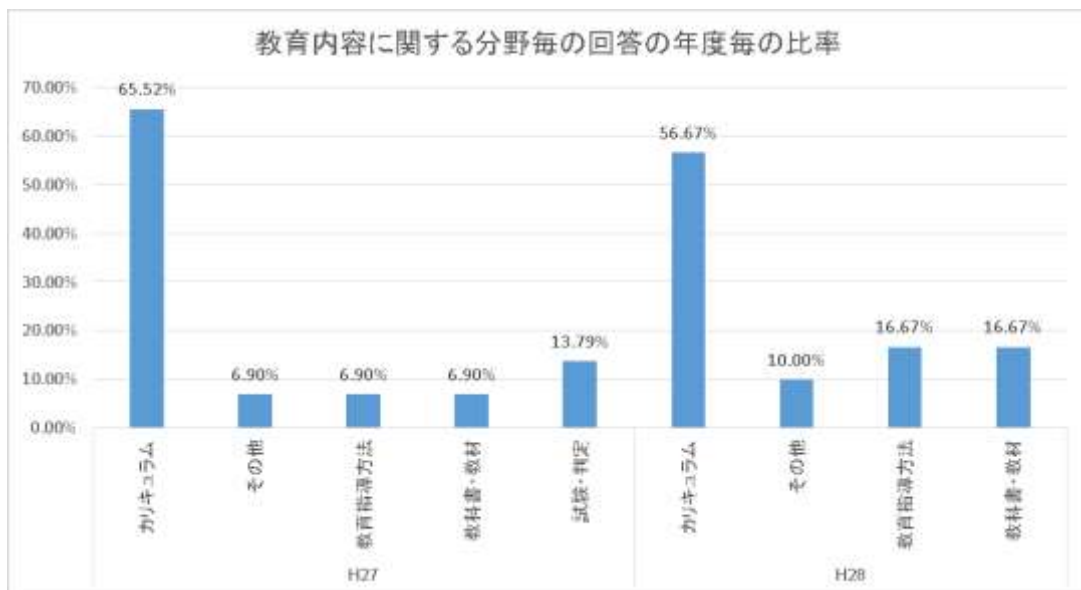


2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

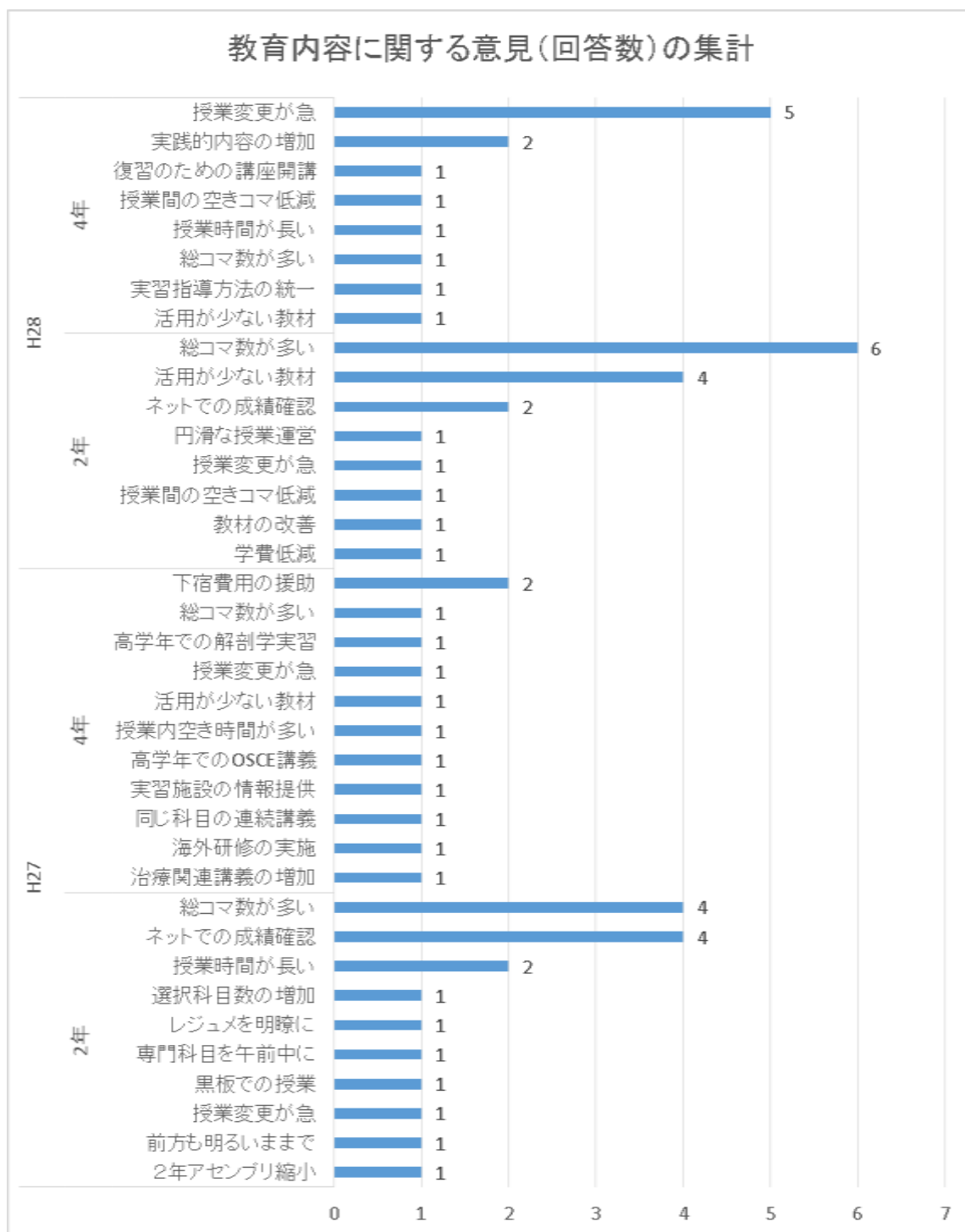
(単位：人)



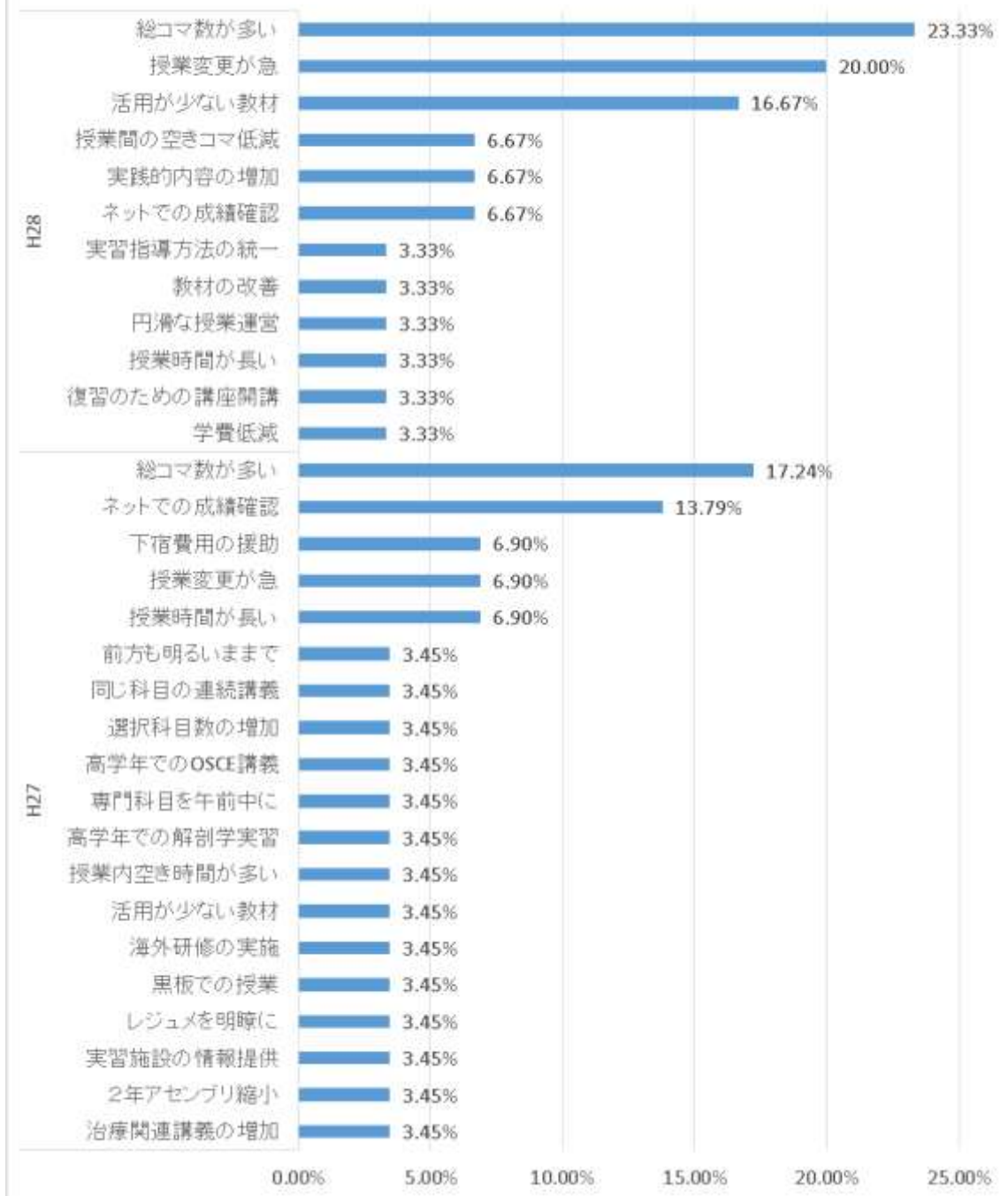
2-3) 教育内容に関する回答内容の平成26年度と平成27年度の比較



2-4) 教育内容に関する詳細項目における平成27年度と平成28年度の比較



教育内容に関する意見(年度毎の回答の比率)



2-5) 小括

今年度(28年度)、カリキュラムについては、41%が講義数に関連する要望であった。数についての要望は総コマ数が多いのではないかと意見で、5限および土曜での授業開講増加につながっているのではないかと意見もあった。一方で、比重を高めてほしい科目としては、高学年での復習のための講座、実習・臨床に則した内容、画像診断についての講義が挙げられていた。その他には、非効率な時間割、平日にもバイトできる日をとった時間割に対する要望、実習時間が長くメリハリがない、授業内でのフィードバック時間が長いといった講義内容に対する要望が挙げられていた。

教育指導方法/教科書/教材については、あまり活用されていない教材について購入の必要があるのか再度検討してほしいといった教材に関する要望が主で、その他レジメ中心での講義希望、レジメは穴埋めが良いといった教育指導法に関する要望もあった。

試験/判定については記載がなかったが、教育指導方法およびその他の項目においてインターネット(ムードル)での成績確認の要望があった。

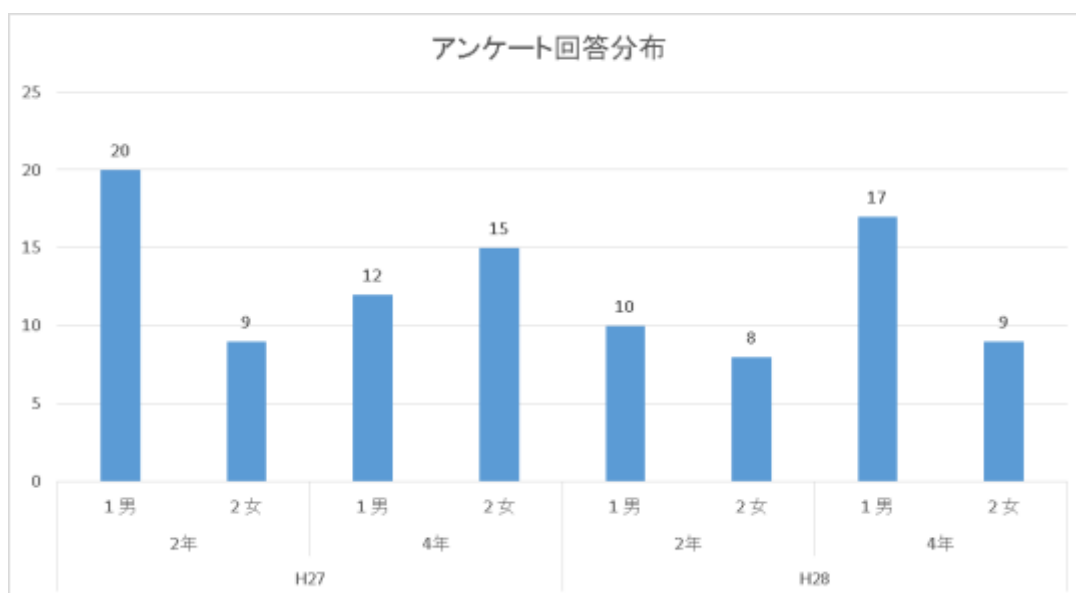
昨年度(27年度)について、理学は29件とほぼ同等の要望数であった。具体的内容について、カリキュラムの32%が講義数に関連する要望で、総コマ数が多いのではないかと、平日空きコマの減少とそれに伴う土曜への授業変更増加につながっているのではないかと意見も複数あった。また、講義数が多いと感じているためか、選択科目数の増加、2年アセンブリの縮小についての要望があった。一方で、比重を高めてほしい科目としては、高学年でのOSCEおよび解剖学実習、海外研修、具体的な治療介入についての講義が挙げられていた。その他には、同じ科目が3限連続だと大変、専門科目は午前中が良いといった時間割に対する要望、授業時間が長く集中を保てない、授業時間内の空き時間が多いといった講義内容に対する要望が挙げられていた。教育指導方法/教科書/教材については、前方を暗くしないでほしい、黒板を使ってほしいといったスライド以外での講義形式の要望や、授業評価アンケートでレジメの不明瞭さを指摘したのに十分に改善しない、あまり活用されていない教材について購入の必要があるのか再度検討してほしいといった教材に関する要望であった。試験/判定についてはすべてがインターネットでの成績確認の要望であり、他人に知られずに済むといった理由が添えられたものもあった。

昨年度(27年度)と今年度(28年度)との比較について、28年度は総コマ数が多い、授業変更が急、活用が少ない教材、の3項目の比率が増加しており対策が必要と考える。また、実習・臨床に則した内容充実、長時間の講義、レジメ改善、ネットでの成績確認については継続して要望が挙がっており、対応が必要と考える。

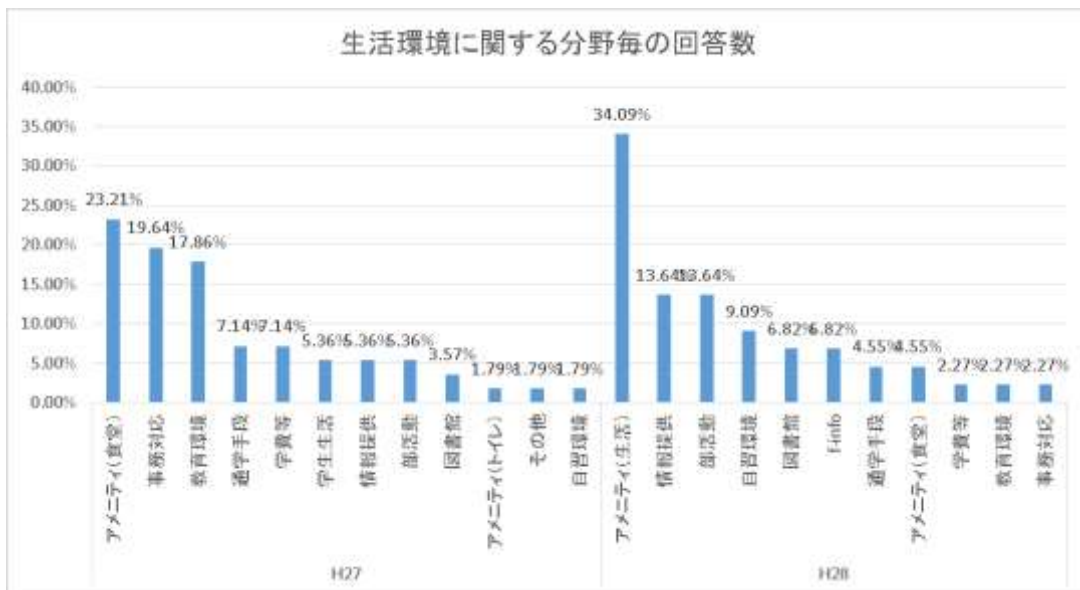
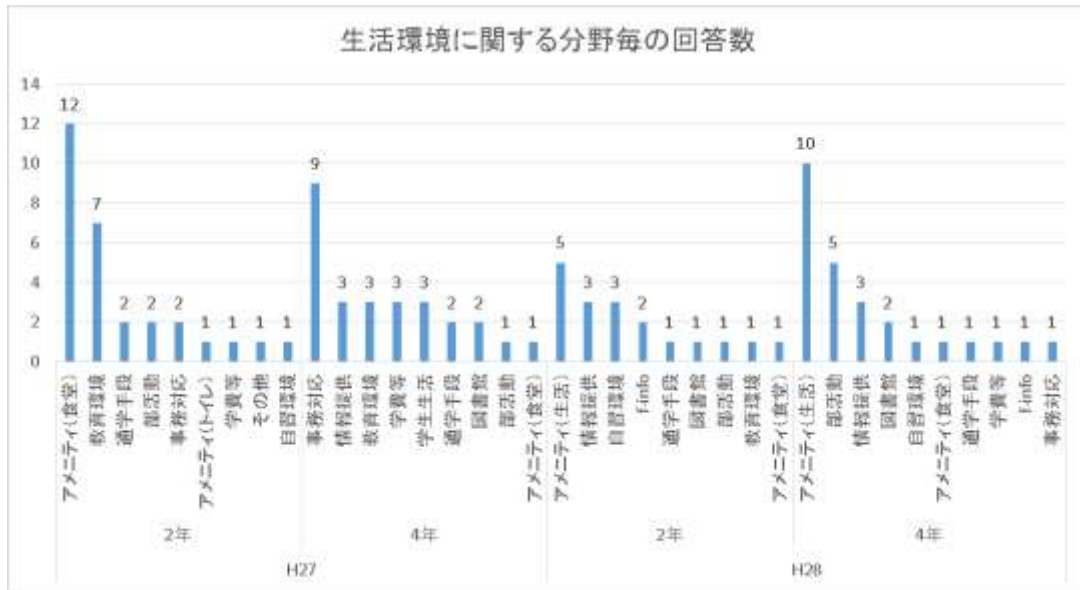
3) 生活環境

3-1) 回答率

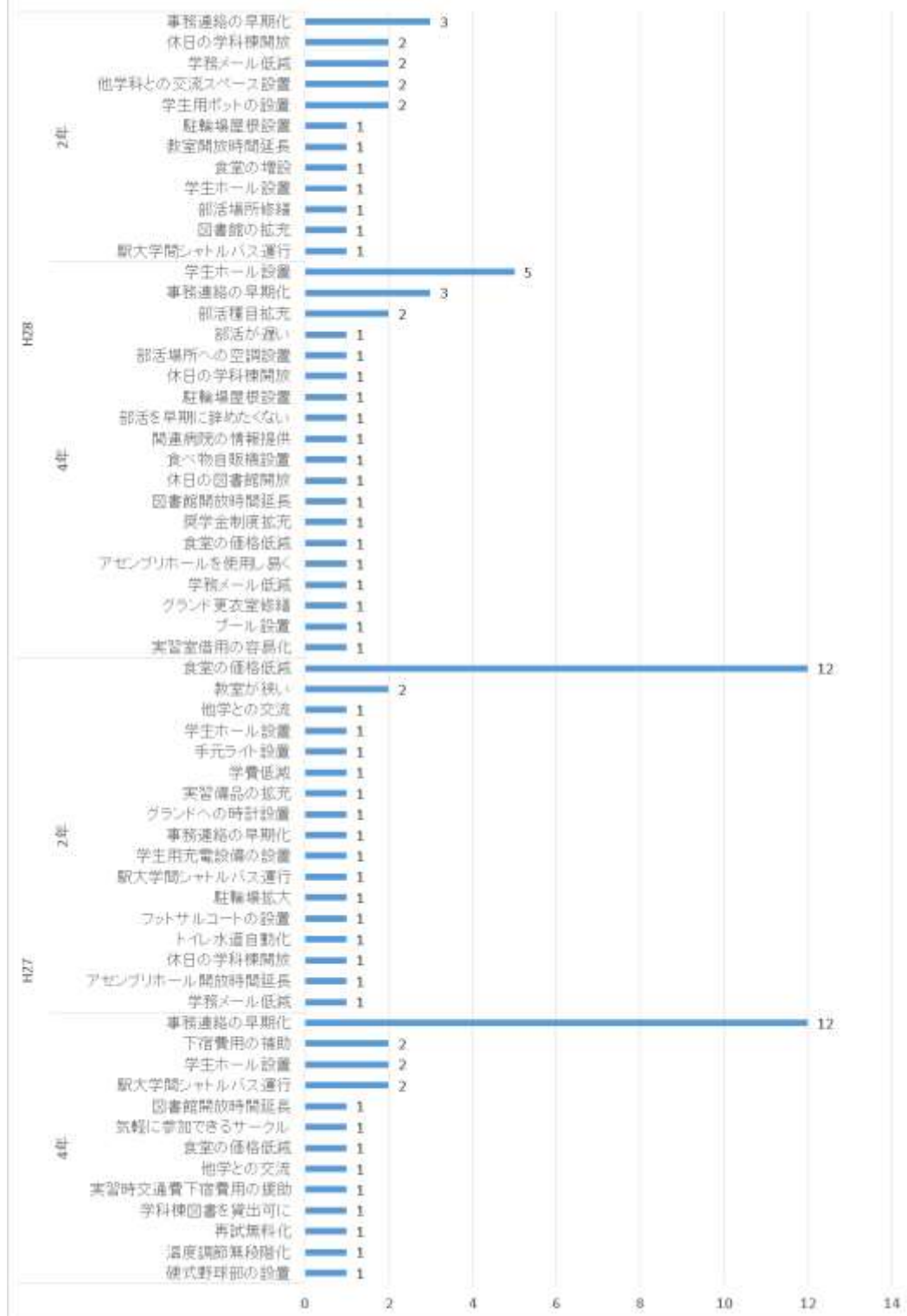
	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	35	26	27	25	36	26	20	35
回答数	20	9	12	15	10	8	17	9
回答率	57.1%	34.6%	44.4%	60.0%	27.8%	30.8%	85.0%	25.7%
学年回答率	47.5%		51.9%		29.0%		47.3%	



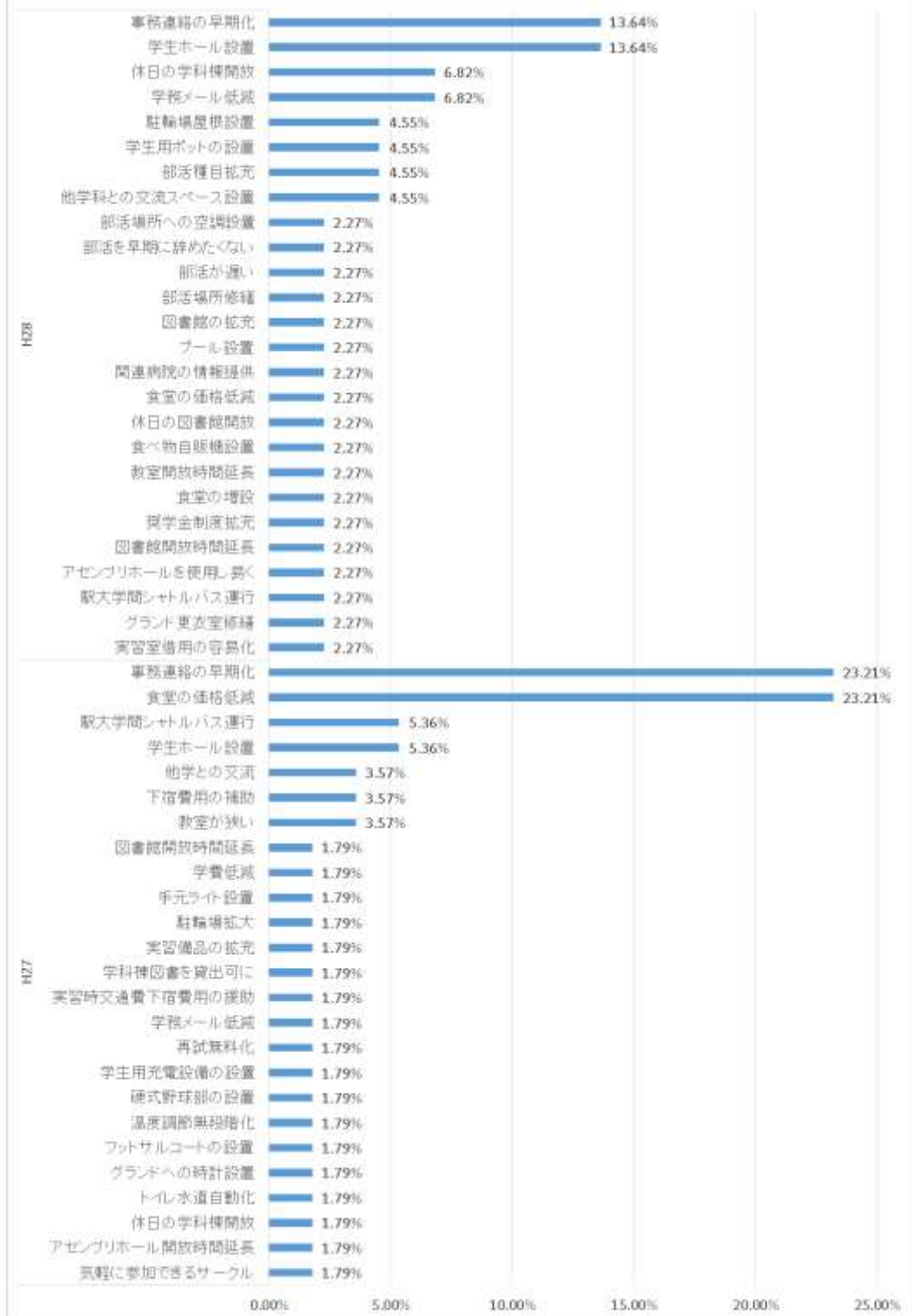
3-2) 生活環境に関する回答内容の内訳



生活環境に関する意見(回答数)の集計



生活環境に関する意見(年度毎の回答の比率)



3-5) 小括

今年度(28年度)、アメニティ(生活)については、34%と最も要望が多かった。学生ホールを設置してほしいとの意見が多く、学生用ポット/食べ物自販機の設置、他学科との交流スペース設置などについても要望が挙がった。

事務対応(情報提供含む)については、ほぼすべてが予定変更連絡を出来るだけ早くしてほしいといった内容であった。

部活動については、種目拡充、活動場所の修繕/空調設置といった要望が挙げられた。教育環境(自習環境含む)については、他学科との交流スペースの設置の要望が挙がった。また、21時以降および休日の教室/図書館の開放等、利用時間延長の要望も多かった。

図書館については、図書拡充、自習スペース設置、7号館図書室の書籍貸出、開館時間の延長の要望が挙がった。

通学手段については、スクールバスの運行、アセンブリホール近くの自転車置場への屋根設置が挙げられた。

学費等については、種類拡充が挙げられた。その他f-infoについては学務メール低減、アメニティ(食堂)については食堂増設/価格低減が挙げられた。

昨年度(27年度)について、理学56件であり、28年度より多かった。具体的内容について、食堂が23%と最も要望が多かった。値段が高いとの意見が多く、生協の導入、味や職員態度の改善、夜間営業についても要望が挙がった。事務対応(情報提供含む)については、ほぼすべてが予定変更連絡を出来るだけ早くしてほしいといった内容であった。教育環境については、手元ライト、充電設備、学生ホール、寮の設置の要望が挙がった。また、マイクやプロジェクタの更新、冷暖房温度の細かな調節、収容人数に対して教室が狭くスライドが見づらいといった教室改善の要望も多かった。その他、アセンブリホールの利用時間延長も要望があった。通学手段については、スクールバスの運行、二輪車用の駐車場増設が挙げられた。学費等については、授業料減額、再試無料化が挙げられた。また、4年次の下宿、定期代が場所によって異なるため、金額差を低減する補助の要望も挙げられた。学生生活については、就職先検討のための他病院情報公開、他学との交流活性化、フットサルコートと多目的グラウンド用時計の設置、気軽に参加可能なサークルと硬式野球部の設立といった要望が挙げられた。図書館については、7号館図書室の書籍貸出、開館時間の延長の要望が挙がった。その他1件の項目については、テスト前休日の学科等開放、手洗い自動化、勉強以外の施設充実が挙げられた。

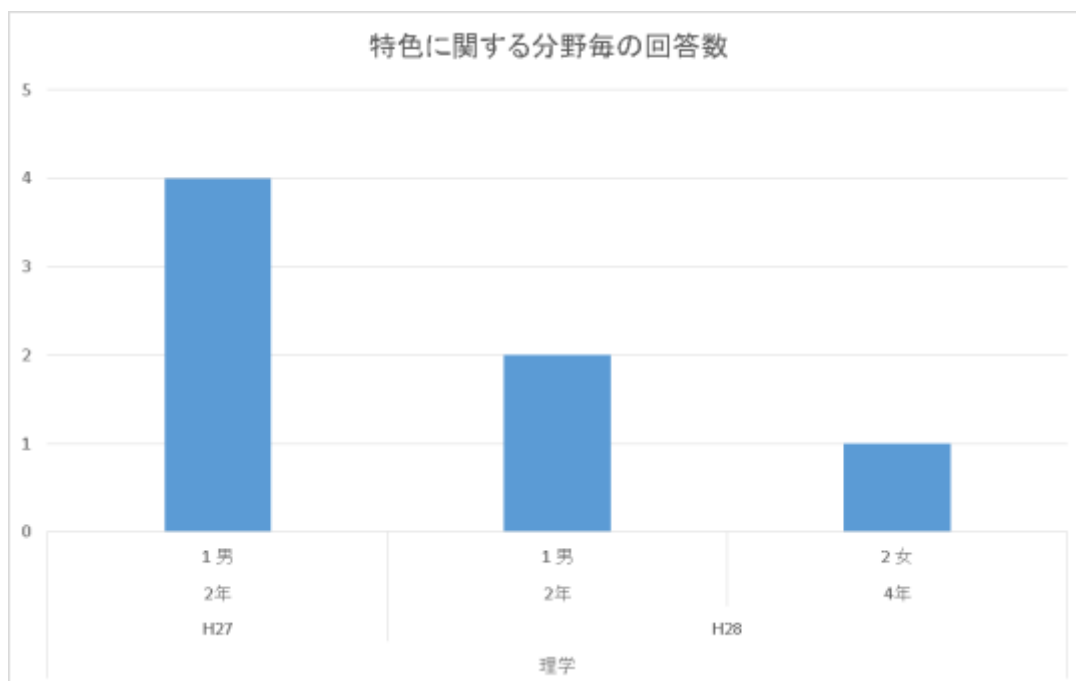
昨年度(27年度)と今年度(28年度)との比較について、28年度はアメニティ(生活)、情報提供、部活動、の3項目の比率が増加しており対策が必要と考える。具体的には、学生ホール設置、学生用ポットの設置の要望が多い。また、事務からの予定変更早期連絡については継続して要望が挙がっており、対応が必要と考える。食堂に関する要望が減少したが、直前に食堂専用のアンケートが実施された影響も大きいと考える。

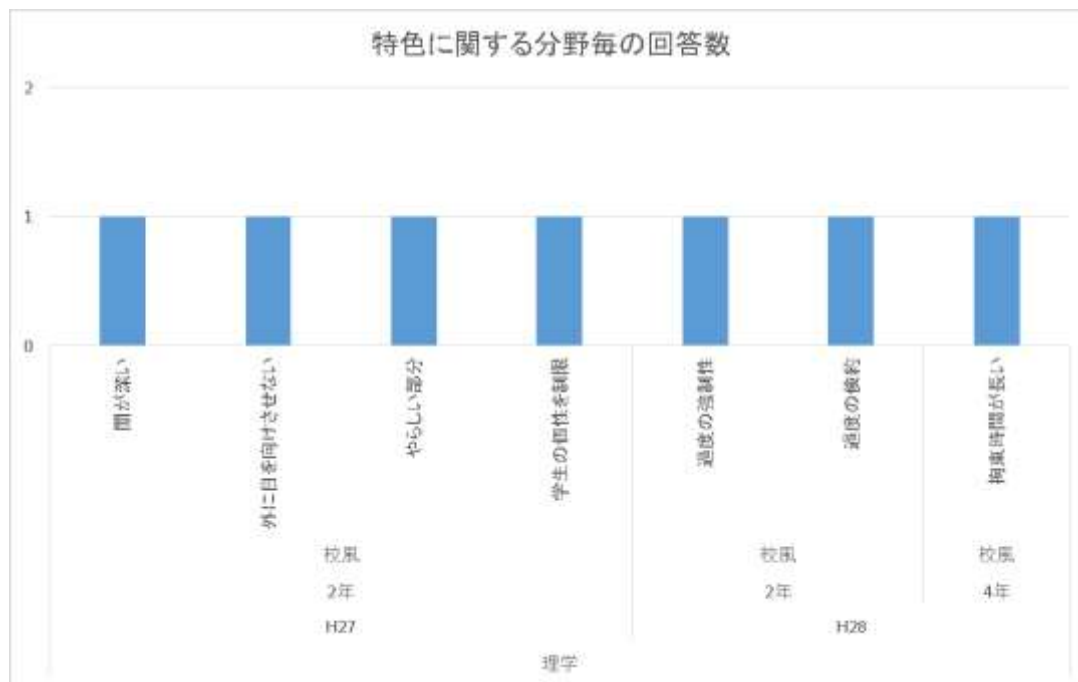
4) 特色

4-1) 回答率

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	35	26	27	25	36	26	20	35
回答数	4	0	0	0	2	0	0	1
回答率	11.4%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	2.9%
学年回答率	6.6%		0.0%		3.2%		1.8%	

4-2) 特色に関する回答内容の内訳





4-3) 小括

今年度（H28年度）、校風については、過度の儉約、過度の強制性、拘束時間が長いなど負の印象に対する改善要望が挙げられた。昨年度（27年度）との比較について、昨年度は4件であり、27年度とほぼ同数である。具体的内容について、外に目を向けさせず藤田が最も良いとの印象を与えようとする、洗脳してくるようなイメージなど負の印象に対する改善要望が挙げられた。これらの意見は28年度よりも否定的なもので、負の印象が若干の改善している可能性もあり、引き続き本学の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）を丁寧に説明する必要があると考える。

5) 総括

今年度（H28年度）および昨年度（H27年度）に行われた学生生活・学修実態調査について、自由記述部分の結果集計を行った。今年度（H28年度）のリハビリテーション学科総数は169件であった。教育内容は64件で、そのうち理学療法専攻は30件（カリキュラム17件、教育指導方法および教科書/教材各5件、その他3件）であった。生活環境は101件で、そのうち理学療法専攻は44件（アメニティ（生活）14件、事務対応7件（情報提供6件含む）、部活動6件、教育環境5件（自習環境4件含む）、図書館およびf-info各3件、アメニティ（食堂）および通学手段各2件、事務対応および学費等各1件）であった。特色は4件で、そのうち理学療法専攻は3件（校風3件）であった。

昨年度（27年度）との比較において、昨年度のリハビリテーション学科総数は141件であった。そのうち教育内容は理学29件、作業21件の計50件であり、作業は増加傾向であったものの理学はほぼ同等の要望数であった。生活環境は、27年度では理学56件、作業31件の計87件であり、作業は増加傾向であったものの理学はほぼ同等の要望数であった。特色の要望については、27年度は理学4件、作業0件の計4件であり、要望数は同じであった。

今後対処すべき項目について、教育内容ではカリキュラム関連の内容が重要と考える。特に「総コマ数多いのではないか」との意見について、療法士養成校として厚生労働省が定めた指定規則、臨床実習教育の重要性、本学の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）などを丁寧に説明する必要がある

あると考える。授業変更が急、活用が少ない教材との要望については、専攻教員に周知して改善を図る必要があると考える。ネットでの成績確認については、事務部にその要望を伝え、実現可能性について検討する必要があると考える。生活環境では、学生用ポットの設置が優先課題であると考え。設置する場合にどこに配置し、どのように運用するか、具体的な検討が必要と考える。また、事務連絡早期化の要望は事務部に伝え、こちらも具体的な改善点について検討する必要があると考える。休日の学科等開放についても、実現可能であるか検討が必要と考える。特色については、回答数が非常に少なく、要望が他の項目と重複しているものも多いため、前述の教育内容および生活環境を中心とした対応が適切と考える。

4. 2 作業療法専攻

リハビリテーション学科 作業療法専攻における平成 27 年度調査と平成 28 年度調査の概要及び比較

1) 学生について

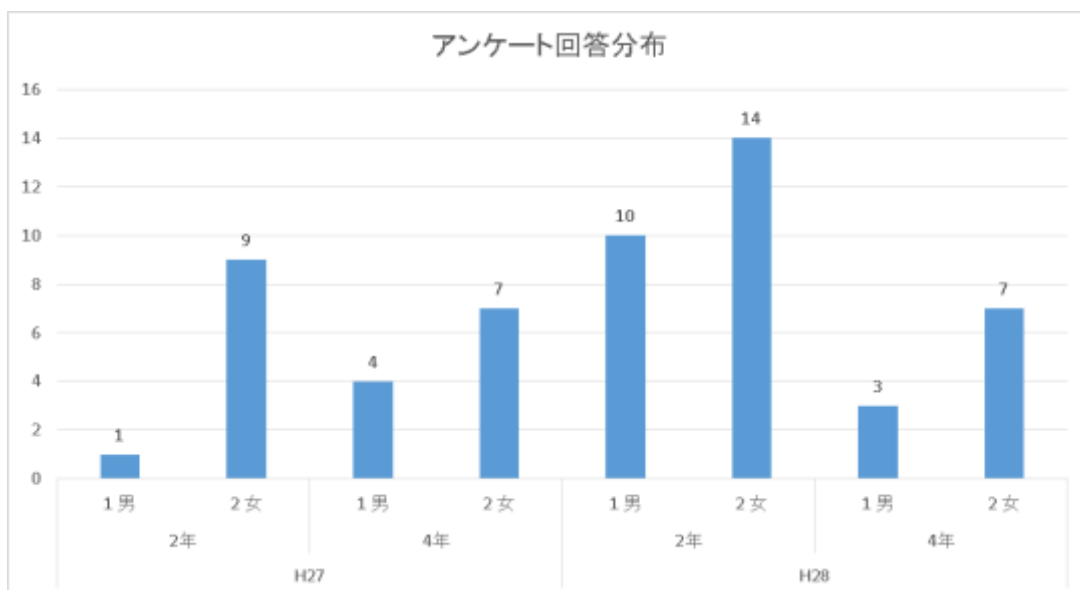
1. 学生数

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	11	41	10	31	20	35	14	30
計	52		41		55		44	

2) 教育内容

2-1) 回答率

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	11	41	10	31	20	35	14	30
回答数	1	9	4	7	10	14	3	7
回答率	9.1%	22.0%	40.0%	22.6%	50.0%	40.0%	21.4%	23.3%
学年回答率	19.2%		26.8%		43.6%		22.7%	

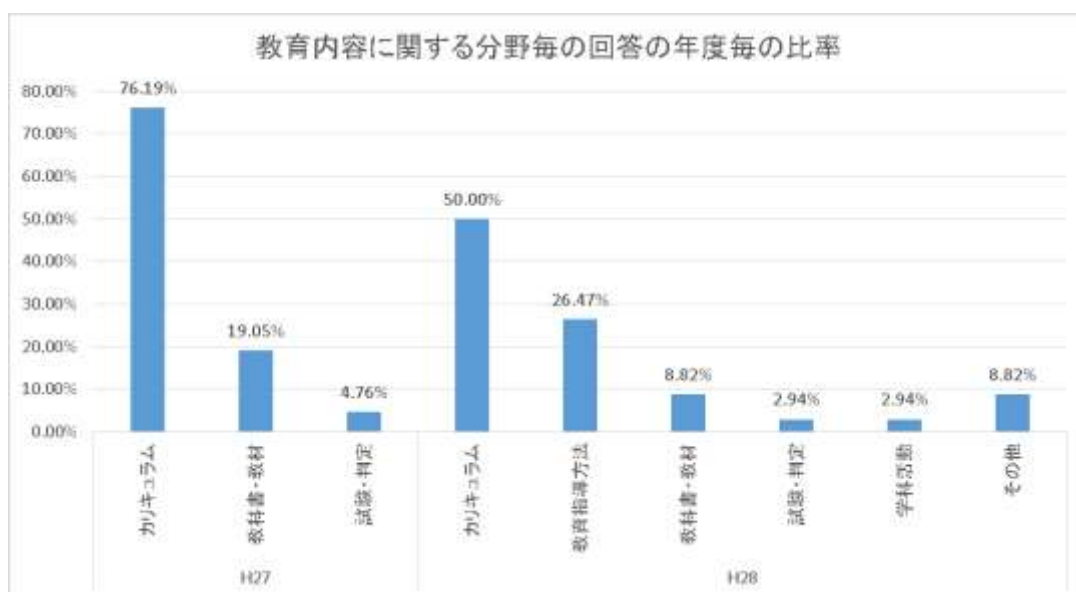


2-2) 教育内容に関する回答内容の内訳

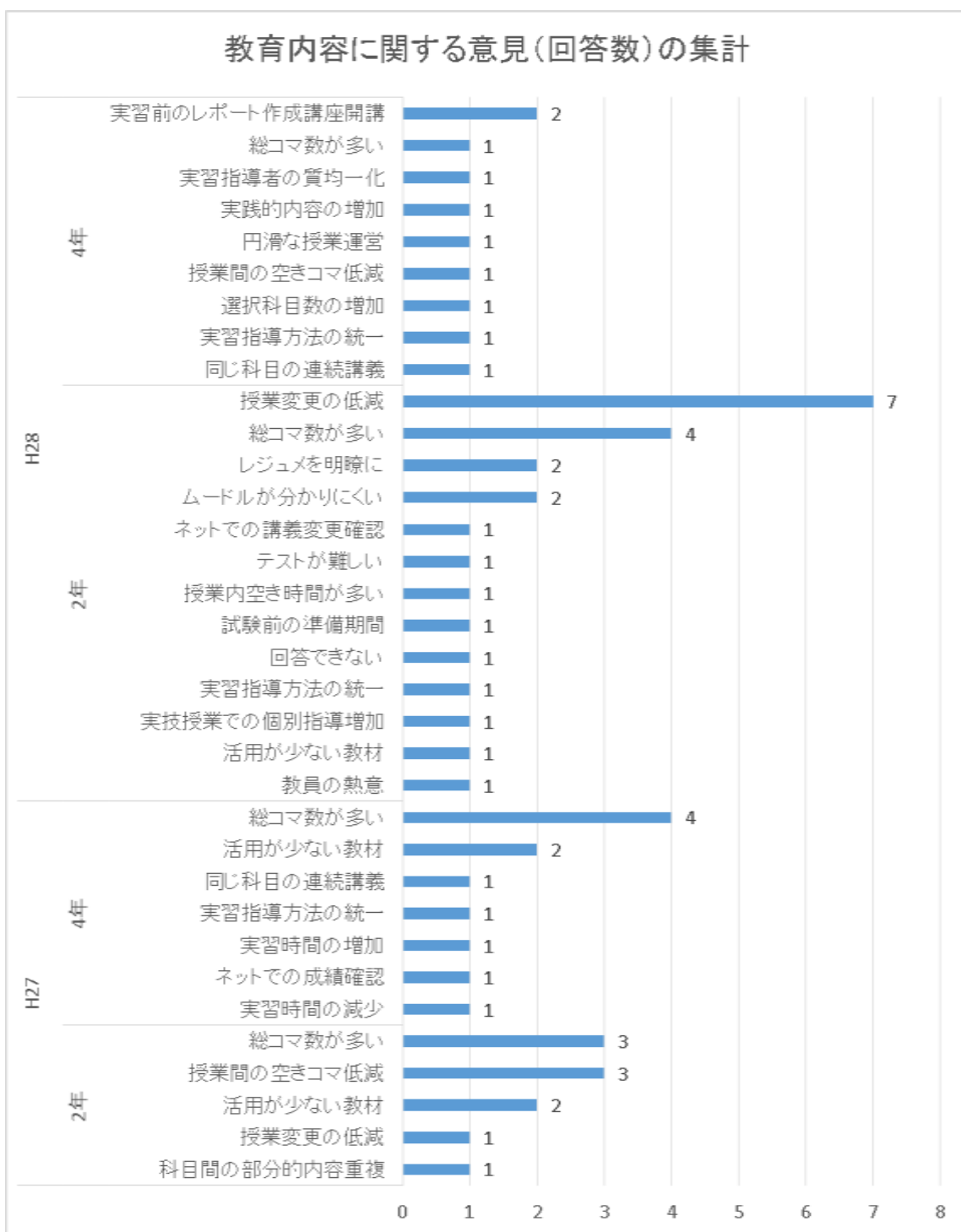
(単位：人)



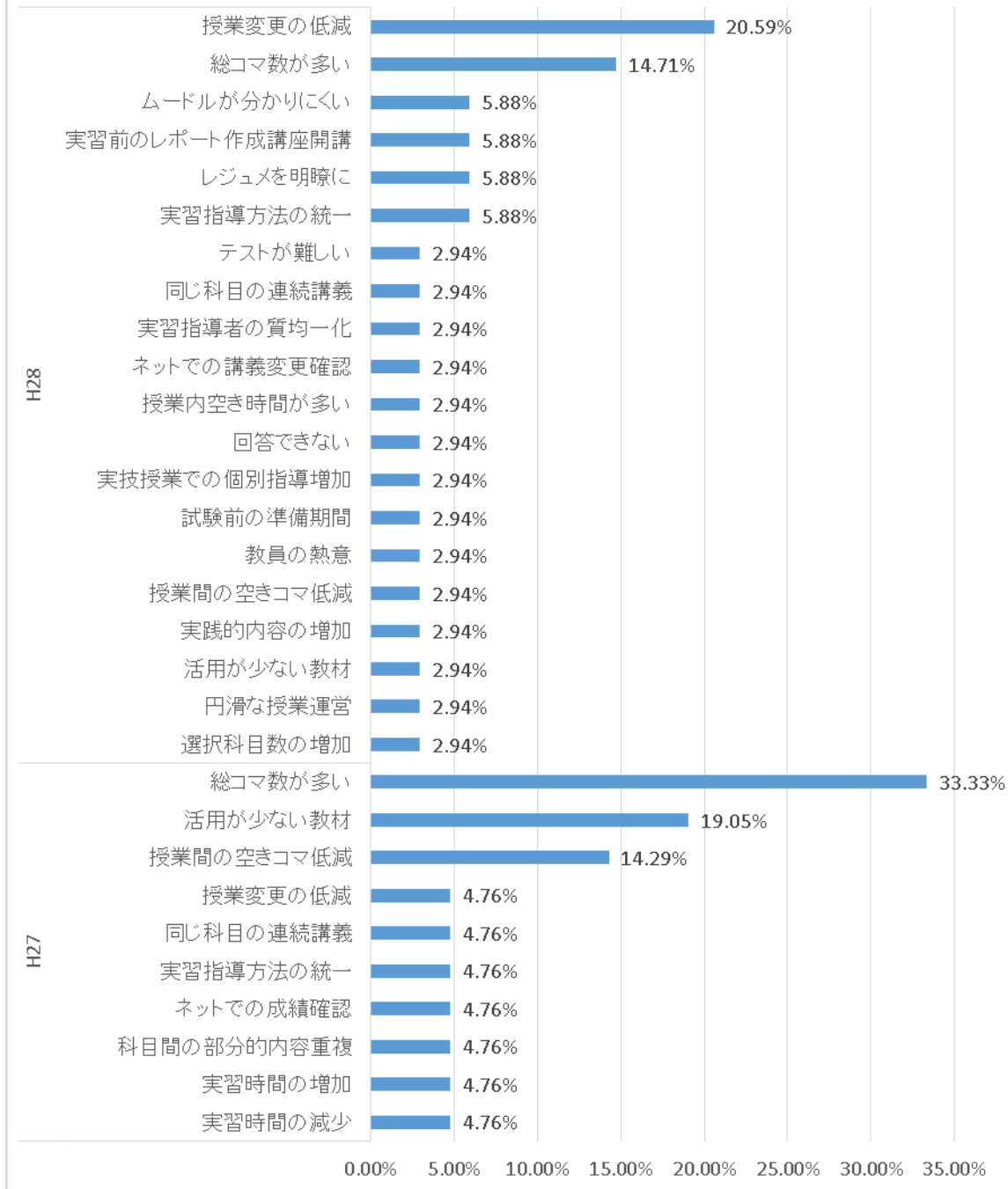
2-3) 教育内容に関する回答内容の平成 27 年度と平成 28 年度の比較



2-4) 教育内容に関する詳細項目における平成27年度と平成28年度の比較



教育内容に関する意見(年度毎の回答の比率)



2-5) 小括

今年度(28年度)、カリキュラムについては、その半数において授業変更を減らしてほしいとの意見であった。また、総コマ数が多いとの意見も2番目に多かった。その他には、定期試験前にはまとまった勉強時間を確保したい、空きコマをつめて終了時間を早めてほしい、3限連続での同じ講義開講は集中力が続かないといった時間割の要望が挙げられた。

教育指導方法/教科書/教材については、実習前にレポート作成講座を開講してほしい、実技指導について方法を統一してほしい、経験する機会を増やしてほしい、先生が見回って1人1人に詳しく教えてほしい、など実習関連の要望が主であった。その他には、レジュメを明瞭にしてほしい(背景を白に)、あまり活用されていない教材(教科書)について購入の必要があるのか再度検討してほしいとの要望であった。

試験/判定については、試験の難易度が高いので特別再試3つのハードルを下げしてほしいとの要望であった。

その他として、Moodleの使用方法が分かりにくいとの意見も複数挙げられた。

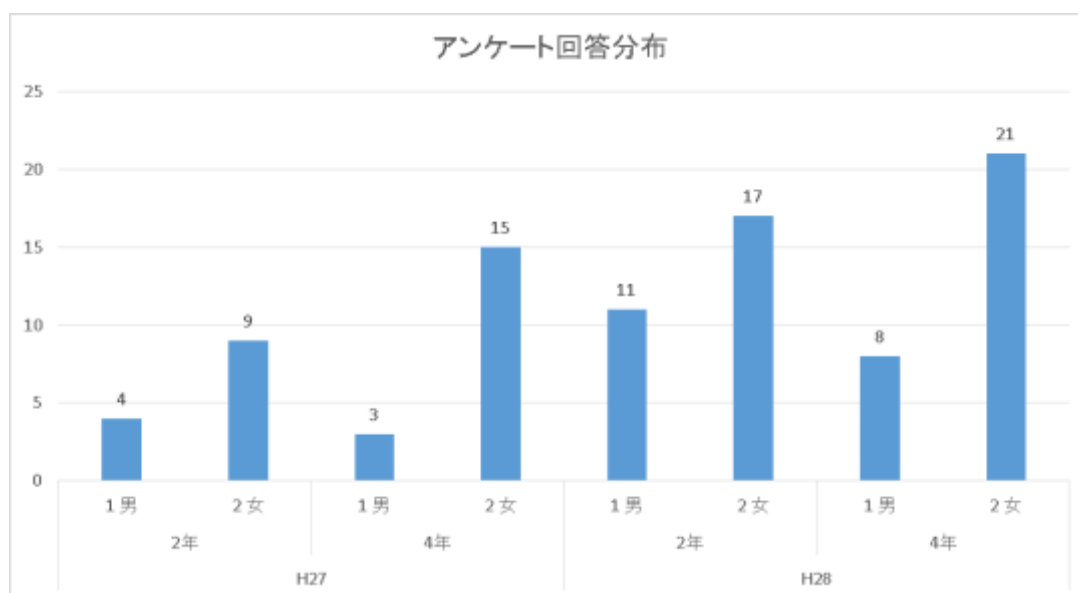
昨年度(27年度)について、作業は21件と今年度(28年度)の2/3程度の要望数であった。具体的内容について、カリキュラムはその半数において総コマ数が多いのではないかとの意見であった。また、内容が部分的に重なっている科目について統合を検討してほしい、臨床実習時間を増やしてほしいといった科目の配分についての要望も挙がった。その他には、授業間の空きコマを減らしてほしい、同じ科目が連続だと1日の欠席が単位不認定につながるのでは体調不良でも出席したといった時間割の要望、実習指導において実習地間および指導者間で方法を統一してほしいといった実習内容に関する要望が挙げられた。教育指導方法/教科書/教材については、すべてがあまり活用されていない教材(教科書)について購入の必要があるのか再度検討してほしいとの要望であった。試験/判定については、インターネットでの成績確認の要望であった。

昨年度(27年度)と今年度(28年度)との比較について、28年度は授業変更の低減の比率が増加しており対策が必要と考える。また、総コマ数が多い、実習指導における方法統一、活用されていない教材については継続して要望が挙がっており、対応が必要と考える。

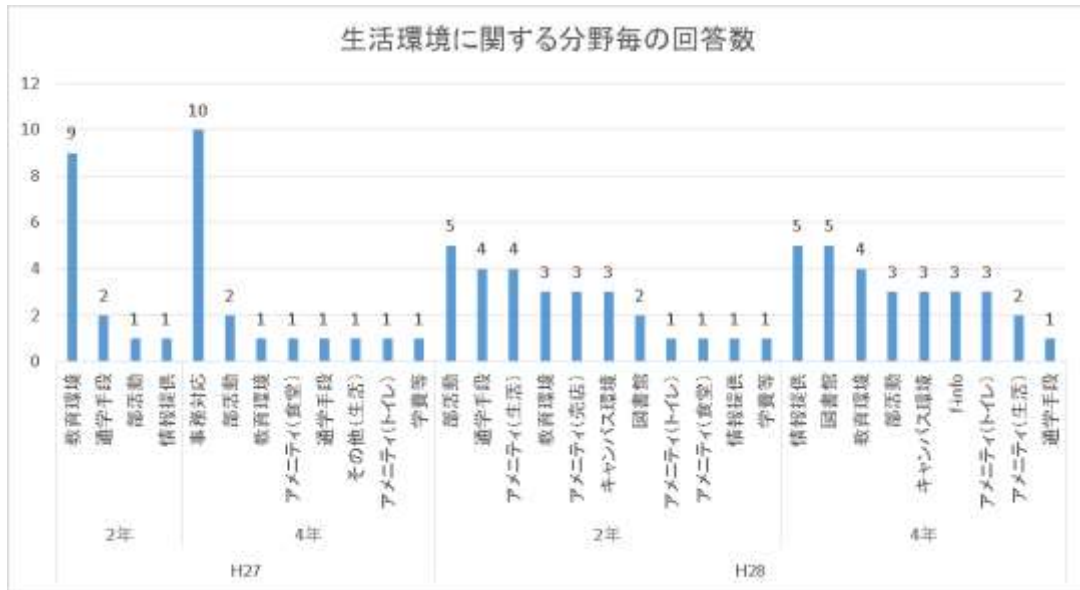
3) 生活環境

3-1) 回答率

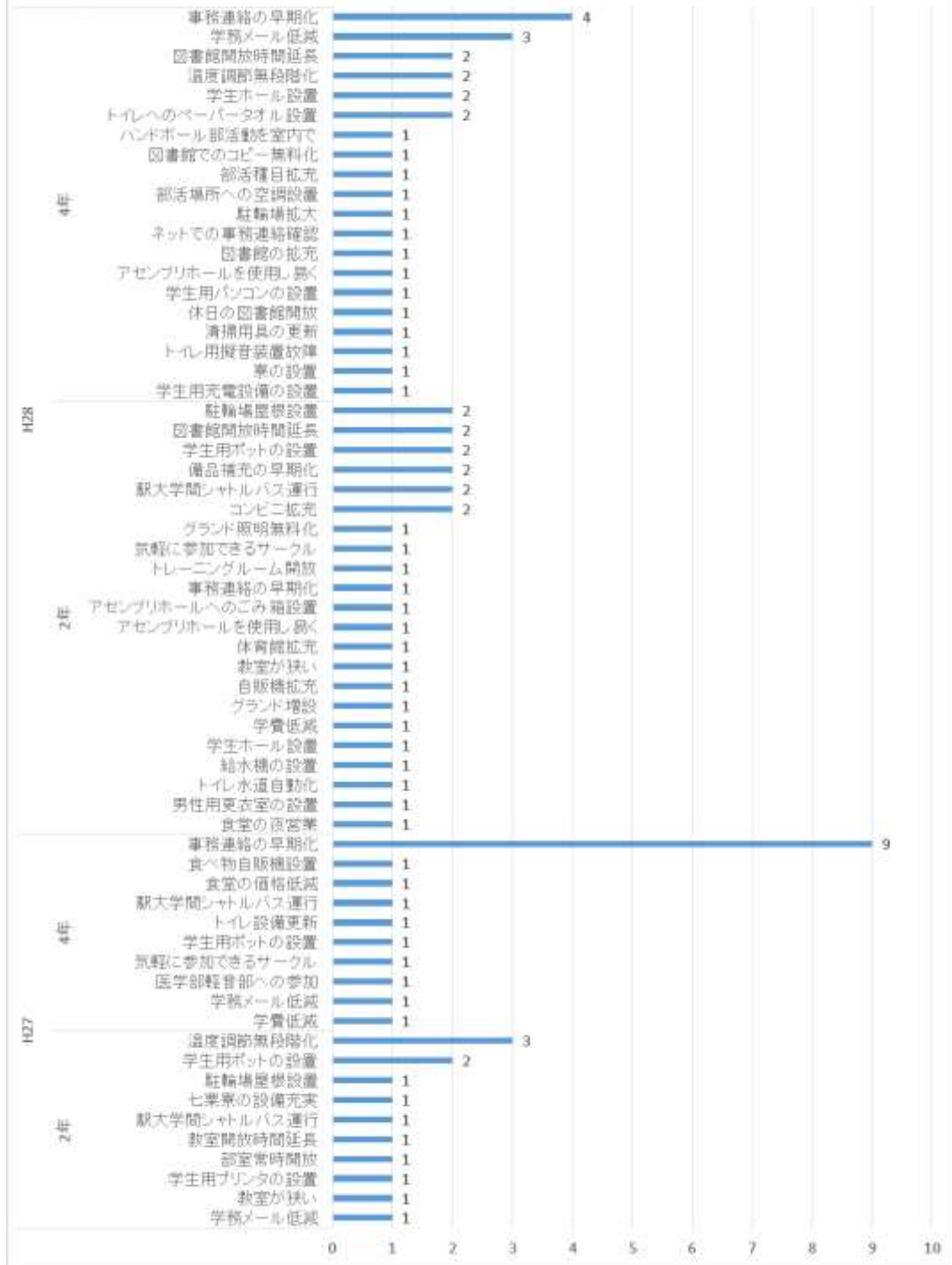
	H27				H28			
	2年 男子	女子	4年 男子	女子	2年 男子	女子	4年 男子	女子
学生数	11	41	10	31	20	35	14	30
回答数	4	9	3	15	11	17	8	21
回答率	36.4%	22.0%	30.0%	48.4%	55.0%	48.6%	57.1%	70.0%
学年回答率	25.0%		43.9%		50.9%		65.9%	



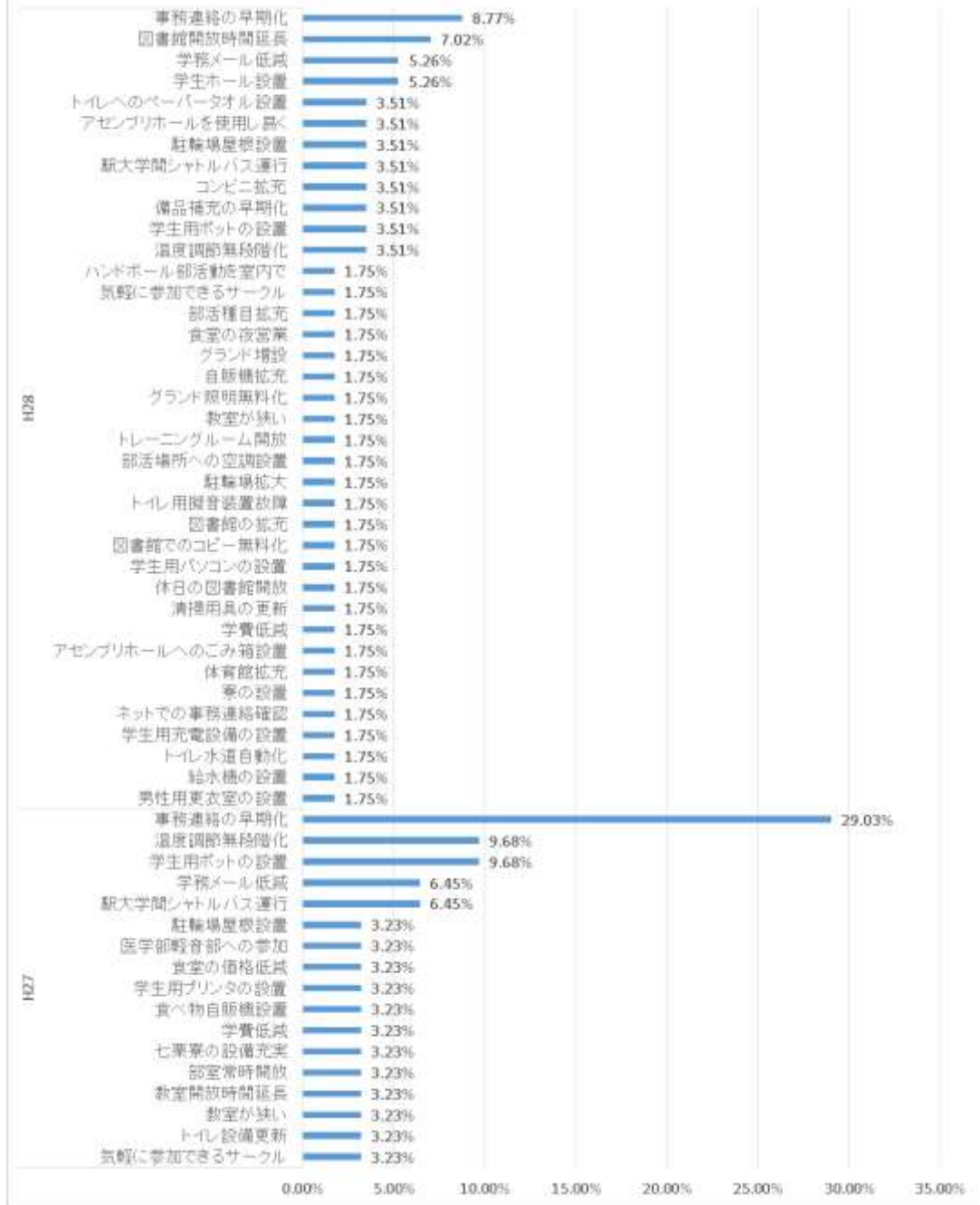
3-2) 生活環境に関する回答内容の内訳



生活環境に関する意見(回答数)の集計



生活環境に関する意見(年度毎の回答の比率)



3-5) 小括

今年度(28年度)、生活環境については様々な内容の要望があった。部活動については、14%と最も要望が多かった。気軽に参加可能なサークルの設立、トレーニングルーム開放、グランド照明無料化、グランド増設、アセンブリホールを使用し易く、部活種目拡充、ハンドボール部活動を室内で、部活場所への空調設置との要望が挙げられた。

図書館については、開放時間延長の要望が多く、開館時間を8時30分から、閉館時間を10時に、また学外実習中も使用できるよう土日を終日開放にといった意見があった。

教育環境については、冷暖房温度の細かな調節、収容人数に対して教室が狭いとの要望に加えて、学生用PCの設置、備品の更新、消耗品の早期補充も挙げられた。

アメニティについては、(生活)として学生用ポット、給水機、学生用充電設備の設置、また寮や男性用更衣室の整備が挙げられた。(売店)としては、コンビニ・自販機増設、コンビニ運営会社変更が挙げられた。(トイレ)としては、ペーパータオル設置、水道自動化、擬音装置修理が挙げられた。(食堂)の要望は減少しており、夜営業希望のみであった。

事務対応(情報提供含む)については、予定変更連絡を早くとの要望が多く、それに加えて、インターネットによる事務連絡確認をとの要望も挙げられた

キャンパス環境については、学生ホール設置の要望が多く、体を動かす機会を作るためアセンブリホールの利用しやすく、またゴミ箱設置をとの要望もあった。

通学手段については、スクールバスの運行、二輪車用の駐輪場屋根増設、その他の駐輪場にも設置をとの要望が挙げられた。

f-infoについてはすべてが学務メール低減に関する要望で、セミナーに関しては掲示板に止めても良いのではとの意見も併記されていた。学費は1件で、学費低減の希望が挙げられた。

昨年度(27年度)について、作業は31件であり、28年度と比較して半数程度であった。具体的内容について、事務対応(情報提供含む)については、予定変更連絡を早くとの要望に加えて、メール数の低減と重要性および緊急性が低い情報を掲示に止めるとの要望も挙げられた。教育環境については、冷暖房温度の細かな調節、収容人数に対して教室が狭いとの要望に加えて、七栗寮の設備改善、プリンタおよびポットの設置も挙げられた。通学手段については、スクールバスの運行、二輪車用の駐車場屋根設置が挙げられた。部活動については、気軽に参加可能なサークルの設立、医学部軽音楽部への入部、部室の常時開放の要望が挙げられた。その他1件の項目については、授業料減額、トイレ設備の更新、食べ物の自動販売機設置が挙げられた。

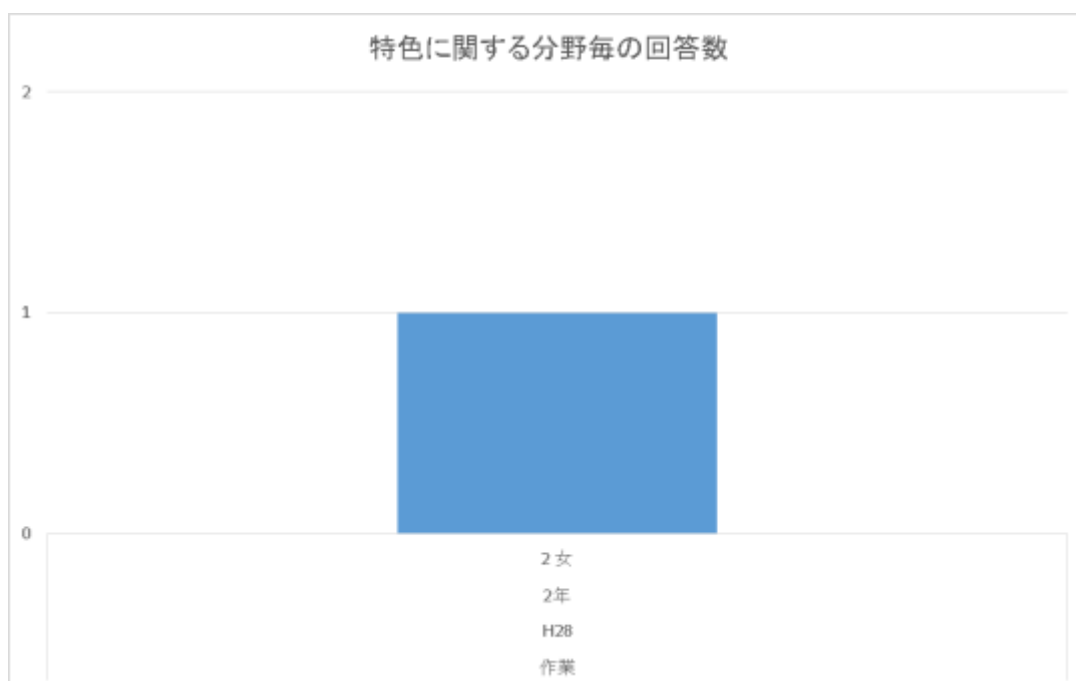
昨年度(27年度)と今年度(28年度)との比較について、28年度は部活動、情報提供、部活動、図書館の比率が増加しており対策が必要と考える。具体的には、部活動拡充、図書館開館時間延長の要望が多い。また、事務からの予定変更早期連絡については継続して要望が挙がっており、対応が必要と考える。

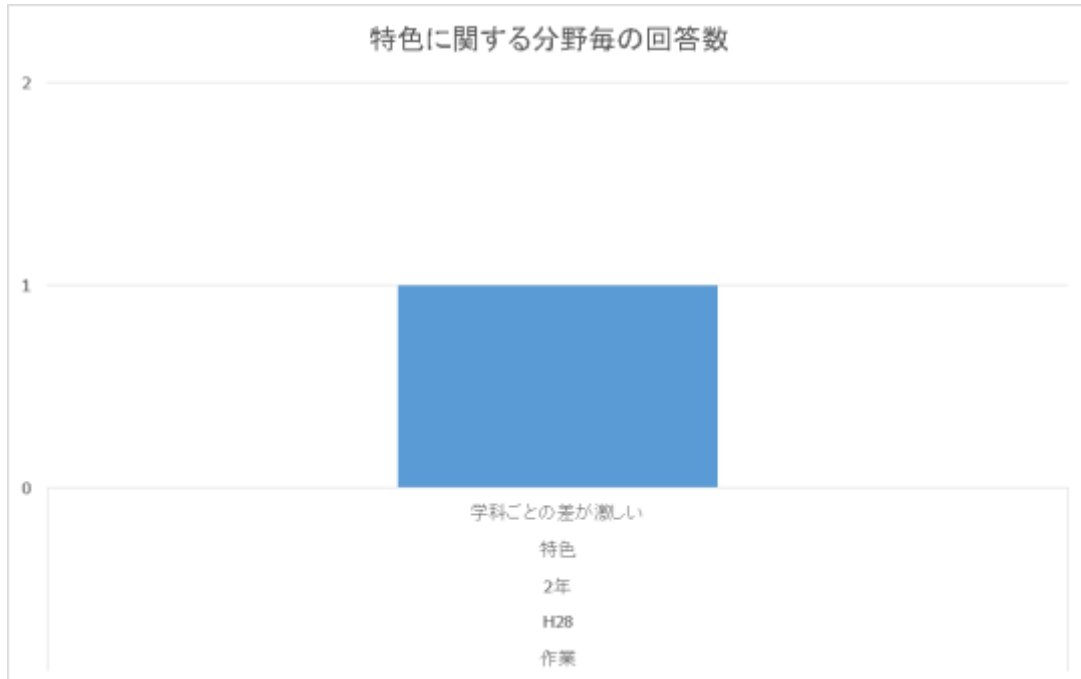
4) 特色

4-1) 回答率

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	11	41	10	31	20	35	14	30
回答数	0	0	0	0	0	1	0	0
回答率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%
学年回答率	0.0%		0.0%		1.8%		0.0%	

4-2) 特色に関する回答内容の内訳





4-3) 小括

今年度（H28年度）、特色について要望は1件であった。昨年度（27年度）との比較について、昨年度は0件であり、28年度は増加している。具体的内容について、学科ごとの差が激しいとの意見があった。しかし、抽象的な表現であり、また回答数自体が少ないためその理由を十分に考察することは困難である。

5) 総括

今年度（H28年度）および昨年度（H27年度）に行われた学生生活・学修実態調査について、自由記述部分の結果集計を行った。今年度（H28年度）のリハビリテーション学科総数は169件であった。教育内容は64件で、そのうち作業療法専攻は34件（カリキュラム17件、教育指導方法および教科書/教材各12件、その他5件）であった。生活環境は101件で、そのうち作業療法専攻は57件（アメニティ14件、部活動8件、教育環境および図書館各7件、情報提供およびキャンパス環境各6件、通学手段5件、その他4件）であった。特色は4件で、そのうち作業療法専攻は1件（特色1件）であった。

昨年度（27年度）との比較において、昨年度のリハビリテーション学科総数は141件であった。そのうち教育内容は理学29件、作業21件の計50件であり、理学はほぼ同等の要望数であったものの作業は増加傾向であった。生活環境は、27年度では理学56件、作業31件の計87件であり、理学はほぼ同等の要望数であったものの作業は増加傾向であった。特色の要望については、27年度は理学4件、作業0件の計4件であり、作業の要望数は1増であった。

今後対処すべき項目について、教育内容ではカリキュラム関連の内容が重要と考える。特に「総コマ数多いのではないか」との意見について、療養士養成校として厚生労働省が定めた指定規則、臨床実習教育の重要性、本学の教育方針（カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）などを丁寧に説明する必要があると考える。授業変更が急、活用が少ない教材との要望については、専攻教員に周知して改善を図る必要があると考える。ネットでの成績確認については、事務部にその要望を伝え、実現可能性について検討する必要があると考える。生活環境では、図書館開館時間延長が優先課題であると考えられる。延長する場合にどのように運用するか（時間、鍵の管理）、具体的な検討が必要と考

える。また、事務連絡早期化の要望は事務部に伝え、こちらも具体的な改善点について検討する必要があると考える。特色については、回答数が非常に少なく、要望が他の項目と重複しているものも多いため、前述の教育内容および生活環境を中心とした対応が適切と考える。

5. 臨床工学科

臨床工学科における平成 27 年度調査と平成 28 年度調査の概要及び比較

1) 学生について

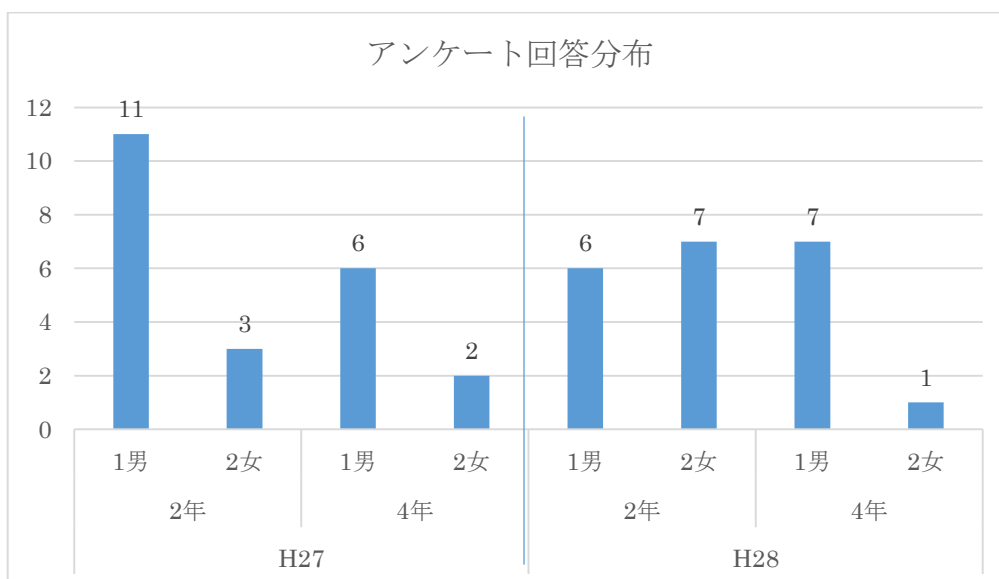
1. 学生数

	H27				H28			
	2 年		4 年		2 年		4 年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	29	16	30	20	36	25	26	19
計	45		50		61		45	

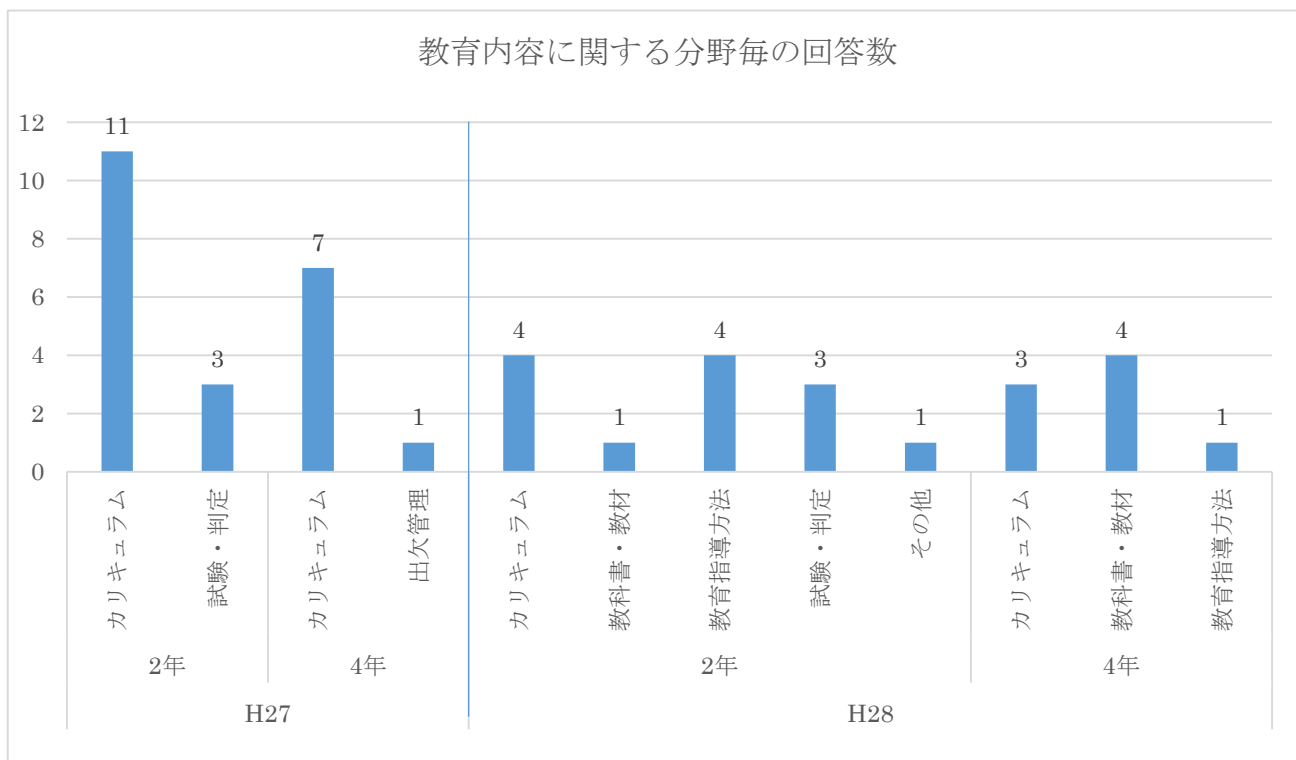
2) 教育内容

2-1) 回答率

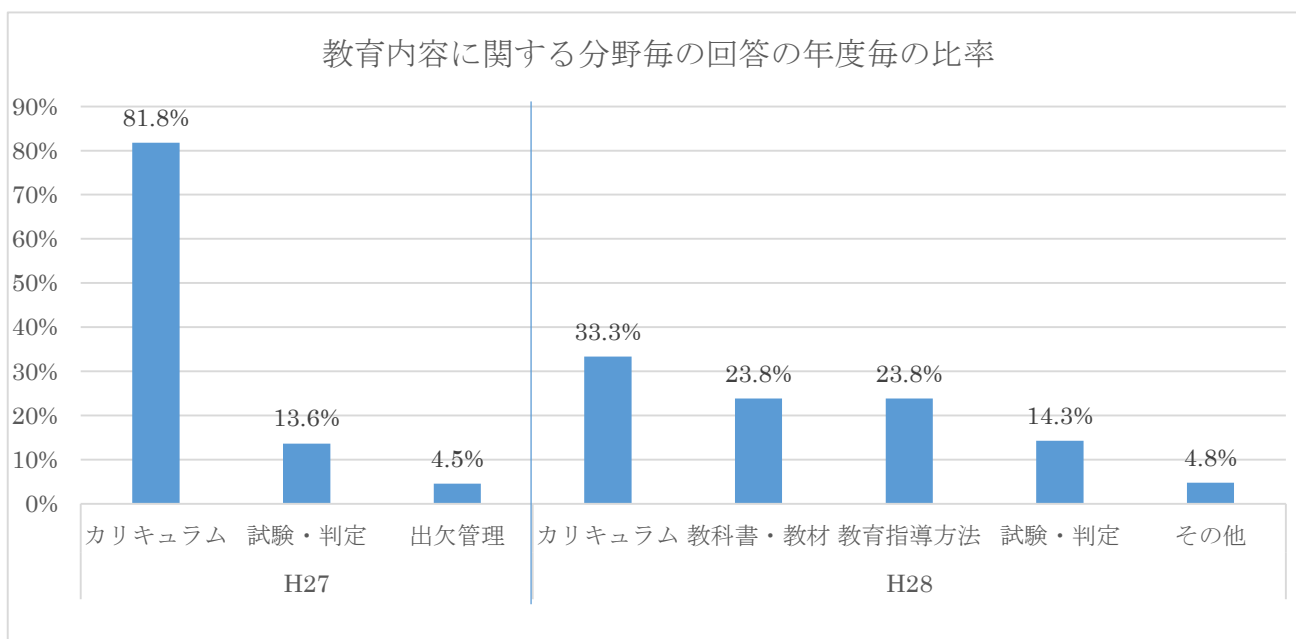
	H27				H28			
	2 年		4 年		2 年		4 年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	29	16	30	20	36	25	26	19
回答数	11	3	6	2	6	7	7	1
回答率	37.9%	18.8%	20.0%	10.0%	16.7%	28.0%	26.9%	5.3%
学年回答率	31.1%		16.0%		21.3%		17.8%	



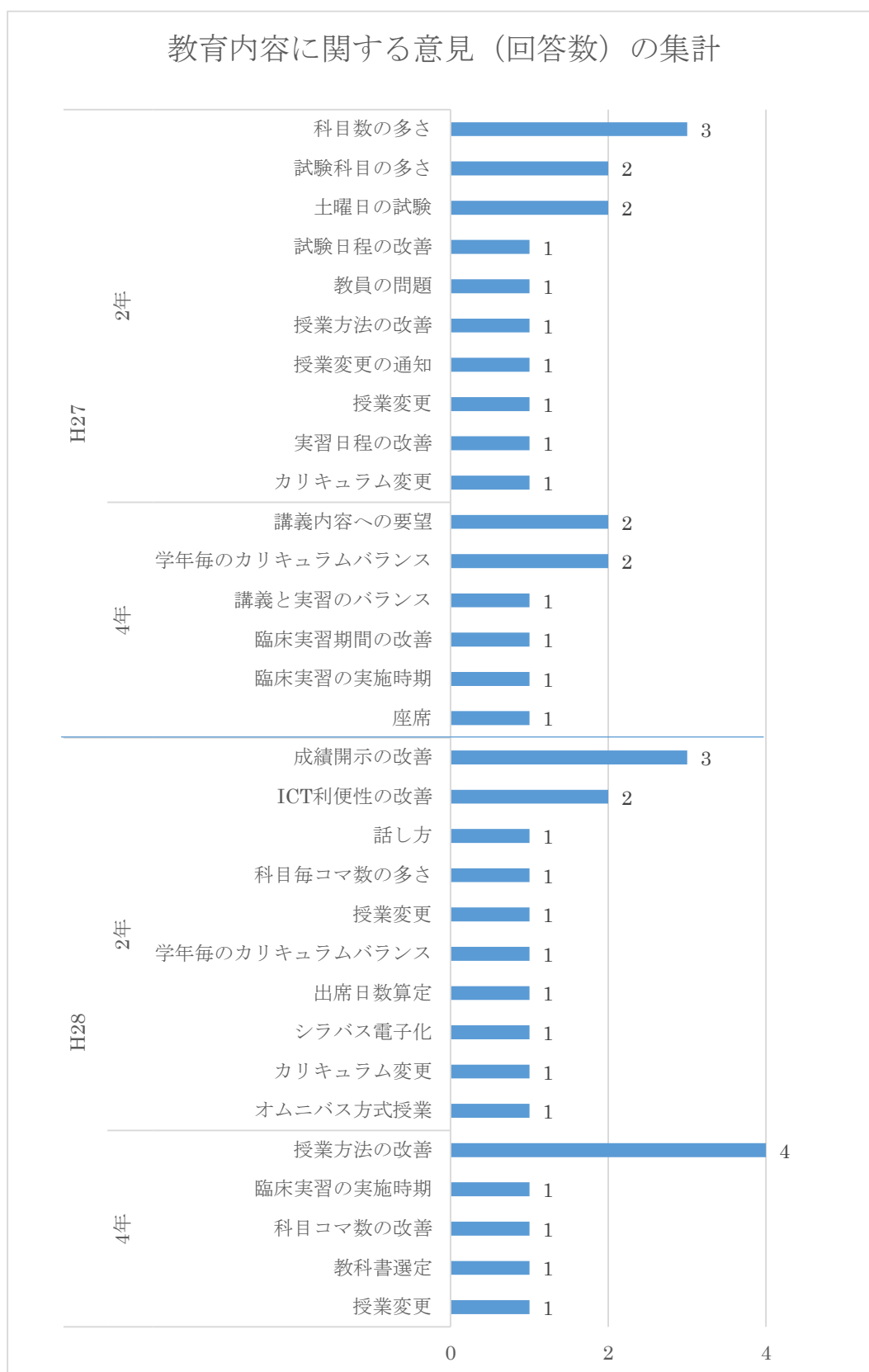
2-2) 平成 27 年度と平成 28 年度における教育内容に関する意見の分野（項目）の回答数の比較



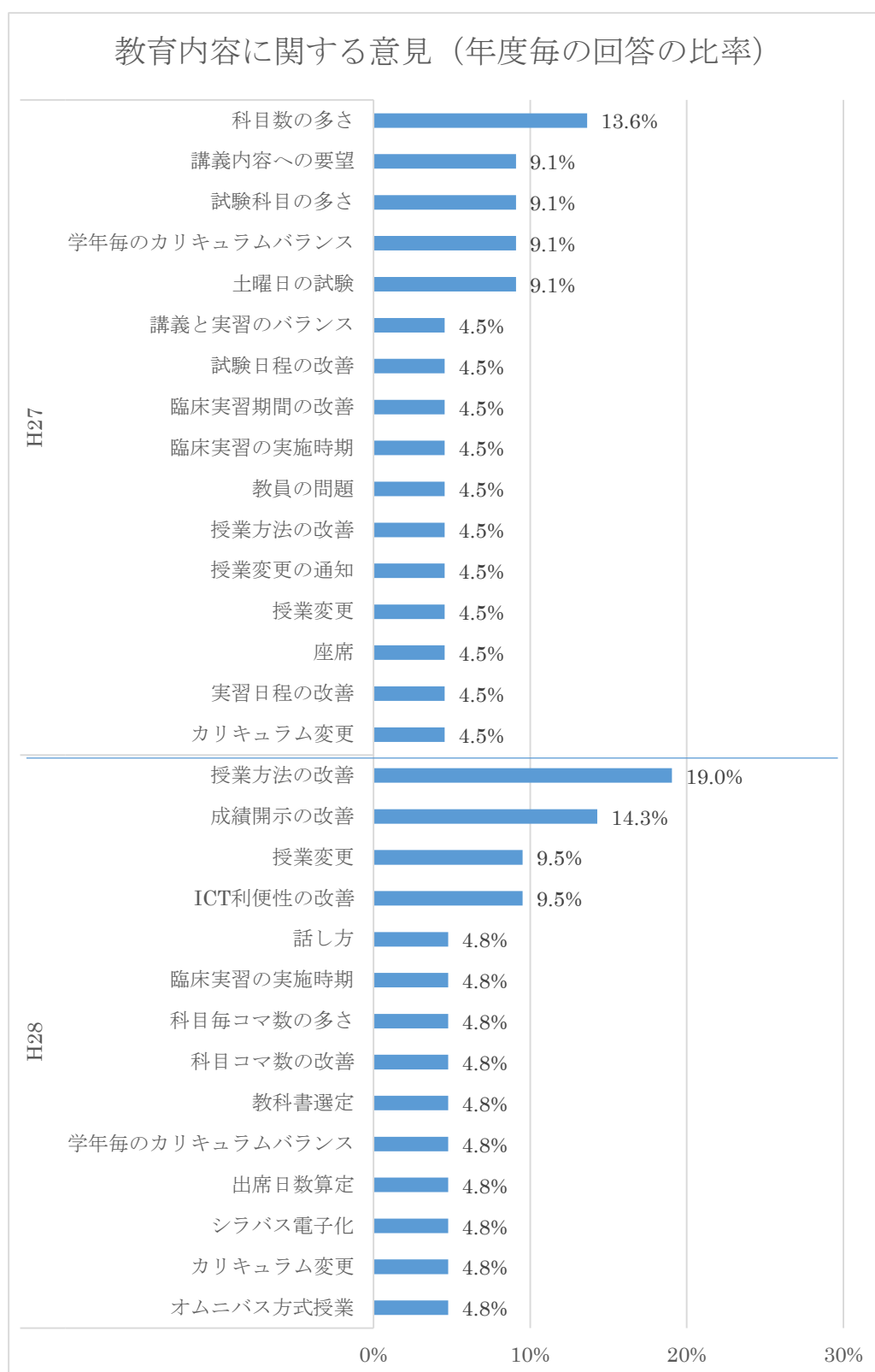
2-3) 平成 27 年度と平成 28 年度における教育内容に関する意見の分野（項目）の回答割合の比較



2-4) 平成 27 年度と平成 28 年度における教育内容に関する意見の回答数の比較
 自由記載内容の主旨を要約し、その回答数の集計を求めた。



2-4') 平成 27 年度と平成 28 年度における教育内容に関する意見の回答割合の比較



2-5) 小括

平成 28 年度の回答数は平成 27 年度と比べ変化は少なく、両年度の各学年での回答数もほぼ同数であった。2 年生の回答率が平成 28 年で前年度のそれに比べ 10%ほど減少したが、学生数が前年度の 1.35 倍であるためである。4 年生の回答率は横ばいであった。

平成 27 年度は回答分野数が限られ、2 年生・4 年生ともにカリキュラムに関する意見が多数出され

た。平成 28 年度は 2 年生・4 年生ともにカリキュラムに関する意見がかなり減少したが、授業に関する意見が増加する結果になった。

年度毎の比率では、平成 27 年度では、カリキュラムに関する意見割合が 8 割を超えていたが、平成 28 年度では約 3 割に減少した。試験・判定に関する意見は横ばいであった。平成 28 年度は、教育指導と教科書・教材に関する意見が新たに出され、それぞれ回答数割合の約 1/4 を占めた。

2 年生は、平成 27 年度に「科目数の多さ」による、「試験科目の増加」、それに伴う「土曜日に試験」日程が組まれることに対する意見が複数見られ、平成 28 年度には、「成績の開示方法」と「ICT 利用の改善」といった電子デバイスの利便性を求める意見が複数あった。4 年生は、各年度で講義・授業の改善要望が複数あった。

平成 28 年度の回答割合では、「授業方法の改善」が回答総数の 2 割近くに達し、「成績開示の改善」と「講義内容への要望」が続いた。授業（講義）では、学生が不得手とする項目に対して教員が工夫した内容を受け入れられない、あるいは理解が難しい状況を反映していると考えられる。

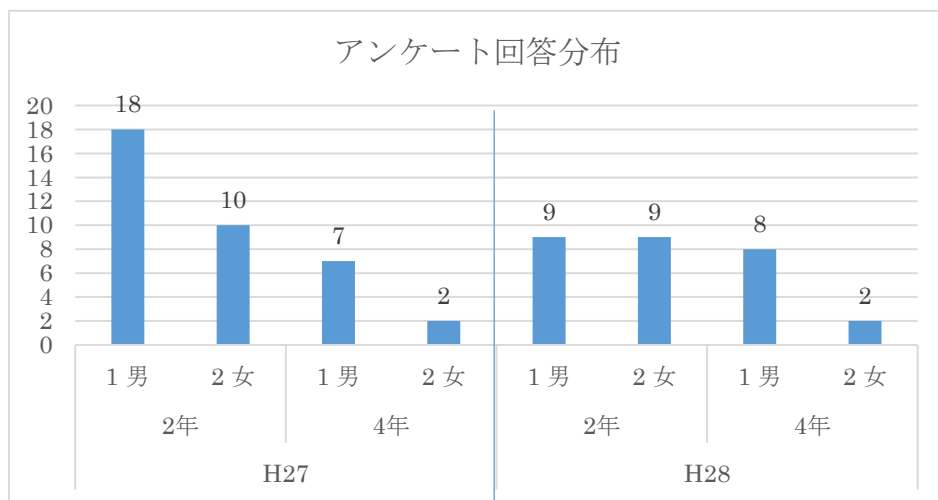
講義科目数・コマ数は、臨床工学技士養成過程に必須の科目を配置し実施されているが、「学年毎のカリキュラムバランス」では低学年に単位数が荷重されている点、専門的講義が低学年から始まることに対するカリキュラム構造と教育内容の科目間連携が充分でないことを指摘していると考えられる。なお、認識不足とモチベーションの低下によると思われる意見が散見された。

授業の変更に関する意見が平成 27 年度、28 年度ともに出されている。その内容は、急な変更とその通知であり、この殆どは教員の健康上の理由によるものと考えられる。医療職を目指す学生として弱者に対する配慮といった一般の人々よりも熟慮すべき情緒的な部分の学習が不足していると考えられる。しかしながら、多くの事業所は「そうなることがありえる」事を考慮して事業継続できる事が求められていることから、教育の現場においても学生に負担をしないことのない計画的な改善が求められた。

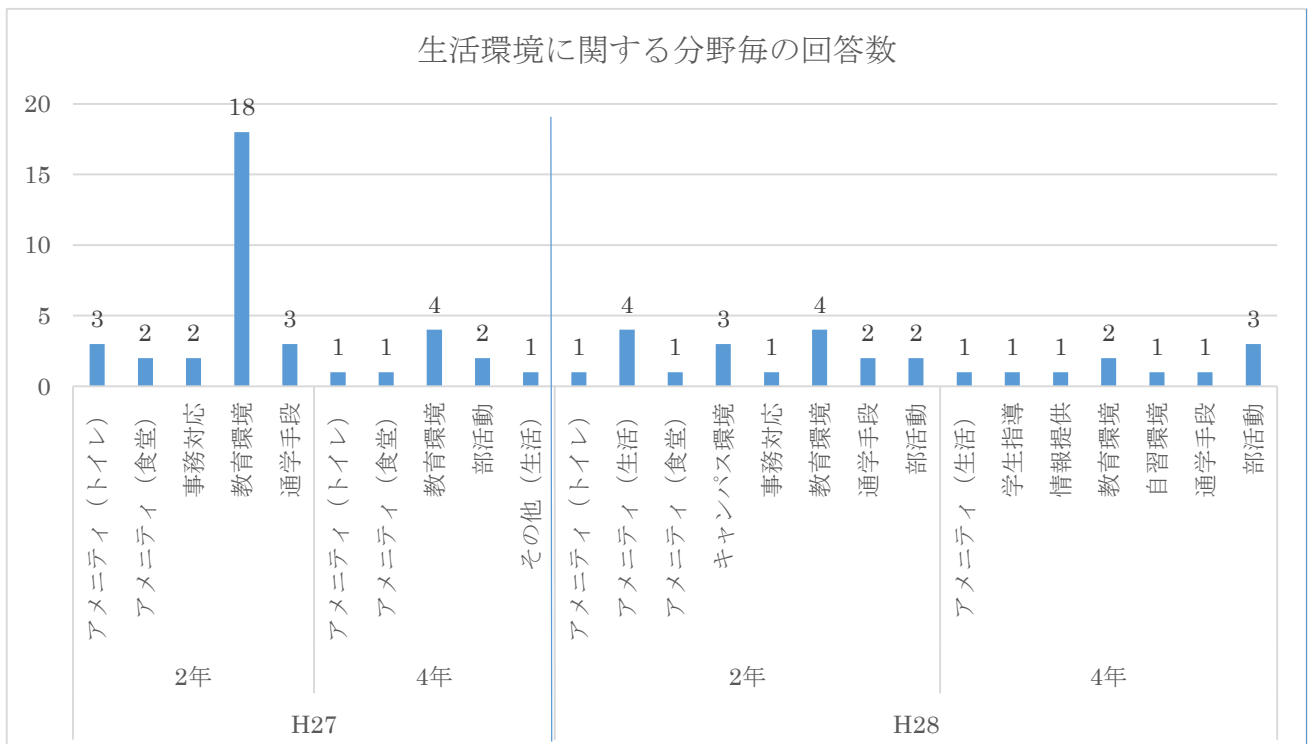
3) 生活環境

3-1) 回答の分布

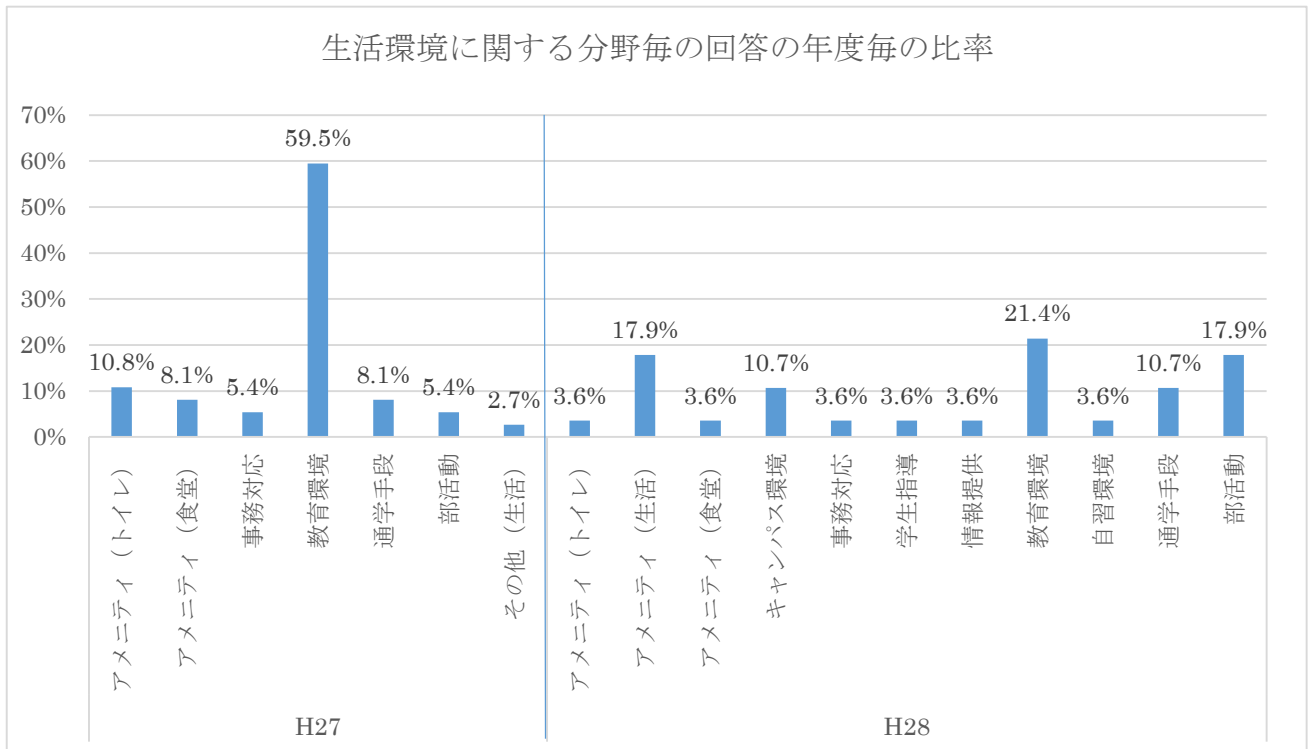
	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	29	16	30	20	36	25	26	19
回答数	18	10	7	2	9	9	8	2
回答率	62.1%	62.5%	23.3%	10.0%	25.0%	36.0%	30.8%	10.5%
学年回答率	62.2%		18.0%		29.5%		22.2%	



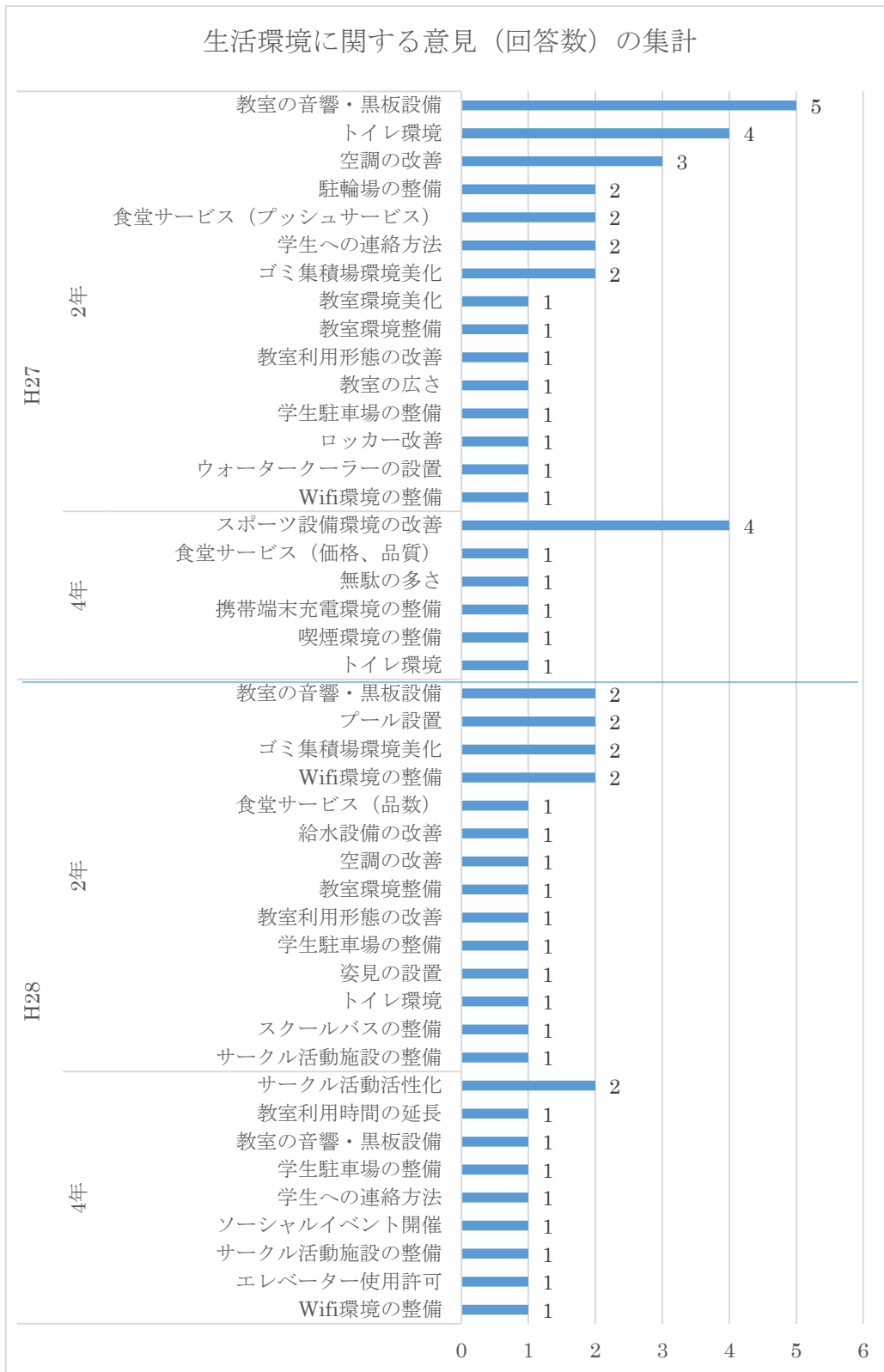
3-2) 平成 27 年度と平成 28 年度における生活環境に関する意見の分野（項目）の回答数の比較



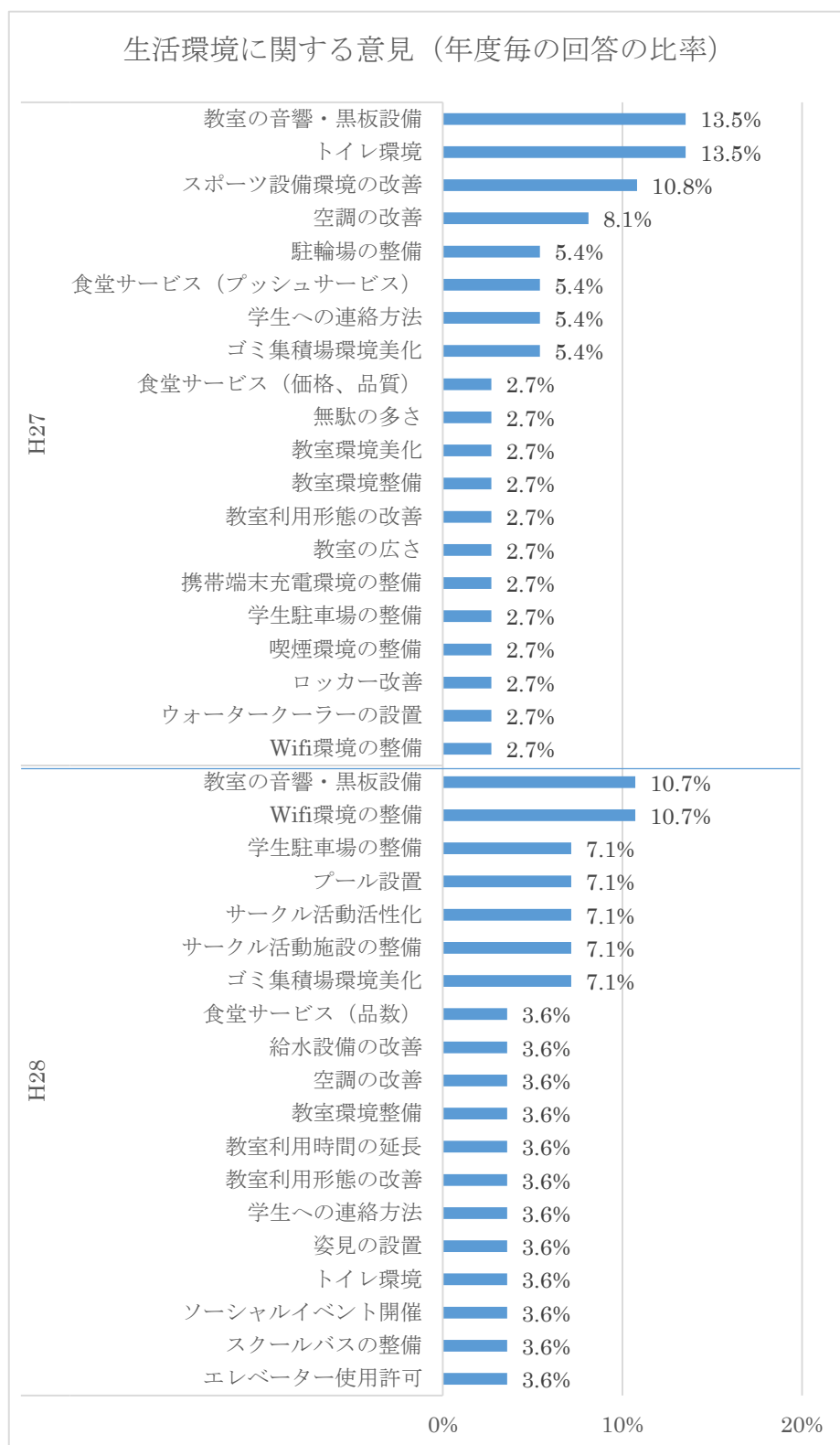
3-3) 平成 27 年度と平成 28 年度における生活環境に関する意見の分野（項目）の回答割合の比較



3-4) 平成 27 年度と平成 28 年度における生活環境に関する意見の回答数の比較
自由記載内容の主旨を要約し、その回答数の集計を求めた。



3-4') 平成 27 年度と平成 28 年度における生活環境に関する意見の回答割合の比較



3-5) 小括

2年生の平成28年度の回答数は平成27年度に比べ半減した。2年生女子および4年生の年度間回答数比較では変化は小さかった。

回答分野は平成27年度に比べ平成28年度で多様化した。また、各年度、学年ともに「教育環境」、「通学手段」、「アメニティ」に意見が多かった。平成27年度に突出して多かった教育環境の意見は、平成28年度では、その約35%近くまで減少した。

意見は各年度、各学年で多様だった。

教室の音響・黒板設備に関する意見は平成27年度・28年度ともに2年生の複数が意見し、回答の割合は10%を超えた。教室の環境に関しては、この他に環境整備・美化に関する意見があった。トイレ環境については、改装がほぼ終了した平成28年度では、意見が限られた。食堂に関する意見は、平成28年度は1件であった。食堂に関するアンケートが別に用意され実施されたため、このアンケートには意見が少なくなったと考える。

4) 建学の理念

4-1) 回答数と回答率

	H27				H28			
	2年		4年		2年		4年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	29	16	30	20	36	25	26	19
回答数	1	0	0	0	1	0	0	0
回答率	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
学年回答率	2.2%		0.0%		1.6%		0.0%	

4-2) 小括

建学の理念に関する回答は平成 27 年度、平成 28 年度ともに 1 件ずつと少なかった。このため、回答分布、意見分野と意見の比較グラフは割愛した。

回答の分野はともに校風に関することであったが内容は異なるものであった。

5) 総括

平成 28 年度の各テーマに対する回答数は少なく、各テーマの各分野において学生数に対する回答割合は少なくなり、自由記載により課題が多様化している状況を示した格好になった。しかしながら、指摘されている内容は教育環境・生活環境ともに十分に検討すべき事項である。

具体的には、教育を受ける環境、特に教室と授業環境に関する意見は、ハード面・ソフト面ともに検討すべき点がある。このことから、平等に教育を受ける権利を満足する環境を提供するための改善を継続する事が重要と考える。

教室は学年毎に割り当てられ、ホームルームを兼ねている。生活環境としては、1 年を通して同じ教室で講義が行われ、昼食等の休憩に使われていることから、昼間の教室内人口は一定である。また、講義時は座席が指定されているため、教科書など私物が机の上に積み上げられ放置される状況が常態化しており、このことが、環境を悪化させる要因になっていると考える。教育を提供する側、教育を享受される側双方に改善に向けた取り組みを協働する仕組みが求められる。

6. 医療経営情報学科

医療経営情報学科における平成 27 年度調査と平成 28 年度調査の概要及び比較

1) 対象学生について

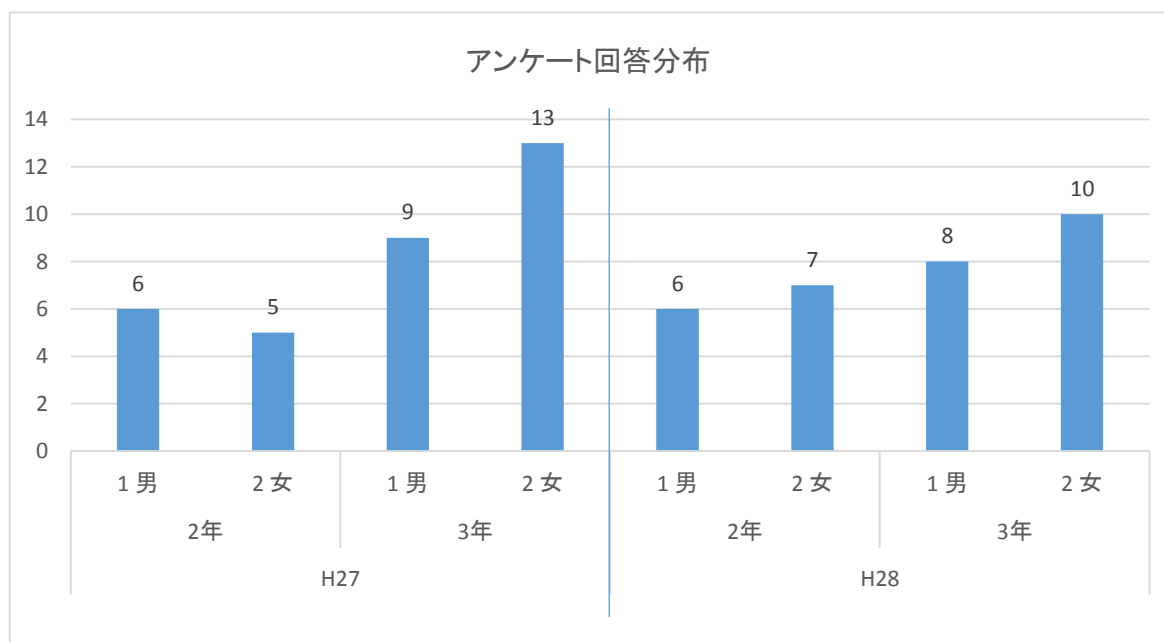
1. 学生数

	H27				H28			
	2年		3年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	19	25	20	27	14	25	19	26
計	44		47		39		45	

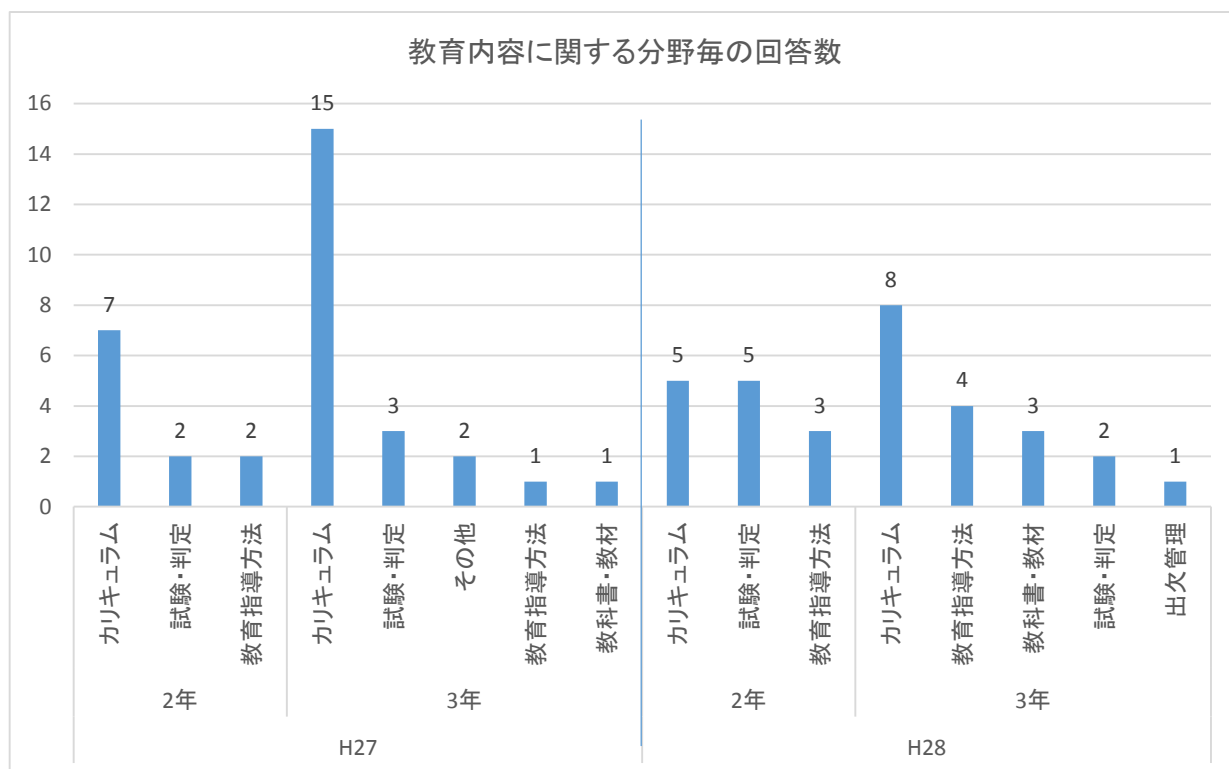
2) 教育内容

2-1) 回答率

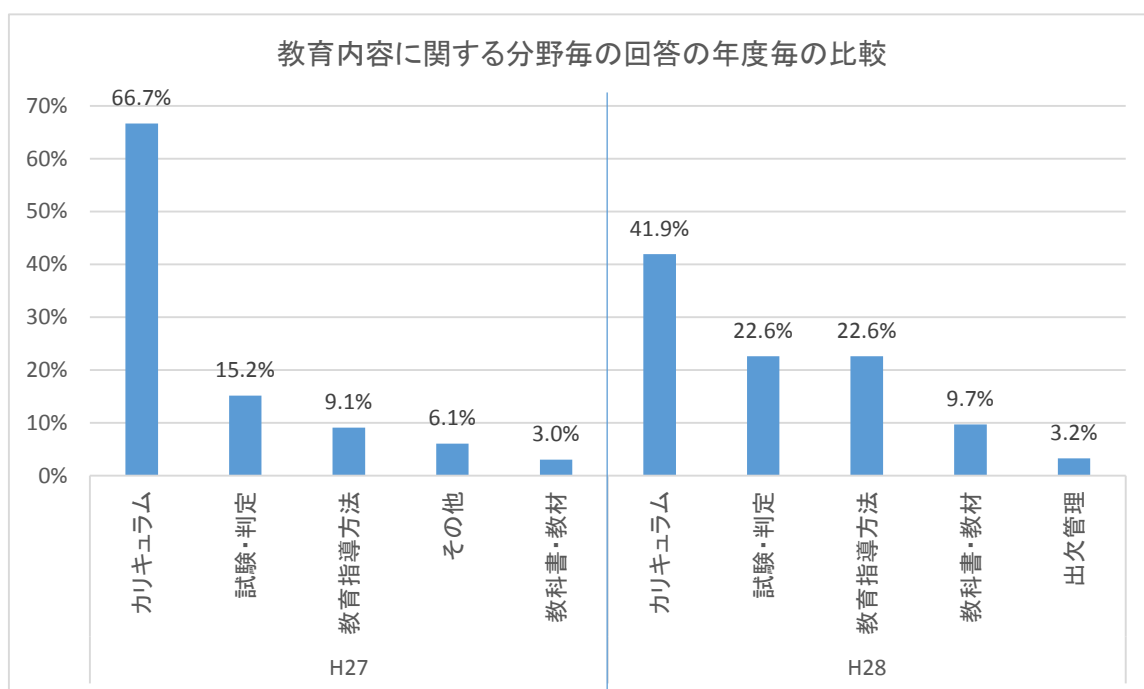
	H27				H28			
	2年		3年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	19	25	20	27	14	25	19	26
回答数	6	5	9	13	6	7	8	10
回答率	31.6%	20.0%	45.0%	48.1%	42.9%	28.0%	42.1%	38.5%
学年回答率	25.0%		46.8%		33.3%		40.0%	



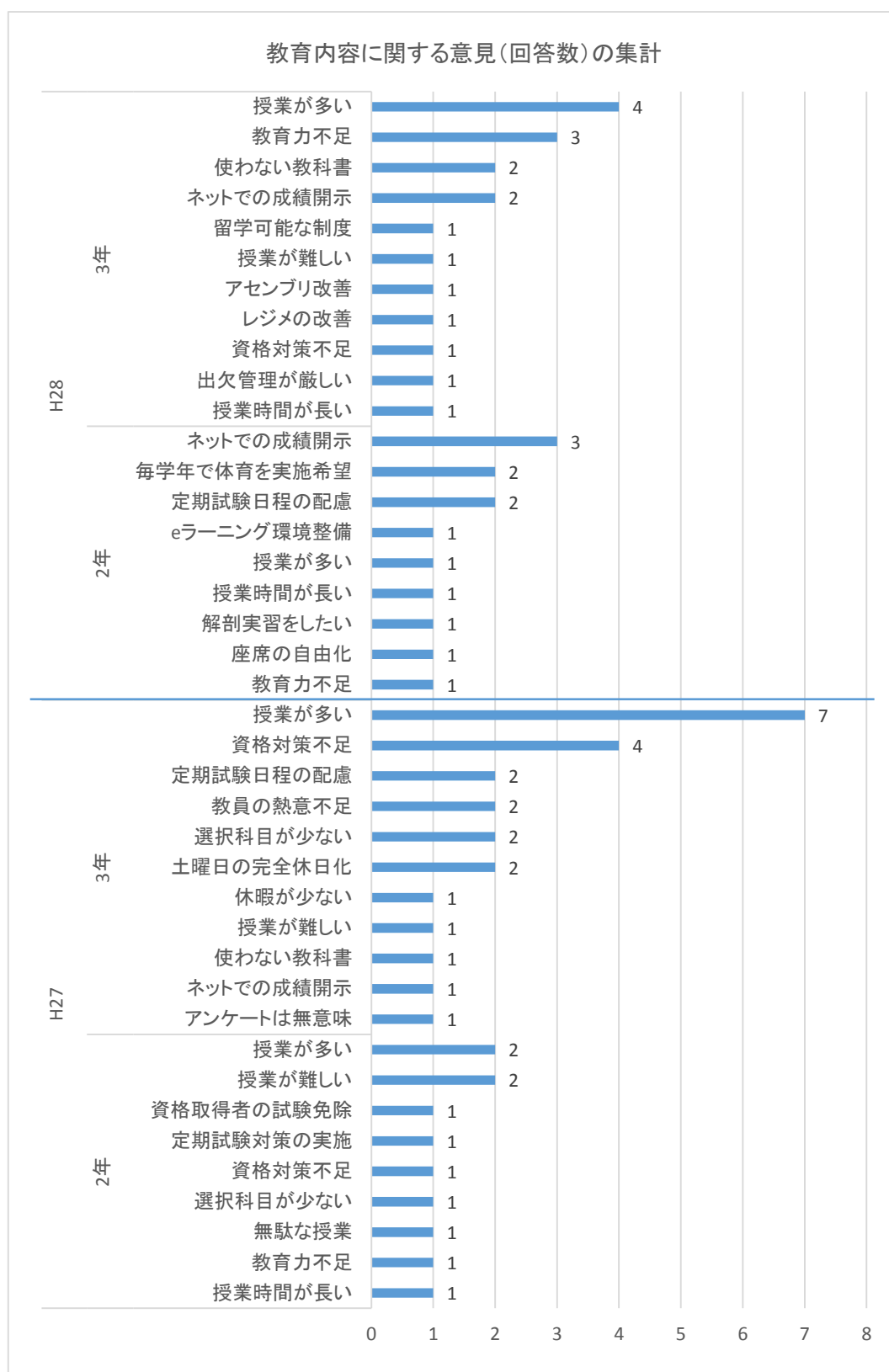
2-2) 教育内容に関する回答のキーワード分類の年度、学年での回答数の比較



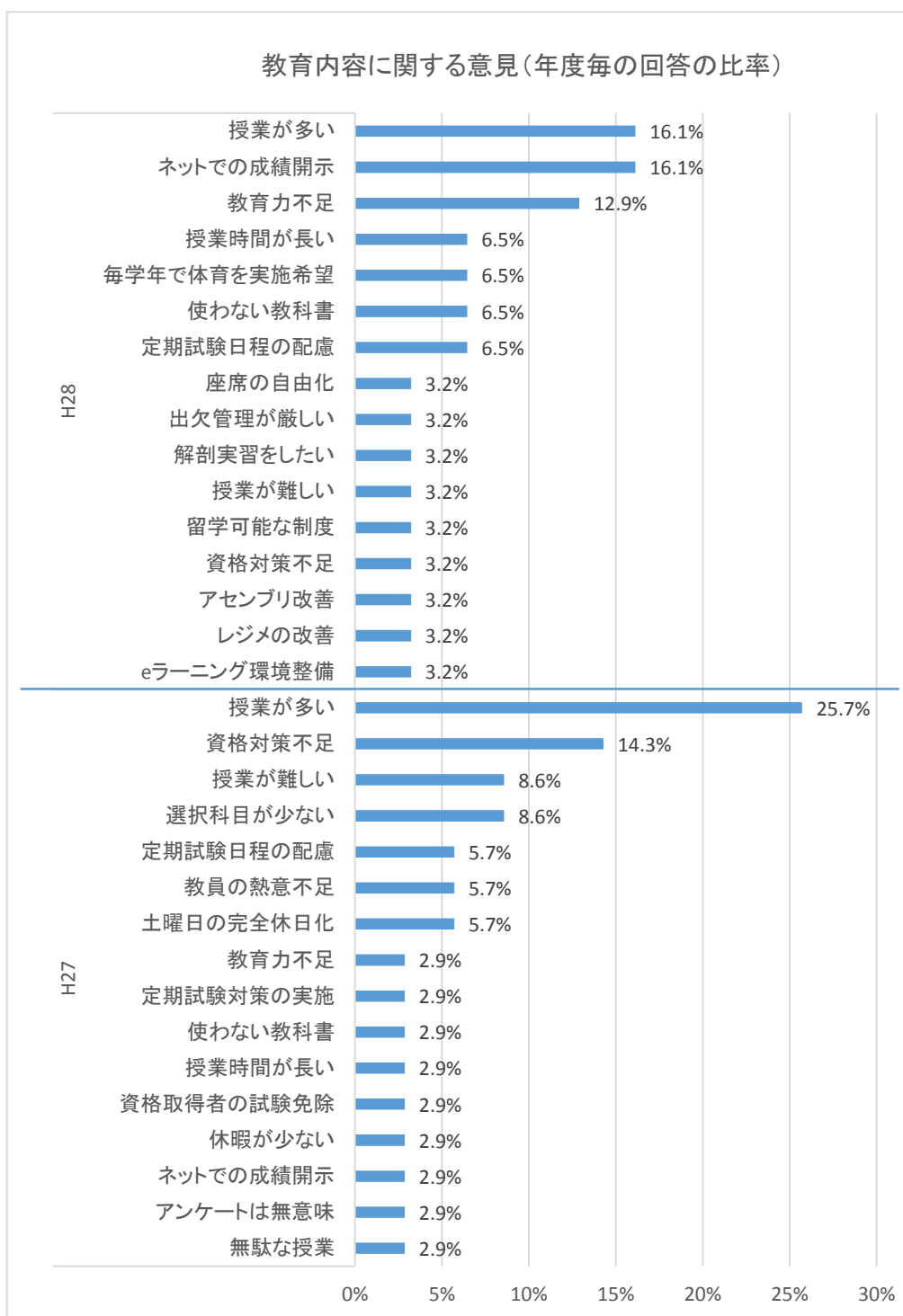
2-3) 教育内容に関する回答のキーワード分類の学年、年度での回答比の比較



2-4) 教育内容に関する回答の詳細分類の年度、学年での回答数の比較
 自由記載内容の主旨を要約し、その回答数の集計を求めた。



2-4) 教育内容に関する回答の詳細分類の年度、学年での回答の比率の比較



2-5) 小括

平成 27 年度 2 年生、平成 28 年度 3 年生は同一群。アンケートの回答数は重複を含み回答者数を意味しないが当該学年の学生数で除し回答率を求めると、2 年次 25%、3 年次 40%と 15 ポイントあまり高くなっている。前回の調査における、平成 26 年度 2 年生、27 年度 3 年生の回答率の伸びは 20 ポイント程と、ほぼ同様の傾向となっている。2 年次より 3 年次の方が学修環境に慣れ、より積極的に教育を受けたいという姿勢が現れているとかがえられる。(2-1)

回答数は、平成 27 年度では 33、平成 28 年度では 31 とほぼ同等であった。平成 28 年度ではカリキュラム、試験・判定、教育指導法についての意見が多かった。同一群の回答を比較すると、2 年次より 3 年次の方が多く回答されており、教科書・教材についての意見が加わっている。3 学次には資格試験対象科目が多数となるため授業の過密さからカリキュラムに対する意見が多くなり、また医学系科目では教科書を購入させるが授業ではパワーポイント中心で進められるものが多くあり、購入しても使わない教科書という認識が持たれていることが伺われる。授業を受ける前に教科書を予習するなどの自発的な学習は、効果的な学習であることを理解させ、促していく必要があると考えられる。(2-2)

平成 28 年度もカリキュラムに対する意見が多数となったが、平成 27 年度ほど突出していない。(2-3)

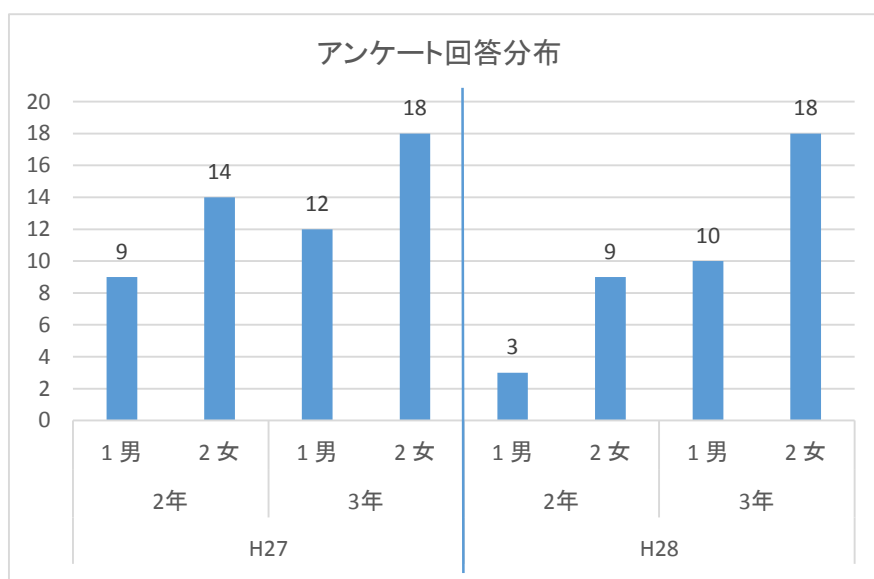
各年度、各学年ともに「授業が多い」の意見が多数であった。医療系総合大学としての本学の教育の特性上、カリキュラムの過密さの解消は難しく、学生に対して資格取得だけに直結する学習以外の授業も本学科が養成する医療事務職の人材育成のためには重要であることをいかに認知させるかが課題となろう。また、平成 28 年度 3 年生で教育力不足の意見があり、特定教員の教授法に対する不満の声があった。学科として対応していく必要がある。平成 28 年度 2 年生の意見では他の群に見られない意見として、ネットでの成績開示を求める声があり、今後 ICT を活用した修学に関する情報提供サービスの充実を図る必要がある。さらに、体育をしたい、解剖実習をしたいという要望もあったが、本学科のカリキュラム上、実現は困難と考える。(2-4)

年度間で回答の比率で比較すると、「授業が多い」が約 25%から約 16%と低下しており、また「授業が難しい」が約 9%から約 3%へ低下しており、学生にある程度は、医療系大学の特徴でもある本学科の過密なカリキュラムについての理解が得られるようになってきていると考えたい。平成 28 年度では、ネットでの成績開示が約 16%と目立っており、学生への情報提供サービスの充実は近々の課題と考える。(2-4')

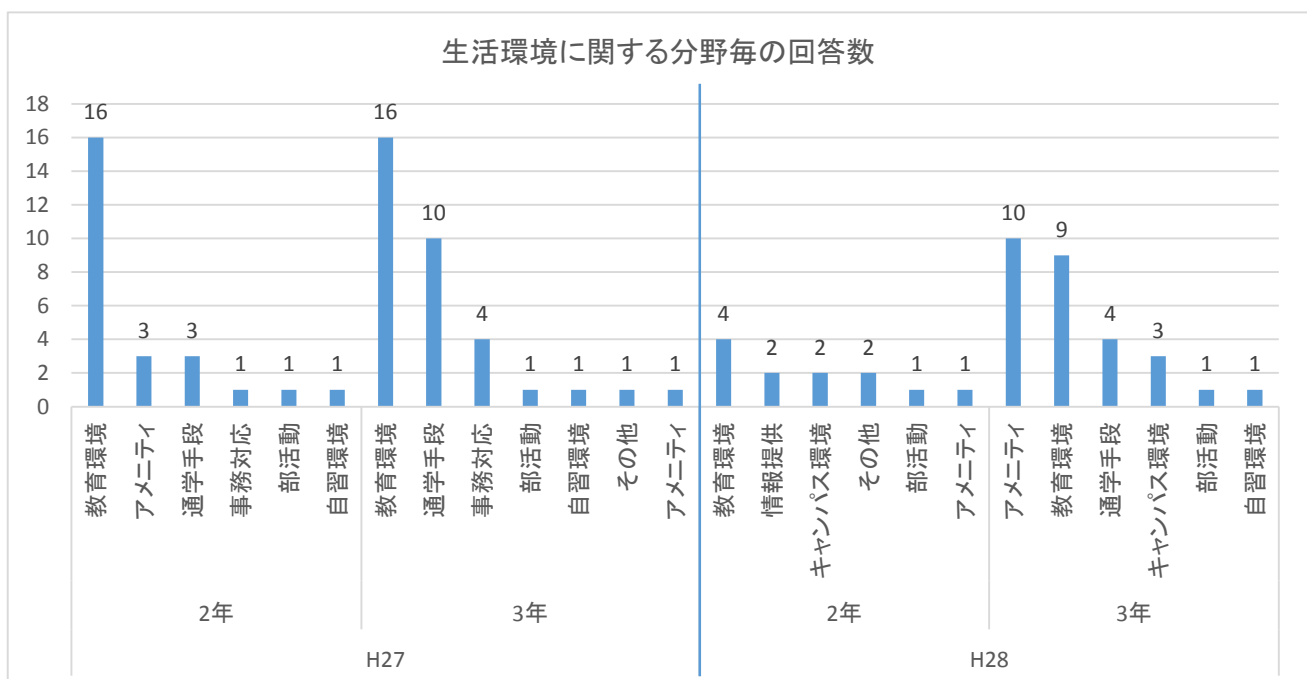
3) 生活環境

3-1) 回答数

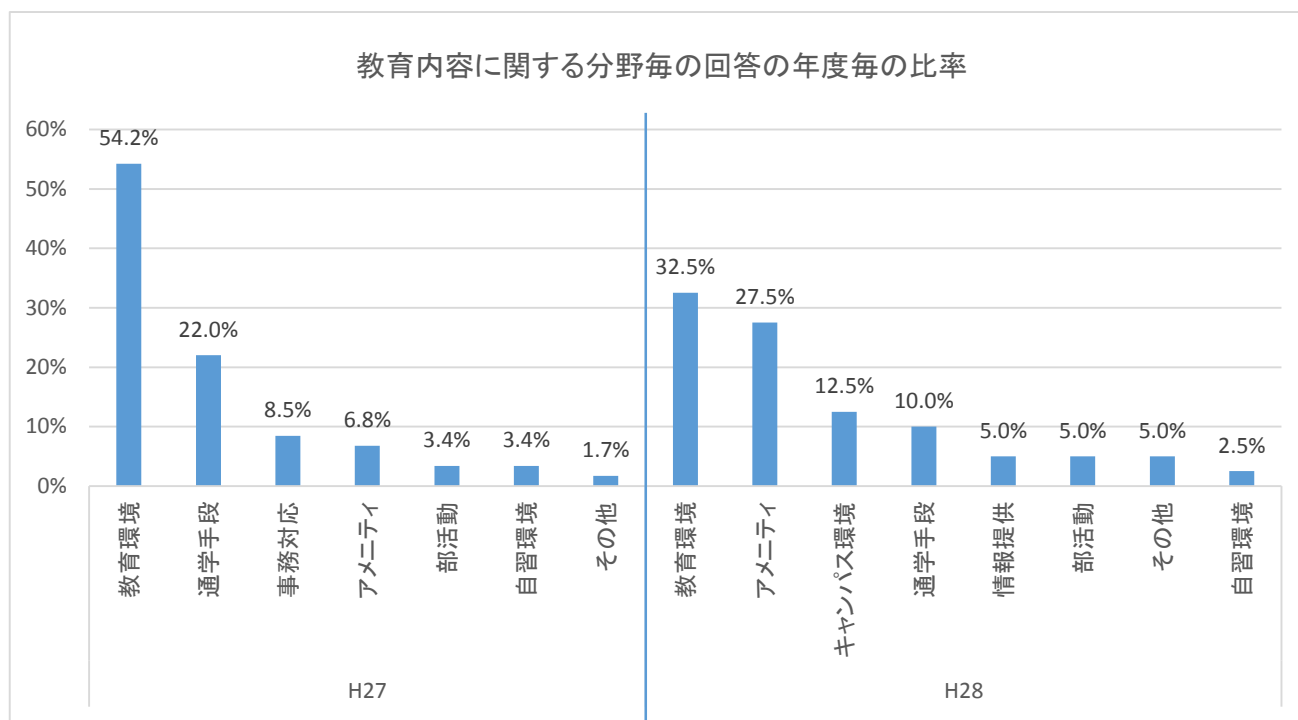
	H27				H28			
	2年		3年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	19	25	20	27	14	25	19	26
回答数	9	14	12	18	3	9	10	18
回答率	47.4%	56.0%	60.0%	66.7%	21.4%	36.0%	52.6%	69.2%
学年回答率	52.3%		63.8%		30.8%		62.2%	



3-2) 生活環境に関する回答のキーワード分類の年度、学年での回答数の比較

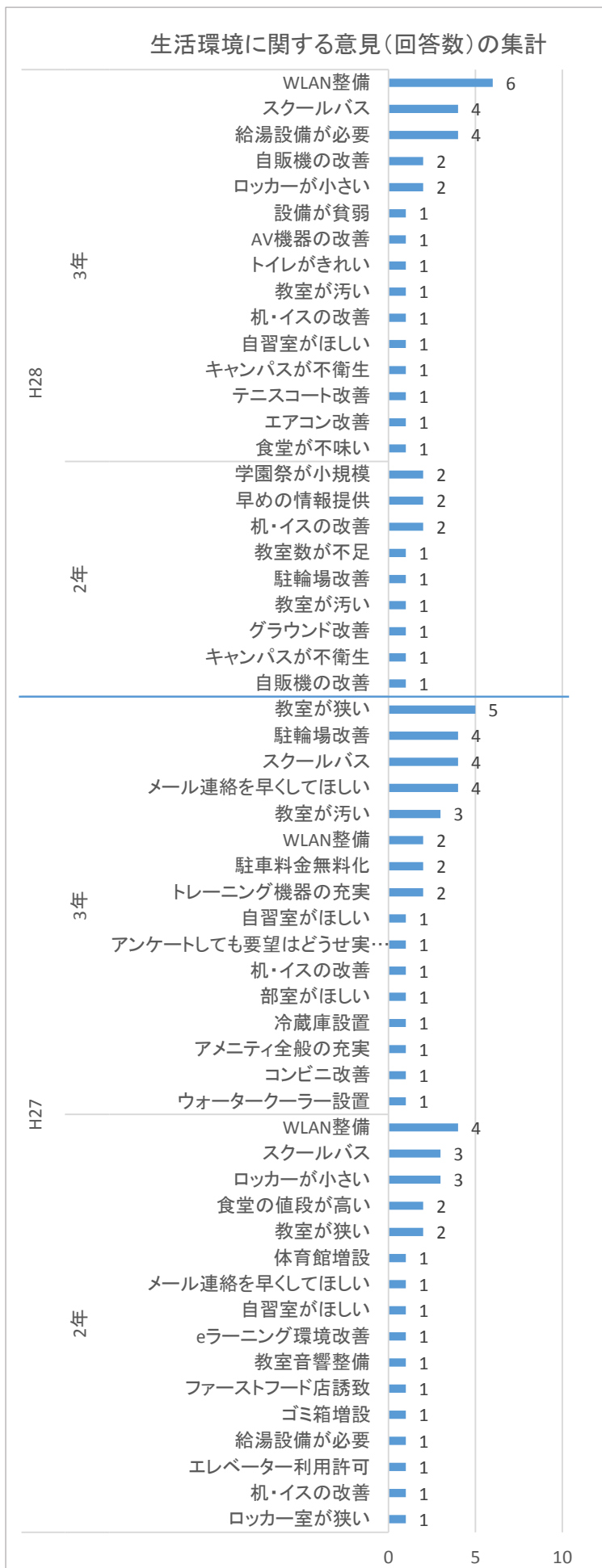


3-3) 生活環境に関する回答のキーワード分類の学年、年度での回答比の比較

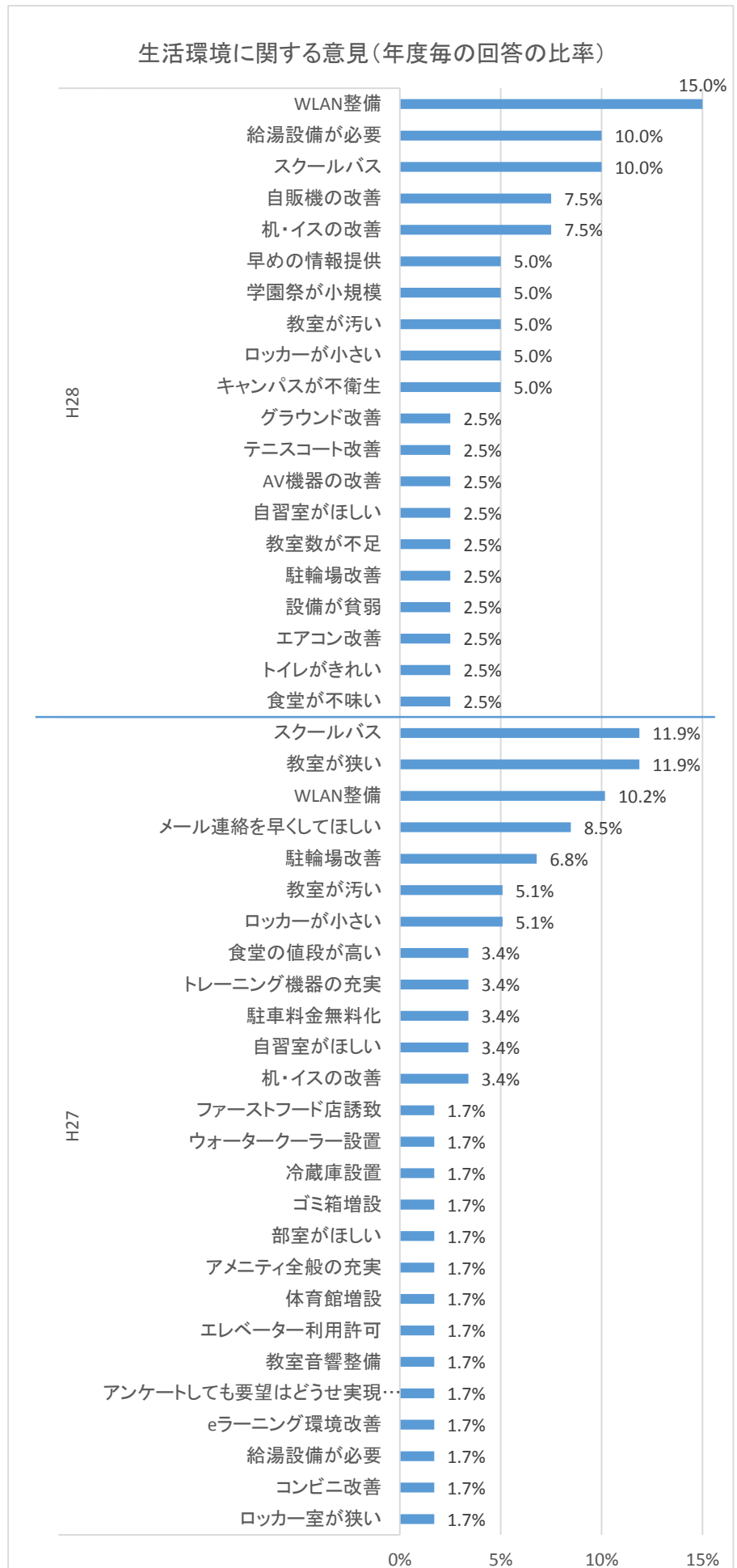


3-4) 生活環境に関する回答の詳細分類の年度、学年での回答数の比較

自由記載内容の主旨を要約し、その回答数の集計を求めた。



3-4) 生活環境に関する回答の詳細分類の年度、学年での回答の比率の比較



3-5) 小括

同一群の回答数を比較すると、2年次 23、3年次 28 と若干増加傾向にあり、ほぼ平成 27 年度 3 年と同数の回答がなされている。また平成 28 年度 2 年生は回答数 12 と少ない。平成 28 年度 3 年生は平均的、2 年生は若干大人しい傾向にある。各年度、学年ともに男子学生より女子学生の回答が多く、女子学生の方が生活環境について改善を望んでいることが伺える (3-1)

平成 27 年度は「教育環境」32、「通学手段」13 と多く意見があった。平成 28 年度では「教育環境」13 と多数意見であるものの、2 年生の意見が大きく減少している。また 3 年生は「アメニティ」に関する意見が多く目立っている。(3-2)

平成 27 年度では「教育環境」が 54.2%と特に多く、「通学手段」が 22%と多数の意見が出され、「アメニティ」は 6.8%と少数意見であったが、平成 28 年度では「教育環境」は 32.5%、ついで「アメニティ」が 27.5%と多くなり、「通学手段」は 10%と相対的に低い傾向となった。(3-3)

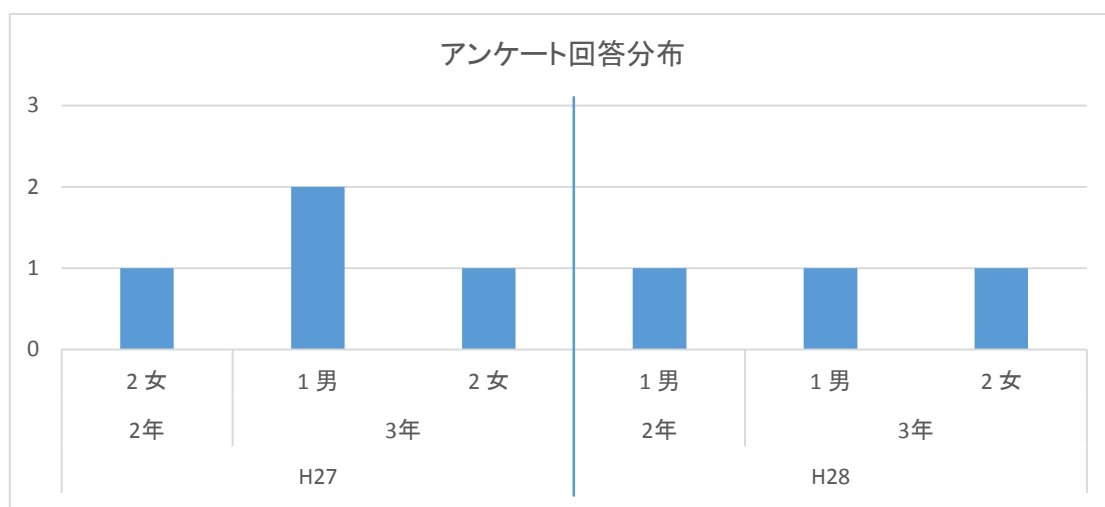
各年度、学年ともに多様な意見があった。例年意見があげられていたトイレについては、昨年までに改装が完了したため意見はみられない。同一群からの意見では、2年次に引き続き3年次でも「WLAN 整備」の希望が1位であり、強く要望されていることが伺える。「スクールバス」の要望も各年度、学年で2位の希望であり、強く要望されている。「駐輪場改善」については3年次を比較すると平成28年度では意見が無く、改善の効果が現れてきていることが伺える。いずれの年度、学年も「教室が狭い」「ロッカーが小さい」との不満の意見が上がるものの、意見の数としては平成28年度では少なくなっている。教室やロッカーについては改善策がとられていないため、学生が意見を出す事にあきらめを感じているのかもしれない。平成28年度で多くなっているのは「給湯設備が必要」、「自販機の改善」といったアメニティの改善を求める意見である。平成28年度より軽食自販機の設置などアメニティ向上の対策を実施したが、学生のニーズとミスマッチが起きている、また生涯教育研修センター2号館の会館にともない、新施設で準備されている給湯設備が他の旧キャンパスには無いというアメニティの格差が学生に問題意識を産んでいる可能性がある。運用で解決できるものとして、「メール連絡を早くしてほしい」という不満が平成27年度より平成28年度では低減できていることがわかる。注目する点として、「キャンパスが不衛生」、「教室が汚い」との意見が平成28年度でもあがってきており、医療系大学として要改善である。(3-4)

年度間で比較すると、「WLAN 整備」が平成 27 年度 10.2%から平成 28 年度 15%と高い値であり、強く要望されていることが伺える。「スクールバス」の要望も 11.9%から 10%とほぼ同様の高値を示している。また食堂に対する不満は小さくなり平成 28 年度では「食堂がまずい」の 2.5%に留まる。「駐輪場の改善」についても 6.8%から 2.5%へ減少傾向を示している。施設（建築物）自体への要望は、平成 27 年度では教室やロッカー室が狭い・自習室など増設で約 19%、平成 28 年度では教室や自習室が不足で約 5%と減少している。平成 28 年度の設備導入の希望では給湯設備があり、既存設備の改善要望では自販機・机いす・ロッカー・AV 機器・エアコンがあがっている。昨年度までに無かった意見としては「学園祭が小規模で残念」との意見もあった。(3-4')

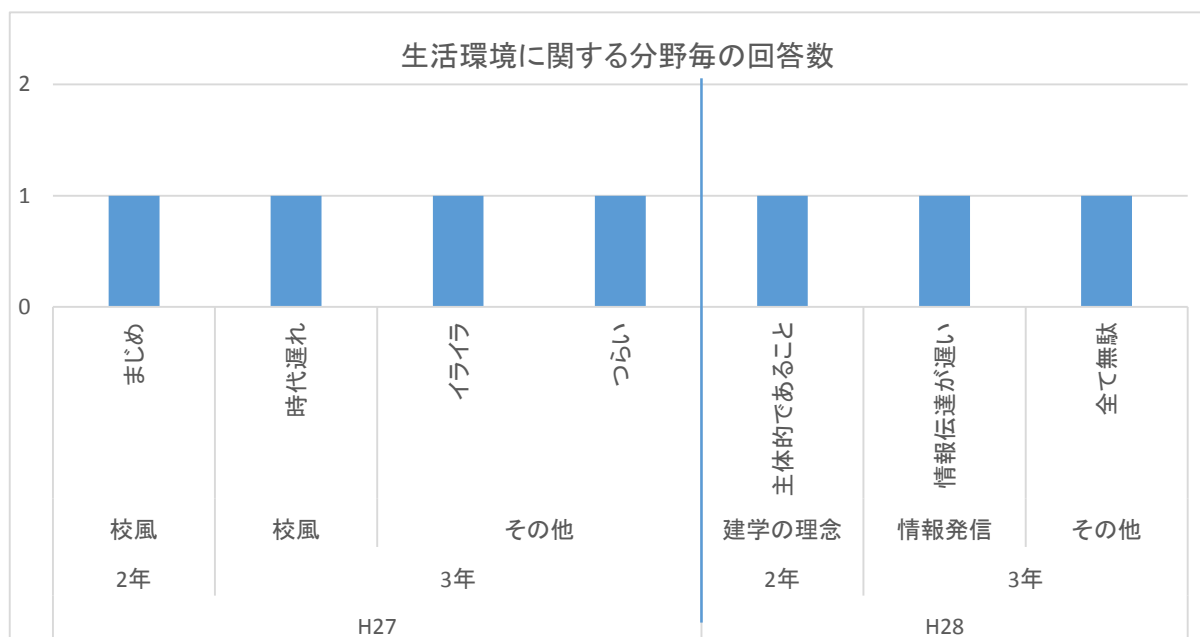
4) 特色

4-1) 回答数

	H27				H28			
	2年		3年		2年		3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生数	19	25	20	27	14	25	19	26
回答数	0	1	2	1	1	0	1	1
回答率	0.0%	4.0%	10.0%	3.7%	7.1%	0.0%	5.3%	3.8%
学年回答率	2.3%		6.4%		2.6%		4.4%	



4-2) 特色に関する回答のキーワード分類の年度、学年での比較



4-3) 小括

特色についての回答は少ない結果となった。(4-1)

平成27年度の意見として、校風として「まじめ」の意図が判るが、「時代遅れ」の意見については何をもってそう考えるかが不明である。その他の回答もネガティブなもので、真面目に回答されていない可能性がある。平成28年度も回答は少数で、建学の理念が「主体的であること」を求めていると、真実な回答もあるが、「全て無駄」とネガティブな主張が見られるのみであり、ここからなにも汲み取れない。情報伝達が遅いとのクレームは検討の余地がある。(4-2)

5) 総括

アンケートの回答群は、平成27年度3年生(6回生)、平成28年度2年生(8回生)、平成27年度2年生と平成28年度3年生は同一(7回生)、と3群で構成されている。

各群の回答率を比較すると、3年次の回答率としては6回生46.8%、7回生40.0%でほぼ同じ値となった。2年次の回答率では、7回生が25.0%に対し8回生は33.3%と多く回答している傾向となった。教員の印象としては、昨年度の分析でも示したとおり6回生はネガティブな意見が目立つ指導上の課題の多い集団と捉えていたのに対し、7、8回生は平均的で真面目な学生が多く若干大人しい印象の集団と捉えている。7回生は2年次と3年次で比較し15ポイント回答率が高くなっており、それだけ本学科での学生生活に慣れ、意見も言いやすくなっていくと考える。

平成27年度、平成28年度ともに「授業が多い」というカリキュラムに対する意見が多くあった。医療系総合大学としての本学の教育の特性上、カリキュラムの過密さの解消は難しく、学生に対して資格取得だけに直結する学習以外の授業も本学科が養成する医療事務職の人材育成のためには重要であることをいかに認知させるかが課題である。平成28年度3年生で教育力不足の意見があり、特定教員の教授法に対する不満の声があった。これは、「授業が多い」との意見が約25%から約16%と低下しており、また「授業が難しい」が約9%から約3%へ低下している状況から、学生はある程度、過密なカリキュラムに理解を示し、自らの学修目的を意識して、より深く、より効率的に学修したいという要求からもたらされているものと考えたい。その上で、教員の教育力の改善に努めていきたい。また、成績開示をネットで行って欲しいなど、教務情報の提供サービスの向上に対する要望が多くあった。これはICT利活用教育の推進と合わせて今後取り組むべき課題と考える。

平成27年度と平成28年度ともに、生活環境については教育環境についての意見が多くなった。次いでアメニティに関する要望が多くなっている。通学手段についての意見も多いが平成28年度は相対的に低くなった。教育内容に関する意見では授業が多いとの意見が16.1%と多かったが、昨年度の25.7%よりは低くなっており、また教育力不足との意見が12.9%あるため、学生は本学科で学ぶ上である程度カリキュラムの必要性は認識して学修すべきものと捉えており、その上で、より効率的な学修や不便のない環境での学修を要望する意見が増えているものとする。ただ、学修環境整備は教室の広さや空調、音響・プレゼン環境など物理的かつ費用的に改善が困難な場合が多い。比較的改善の余地があるICTを活用するeラーニング環境などの整備については学科として推進していきたい。ICT利活用教育を推進するためにもインフラとなる無線LAN環境の整備は必須の事項である。平成28年度の学生からの要望としても一番多くの意見が寄せられている。また、アメニティ改善の意見については、生涯教育研修センター2号館の開設にともない、きれいで広い教室や給湯設備などの充実を見て、不公平感を感じていることがひとつの切掛となっていることが推察される。平成28年度より軽食自販機の設置が行われたが、実際に販売されている軽食と学生が購入したい軽食にミスマッチがあり、かえって不満が高

まっている状況がある。今後、学生のニーズの把握に努める必要があると考える。気になる意見としては、平成 27 年度でも平成 28 年度でも挙げられている「キャンパスが不衛生」、「教室が汚い」、の意見がある。これは昨年度の調査でも平成 26 年度で同様の意見がある状況が判明しており、改善が進んでいないことが推察される。本学科 9 号館の出入り口が廃棄物の一時置場に面しており、飛散したゴミが放置されている状況もみられることから、医療系大学として衛生面でも問題に感じる。学園として改善が必要と考える。

特色に関する意見は少なかった。平成 28 年度の意見では、小数意見であるが、情報伝達が遅いという不満と全て無駄との意見がよせられている。「無駄」については学生が自分の進路とミスマッチな大学に入学していることが原因と考えられ、進路変更などの指導は 1 年次の早期に実施していく必要がある。また、建学の理念である独創一理を「主体的であること」を求めるものだと正しく理解している意見も寄せられた。このような学修意欲の高い学生に対して十分な指導が行えるよう教員が配慮していくべきであろう。

アンケートの自由回答は、昨年度調査で目立ったネガティブな意見は減少傾向にあった。しかし、生活環境面での不満の意見は学生の回答率も高く、昨年度と同様の意見もみられる状況となっている。これらの不満に対して、すべて直ちに改善すべきとは思われないが、継続して不満として上げられる意見に対して、大学側の対応姿勢や考えが学生に見えない状況は、さらに不満を募らせるものと考えられる。大学と学生との間で、思い・考えの交換を活性化させるために、すこしでも大学側が改善を努力し結果を学生に示していく必要がある。